



2025年一般社団法人 心臓血管外科振興会年報 No. 6

Society for Promotion and Enhancement
of Cardiovascular Surgery (SPECS)
一般社団法人心臓血管外科振興会



2025年 一般社団法人 心臓血管外科振興会年報 No. 6

Society for Promotion and Enhancement
of Cardiovascular Surgery (SPECS)
一般社団法人心臓血管外科振興会

序 文

一般社団法人心臓血管外科振興会理事 北里大学医学部心臓血管外科主任教授 宮地 鑑



一般社団法人心臓血管外科振興会 Society for Promotion and Enhancement of Cardiovascular Surgery (SPECS) は、2019年12月3日に旧北里大学心臓血管外科医局を母体として設立されましたが、コロナ禍のため、法人設立をお披露目する記念祝賀会を開催することができませんでした。2024年末に設立から5年が経過しましたので、2025年2月16日に法人設立5周年記念講演会・祝賀会を開催いたしました。会員ならびに関連施設院長先生と多くの著明な心臓血管外科医の先生方にご参集していただき、盛大な会となりました。ここに法人のこの5年間の歩みを記した年報 No.6 を発行することができましたことは誠に喜ばしいことでもあります。

2026年1月現在、会員総数は100人(社)を越え、役員として、代表理事は前北里大学医学部心臓血管外科教授の小原邦義先生、理事は、私、北里大学医学部心臓血管外科主任教授宮地鑑、ジャパンメディカルアライアンス理事長贄正基先生、北里大学医学教育研究開発センター地域医療学研究部門教授鳥井晋三先生、北里大学医学部心臓血管外科診療教授北村律先生(現、自治医科大学医学部心臓血管外科学内教授)、自治医科大学とちぎ子ども医療センター心臓血管外科教授岡徳彦先生、高知大学医学部附属病院心臓血管外科教授三浦友二郎先生の6名です。法人の社員には、北里大学病院心臓血管外科の各部門責任者と他関連施設の責任者が務めております。法人設立6年目、2025年の活動をご報告したいと思います。

診療実績

関連施設は、2025年4月に内藤敬嗣先生が米国 NYU Langone Hospital Brooklyn 心臓血管外科責任者に就任され、海外で2番目の関連施設となりました。今後、中村祐希先生のアイオワ大学小児心臓血管外科とともに、USMLE等の資格を有する法人会員の留学・修練の機会を提供してくれることを期待します。11月に国立成育医療研究センター心臓血管外科部長の平田康隆先生と同医員の柴田深雪先生が法人に入会され、同センターも関連施設となりました。結果、関連施設は2024年より2施設増えて、北里大学病院を筆頭に全19施設となりました。関連施設が増加したこともあり、法人全体で開心術が1072例(10.7%増、2023年968例)で過去最高、1000例を超えました。(図1、3)。心大血管手術も、2024年より82例増加して1722例(5.0%増)となり、こちらも法人化後過去最高となりました(図2)。開心術は北里大学が257例で最も多く、以下、海老名総合病院、東京大学病院小児心臓外科、横浜労災病院、国立静岡医療センターの順となりました。心臓血管外科専門医制度上認められる手術件数(透析シャント造設・血管内治療含む)は3282例となり、15人在籍して

いる修練医（準会員）にとって十分な手術症例数を維持することができました。各施設の手術成績につきましては、後述の関連施設の項目をご参照ください。

研究実績・学術活動

英文論文では、堀江咲良先生が European Journal of Cardio-Thoracic Surgery に、北村律先生が Annals of Thoracic Surgery Short Report に、泉二佑輔先生が General Thoracic and Cardiovascular Surgery に、松井謙太先生が Journal of Artificial Organ に掲載されました。国際学会発表は、1月の The Society of Thoracic Surgeons (STS) Annual Meeting (Los Angeles) で、鹿田文昭先生、畑岡努先生、堀江咲良先生の3名が発表され、石川沙弥先生が5月に The Asian Society of Cardiovascular and Thoracic Surgery Annual Meeting (Singapore) において発表され、北村律先生、泉二佑輔先生、畑岡努先生の3名が10月に The European Association of Cardio-Thoracic Surgery (EACTS) Annual Meeting (Copenhagen) において発表しました。心臓血管外科領域での3大国際学会のうち2学会で6演題も発表することができました。一方、国内主要学会でも、多くの先生方が日本胸部外科学会、日本心臓血管外科学会、日本血管外科学会、日本小児循環器学会で発表しました。法人主催の学術集会である相模心臓血管外科懇話会は、第27回と第28回をともに The Okura Tokyo で開催しました。1月には自治医科大学心臓血管外科教授川人宏次先生を、7月には東京科学大学心臓血管外科教授藤田知之先生を招聘して特別講演をしていただきました。

関連施設・人事関係

関連施設は北里大学病院を含めて19施設となり、この20年間の関連施設数と会員数（医局員）の推移は図4の通りです。関連施設数および会員数は右肩上がりに増えており、今後、関連施設20、会員数100を目指していきたいと思います。

人事では、4月に長年、北里大学病院成人心臓外科を支えてくれた北村律先生が自治医科大学心臓血管外科学内教授に赴任されました。東京大学医学部附属病院心臓外科から嶋田正吾先生が講師として北里大学医学部心臓血管外科に着任され、法人に入会しました。国立国際医療センター部長の井上信幸先生が海老名総合病院部長に転任して、代わりに田村智紀先生が部長に昇任しました。前述通り、内藤敬嗣先生が米国 NYU Langone Hospital Brooklyn 心臓血管外科責任者に就任され、代わりに国立静岡医療センターに後藤博志先生が NTT 東日本関東病院から異動しました。松代卓也先生が高知大学病院心臓血管外科に異動、代わりに北里大学病院から国立国際医療センターに泉二佑輔先生が異動となりました。井上崇道先生が横浜労災病院からニュージーランドの Starship Children's Hospital に留学され、代わりに杉本明生先生が北里大学病院から出向となりました。松永慶廉先生が群馬県立小児医療センターから自治医科大学とちぎ子ども医療センターに、代わりに松井謙太先生が群馬県立小児医療センターに異動となりました。大西義彦先生が海老名総合病院から埼玉県立循環器・呼吸器病センターに、豊田真寿先生が湘南厚木病院から相模原協同病院に、石脇大喜先生が国立国際医療センターから NTT 東日本関東病院に異動となりました。石川沙弥先生が外科出向で会津・竹田綜合病

院に、相磯光紀先生が国立静岡医療センターに出向となりました。

青江夏帆先生（北海道大卒）、太田衣美先生（高知大学卒）、大谷篤司先生（長崎大卒）、中山航先生（和歌山医大卒）、小中英樹（日大卒）の5人が新たに入会され、青江夏帆先生は海老名総合病院に、大谷篤司先生は湘南厚木病院に採用と同時に出向となりました。

7月に国立成育医療研究センターから武井哲理先生が法人に入会、北里大学病院小児心臓外科に着任しました。友保貴博先生が自治医科大学とちぎ子ども医療センターから国立成育医療センターに異動となりました。

10月に松井謙太先生が群馬県立小児医療センターから北里大学病院に戻り、代わりに小中英樹先生が群馬県立小児医療センターに異動となりました。

大谷篤司先生が湘南厚木病院から北里大学病院に異動、代わりに中山航先生が湘南厚木病院に、青江夏帆先生が海老名総合病院北里大学病院に異動、代わりに太田衣美先生が海老名総合病院に異動となりました。

11月に国立成育医療研究センター心臓血管外科部長の平田康隆先生と同医員の柴田深雪先生が法人に入会しました。

12月に山本裕介先生が名古屋大学病院を退職され、法人に入会、国立国際医療センターに採用となりました。

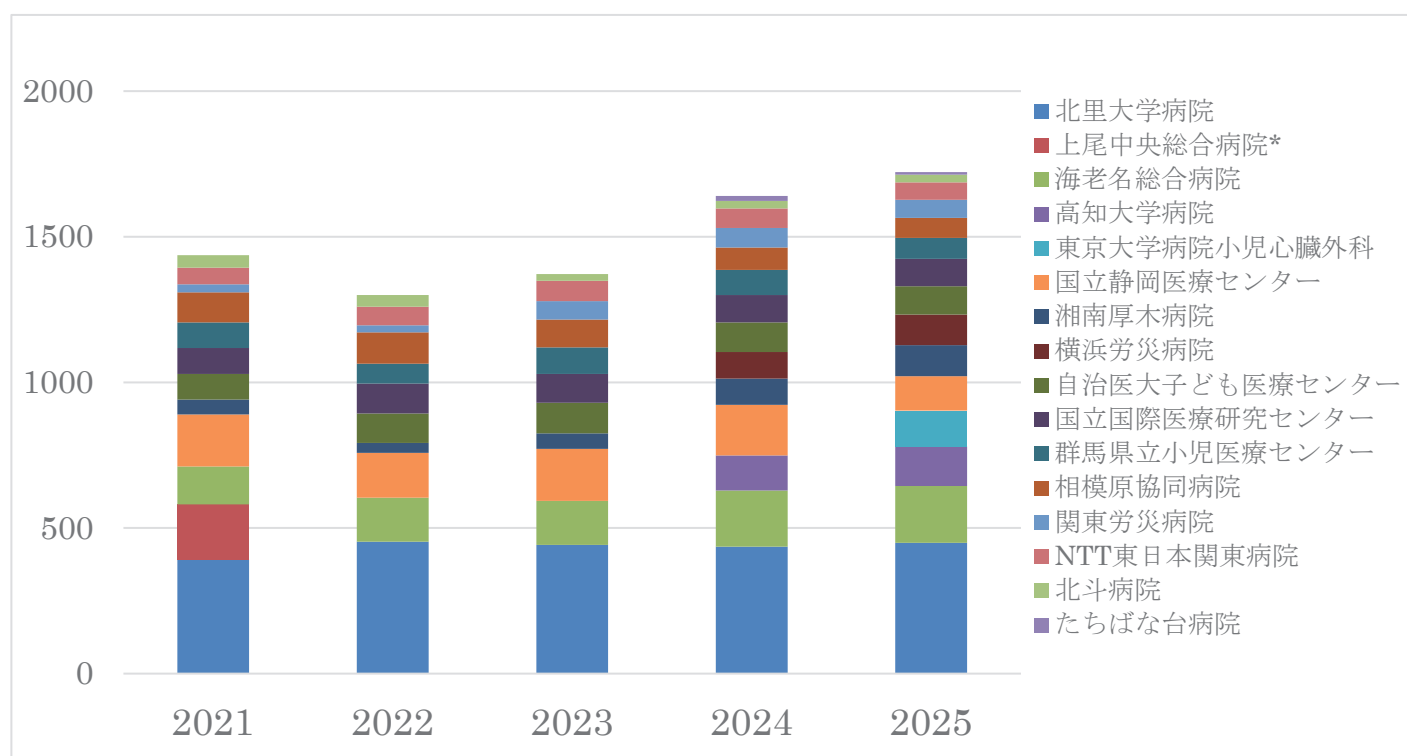
以上、中途採用を含む11名の先生方が入会しましたが、3月に森久弥先生が退会となりました。

2026年1月現在の賛助会員・特別会員・名誉会員を除く、社員・会員・準会員の総数は10名増えて71名（2024年61名）となりました（図4）。今後も効率的かつ合理的に人事を行って多くの心臓血管外科医を育てていく所存であります。

2025年心臓血管外科振興会関連施設手術件数（図1）

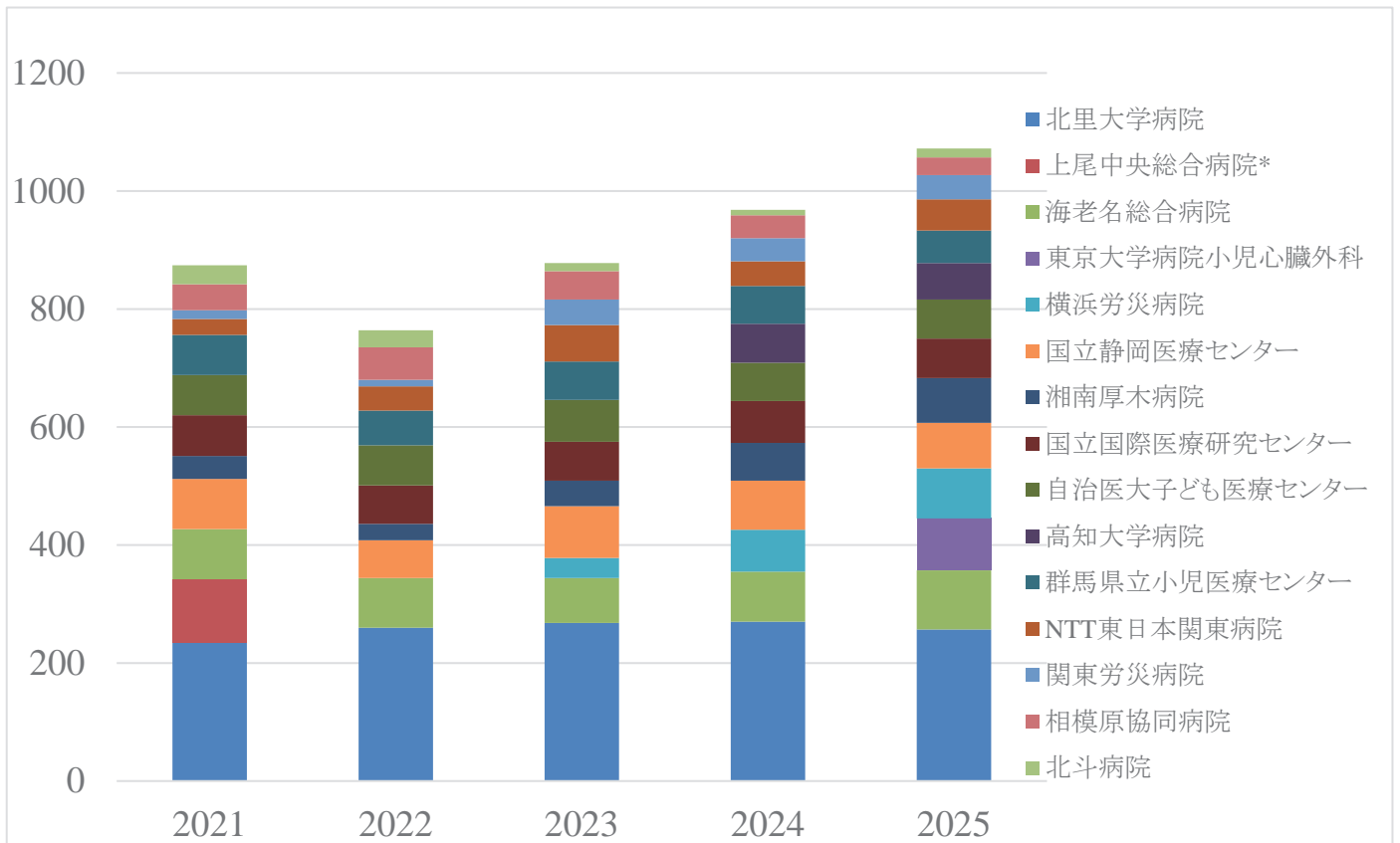
施設名	開心術 (OPCB含む)	心大血管手術 (TAVI, TEVAR, AAA, EVAR含む)	血管外科手術 (Shunt含む)	心臓血管外科 専門医制度上 合計
北里大学病院	257	449	122	571
海老名総合病院	100	195	88	283
東京大学医学部附属病院小児心臓外科	88	123	-	123
横浜労災病院	85	105	31	136
国立静岡医療センター	77	118	44	162
湘南厚木病院	76	107	55	162
国立国際医療研究センター	67	94	119	213
自治医大とちぎ子ども医療センター	66	97	-	97
高知大学医学部附属病院	62	136	59	195
群馬県立小児医療センター	55	72	-	72
NTT東日本関東病院	53	60	78	138
関東労災病院	41	62	14	76
相模原協同病院	30	69	95	164
北斗病院	15	26	119	145
たちばな台病院	-	9	691	700
大和市立病院	-	-	45	45
合計	1072	1722	1560	3282
Univ of Iowa Hospitals & clinics	96	136	-	-
NYU Langone Hospital - Brooklyn	88	88	-	-

法人化後5年間の心臓大血管手術数の推移（図2）



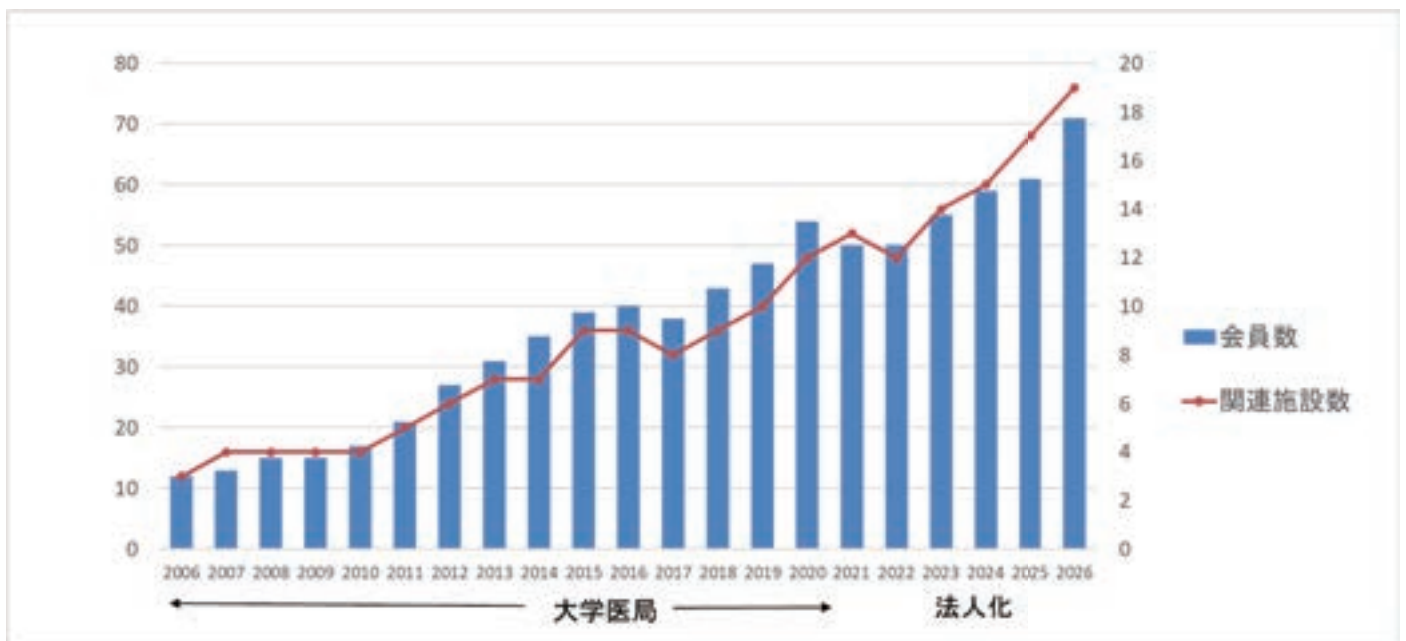
* : 2022年に撤退

法人化後5年間の開心術（OPCAB含む）の推移（図3）



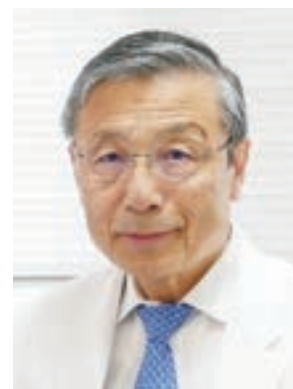
* : 2022年に撤退

過去20年間の会員（医局員）数と関連施設数の推移（図4）



ご挨拶と近況報告

一般社団法人心臓血管外科振興会代表理事
北里大学客員教授 (前心臓血管外科学教授)
海老名総合病院心臓血管外科顧問 小原 邦義



【ご挨拶】

社会情勢の変化や異常気象・自然災害が気になる昨今ですが、皆様方におかれましては、お変わりなくご健勝にてご活躍のことと拝察申し上げます。また常日頃、当一般社団法人心臓血管外科振興会に一方ならぬご協力とご支援を賜り誠にありがとうございます。

平成7年度は当法人として節目となる創設5周年記念祝賀会(2月)をはじめ、北里大学で後進の指導に尽力された鳥井晋三教授の退任記念祝賀会(3月)、北村 律診療教授の自治医科大学への教授としてのご栄転(4月)など、色々おめでたいことがありました。更に10月には“相模小児循環器研究会”が立ち上げられ、本年1月には第1回“人工心肺技師部会”が開催されるなど、新事業の展開が続いております。これら新設の会においても、関連施設間における情報交換・知識向上の場として、また人的交流の場として意義深い会として発展することを願っております。

本法人の使命は、“心臓血管外科専門医の教育・育成を通して、心臓血管外科の発展に寄与すること”なので、本年も心臓血管外科医を志す先生方がより早く確実に、そして資格に見合った実力を備えた心臓血管外科専門医については修練指導者になって社会に貢献できるように、法人関連施設と指導スタッフを挙げてサポートする所存です。つきましては、皆様方におかれましては、本法人の活動状況と実績を温かく見守って頂くとともに、今後も引き続き変わらぬご指導・ご鞭撻を賜れば幸いです。

【近況報告】

平成7年は夫婦ともに健康上とくに大事無く過ごせましたが、初孫が大学を卒業する年を迎え、いつまで健康長寿で居られるのか心配になることもあります。最近では勤務日数を減らした関係で、自宅で暇そうにしている日が多くなり、家内に疎んじられていますが、買い物や通院などの運転手、家事手伝いなどをまめに行ってバランスをとっています。

早いもので、昭和44年(1969)に東京女子医大心研外科(榊原外科)で心臓外科医としてのスタートを切って以来、56年が経ちました。身をもって心臓血管外科の黎明期、発展期、冠動脈外科の全盛期、低侵襲手術への変遷期を体験し、ある程度納得できる成績を残してきたつもりですが、近年の術式の進化や適応の拡大、手術材料・周術期治療の進歩と成績向上には目を見張るものがあります。ただまだ救命が難しい症例やImpella、VADによる循環補助や心移植がなければ救命・延命できない症例があるのも事実なので、再生医療を含めた更なる治療法の研究開発が望まれます。

現在の私にできることはごく限られますが、心身ともに健全な内は医師として患者さんと向き合い、また心臓外科医として、後進への助言などできることを全うしたいと考えております。

目 次

一般社団法人心臓血管外科振興会 2025 年事業報告	1
学術集会 第 27, 28 回相模心臓血管外科懇話会	7
第 1 回相模小児循環器研究会	13
海外留学報告	15
医学博士学位取得報告	21
国際学会発表	25
行 事	37
関連施設実績報告	53
1. 北里大学病院	55
2. 大和市立病院	91
3. ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院	95
4. 群馬県立小児医療センター	103
5. NTT 東日本関東病院	109
6. 独立行政法人労働者保険安全機構 関東労災病院	115
7. 特定医療法人沖縄徳洲会 湘南厚木病院	119
8. 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター病院 (JIHS)	123
9. 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター	129
10. 社会医療法人北斗 北斗病院	147
11. JA 神奈川厚生連 相模原協同病院	153
12. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター	159
13. 独立行政法人労働者保険安全機構関 横浜労災病院	167
14. 医療法人社団 一成会 たちばな台病院	173
15. 高知大学医学部 外科学講座心臓血管外科	177
16. UI Stead Family Children's Hospital	189
17. 東京大学医学部附属病院小児心臓外科	193
18. NYU Langone Hospital Brooklyn	201
その他の施設	205
社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院	207
医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック	213
入澤クリニック	215
みらいハートクリニック	217
発刊によせて	219
一般社団法人心臓血管外科振興会会員紹介	221
広告	233

一般社団法人心臓血管外科振興会

2025 年事業報告

1. 庶務報告

2026年1月17日 現在

会員総数	100名(社)
新入会	11名(社)
申出退会	なし

会員内訳

社員	27名
会員	29名
準会員	15名
監事	1名
名誉会員	1名
特別会員	2名
賛助会員	30社

関連施設

19施設

北里大学病院、海老名総合病院、大和市立病院、
群馬県立小児医療センター、NTT 東日本関東病院、
関東労災病院、湘南厚木病院、国立国際医療センター、
国立病院機構静岡医療センター、北斗病院、相模原協同病院、
自治医科大学とちぎ子ども医療センター、横浜労災病院、
たちばな台病院、高知大学医学部附属病院、アイオワ大学小児心臓外科、
東京大学医学部附属病院小児心臓外科、[NYU Langone Hospital Brooklyn](#)、
[国立成育医療研究センター](#)

2. 事業報告

(1) 正会員および準会員の募集・獲得

5名の初期研修修了の準会員を獲得した。正会員5名、準会員1名を獲得した結果、正会員（専門医以上）56名、準会員15名、名誉会員1名、特別会員2名となった。

(2) 賛助会員の募集・獲得ならびに寄付の募集

法人の理念に賛同する企業、賛助会員に新たに5社が加わり30社となった。医療法人社団一成会たちばな台病院から200万円、相模原町田血管外科クリニックから50万円、ジャパンメディカルアライアンス海老名総合病院から200万円、湘南厚木病院から200万円の寄付をいただいた。

(3) 外科・心臓血管外科専門医研修・卒後教育プログラムの立案・遂行

外科専門医修練プログラム：北里大学外科専門医プログラム上で修練中の準会員10名の外科修練を行い、2名が外科専門医を取得した。

心臓血管外科専門医・振興会プログラム上で修練中の準会員10名のうち、1名が心臓血管外科専門医資格を取得した。

(4) 外科専門医及び心臓血管外科専門医指導施設・関連施設との相互協力・支援体制の構築

外科専門医関連施設：竹田総合病院外科、国立静岡医療センター外科、海老名総合病院外科、横浜労災病院

心臓血管外科専門医修練関連施設：北里大学病院、海老名総合病院、群馬県立小児医療センター、NTT東日本関東病院、関東労災病院、国立国際医療センター、国立医療センター静岡病院、北斗病院、湘南厚木病院、相模原協同病院、自治医大とちぎ子ども医療センター、横浜労災病院、高知大学医学部附属病院、たちばな台病院、東京大学医学部附属病院

以上の関連施設と連携して外科専門医ならびに心臓血管専門医の育成に努め、それに必要とされる人的支援を法人として積極的に行った。心臓血管外科専門医取得のために必要な Off the Job Training (OJT) を2回開催した。

(5) 高度医療、先進医療技術の研究・開発促進への支援と臨床研究の推進

北里大学病院から北村律先生が自治医科大学附属病院に異動したことで、MICSを開始、11月からは手術支援ロボット（ダヴィンチ）補助による心臓手術を開始した。北里大学病院でも、手術支援ロボット補助による心臓手術を順調に行っている。国立静岡医療センターでハイブリッド手術室が竣工、11月にTAVI第一例を外科主導で施行した。国立国際医療センターもハイブリッド手術室が竣工、2026年にTAVI実施施設申請の予定である。また、北里大学病院が心臓移植実施施設認定にむけてプロジェクトチームが発足、2026年の申請に準備中である。

多施設共同臨床研究を成人心臓外科分野（北里大学病院・海老名総合病院・国立国際医療センター・国立静岡医療センター）と小児心臓外科分野（北里大学病院・群馬小児・自治医大・東大病院）で順調に行い、2025年1月のSTS（ロスアンジェルス）にて鹿田文昭先生と畑岡努先生が口演

で発表した。5月のAATS（シアトル）にて内藤敬嗣先生が発表、ASCVTS（シンガポール）にて石川沙弥先生が口演で発表、10月のEACTS（コペンハーゲン）にて北村律先生と泉二祐輔先生が発表した。また、2026年のSTS（ニューオーリンズ）では、岡徳彦先生が口演、近藤良一先生がポスターで発表する予定である。

(6) 有為な人材発掘のための情報発信

法人ホームページ (<https://www.specs.or.jp/>) にて法人の理念と活動内容を公開しているが、現在、リニューアルに向けて製作中である。

(7) 医師の労働環境・勤務条件の改善

2027年をめどに、心臓血管外科専門医機構が基幹施設認定基準に診療看護師等の心臓血管外科配属を義務付けることが決定した。関連施設を中心に診療看護師によるタスクシフトを進めていく。

(8) 学術集会の開催

関連施設ならびに正会員・準会員参加による学術集会「相模心臓血管外科懇話会」を1月と7月の2回、開催することができた。また、小児心臓血管外科関連施設の小児循環器医と第1回相模小児循環器研究会（仮称）を10月にThe Okura Tokyoで開催した。2026年も1, 7, 10月に学術集会を開催する予定である。

(9) 各種研究会、講演会の開催及び講師の派遣

「相模心臓血管外科懇話会」と同時に、1月に自治医科大学心臓血管外科教授川人宏次先生を、7月に東京科学大学心臓血管外科教授藤田知之先生を招聘して特別講演会を開催した。関連施設である横浜労災病院と海老名総合病院に福隅正臣先生と北村律先生を講師として派遣、職員を対象とした院内講演会を開催した。

(10) 正会員および準会員の海外留学支援および国際学会参加の支援

海外留学支援は該当者なしであった。国際学会については以下の旅費と宿泊費を法人が負担した。1月のSTS（ロスアンゼルス）に鹿田文昭先生と畑岡努先生が発表、5月のAATS（シアトル）に小中英樹先生が新入会員として参加した。ASCVTS（シンガポール）に石川沙弥先生が発表、青井夏帆先生と中山航先生が新入会員として参加、10月のEACTS（コペンハーゲン）には北村律先生と泉二祐輔が発表、太田衣美先生が新入会員として参加した。

3. 新入会員

(1) 理事・社員 平田 康隆先生（1996年東京大学医学部卒）2025年11月より

- (2) 社員 嶋田 正吾先生（2002年東京大学医学部卒）
- (3) 会員 山本 裕介先生（2005年東京大学医学部卒）2025年12月より
- (4) 会員 柴田 深雪先生（2007年産業医大卒）2025年11月より
- (5) 会員 後藤 博志先生（2011年東京大学医学部卒）2025年11月より
- (6) 準会員 青井 夏帆先生（2023年北海道大学医学部卒）
- (7) 準会員 太田 衣美先生（2023年高知大学医学部卒）
- (8) 準会員 大谷 篤司先生（2023年長崎大学医学部卒）
- (9) 準会員 小中 英樹先生（2023年日本大学医学部卒）
- (10) 準会員 中山 航先生（2023年県立和歌山医大卒）
- (11) 準会員 武井 哲理先生（2013年防衛医科大学卒）

4. 新正会員（専門医会員）

- (1) 中村 優飛先生（2016年順天堂大学医学部卒）
関東労災病院心臓血管外科医員

5. 新関連施設：

NYU Langone Hospital Brooklyn

2025年4月に内藤敬嗣先生がニューヨーク大学 Langone Hospital Brooklyn にチーフとして赴任したため、海外2番目の関連施設と認定された。

国立成育医療研究センター

2025年4月より法人会員である友保貴博先生が常勤医師として派遣されており、11月より、部長の平田康隆先生と柴田深雪先生が法人に入会された。これにより、国立成育医療研究センター心臓血管外科は関連施設となるとともに、平田先生には法人理事に就任していただいた。

6. 優秀論文賞

第2回優秀論文賞の選考委員会が2026年1月3日から6日にメール会議にて開催された。6論文の応募に対して、選考委員による厳正な審査の結果、堀江咲良先生「Liver fibrosis marker is a potential predictor of the development of Fontan-associated liver disease」European Journal of Cardio-Thoracic Surgery (IF: 3.0)が選出された。受賞者には金一封（50,000円）が授与された。

7. Off the Job Training (OJT) セミナー

第1回 2025年6月29日(日)

場 所：テルモメディカルプラネックス WEST

講 師：宮地先生、北村先生、福隅先生、井上先生、榎先生、笹原先生

協力者：人工心肺技士 大島氏、益田氏（北里大学病院）

参加者：会員・準会員 11名

内 容：シミュレーターによる OPCAB トレーニング、人工心肺装置の原理、回路のプライミング、
ブタ心臓でのカニューレーションと人工心肺操作

午前9時30分から午後4時まで実施、7.5単位のクレジットを授与した。

第2回 2025年9月28日(日)

場 所：センチュリーメディカル本社トレーニングセンター

講 師：宮地先生、岡先生、鹿田先生、北村先生、福隅先生、嶋田先生、榎先生、松下先生

参加者：会員・準会員 10名

内 容：MAZE手術、Ross手術、CABG

午前9時30分から午後4時30分まで実施、8単位のクレジットを授与した。

学術集会

第 27, 28 回相模心臓血管外科懇話会

相模心臓血管外科懇話会（1月、7月）

心臓血管外科振興会では、年2回「相模心臓血管外科懇話会」を開催し、理事会、社員総会に続いて学術集会を催し、施設の手術成績報告や、難渋した症例の報告を行うことで、各施設の治療成績向上を図っています。

2025年1月開催の第27回懇話会では、日本医科大学心臓血管外科主任教授の石井庸介先生による「心房細動手術と Atrial Incisional Reentrant Tachycardia への対処法」と題したランチョンセミナーと、自治医科大学医学部心臓血管外科川人宏次教授による「冠動脈バイパス手術のピットフォール」と題した特別講演を賜りました。一般演題としては、University of Iowa Hospitals and Clinics、東京大学医学部小児心臓外科、たちばな台病院、高知大学、大和市立病院、北斗病院、横浜労災病院、湘南厚木病院、関東労災病院、相模原協同病院、NTT 東日本関東病院、群馬県立小児医療センター、国立国際医療研究センター、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、海老名総合病院、国立病院機構静岡医療センター、北里大学の17施設19ユニットから前年の手術成績報告が行われました。また、金田咲良先生、石川沙弥先生の国際学会参加報告、井上崇道先生による海外留学報告もなされました。2024年優秀論文賞授与式も行われ、田村智紀先生が受賞されました。



ランチョンセミナー



日本医科大学心臓血管外科 石井庸介教授



自治医科大学医学部心臓血管外科
川人宏次教授



優秀論文賞 田村智紀先生



新施設認定証 アイオワ大学
中村祐希先生 (STS 2025 にて贈呈)



新施設認定証 東京大学
小児心外 鹿田文昭先生



理事会



留学報告 井上崇道先生



関連施設の臨床工学士のみなさま





第 27 回集合写真

7月開催の第28回懇話会では、東海大学心臓血管外科長泰則教授による「STICH WARS ～ A NEW HOPE with Scar Exclusion～」と題したランチオンセミナーと、大阪医科薬科大学胸部外科の根本慎太郎教授による「Academic surgeon への憧れ：紆余曲折のち雲外蒼天」と題したコーヒブレイクセミナーの講演をして頂きました。一般演題としては、各施設での手術内容や難渋した症例、工夫した治療法などの発表がなされました。また、畑岡努先生、小中英樹先生、中山航先生、青井夏帆先生による海外学会参加報告も行われました。そして最後に東京科学大学心臓血管外科藤田知之教授に、「周術期における Impella 使用プラクティス」と題した特別講演をして頂きました。（北村 律）



新施設認定証 NYU Langone Hospital Brooklyn
内藤 敬嗣先生



東海大学心臓血管外科
長 泰則教授



大阪医科薬科大学胸部外科
根本 慎太郎教授



東京科学大学心臓血管外科
藤田 知之教授



新社員
嶋田・今井・宮地教授・田村智紀先生



新入会
小中・中山・太田・宮地教授・武井・大谷・
青井先生



乾杯ご挨拶 岡教授



華山・岡・鳥井・笹原先生



田中・山本信行・井上信幸先生



代表理事 小原邦義先生



金子・鹿田・岡田先生



松代・美島・贅先生



第 28 回集合写真

第 1 回相模小児循環器研究会

2025年10月18日(土曜日)に The Okura Tokyo にて、マリンクロットファーマ株式会社の主催で、北里大学病院、群馬県立小児医療センター、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、東京大学附属病院、国立成育研究医療センターの心臓血管外科医・小児循環器医の30名が参加。各施設から症例の報告を行い、活発な討論が行われた。各施設からの発表ののち、特別講演として『小児から成人までの先天性心疾患に対する外科治療』

座長：宮地 鑑 先生〈北里大学医学部 心臓血管外科 主任教授〉

演者：小田 晋一郎 先生〈京都府立医科大学大学院医学研究科 心臓血管外科学主任教授〉

が行われた。研究会のあと The Okura Tokyo にて懇親会を開催した。

(宮地 鑑)



京都府立医科大学
小田 晋一郎教授



岡 徳彦理事・東京大学小児科 犬塚 亮准教授



第1回集合写真

海外留学報告

留学報告

Texas Children's Hospital Congenital Heart Surgery

Clinical Instructor

林 秀憲

ヒューストンの Texas Children's Hospital での臨床留学も、2023 年 10 月の開始から早いもので 3 年目に入りました。日々多くの症例に触れながら、外科医として経験を積む充実した時間を過ごしています。

最近のアメリカの医療界では、トランプ政権による H-1B ビザ政策の影響が大きく、状況が大きく変化しています。新規の H-1B 申請には約 10 万ドルの費用が必要となる一方、既存の H-1B 保持者の更新には適用されないという制度が導入されました。この影響により、日本、オーストラリア、インドなどから来る予定だった多くの医師が渡米できなくなっています。私の周囲でも、一度オファーレターにサインしていたにもかかわらず H-1B ビザを持っていないことを理由に契約が取り消された例や、逆に一度断られていたにもかかわらず H-1B ビザを保持しているという理由で急遽採用された例など、これまであまり見られなかった状況が起きています。多くのプログラムにとって 10 万ドルという費用は決して小さくなく、この政策は今後の人材の流れにも影響を与える可能性があります。アメリカ留学を検討されている方で最新の状況を知りたい方がいれば、気軽にご連絡いただければと思います。

個人的には、今年は大きな出来事の少ない一年でした。あえて挙げるとすれば、慢性的な腰痛を改善しようとジムでぶら下がり運動を始めたところ、やり過ぎてぎっくり腰になってしまったことくらいでしょうか。幸い腰も回復し、現在は毎日手術に入りながら楽しく充実した日々を送っています。外科医としての付加価値を高めるため、最近は特に VAD や心臓移植の症例に積極的に関わるようにし、経験と知識を少しずつ積み重ねていきたいと考えています。また新生児手術に入る機会も多く、その理解をさらに深め、今後の診療に活かしていきたいと考えております。

シカゴで研究留学をしていた頃、中島先生がおっしゃっていた「臨床をしなければその国の医療は本当の意味では分からないのではないか」という言葉を思い出すことがありました。現在のアメリカのトレーニング事情を考えると、アテンディングとして働いてこそ見えてくる部分もあるのではないかと感じています。そのため現在はグリーンカードも取得し、今後の進路について少しずつ考えているところです。

Texas Children's Hospital のような大規模施設で経験を積んでいることは大変恵まれており、改めて振り返ると、2 年半前にこの施設に来ることができて良かったと感じています。

生活面では、ヒューストンには日本人向けのスーパーもあり、日本の食材を手に入れることができるため、思っていたよりも日本の生活に近い環境を保つことができます。今年の正月には、そこで「久保田萬寿 YX」という少し特別な日本酒を購入しました。定価 197 ドルのものが期間限定で 130 ドルになっており、見つけた瞬間に思わず購入してしまいました。そのおかげで正月はなかなか贅沢な気分を味わうことができました。こうした小さな楽しみを見つけながら、長期の海外生活でも無理なく過ごしています。



Texas Children's Hospital Faculty Members



特別講演のため当院にお越しいただいた
佐野俊二先生



SickKidsにて Hands-on Surgical Training に参加



チチェン・イツツア (Mexico)
遺跡訪問

留学報告

Starship Children's Hospital / Auckland City Hospital

井上 崇道

まず初めに謝っておきます。例年通りであれば年報のトップバッターにあたる海外留学報告の枠に今回も私の近況報告を載せて頂くことになるかと思いますが、駄文ですみません。今回も漏れなく駄文です。

さて、ご縁があって昨年 2025 年の 4 月からニュージーランドのオークランドに留学しています。実は、ニュージーランドの医師登録をする際にすったもんだがあり、厄年でもあったので、一時は留学の道が絶たれたかと思いましたが、しかし、土壇場で奇跡が起き、ニュージーランドの医療システムの法制度が変更され、最終的に無事留学できる事となりました。

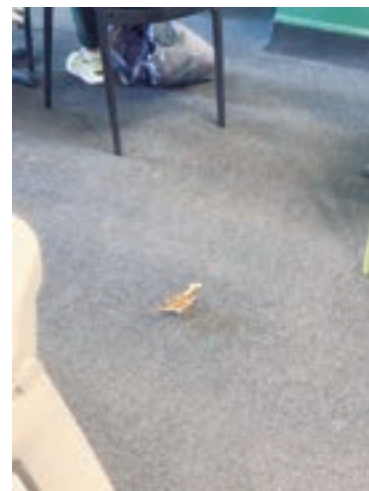
オークランドはニュージーランドの南島に位置するニュージーランド最大の都市です。レストラン等お店がたくさんあり、活気がありますが、どこに行っても混みすぎてないのが良いです。気候は、オセアニア大陸の一部ですが、思ったよりも涼しいです。ただ日本よりは流石に暖かいです。あと、やたら雨が降ります。イケてるカッパが必須です。

私が勤務している Starship Children's Hospital / Auckland City Hospital はニュージーランドで最大の Cardiac Surgery Service を有しており、小児心臓外科を行っている国内唯一の施設です。私は Paediatric and Congenital Cardiac Service に属しており、その名の通り、小児及び成人先天性心疾患を取り扱っています。年間 400-500 例程度の手術件数です。3 人のコンサルタントがおり、それぞれトレーニング背景が異なり、手術方法がそれなりに違います。とても興味深く、各々のいいところ取りをしたいと思います。ブリスベンにいた時と仕事内容は似ているところは多いのですが、こちらではアダコンの患者さんの病棟での術後管理は自分達で行なっています。日本で大人のトレーニングもさせて頂いたのが生きています。特徴的な点として（偶然かも知れませんが）、前任のボスもそうでしたが、職場の重要ポストに女性が多いです。フェローも私以外、全員女性です。トラブルを起こさない様にしたいと思います。

今回も家族を道連れにしていますが、妻と子供達もオークランドをエンジョイしてくれています。

オーストラリアの 2 年間のおかげで極めてスムーズに移住出来ました。家族には本当に感謝しています。子供達が徐々に大きくなってきたので、将来の進路をどうしようか思案中です。息子と一番下の娘は日本はダメかも知れませんが。。。

この度も留学の機会を与えて下さり、宮地先生を始め医局の先生方に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今年度も皆様にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



食堂で雀と一緒にご飯が食べられます

北里大学 助教 土田 勇太

シカゴ大学での留学について

シカゴ大学にきて2年が経ちました。シカゴに来てから取り組んでいる研究は一通り結果が出てなんとか論文になりつつあります。まだまだ日比野先生からの修正が必要な箇所がありますが、仕上げていきたいと思っています。

この2年間は基礎研究の考え方をみっちり仕込まれた期間でした。週のほとんどを研究用の動物実験とサンプル作り、顕微鏡での画像評価に費やしました。画像評価から出た結果を quantification して次の実験を検討するまでが一連の流れですが、外科医としてはどうしても動物手術、サンプル作りに注力しがち（より良い手術方法を検討しがち）で、結果の評価が疎かになりがちとなるのでそのバランスを取るのが一番苦労しました。実験を条件分けして行うまではいいのですが、大量の結果、データを集めることで満足してしまい、その評価の考察までは手が回らない、評価不十分のままそれでもデータは集めなくてはならないので闇雲に条件分けを追加してしまう、という悪循環に陥った時もありました。一生涯かけてきた研究テーマならまだしも、外科医の基礎研究に費やせる時間は限られているので、どうしても結果評価までを素早く行い次に進まなくてはなりません。それでも同じことを繰り返しているような、全く進んでいないような感覚に陥り気持ちだけが焦ってしまいました。2年間学んだ研究者マインドを忘れずに今後の研究に繋げていきたいと思っています。私のテーマはマウスを用いた冠動脈の3D画像の撮影、解析でした。そのため微小循環の領域について学ぶことができました。また、内分泌科の分野で膵臓の血流解析で著名な原先生から動物手術からサンプルの作り方、論文の書き方まで事細かく指導していただきました。日比野先生、原先生には大変お世話になり大変感謝しております。また大動物手術を手伝っていただき、公私共にお世話になりました鷹谷先生にも感謝しておりますし、新天地でのご活躍をお祈りいたしております。是非この研究テーマを臨床研究に繋いで臨床研究として続けていきたいと思っています。色々とは大学の研究者の方々の話を伺って、外科医が基礎研究を続けていくのはかなりハードルが高いですし、スキルがあっても色々とは難しいです。それに世界的な流れから基礎研究よりも臨床研究が重視されていますし（語弊があるかも知れませんが。基礎研究が無駄、意味がないというわけではありません。）動物実験から臨床研究に行くという流れが自然だと思います。また Northwestern 大学の研究者の先生方には家族ともども大変お世話になりました。研究初心者の私には大変貴重なお話を伺えましたし、子供も一緒に遊んで、大変な環境の中、一生の友達ができました。臨床で忙しい中、こんなに研究に力を入れている医師が日本にいるとは信じられませんでした。見習おうと思いました。日本に帰国してもこの繋がりを大切にしていきたいと思っています。もちろん Hibino lab の gap year student の Riya, Emmett にもお世話になりましたし、あげ出したらキリがありません。

家族には大変な迷惑をかけました。お金のこと生活のこと…日本では経験しないような不便をかけた。お金のことは言うまでもなく円安、トランプ関税、アメリカのインフレ、研究費の削減などなど今後は少しでも改善することを祈っています。生活では言葉の壁は大きく、簡単に孤立してしまうので大人でも大変だと思います。積極的にいろんな人と関わりを持っていくのが大事ですが、日本人はかなりレアで英語を話せなくても友達を作っていた子供を見ると適応能力の高さに驚きまし

た。その一方で歳を重ねるごとにだんだんと新しい環境に適応するのが大変になっていく自分と比べ、もっと頑張らなければと刺激を受けました。アメリカの医療を受ける側になってみて、分かったこともありました。留学前はアメリカの医療が世界一で海の向こうには楽園があると信じていましたが、医療を受ける側の意見としては医療費の自己負担が多い分、患者数自体は大量ですが貧困層は医療を受ける機会がなく、弱者救済の観点では日本の医療の方が優れていると思いました（どちらが正しいと言う話ではありません）。

来年度から村井先生が引き継ぐこととなりました。やる研究は違うと思いますが、動物実験手技など引き継げることは引き継いでいこうと思います。



写真1 Sue Field Museum



写真2 土曜の補習校からの帰り道



写真3 日本の高級雑誌 ゴジラ



写真4 シカゴの厳しすぎる冬

医学博士学位取得報告

医学博士学位取得報告

The predictive role of regional tissue oxygen saturation monitoring at thighs during cardiopulmonary bypass in lung injury after cardiac surgery

人工心肺使用後の開心術術後急性肺障害に対する大腿部局所酸素飽和度モニタリングによる予測能

国立国際医療センター 心臓血管外科

田村 智紀

この度、北里大学で学位を取得いたしました。

急性呼吸促拍症候群（ARDS）は人工心肺を使用した心臓手術後の重篤な合併症であり、術後の合併症や死亡率のリスクを増加させると報告されています。人工心肺や術中管理の対策として様々な報告がありますが ARDS の予防に関しては臨床成績の改善までの報告はありませんでした。近赤外線分光法（NIRS）を用いた局所酸素飽和度（rSO₂）の測定は心臓手術中の血行動態評価に有効で、北里大学から榊先生、井上崇道先生が NIRS を用いた大腿部の rSO₂ が成人、小児の急性腎障害発症の予測が可能であると報告しています。

今回は成人の人工心肺中の rSO₂ モニタリングが急性肺障害の予測因子となるかを検討しました。MICS や緊急手術、大動脈手術、透析症例などを除外した症例で検討しました。結果、30% が術後に急性肺障害を合併していました。重回帰分析では CPB 開始時の VIS score、CPB 中の大腿部 rSO₂ 値、BSA が急性肺障害合併と有意な相関を認めました。また、CPB 中の大腿部 rSO₂ がカットオフ値 71% 以下で急性肺障害の予測因子でした。これにより大腿部の rSO₂ 71% 以上を目標に管理することで急性肺障害発症を予防できる可能性があるかと報告いたしました。

上記研究をご指導いただきました北里大学宮地教授、鹿田先生、古平教授にこの場をお借りして感謝申し上げます。

学位取得報告

Texas Children's Hospital

Congenital Heart Surgery

Clinical Instructor

林 秀憲

この度、これまで行ってきた研究をもとに学位を取得いたしましたので、ご報告申し上げます。本研究では、先天性心疾患における血管再建を目的とした患者特異的3次元組織工学的血管グラフト(3D Tissue-Engineered Vascular Graft: 3DTEVG)の開発とその有用性について検討いたしました。ポリε-カプロラクトン(PCL)、ポリ(L-ラクチド-co-ε-カプロラクトン)(PLCL)、およびポリグリコール酸(PGA)を用いた複合材料により作製したグラフトを大動物モデルに移植し、形態学的適合性、血行動態、および組織学的変化について評価を行いました。

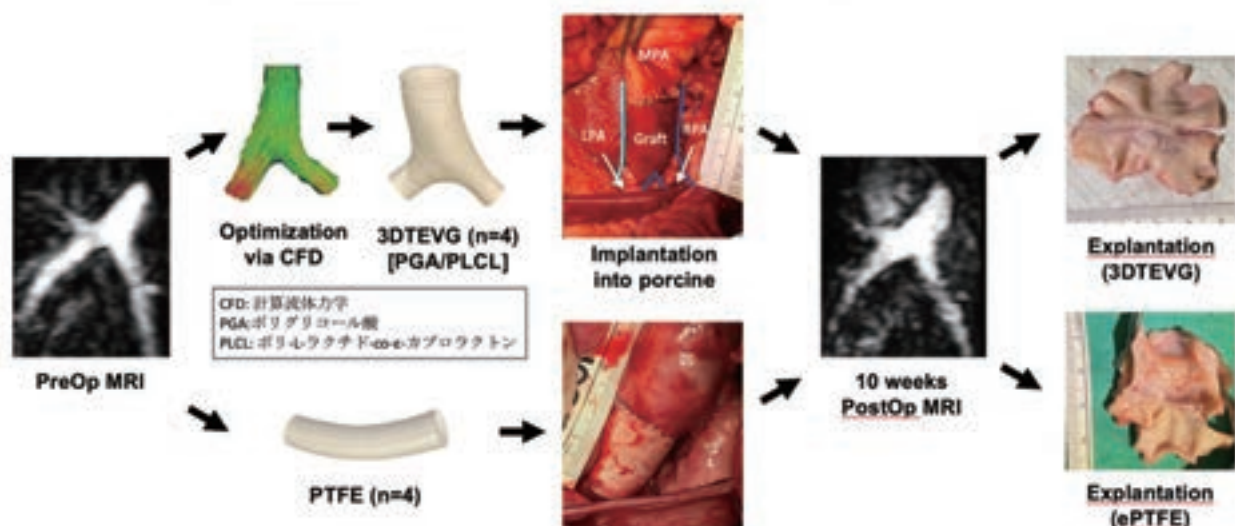
その結果、患者特異的に設計された3DTEVGは良好な形態適合性を示し、成長に伴う血管径の変化にも対応しながら安定した血行動態を維持することが確認されました。また、組織学的解析では新生血管形成および血管リモデリングが進行していることが示され、将来的な小児心臓外科領域における新しい血管再建材料としての可能性が示唆されました。

このような心臓外科の新しい技術につながる研究に携わる機会をいただき、さらに学位まで取得することができたことに感無量の思いです。

本研究をご指導いただきましたシカゴ大学の日比野成俊先生には、研究経験がほとんどなかった私を受け入れてくださり、研究の基礎から丁寧に指導いただき、本日に至るまでの経歴へと導いてくださいましたことに心より感謝申し上げます。

また、留学の機会を与えてくださいました宮地先生、学位審査に際し多大なるご配慮とご尽力をいただきました渡邊みゆき様、ならびに留学をご支援くださいました振興会の皆様にも、この場をお借りして深く御礼申し上げます。

肺動脈への3DTEVG移植ワークフロー



国際学会発表

学会参加報告

STS 2025

東京大学医学部附属病院 心臓外科

鹿田 文昭

米国 California 州 Los Angeles で 2025 年 1 月 24-26 日に開かれた STS 2025 で、oral 発表で採択されたため参加しました。演題名は、Optimal circumference size of pulmonary artery band in functional single ventricles with unrestricted pulmonary blood flow でした。多施設共同の後方視的研究で、TCPC のデータを使用した解析でした。単心室修復になる患者の至適な PAB の周径について、これまで論文がなく、Fontan の遠隔期データから何かデータを出せないかというアイデアで研究した内容です。PAB の径を BW + 17mm 以下にした方が、FALD の合併症発症率は低く、肝線維化マーカーである FIB-4 index も低く経過するという内容でした。Chris Caldarone 先生から質問がありましたが、ぼそぼそ話すので聞き取れませんでした。座長が repeat してくれたので答えられました。Heterotaxy は関係あるのじゃないかということと、PAB の周径はどのように決定しているのかという内容でした。オーストラリア留学から帰国して 6 年経過しており、英語力に不安は多少ありましたが、なんとなく英語勘を思い出してしゃべっていました。学会の隙間に、写真のようにドジャースタジアムに行ったり、夜は料理を楽しんで来ました。宮地教授と息子様、畑岡先生、東大から堀江先生、米国でチーフをしている中村先生と合流して食事会がありました。

Oral で発表した内容のため ATS の論文でも通りやすい状況だったのですが、新天地で責任者になったばかりで心の余裕がない状況でした。堀江咲良先生が、first author での原稿執筆依頼を快諾してくれ、無事 ATS で採択され 2026 年 3 月号に掲載されました。

このような貴重な機会を頂きましたのは、宮地教授、法人の会員の皆様のおかげです。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。

2025 STS Annual Meeting (Los Angeles)

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科

畑岡 努

2025 年 1 月 24 から 26 日にかけてアメリカのロサンゼルスで行われた、The Society of Thoracic Surgeons に参加してきました。直前にはロサンゼルスで大規模な山火事が起きていました。開催 1 週間前の学会のホームページには、「LA is mostly back to normal」と記載がありましたが、渡米直前には新たな山火事のニュースが報道されており、本当に開催されるのか半信半疑でした。初めての国際学会のプレッシャーに押しつぶされそうになっていた私は不謹慎にも「このまま中止にならないかな」と少しだけ期待していましたが、実際に現地に行くと山火事の影響を感じることはなく、何事もなく学会は開催されました。Rapid fire oral session で、比較的小さい会場ではありましたが、先天性のセッション自体が少なかったこともあり、先天性関係者が会場に 2,30 人くらい集まっていました。英語の質疑応答が一番の懸念事項ではありましたが、会場の方も座長の先生も比較的ゆっくりと質問

してくれて、内容も想定範囲内だったため何とか乗り切れたと思っています。日本の学会発表では味わうことができない緊張感を経験できたので、今後に活かしていきたいです。宮地教授、鹿田先生をはじめとする法人の方々の御指導御支援のおかげで貴重な体験をすることができました。ありがとうございました。

STS 参加報告

東京大学医学部附属病院 心臓外科

堀江 咲良

アメリカ、ロサンゼルスで行われた、2025STSに参加させていただきました。

Fontan 術後の PLE に関する発表で、発表形式は e-poster だったのですが、どうしても現地で参加したいと駄々をこねて了承していただきました。

これまで旅行などで海外へ行くことは多かったのですが、アメリカに行くのは人生で初めてでした。

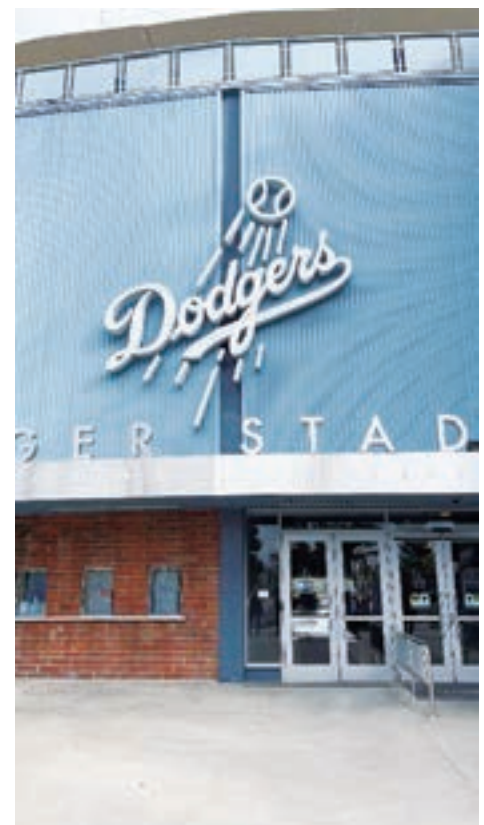
日本を発つ当日朝に病院でペースメーカー交換をやってから空港に行く予定としていましたが、術後患者さんをベッドで運ぶ際、酸素ボンベが落下し足の甲に直撃しました。久しぶりに痛みで涙が出て、あ、折れたな、と思いました。足の甲はパンパンに腫れて、歩くのもやっとでしたが、絶対にアメリカに行きたいという強い気持ちで何とか飛行機に乗ることができました。足を引きずりながら搭乗する私を見て CA さんに大丈夫かと心配されましたが、I am a doctor. と言い切って乗りました。北村先生からは Break a leg と粋なメッセージをいただきました。10 数時間のフライト中、ずっとキンキンに冷やしていたらアメリカにつく頃には腫れもだいぶん引いてなんとか歩けるようになったので良かったです。

現地では、STS の学会の雰囲気圧倒されつつ、鹿田先生、畑岡先生の発表を拝聴し、やっぱり大舞台で発表される姿はカッコいいなあ実感し、私も次回は oral で通したいと気合が入りました。

空き時間では、宮地先生、中村先生とお食事させていただき海外留学のお話を伺ったり、鹿田先生、畑岡先生とハリウッドやドジャースタジアムを観光しました。ロサンゼルスは思っていたよりも怖いなという印象で、鹿田先生がずっと私と畑岡先生のお守りをしてくれました。

海外学会に行くのはこれで 3 回目となりましたが、日本の学会とはまた違った雰囲気で、発表されている方は 3 倍増しかっこよく見えました。今年も行けるかどうかはわかりませんが、チャレンジはたくさんしていきたいと思います。

このような貴重な機会をいただき、振興会の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。





堀江・鹿田・宮地・中村祐希・畑岡先生



演者 鹿田 文昭先生



演者 畑岡努先生

AATS annual meeting 参加報告

NYU Langone Hospital Brooklyn, Chief of Cardiac Surgery

内藤 敬嗣

2025年5月、シアトルで開催されたAATSに参加しました。振興会多施設共同研究による、Type A intramural hematomaについて発表しました。残念ながらポスター発表になりましたが、JTCVSから同日に論文が掲載されました。時間があれば目を通して頂けると嬉しいです (Naito N, et al. Multicenter retrospective observation study of conservative management for acute type A intramural hematoma. J Thorac Cardiovasc Surg. 2025;170(5):1353-62)。シアトルで循環器内科医として働いている親友にも会うことができ楽しいひと時を過ごしました。

国際学会参加報告

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科

小中 英樹

レジデントの小中です。このたび心臓血管外科振興会のご支援を賜り、昨年5月にアメリカ・シアトルで開催されたAATS Annual Meetingに参加いたしました。現地では、発表演者である内藤敬嗣先生 (New York University Langone Health) と合流し、会場内外でご指導いただきました。

学会は adult、congenital、structural、perioperative、thoracic など多岐にわたるセッションで構成されており、滞在期間中は毎日、何らかの congenital 領域のセッションに参加しました。国内学会と比較すると、症例数の多さが印象的であり、AI を活用した研究やハイブリッド手術に関する発表も散見されました。また、若手医師や医学生による rapid-fire セッションも設けられており、アメリカでは若い段階から本格的な研究に触れられる環境が整っていることを実感しました。日本人演者による発表も複数あり、国際的な場で活躍される先生方の姿に大いに刺激を受けました。

セッションの合間には、デル・ニドー先生やイゴー・コンスタンティノフ先生や、現地でレジデントとして活躍されている日本人の先生からも貴重なお話を伺いました。さらに、内藤先生のご紹介で、アブレーションをご専門とする岡部先生からアメリカでの医師生活について教えていただき、臨床・研究の両面で視野が広がりました。

今回の学会参加を通じて、多くの刺激と学びを得ることができました。将来、自らも国際学会で発表したいという意欲が一層強まりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに、心より感謝申し上げます。





Dr,T.Okabe・内藤・小中先生



小中先生・Dr,Del Nido

ASCVTS 発表

竹田総合病院 外科

石川 沙弥

2025年5月にシンガポールで行われたアジア心臓血管外科胸部外科学会で発表をいたしました。まずは発表にあたり抄録からスライド作成まで細やかにご指導してくださった北村先生に深く感謝申し上げます。

2024年10月に EACTS で堀江先生が大観衆の前で堂々と発表している姿をみて「カッコ良い！私も海外で発表したい！」と強く思ったことが発表をしようと思ったきっかけでした。原稿や予定質問に対する解答集を作って繰り返し練習したものの前日は不安で仕方なかったです。そんな中、岡先生、青井先生、中山先生と屋台に行き少し緊張がほぐれました。発表中は無我夢中で発表し、稚拙ながらもなんとか質問にも答えることができ、終わったときは国家試験が終わったときとくらべものにならないくらいの達成感がありました。宮地教授にお疲れ様とさせていただき、本当に終わったのかとやっと実感した記憶があります。その後はUSSやマリーナベイサンズで買い物するなどたくさん観光もできました。頭から足先までびしょびしょになったアトラクションも発表の打ち上げと買ったジミーチュウの靴もすべて良い思い出となりました。最後にわざわざ発表を見に来て下さった、宮地教授、岡先生、青井先生、中山先生には深く感謝いたします。



演者 石川沙弥先生

ASCVTS を終えて

湘南厚木病院 心臓血管外科

中山 航

2025年5月14日から17日に開催されました第33回 ASCVTS に参加させていただきました。2日目には石川先生が oral presentation をされ、流暢な英語でのご発表ならびに質疑応答に的確に対応されるお姿に大変感銘を受けました。1 学年上の石川先生が国際学会で堂々と発表されている姿は大きな刺激となり、私自身も将来海外で発表できるよう一層研鑽を積みたいと強く感じました。また、岡先生には今回初めてお会いする機会をいただき、ご高名なお立場でありながら大変気さくにお話しくださり、貴重な時間を過ごすことができました。観光に関しては、ユニバーサル・スタジオやマリナーベイサンズを訪れる機会にも恵まれ、異国の文化や雰囲気に触れることができました。初めての海外渡航で不安もありましたが、学術的にも大変刺激を受ける有意義な経験となりました。このような貴重な機会を賜りましたこと、宮地先生をはじめ振興会の先生方のご高配に深く感謝申し上げます。

ASCVTS に参加して

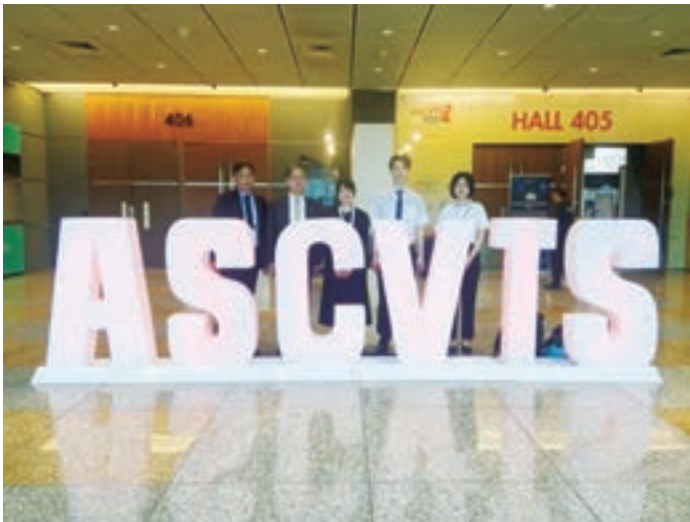
北里大学病院 心臓血管外科 助教（病棟医）

青井 夏帆

2025年5月14日から17日までシンガポールで開催された ASCVTS に参加させていただきました。現地はとても暑く、ビールが美味しい気候でした。

はじめて参加する国際学会は、私が知っている学会より医療機器の展示の規模が大きく、みているだけで楽しかったです。ぐるっと会場をまわった後、石川先生の発表を聴講させていただきました。とても聞き取りやすい流暢な英語で堂々と発表されており、さらには質問にもしっかりと答えられていて、1つ上の先輩と思えないような素晴らしい発表で、とてもかっこよかったです。大変良い刺激を受け、私も海外で発表できるように頑張ろうと思いました。

今回このような貴重な機会をくださった宮地教授をはじめ、振興会の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



岡・宮地・石川・中山・青井先生



中山・青井・石川・宮地・岡先生



石川・青井・中山先生



手洗いは大切！



うがいも大切！（笑）

The 39th EACTS Annual Meeting (Copenhagen)

自治医科大学医学部 心臓血管外科 学内教授
北村 律

EACTS（ヨーロッパ心臓胸部外科学会）には毎回大動脈ネタを出すことが多いのですが、今回も急性大動脈解離関連のネタを2演題提出しました。ひとつはこの3年くらい落ち続けているマニアックなネタで、やはり落ちました。もうひとつは北里の卒業記念に、Samurai Cannulationの190例の実績を出して、Moderated Poster Sessionで採択されました。Posterには動画も埋め込むことができ、視覚にも訴える発表ができました。座長がオーディエンスに向かって、「この中でサムライやったことある人〜？」と質問したところ、3 - 4人手を挙げていました。少し嬉しかったです。コペンハーゲンは曇り空でしたが、味わい深い街でした。妻へのおみやげにエビの絵の大きなお皿を買って帰りました。



学会参加報告

国立国際医療センター 心臓血管外科
泉二 佑輔

2025年10月、デンマーク・コペンハーゲンで開催されたEACTS 2025に参加させていただきました。貴法人からのご支援をいただき、無事に現地まで発表まで終えることができました。まずはこの場をお借りして、心より御礼申し上げます。今回は宮地先生、北村先生、畑岡先生、太田先生らとご一緒させていただき、学会そのものだけでなく、移動や滞在を含めて大変貴重な経験となりました。

今回の演題は“Early Changes in Crescent Thickness in Type A Intramural Haematoma: A Multicentre Retrospective Study”で、A型IMHにおけるcrescent thicknessの早期変化に着目した多施設後ろ向き研究です。発表形式はmoderated posterでしたが、口頭発表の機会もあり、海外で自分たちの研究を直接発信できたことは大きな経験になりました。発表内容はtransferになり、ようやく投稿といった予定です。

会場には約5,400人が参加しており、EACTSの規模の大きさと、心臓血管外科領域の国際的な広がりを感じました。海外学会で発表できたことは素直に嬉しかった一方で、やはり英語での発表や質疑応答は簡単ではなく、日常的なトレーニングが必要だと痛感しました。いい年なのでこれからもコツコツやっと思っています。

コペンハーゲンは初めて訪れましたが、街並みが美しく、落ち着いていてとても印象的でした。日中は学会でしっかり勉強し、夜は少し街を歩きながら海外学会らしい雰囲気も楽しむことができました。成田からドーハ経由での移動もなかなかの長旅でしたが、それも含めて記憶に残る学会参加になったと思います。

このような機会をいただきましたのも、宮地教授をはじめ、諸先生方、法人の皆様のご支援のおかげです。今回の発表内容はしっかり論文化まで進め、今回得た刺激を今後の臨床・研究活動に還元していきたいと思えます。少しでも業績でお返しできるよう、引き続き頑張っていきます。

2025 EACTS Annual Meeting (Copenhagen)

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科

畑岡 努

今回は堀江先生のピンチヒッター的な形で、出来上がった抄録を提出したところポスターで採択され、EACTSに参加することができました。ポスター発表の内容は、Fontan手術後の遠隔期成績に対する fenestration の影響についてで、これに関しては堀江先生が論文化してすでに publish されています。ポスター発表は掲示のみで質疑応答などの時間は無かったため、STSの時とは違い、気持ちに余裕を持って先天性のセッションを聴いてまわることができました。修正大血管転位症に対する Double Switch operation のセッションが一番盛り上がっていたかと思えます。ドイツの小野先生が企画してくださった日本人医師の会では、向かいに座ったのがドイツ人歯科医（女性）で少々テンパりましたが、隣の泉二先生が持ち前のコミュニケーション能力を発揮してくれたおかげで楽しい時間を過ごせました。次回は自分の力で演題を通して、オーラルで発表できるように頑張りたいです。

海老名総合病院 心臓血管外科

太田 衣美

初めての海外学会は Copenhagen でした。

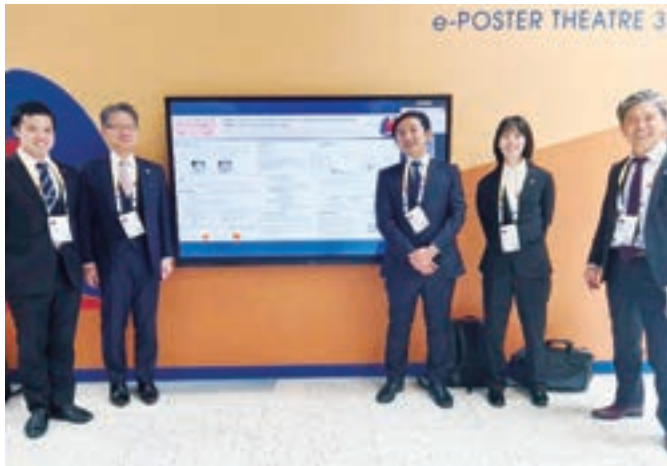
第 39 回 EACTS in Copenhagen に参加させていただきました。

海外学会はもちろん初めてであり、コペンハーゲンには後にも先にも行かないところでしたのでとても緊張しました。さらに成田空港で合流するのは泉二先生と畑岡先生であり、私はほぼ面識がなく人見知りにとってはかなりハードルが高かったです。お二人は優しかったのでなんとかできました。

コペンハーゲンがいつもそうなのか分かりませんが学会中ずっと曇天か小雨で、思いのほか閑散とした印象を受けました。観光地まで足を伸ばすと通行人が増え、賑やかな雰囲気でおしゃれなお店がたくさんあり散歩するだけでとても楽しかったです。

英語で発表や会話を楽しんでいる先生方を見ていると海外留学しないとしてもコミュニケーションの一環として英会話を習得したいと思えました。

他言語を習得するにはその言語を話す恋人を作るのが一番とも言われていますし、私は海外の推しをつくらなければならないかもしれません。まずは単語と熟語から覚えていっています。



畑岡・宮地・泉二・太田・北村先生



演者 畑岡・宮地教授



演者 泉二先生



演者 北村先生



宮地教授



人魚の像の前で

AHA Scientific Sessions 2025 (New Orleans) 自治医科大学医学部 心臓血管外科 学内教授 北村 律

AHA（アメリカ心臓協会）は巨大な組織ですが、その中に Council on Cardiovascular Surgery and Anesthesia (CVSA) という、外科と麻酔科の小さな部門があり、さらにいくつかの委員会に分かれています。スタンフォードの先生から自治医大の木村直行先生経由で推薦され、2025年からCVSAの中のLeadership Committeeの委員になったので、その会合に出席するためだけにニューオーリンズに行きました。AHAは内科中心の学会なので初参加でしたが、巨大な学会でした。ジャズも少し



聴きに行ったのですが、独りだったので盛り上がりには欠けました。せっかくアメリカに来たので上手いダヴィンチ手術も見ておこうと思い、マイアミの橋本誠先生の手術を見に行きました。ウソみたい



に小さな創でMIDCABをやっていました。超絶手術でした。マイアミまで行った甲斐がありました。2 - 3年前に森先生とサンディエゴに行ったときに、森先生がスニーカーを買っていてうらやましかったので、マイアミのショッピングモールでスニーカーを1足買いました。ショッピングモール内のハンバーガー屋さんでバーガーとコーラを注文した際、「ポテトは？」と聞かれたので、「要らない」と答えました。数分後、店の奥からマネージャーみたいな太ったおばさんが出てきて、「ホントにポテト要らないの？」と聞かれました。「ホントに要らない」と答えました。怪訝そうな顔をされましたが、大きなハンバーガーでお腹いっぱいになったので、ポテト頼まなくてよかった、寄り切られそうになったけど土俵際によく耐えた、と思いました。寂しい独り旅だったので、写真はほとんど撮りませんでした。

行 事

法人5周年祝賀会（2月）

当法人は2019年11月に設立しましたが、5周年を記念して2025年2月に記念講演・祝賀会を開催しました。第1部の記念講演では、宮地理事が、「医局の一般社団法人化」、岡理事が、「医局員からみた医局法人化」、三浦理事が、「地方国立大学病院心臓血管科医局の当法人への参加」、北村が「当法人の今後の展開 ―安全、利益と集約化―」と題した講演をそれぞれ行い、当法人の設立に至る経緯や理念、現状と未来が語られ、関連病院の院長・理事長を交えた活発な議論がなされました。第2部の祝賀会では、小原代表理事の開会の辞に続き、自治医科大学学長の永井良三先生、日本胸部外科学会前理事長で大阪警察病院院長の澤芳樹先生、日本胸部外科学会現理事長で慶應義塾大学心臓血管外科教授の志水秀行先生のお三方から祝辞を頂戴いたしました。急遽乾杯のご挨拶をお願いした、聖マリアンナ医科大学心臓血管外科元教授の幕内晴朗先生のスピーチで会場が笑いに包まれている中、日本心臓血管外科学会理事長で東京大学心臓外科教授の小野稔先生が到着され、乾杯のご発声をボタンタッチしていただきました。135名の方々にご出席いただき、賑やかな会となりました。当法人に対する皆様の日頃の御指導、御支援に心より感謝いたします。この場を借りて御礼申し上げます。

（北村 律）





フジテレビ梅津弥英子アナ



宮地 鑑理事



岡 徳彦理事



三浦 友二郎理事



北村 律理事



賛 正基理事





小原 邦義代表理事



慶応義塾大学
志水 秀行教授



自治医科大学
永井 良三学長



大阪警察病院長
澤 芳樹先生



東京大学
小野 稔教授



幕内 晴朗先生





寺本振透 監事



北里大学小児科石黒教授・志水教授



華山理事



近藤・平田・柴田深雪先生



鳥井教授退任祝賀会（3月）

北里大学医学部勤務 28 年の締めくくりとして 2025 年 3 月 15 日にオークラ東京のオーチャードルームにて退任記念祝賀会を開催していただきました。山岡・阿古両病院長をはじめ、北里大学医学部心臓血管外科同門会や医局 OB の方々など、96 名が集う会となりました。東京女子医大時代からご縁のある 3 名は、結婚披露宴・教授就任祝賀会に続いて、人生の節目となる祝賀会に 3 回もご臨席いただき結果となりました。妻とも披露宴の思い出話が出て、結果的に最後の挨拶に予定していなかった家族への謝辞が入ることになりました。懐かしい人たちとの再会の場ともなり、和やかな会になったことを深く感謝いたします。

（鳥井 晋三）



鳥井教授ご家族・宮地教授・阿古教授・山岡病院長・竹内先生・小原理事



司会 福隅 正臣先生



竹内 靖夫先生



北里大学病院長
山岡 邦宏先生



北里大学メディカルセンター
病院長 阿古 潤哉先生



宮地 鑑理事



賛 正基理事



小川史洋先生



呼吸器外科の先生方・天野教授



旧胸部外科の皆様



石川・中村優飛・鳥井・宮本・村井・松井先生



鳥井・藤岡・大久保先生



大友・田村佳美・鳥井・後藤・松代・松永先生



高木・宮本・岡先生



岡村・山本信行・井上信幸・友保・成田・中島先生



中村優飛・波里・松下・鳥井・笹原先生



北村 律理事



代表理事 小原先生



渡邊・鳥井夫妻・田村佳美先生



町井先生



OJT: Off-the-job Training (6月、9月)

心臓血管外科の修練においては、手術室外でのトレーニング (OJT: Off-the-job Training) も重要で、専門医申請にも 30 時間以上の OJT の経験が必要です。また、専門医取得後の外科医にとっても、OJT は新たな術式を学ぶために重要な機会です。

6月のOJTでは、テルモメディカルプラネックスにおいて、例年同様、人工心肺に関する理解を深めてもらう目的で、若手外科医を対象にした人工心肺回路のプライミング、人工心肺シミュレーター操作、ブタでの人工心肺操作のトレーニングを行い、中堅医に対してはブタ心臓シミュレーターおよびブタ心臓を用いた OPCAB のトレーニングを行いました。また、9月のOJTでは、センチュリーメディカル本社トレーニングセンターにおいて、ブタ心臓と MAZE 手術シミュレーターを用い、MAZE 手術、Ross 手術、CABG のトレーニングを行いました。 (北村 律)



OJT (6月)



OJT (9月)

CVS セミナー 海老名総合病院（6月）

2025年6月3日 海老名総合病院にて第1回となるCVSセミナーが開催されました。講師には自治医科大学の北村 律先生をお呼びし、「MICSとロボット心臓手術」の演題で貴重な講演をいただきました。病院スタッフ45名が参加し、MICS手術の現状から、当院ではまだ行われていない

ロボット心臓手術の内容まで知識を深めることが出来ました。手術を見たことのない医療スタッフにも分かりやすく、ユーモラスな話を交えて頂き、約1時間楽しい講演会となりました。

（井上 信幸）



演者 北村理事



海老名総合病院のみなさま

CVS セミナー 横浜労災病院（6月）

2025年6月27日、横浜労災病院において、院内スタッフを対象とした心臓血管外科セミナー「低侵襲心臓手術（MICS）って何？『最新治療の実際』」が開催されました。本セミナーでは、座長に北里大学心臓血管外科 教授 宮地 鑑 先生、講師に同科 講師 福隅 正臣 先生をお迎えし、MICS(Minimally Invasive Cardiac Surgery) の基本概念や術式の実際、そして北里大学における運用実績について詳しくご講演いただきました。講演では手術動画をふんだんに用いた視覚的にわかりやすい解説がなされ、MICSに馴染みのない職種にとっても理解が深まる内容でした。参加者は76名を超え、会場には立ち見も出るほどの盛況となり院内における関心の高さがうかがえました。活発な質疑応答も交えながら、約1時間にわたり大変有意義な時間となりました。本セミナーは、当院で今後開始予定のMICS導入に向けた理解促進と多職種連携の第一歩として、大きな意義を有するものでした。」



演者 福隅正臣先生



横浜労災病院のみなさま

納涼会 屋形船（8月）

毎年恒例の夏の納涼会として、今年も屋形船を開催しました。例年各関連病院から医師のみでなくコメディカルの方々にも参加いただき、普段なかなか接点の少ないメンバー同士の貴重な交流の場となっています。華やかな浴衣に身を包んだ参加者を乗せ、品川を出港し、お台場でしばし停泊。海風を感じながら夜景を眺めつつ、美味しい料理に舌鼓を打ちました。その後は隅田川をゆったりと巡り、東京の夏らしい風情ある景色を楽しみました。下船後は二次会も行われ、多くの参加者が引き続き親睦を深め、盛会のうちに終了しました。来年もまた多くの皆様とこのひとときを共有できることを楽しみにしております。

（福隅 正臣）



宮地 鑑理事



青井・太田・宮地・井出・田村佳美先生



帯広心疾患セミナーの開催（10月）

2025年10月17日ホテル日航ノースランド帯広において、「弁膜症疾患の診断と治療、～低侵襲手術の最前線～」と題して、心臓血管外科振興会主催、座長を北里大学医学部心臓血管外科学教授の宮地鑑先生、演者を同講師の福隅正臣先生で講演していただきました。

十勝医療圏にある北斗病院以外の心臓血管外科施設ではまだ導入されていない低侵襲手術の基礎的な話から実際に手術動画を供覧し、参加者約30人の医師、医療スタッフ共に大きな感銘を受けました。講演終了後の情報交換の場において、現在の状況としては、このような手術を受ける場合には、札幌の病院に紹介となっており、それが、帯広で更に可能になるならば患者さんの大きな利益になるという話をされていました。

このような講演会を開催していただいたことに感謝し、またこれを契機に帯広の地で心臓外科における低侵襲手術が広まっていくことになればと思いました。 (山本 信行)



演者 福隅 正臣先生



座長 宮地 鑑教授

忘年会（12月）

忘年会は北里大学の職員を中心に、例年と同じく南町田の日帰り温泉にて開催しました。多くの関連部署・関連施設・賛助会員の皆様にご参加いただき、温泉で日頃の疲れを癒やしながら、夜遅くまで歓談を楽しみました。余興やビンゴ大会も大いに盛り上がり、景品をめぐる一喜一憂する場面も見られ、笑いの絶えない時間となりました。終始和やかな雰囲気の中で親睦を深めることができ、大変盛会となりました。

（福隅 正臣）



幹事 青井・太田・宮地・大谷・中山先生



田村先生

福隅先生



松井・武井・近藤・村井・嶋田先生



阿古教授・下浜先生



豊田・成田・大島・藤岡・榎先生



付箋 たくさん顔貼りゲーム



西川隆教のものまね（笑）風あおってます！



幹事さん、楽しい会をありがとう！！



福隅先生、おめでとう！



1等 旅行券 GET だぜ！

関連施設実績報告

1. 北里大学病院



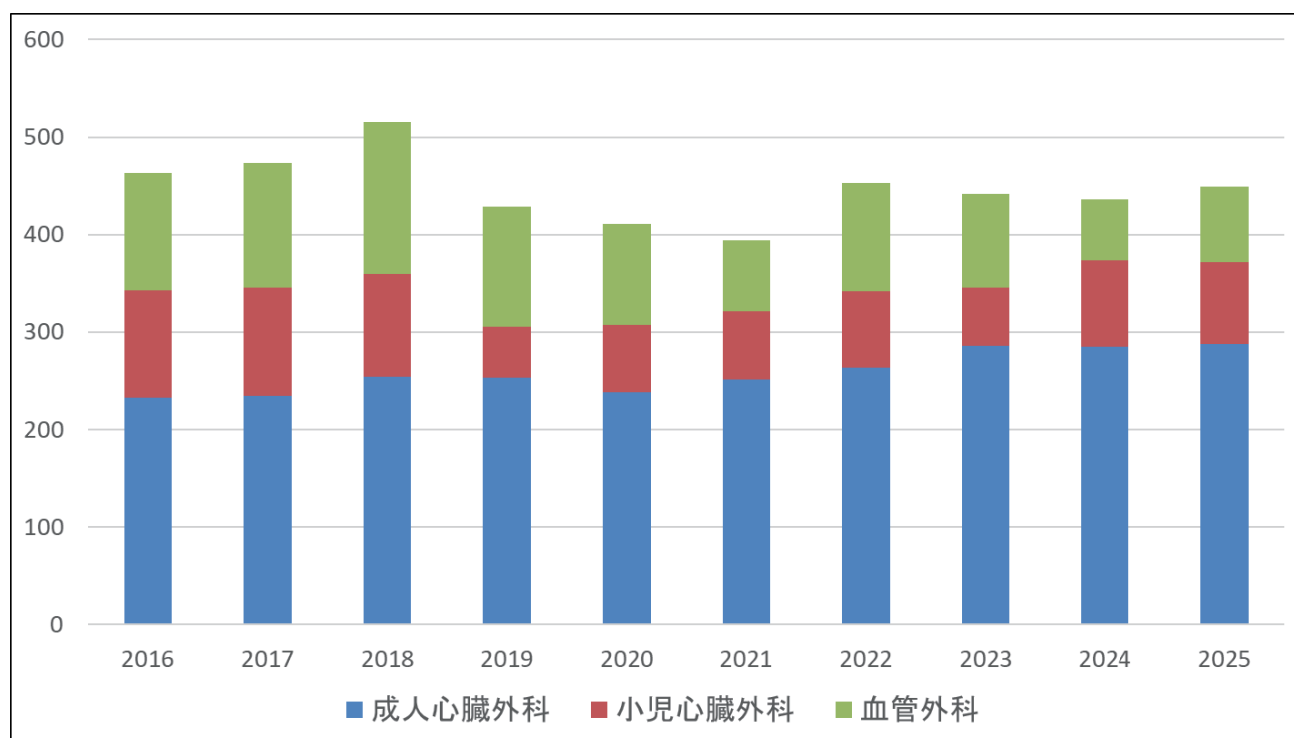
北里大学病院心臓血管外科 2025 年臨床成績

手術症例数 (2025/1/1 - 12/31)

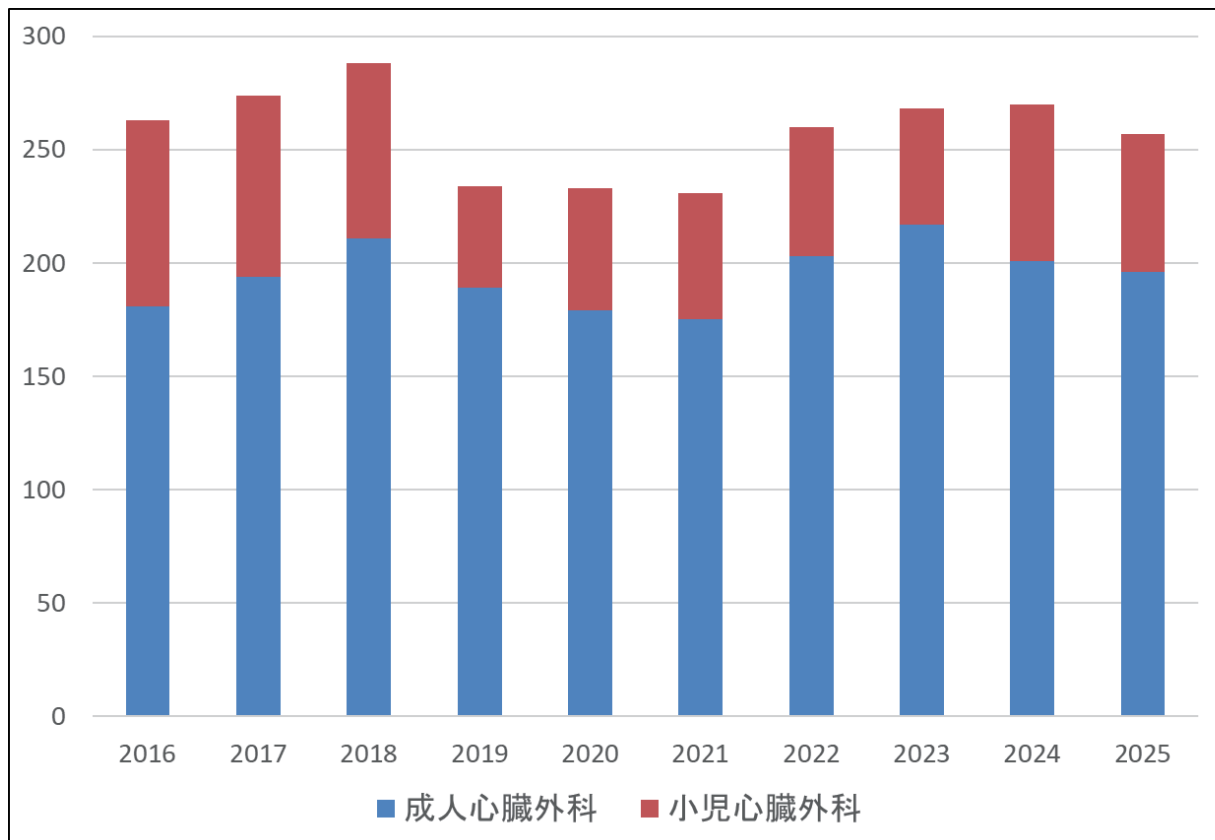
	成人	小児	血管	合計
開心術 (OPCAB含む)	196 (3)	61 (1)	—	257 (4)
心大血管手術 (TEVAR TAVI EVAR AAA含む)	288 (3)	84 (1)	77 (1)	449 (5)
専門医制度上 心臓血管外科手術 (シャント・カテーテル治療)	411 (3)	84 (1)	122 (1)	617 (5)

手術死亡 : 5 例 (括弧内)、1.1%

過去 10 年間の心大血管外科手術症例数の推移



過去 10 年間の人工心肺症例数の推移 (OPCAB 含む)



今年のまとめ

- ① 人工心肺症例数は 257 例で（前年 270 例）より若干減少した。成人開心術、小児開心術ともに若干減少したが、血管外科症例は増加した。結果的に心大血管手術および専門医制度上心臓血管外科手術症例数は微増した。
- ② 手術死亡は 5 例で、全体の死亡率は 1.1% で前年（1.7%）より改善した。開心術死亡率は 1.6% で前年（3.7%）より大きく改善した。
- ③ 昨年に掲げた 2025 年の目標：
 - 1) 人工心肺症例 280 例、心臓大血管手術 500 例、専門医制度心臓血管外科手術 700 例
 - 2) 全手術死亡率 1.0% 以下、開心術死亡率 2.0% 以下
 開心術死亡率 2.0% 以下の他はすべて未達であった。

来年の目標

- ① 人工心肺症例 270 例、心臓大血管手術 500 例、専門医制度上心臓血管外科手術 700 例
 - ② 全手術死亡率 1.0% 以下、開心術死亡率 2.0% 以下
- 以下に、各部門の 2025 年の業績を報告する。

北里大学病院 2025年手術実績（成人心臓チーム）

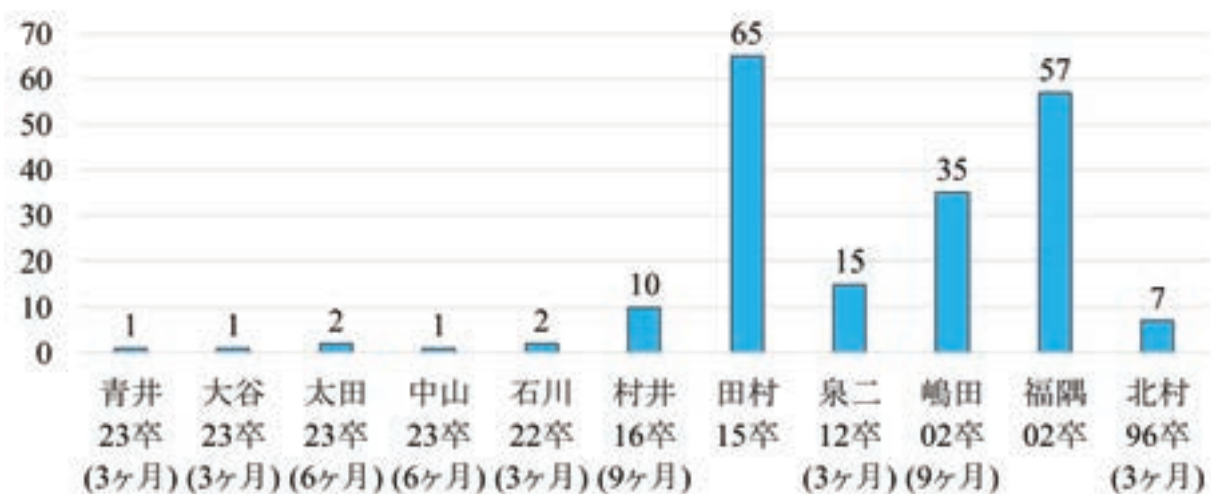
1. 手術数

心臓血管外科手術（専門医認定機構手術術式）	398 例
人工心肺＋OPCAB	196 例
非開心術（TAVI など）	202 例
ロボット支援下手術（ダヴィンチ）	20 例
ロボット非使用胸腔鏡下心臓手術（MICS）	11 例

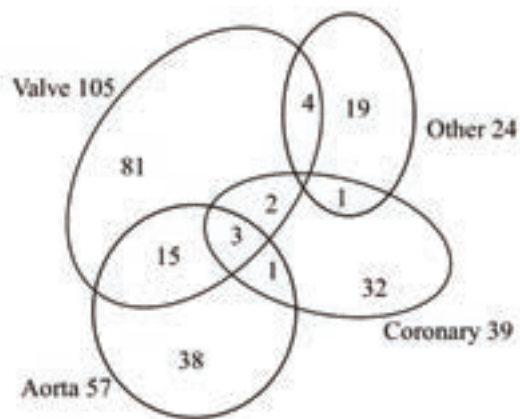
2. 人工心肺＋OPCAB 手術件数の推移



3. 術者（N = 196）



4. 内訳 (N = 196)



主たる術式

Coronary	35 (死亡 1)
Valve	86
Aorta	52 (死亡 1)
Other	23 (死亡 1)
合計	196 (死亡 3)

5. 術前リスクスコアと実際の死亡率

Japan SCORE (Range 0.3 – 53.2, Mean 6.4, Median 3.0)



緊急手術	41 例 (21%)
再手術 (心臓大動脈手術の既往)	16 例 (8%)

入院 / 30 日死亡

全症例	3 例 (1.5%)
定時症例	2 例 (1.3%)
緊急症例	1 例 (2.4%)

6. 冠動脈バイパス術 (CABG)

総数	39 例
単独 CABG	33 例
OPCAB + IMCAB	11 + 1 例 (36%)

例年同様 CABG は多くの症例が Trainee により執刀されました。ASD 閉鎖を同時施行した 1 例が、術後低心拍手量症候群のため ECPPELLA を要し、最終的に入院死亡となりました。

7. 弁膜症手術（TAVI を除く）

総数 105 例

大動脈弁 48 例：弁置換 34（弁輪拡大 4）、基部置換 13（自己弁温存 5）、PVL 閉鎖 1

僧帽弁 59 例：弁置換 8、弁形成 50、PVL 閉鎖 1

三尖弁 21 例：弁形成 21

複合弁手術 23 例

MICS（ロボット除く） 8 例

ロボット支援下 20 例

僧帽弁手術ではロボットや MICS を第一選択として行いました。弁形成術を術前に計画していた症例では全例形成を完遂できました。また狭小弁輪における大動脈弁置換術では弁輪拡大を積極的に取り入れており、4 例（12%）に行いました。

8. 大動脈手術（ステントグラフトを除く）

総数 57 例

緊急 17 例

基部置換術 13 例（自己弁温存 5 例）

上行置換術（上行のみ） 12 例

弓部置換術 25 例（オープンステント併用 14 例）

下行置換術 2 例（超低体温循環停止 1 例）

胸腹部置換術 4 例

仮性動脈瘤縫合 1 例

急性大動脈解離 17 例

上行置換術 3 例

弓部置換術＋オープンステント 14 例

Lifetime management の観点からも、将来の下行大動脈以遠に治療介入の懸念がある症例では弓部置換術を行っています。急性大動脈解離は 8 割以上の症例でオープンステント併用の弓部置換術を行いました。

EVAR 後の感染から大動脈十二指腸瘻を合併した 1 例に、胸腹部置換術、十二指腸切除術を行いました。縫合不全、瘻液瘻により入院死亡となりました。

9. その他の手術（人工心肺使用）

総数	24 例
心臓腫瘍	7 例
心腔内血栓	5 例
補助人工心臓植込	3 例
肺動脈血栓塞栓症	3 例
心房中隔欠損症	2 例
心室中隔穿孔	2 例
左室破裂	1 例
収縮性心膜炎	1 例
MICS	4 例

心室中隔穿孔のため他院より ECPPELLA で搬送され、緊急手術を行った 1 例を失いました。

10. その他の手術（人工心肺非使用）

TAVI	69 例
腋窩動脈 IMPELLA	7 例
胸腔鏡下左心耳切除術（+ 肺静脈隔離術）	2 例

11. 総括

200 例近い開心術を行いました。開心術件数は減少傾向となりました。必ずしも症例が減っている訳ではなく、定時手術枠の不足が大きいです。以前は早めの手術が望ましい患者さんに、待機期間が長くないように夜間や休日に手術を行っていましたが、医師の働き方改革が導入された 2024 年以降は制限しています。最近では待機期間が 3 ヶ月超となることもしばしばですが、患者さんの不利益に繋がる可能性もあり、定時手術枠の拡大は解決すべき課題と考えています。

また改めて振り返ると、特に今年はスタッフの入れ替わりが頻繁で、1 年間を通したのはわずか 2 名でした。特に長きに亘って当院の成人心臓手術を支えてきた北村先生が 4 月に異動されたのは大きなイベントでしたが、その後も何とか診療の質を落とさず、許容できる手術成績で 2025 年を終えることができました。北村先生が掲げていた「世界で治療可能な心臓大動脈疾患はすべて北里大学で治療可能である」という目標を、引き継いでいきます。

（福隅 正臣）

北里小児チーム・年間業績報告 (2025 年 1 - 12 月)

• 総手術数	97 例
• 心臓血管手術	84 例 (前年 89 例、5.6% 減)
手術死亡	1、1.2% (前年 3.4%)
CPB(+)	61 例 (手術死亡 1、1.6%)
CPB(-)	23 例 (手術死亡 0、5.0%)

総括

2025 年は、心臓血管手術症例数は 84 例で、前年 (89 例) より若干減少しました (5.6% 減、表 1)。人工心肺症例は 61 例で前年 (69 例) より 11.5% 減少したが、新生児開心術は 10 例 (前年: 7 例) で増加しました。非開心術の症例が例年並みとなりました。(前年: 20 例)。昨年は過去 5 年間で最大となりましたが、2025 年は若干減少となりました。かつての水準 (心臓手術: 100-110 例、開心術: 70-90 例、新生児開心術 10-15 例) にはまだ届かない状況です。

手術死亡率は、昨年、染色体異常を伴う 2 症例を含む 3 例を失い 3.5% となり、10 年ぶりに 3% を越える結果となりましたが、2025 年は 1.2% に下がりました。補助人工心臓 (EXCOR) を 2 例 (1 例は Heartmate 3) に行い、成人先天性心疾患は 7 例で例年と同様でした。

2025 年の小児班は、私と近藤良一先生の 2 人術者体制でした。4 月から新入会の小中英樹先生が 10 月までの 6 か月間、病棟医として働いてくれました。7 月に武井哲理先生が国立成育医療研究センターから赴任しました。10 月からは小中先生に代わって、群馬県立小児医療センターから松井謙太杉先生が異動となり、病棟医として働いてくれました。Attending surgeon である宮地教授、近藤診療講師を除く医師 (修練医) の執刀症例が、2025 年は小児班全体の 23 例 (27.3%) (2024 年 40%) で、昨年より減少しました (図 2)。この 1 年間は Attending surgeon 初年の近藤先生に症例を集中した結果で、来年以降は若手医師の執刀機会が増やす方針です。

昨年に掲げた 2025 年の目標:

- ①手術症例数は 100 例、人工心肺症例 70 例以上
- ②手術死亡率ゼロ

いずれも未達でした。

来年の目標

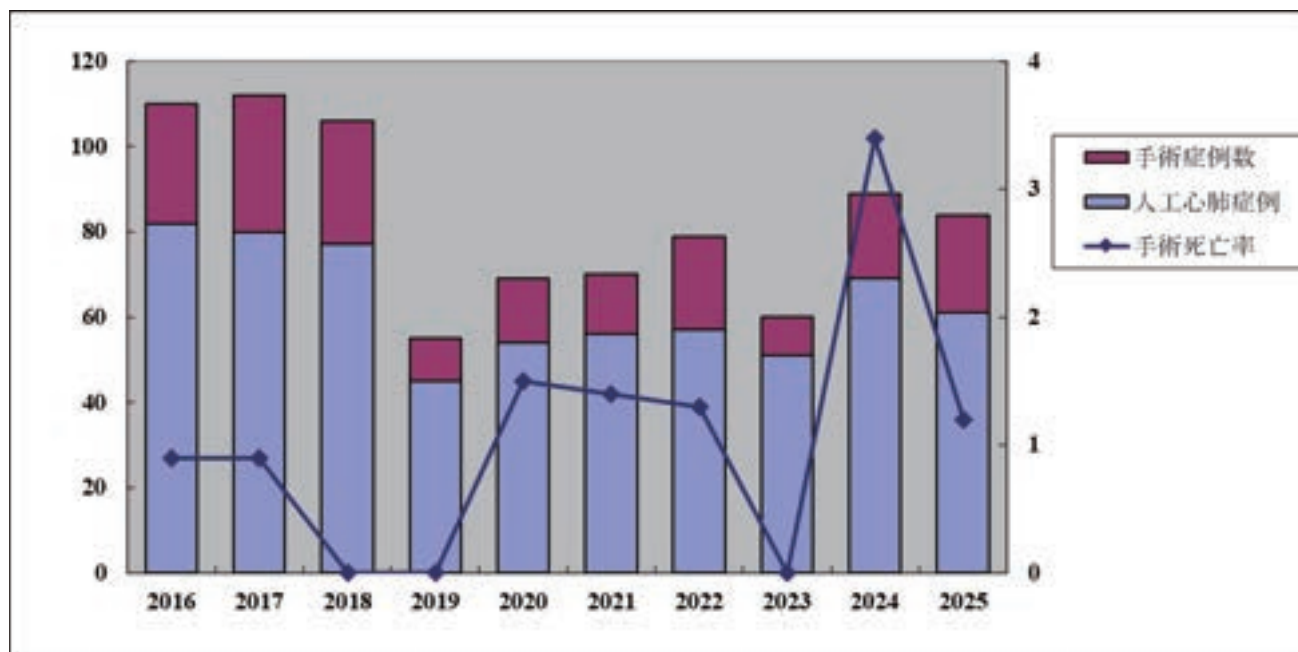
- ①手術症例数は 100 例、人工心肺症例 70 例以上。
- ②手術死亡率ゼロ。

(宮地 鑑)

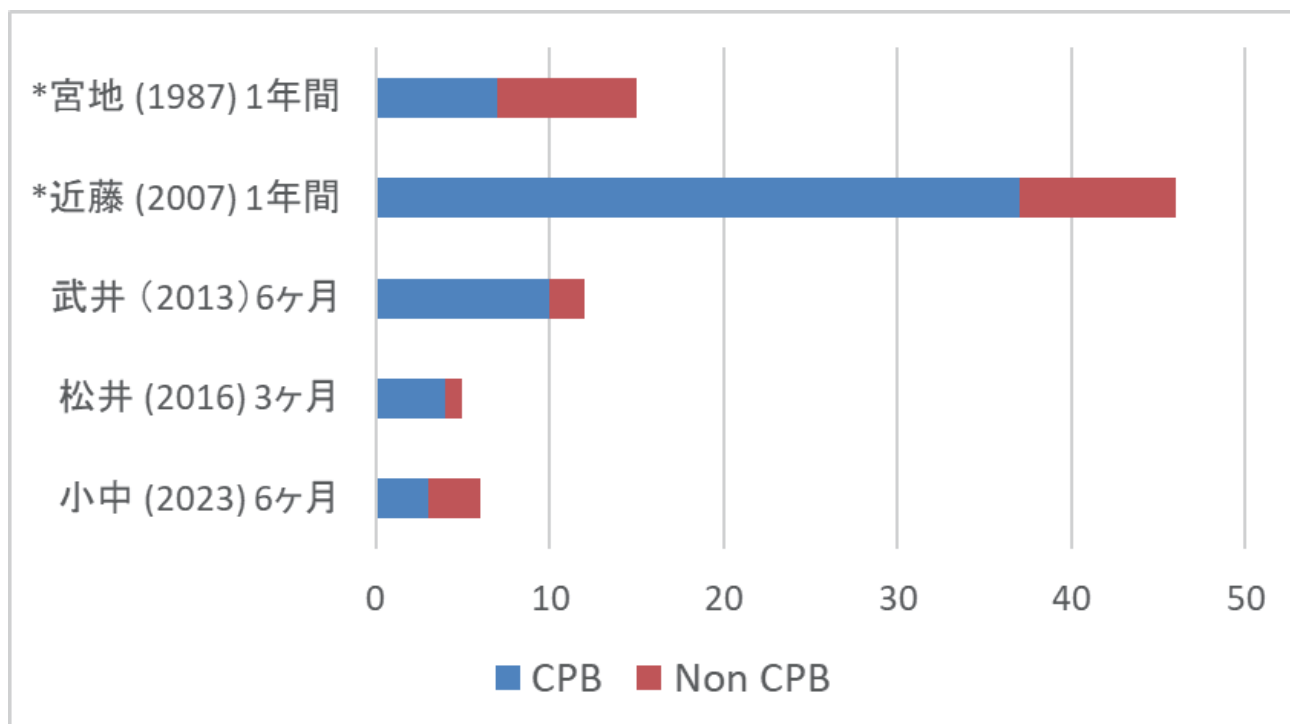
手術症例の内訳 (表 1)

	新生児	早期死亡	乳児	早期死亡	幼児学童	早期死亡	16歳以上	早期死亡	計	早期死亡
総数	17		38		23		8		97	1
心臓血管手術	17		30	1	19		7		84	1
人工心肺使用	10		29	1	15		7		61	1
心房中隔欠損			1		5				6	
心室中隔欠損			10				2		12	
TOF/DORV			4						4	
AVSD			1		1				2	
IE/Rastelli			1						1	
大動脈縮窄/離断・複合	4		1						5	
総動脈幹症			1						1	
完全大血管転位 (Jatene)	1								1	
総肺静脈還流異常	2								2	
房室弁置換/形成			2		2		1		5	
肺動脈形成・右室流出路形成			1		2		1		4	
両方向性Glenn手術+/-DKS			2						2	
Fontan型手術					1				1	
肺動脈弁置換+/-大動脈弁置換							2		2	
体肺短絡手術+/-肺動脈形成	2								2	
肺静脈狭窄解除			3						3	
Norwood-Rastelli Take down							1		1	
左室仮性瘤	1								1	
LVAD/CPS			2	1	4				6	1
人工心肺非使用	7		1		4				23	
血管輪			1						1	
VATS-PDA or 開胸PDA	2		2		1				5	
肺動脈絞扼術 (両側含)	4				1				5	
体肺短絡手術	1								1	
CPS離脱・その他			4		4		3		11	
その他			8		4		1		13	

小児心臓血管手術数の推移 (図 1)



術者別執刀数 (図 2)



* : Attendance

末梢血管外科チーム・年間業績報告（2025年1月～12月）

1. 手術総数（経皮的血管内治療、シャント含む）：276例（前年176例）

心臓血管外科手術総数（経皮的血管内治療、シャント含む）：257例（前年170例）

2. 手術症例、カテーテル治療・シャント関連症例の推移と内訳（心臓血管外科手術数）

【手術症例】

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
動脈										
腹部大動脈- 腸骨動脈瘤 (EVAR)	86 (74)	100 (93)	120 (108)	93 (85)	75 (66)	52 (45)	85 (76)	80 (73)	59 (50)	75 (61)
(OPEN) (瘤縫縮他含む)	(12)	(7)	(12)	(8)	(9)	(7)	(9)	(7)	(9)	(14)
閉塞性動脈硬化 症・慢性閉塞症	38	28	44	26	29	35	32	25	23	17
急性動脈閉塞症	21	19	22	20	11	18	12	9	5	8
内臓動脈疾患	0	2	1	0	1	1	1	0	0	0
末梢動脈瘤	2	2	5	2	5	5	5	9	2	8
その他	6	5	2	5	13	6	4	0	1	4
TEVAR	34	27	35	31	29	21	14	15	10	13
静脈										
下大静脈腸骨静脈	0	1	0	2	1	0	0	1	2	0
下肢静脈瘤	1	3	0	2	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
総数	188	187	229	181	165	138	153	139	102	125

【カテーテル治療・シャント関連症例】

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
動脈	78	71	84	97	69	78	90	86	36	72
静脈	0	0	9	1	5	2	5	6	4	3
シャント造設、他	24	12	21	33	51	55	39	24	23	42
シャントPTA、他	8	2	6	42	82	35	43	31	5	15
総数	110	85	120	173	207	170	177	147	68	132

緊急腹部腸骨動脈瘤症例（破裂・切迫破裂）の術式

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
OPEN 切迫破裂	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
OPEN 破裂	1	0	2	0	0	0	1	1	0	0
EVAR 切迫破裂	4	3	1	3	2	1	2	3	0	0
EVAR 破裂	6	10	15	9	7	6	10	5	3	5
総数	11	13	19	12	10	7	13	9	3	5

末梢動脈バイパス症例の術式（腹部腸骨動脈含む）

	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年	2024 年	2025 年
Ao-F Ax-F I-F	4	2	3	0	1	1	2	0	5	2
Ax-Ax	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0
F-F	2	1	5	0	0	2	4	0	1	0
F-P	18	11	21	5	8	18	9	3	3	3
AK	(13)	(5)	(10)	(5)	(8)	(14)	(6)	(0)	(2)	(1)
BK	(5)	(6)	(11)	(0)	(0)	(4)	(3)	(3)	(1)	(2)
distal	5	8	7	10	6	5	8	5	2	1
ATA-DPA	(1)	(1)	(0)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)	(0)	(0)
PTA	(2)	(5)	(6)	(4)	(5)	(2)	(7)	(3)	(2)	(1)
PeA	(2)	(2)	(1)	(4)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)
総数	29	22	36	15	17	26	23	8	11	6

術後 30 日死亡 1 例

症例	病名	手術	死亡日	死因
1	腹部大動脈瘤破裂	緊急 EVAR	POD 13	急性循環不全

3. 総括

2014 年の開院からハイブリッド手術室を使用し、ステントグラフト手術は 2015 年からデバイスを院内に常備し、2021 年からは止血デバイスの保険適応に伴い経皮穿刺で安全に低侵襲治療を行っております。ハイブリット手術室の使用は 10 年を超えているため、現在、新機種への更新を検討中があります。近年は腹部ステントグラフト手術時に分枝血管塞栓を行っております。万全の体制を整えて臨みます。閉塞性動脈疾患に対しては、カテーテル血管形成術を行う機会が増加しておりますが、必要に応じて動脈バイパス手術を行っております。今後も手術成績の向上を目指します。

(美島利昭)

学術業績

原著

1. Kanai A, Ara M, Saito R, Mishima T, Takahashi Y : Subcutaneous injection of lidocaine around ischemic ankle provides safe and effective foot analgesia in patients with critical limb ischemia.. *Vascular* 2025 Feb;33(1):73-79.
2. Ogura K, Hamazaki N, Kamiya K, Kitamura T, Yamashita M, Nozaki K, Ichikawa T, Kobayashi S, Suzuki Y, Maekawa E, Koike T, Yamaoka-Tojo M, Arai M, Matsunaga A, Ako J, Miyaji K: A comprehensive assessment tool of acute-phase rehabilitation is associated with clinical outcomes in patients after cardiovascular surgery. *Heart Vessels*. 2025 Mar;40(3):258-266.
3. Horie S, Shikata F, Oka N, Okamura T, Matsunaga Y, Matsui K, Hataoka T, Kitamura T, Fukuzumi M, Kondo R, Hirata Y, Miyaji K.: Liver fibrosis marker is a potential predictor of the development of Fontan-associated liver diseases † . *Eur J Cardiothorac Surg*. 2025 Mar 28;67(4):ezaf100.
4. Honda T, Takanashi M, Kitagawa A, Kimura S, Shikata F, Hirata Y, Miyaji K, Ishikura K: Quantitative Evaluation of Right Ventricular Workload Based on the Stroke Work Index in Patients after Right Ventricular Outflow Tract Reconstruction. *Pediatr Cardiol*. 2025 Apr;46(4):804-812.
5. Araki H, Kitamura T, Torii S, Mishima T, Fukuzumi M, Miyaji K : Aortic wall degeneration late after ascending aortic wrapping. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2025 Jun;73(6):450-452
6. Araki H, Kitamura T, Torii S, Mishima T, Fukuzumi M, Miyaji K : Aortic wall degeneration late after ascending aortic wrapping. *Gen Thorac Cardiovasc Surg*. 2025 Jun;73(6):450-452.
7. Matsui K, Oka N, Shikata F, Kohira S, Kitamura T, Mishima T, Fukuzumi M, Kondo R, Motoji Y, Tamura Y, Ishikawa S, Fujii K, Fujii M, Miyaji K : Prediction of acute lung injury/acute respiratory distress syndrome after cardiopulmonary bypass in infants by monitoring femoral oxygen saturation. *J Artif Organs*. 2025 Dec;28(4):571-581.

症例、臨床治験報告

1. Akinaga S, Maruhashi T, Oi M, Mishima T, Miyaji K, Asari Y: Blunt Thoracic and Abdominal Aortic Injury in Multiple Trauma: A Case Report. *Vasc Endovascular Surg*. 2025 May;59(4):416-419.
2. Kitamura T, Motoji Y, Fukuzumi M, Mishima T, Kondo R, Tamura Y, Ishikawa S, Miyaji K: Y Incision Plus Anterior Extended Aortoplasty for Aortic Stenosis With Small Annulus and Sinus of Valsalva: The "Y and I" Incision Technique. *Ann Thorac Surg Short Rep*. 2025 May 12;3(4):1074-1076.
3. Asakura A, Honda T, Takanashi M, Mineo E, Hirota E, Yokosuka T, Shikata F, Hirata Y, Miyaji K, Ishikura K: Pericardial Decompression Syndrome: Insight Into Pathophysiology Based on Echocardiographic Findings in a 10-Year-Old Boy. *JACC Case Rep*. 2025 Jun 4;30(13):103539.
4. Murai Y, Nakashima K, Tamura Y, Miyaji K : Stent Graft Intervention in a Lumbar Artery Pseudoaneurysm Improved Cauda Equina Syndrome: A Case Report of Combined Embolization Strategy. *Vasc Endovascular Surg*. 2025 Jul;59(5):538-542.
5. Onishi Y, Miyamoto T, Miyaji K: Surgical Management of Ebstein's Anomaly in Elderly Patients: A

Report of Two Cases. Cureus. 2025 Jul 28;17(7):e88877.

6. Tamura Y, Kitamura T, Fukuzumi M, Motoji Y, Miyaji K: Left Atrial Epithelioid Angiosarcoma Presenting As Recurrent Stroke: A Case Report. Cureus. 2025 Nov 9;17(11):e96455.

総説、講座

1. 宮地 鑑：1枚のシェーマ Fontan 手術後縦隔炎治療後に発症した上行大動脈感染性仮性瘤．胸部外科 78 巻 7 号 Page514.2025.

学会発表

1. 本田 崇, 平田 陽一郎, 渡邊 瑠美, 高梨 学, 小柳 喬幸, 山本 真由, 江波戸 孝輔, 北川 篤史, 橘田 一輝, 木村 純人, 内藤 茂幸, 大塚 香, 柳泉 愛, ウッドハムス 玲子, 宮地 鑑, 石倉 健司: 難治性 PLE をあきらめない 成人期を迎える当院の 2 例の経験から. 第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会、2025 年、大阪 (日本成人先天性心疾患学会雑誌 14 巻 1 号 Page91)
2. 藤田 鉄平, 松浦 寛祐, 加古川 美保, 郡山 恵子, 小板橋 俊美, 野口 真希, 宮本 竜也, 左右田 哲, 早坂 由美子, 浦野 久美子, 鹿田 文昭, 宮地 鑑, 阿古 潤哉: 成人先天性心疾患における周術期の療養・就労両立支援指導の試みと見えてきた課題. 第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会、2025 年、大阪 (日本成人先天性心疾患学会雑誌 14 巻 1 号 Page 173) .
3. 北川 篤史, 平田 陽一郎, 渡邊 瑠美, 高梨 学, 本田 崇, 宮地 鑑, 石倉 健司: 小児慢性特定疾病から指定難病への移行期医療費助成の問題点と課題. 第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会、2025 年、大阪 (日本成人先天性心疾患学会雑誌 14 巻 1 号 Page 176) .
4. 松浦 寛祥, 藤田 鉄平, 加古川 美保, 郡山 恵子, 小板橋 俊美, 鹿田 文昭, 宮地 鑑, 阿古 潤哉: 成人期に診断された無症候性 Primary Pulmonary Vein Stenosis の一例. 第 26 回日本成人先天性心疾患学会総会・学術集会、2025 年、大阪 (日本成人先天性心疾患学会雑誌 14 巻 1 号 Page 236)
5. Horie S, Shikata F, Oka N, Okamura T, Matsunaga Y, Matsui K, Tomoyasu T, Kaneko M, Hataoka T, Kitamura T, Hirata Y, Miyaji K: The risk factors for protein-losing enteropathy after total cavopulmonary connection. The 61th Annual Meeting of Society of Thoracic Surgeons (STS). 2025. Los Angeles.
6. Hataoka T, Shikata F, Okamura T, Oka N, Tomoyasu T, Kaneko M, Matsunaga Y, Matsui K, Horie S, Miyaji K: Impact of systemic pulmonary shunt for tetralogy of Fallot on pulmonary valve annulus growth and long-term pulmonary valve function. The 61th Annual Meeting of Society of Thoracic Surgeons (STS). 2025. Los Angeles.
7. Shikata F, Oka N, Okamura T, Kondo R, Matsui K, Hataoka T, Horie S, Kitamura T, Miyaji K: Optimal circumference size of pulmonary artery band in functional single ventricles with unrestricted pulmonary blood flow. The 61th Annual Meeting of Society of Thoracic Surgeons (STS). 2025. Los Angeles.
8. 石川 沙弥, 北村 律, 鳥居 晋三, 美島 利昭, 福隅 正臣, 近藤 良一, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 杉本 明生, 相磯 光紀, 宮地 鑑: 大動脈インターベンション後の下行・胸腹部大動脈手術の成績. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page

SY2-4)

9. 杉本 明生, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 福隅 正臣, 近藤 良一, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 相磯 光紀, 石川 沙弥, 宮地 鑑: 遮断下 CABG をルーチンとする施設での複合 CABG 手術の成績. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page MO2-8)
10. 田村 佳美, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 福隅 正臣, 近藤 良一, 泉二 佑輔, 杉本 明生, 相磯 光紀, 石川 沙弥, 宮地 鑑: 心不全・脳梗塞を有する感染性心内膜炎の治療成績. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page O2-2)
11. 泉二 佑輔, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 福隅 正臣, 近藤 良一, 田村 佳美, 杉本 明生, 石川 沙弥, 相磯 光紀, 宮地 鑑: 弁輪拡大後の大動脈基部の形態変化の検討. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page MO15-3)
12. 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 畑岡 努, 堀江 咲良, 近藤 良一, 宮地 鑑: 肺動脈血流制限がない機能的単心室に対する肺動脈絞扼術の至適周径サイズ. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page O27-2)
13. 堀江 咲良, 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 畑岡 努, 石川 沙弥, 近藤 良一, 宮地 鑑: Fontan 手術時体重が遠隔期合併症および予後に与える影響. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page O27-6)
14. 芳村 直樹, 泉谷 裕則, 小田 晋一郎, 落合 由恵, 笠原 真悟, 小谷 泰弘, 齋木 佳克, 白石 修一, 高木 靖, 中野 俊秀, 平田 康隆, 平松 祐司, 松久 弘典, 宮地 鑑, 鈴木 孝明, 坂本 喜三郎: 小児心臓外科医の立場から. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page SP8-3)
15. 松井 謙太, 岡 徳彦, 鹿田 文昭, 鳥井 晋三, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 友保 貴博, 金子 政弘, 宮地 鑑: 乳児期開心術後急性肺障害に対する大腿部局所酸素飽和度モニタリングの重要性. 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page O37-4)
16. 福隅 正臣, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 近藤 良一, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 杉本 明生, 相磯 光紀, 石川 沙弥, 宮地 鑑: 植込型補助人工心臓感染に対し大網充填は有効か? 第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会、2025 年、下関 (日本心臓血管外科学会学術総会抄録集 55 回 Page MO45-1)
17. 小倉 健, 濱崎 伸明, 神谷 健太郎, 小林 主献, 澁谷 真香, 添田 修平, 小池 朋孝, 前川 恵美, 北村 律, 宮地 鑑: 心臓血管手術後早期の歩行が制限された条件下における離床レベルと臨床的アウトカムとの関連. 第 52 回日本集中治療医学会学術集会、2025 年、福岡 (日本集中治療医学会雑誌 32 巻 Suppl.2 Page S494)
18. 石川 沙弥, 北村 律, 鳥井 晋三, 美島 利昭, 福隅 正臣, 近藤 良一, 泉二 佑輔, 田村 佳美, 杉本 明生, 相磯 光紀, 宮地 鑑: 上行大動脈置換後の Valve-in-Valve TAVI migration に対する緊急手術の 1 例. 第 197 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会. 2025 年、東京 (日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 197 回 Page30)

19. 平本 裕礎、近藤 良一、北村 律、鳥井 晋三、福隅 正臣、泉二 佑輔、田村 佳美、杉本 明生、石川 沙弥、宮地 鑑：無脾症、完全大血管転位、肺動脈閉鎖、Pulmonary coarctation, 内臓逆位に対する段階的 Fontan 手術 . 第 197 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2025 年、東京（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 197 回 Page36）
20. 朝倉 杏紗圭、本田 崇、渡邊 瑠美、田村 佑平、江波戸 孝輔、高梨 学、土岐 平、峰尾 恵梨、廣田 恵璃、横須賀 とも子、鹿田 文昭、平田 陽一郎、宮地 鑑、石倉 健司：縦隔腫瘍に伴う心タンポナーデの解除後に右心不全を生じた心膜減圧症候群の 10 歳男児例 . 第 128 回日本小児科学会学術集会 .2025 年、名古屋（日本小児科学会雑誌 129 巻 2 号 Page177）
21. 谷口 綾香、本田 崇、高梨 学、北川 篤史、木村 純人、平田 陽一郎、金田 咲良、鹿田 文昭、宮地 鑑、石倉 健司：失神発作を繰り返す LQTS2 に対しペースメーカー植え込みが奏功した 6 歳男児 . 第 128 回日本小児科学会学術集会 .2025 年、名古屋（日本小児科学会雑誌 129 巻 2 号 Page306）
22. 泉二 佑輔、北村 律、鳥井 晋三、美島 利昭、福隅 正臣、近藤 良一、田村 佳美、杉本 明生、石川 沙弥、相磯 光紀、宮地 鑑：日本人におけるライフタイムマネジメントを考慮した大動脈弁治療戦略 Y-incision 弁輪拡大後における Valve-in-valve TAVI の検討 . 第 125 回日本外科学会定期学術集会 .2025 年、仙台（日本外科学会定期学術集会抄録集 125 回 Page PD-06-5）
23. Horie S, Shiikata F, Oka N, Okamura T, Kondo R, Matsunaga Y, Kaneko M, Matsui K, Hataoka T, Miyaji K, Ono M: Outcomes of Main Pulmonary Artery Banding in Infants Weighing Less Than 2 kg: A Multicenter Retrospective Study. The 33th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS).2025.singapore.
24. Ishikawa S, Kitamura T, Torii S, Mishima T, Fukuzumi M., Kondo R, Motoji Y, Tamura Y, Sugimoto A, Miyaji K: Outcomes after Mitral Valve Repair using Glutaraldehyde-fixed Autologous Pericardium. The 33th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS).2025.singapore.
25. 泉二 佑輔、美島 利昭、北村 律、福隅 正臣、田村 佳美、宮地 鑑：大腿膝窩動脈狭窄病変に対して XenoSure ウシ心膜パッチを用いて動脈形成術を行った一例 . 第 53 回 日本血管外科学会学術総会 、2025 年、福岡（日血外会誌 34 巻 suppl Page 238）
26. 森保 優、近藤 良一、北村 律、鳥井 晋三、福隅 正臣、泉二 佑輔、田村 佳美、杉本 明生、石川 沙弥、宮地 鑑：僧帽弁閉鎖不全を伴う ALCAPA に対して左冠動脈動脈移植（Spiral-cuff 法）と僧帽弁形成術を施行した 1 例 . 第 198 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2025 年、東京（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 198 回 Page20）
27. 太田 衣美、田村 佳美、福隅 正臣、美島 利昭、嶋田 正吾、近藤 良一、村井 佑太、小中 英樹、中山 航、宮地 鑑：肺塞栓を伴う右房腫瘍の 1 例 . 第 198 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2025 年、東京（日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 198 回 Page41）
28. 宮地 鑑：ここまで来た！ 小児心臓外科医育成プログラムと地域拠点化プロジェクト 地域グループミーティング 近畿ブロックにおける現況報告 . 第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 .2025 年、三重（日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 61 回 Page III-CSY2-5）
29. 瀧間 浄宏、平野 暁教、中野 俊秀、鈴木 孝明、坂本 喜三郎、芳村 直樹、平松 祐司、笠原 真吾、宮地 鑑、落合 由恵、日本小児循環器学会次世代育成委員会地域拠点化小委員会：ここまで来た！ 小児

心臓外科医育成プログラムと地域拠点化プロジェクト 地域グループミーティング 全国における現況報告 . 第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 .2025 年、三重 (日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 61 回 Page III-CSY2-4)

30. 畑岡 努, 鹿田 文昭, 岡村 達, 岡 徳彦, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 金田 咲良, 宮地 鑑: ファロー四徴症に対する段階的修復術後の遠隔期成績 . 第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 .2025 年、三重 (日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 61 回 Page II-OR23-06)
31. 堀江 咲良, 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 金子 政弘, 近藤 良一, 辻 重人, 森山 禎之, 畑岡 努, 宮地 鑑, 小野 稔: 2kg 未満の低体重児に対する肺動脈絞扼術の転帰 . 第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 .2025 年、三重 (日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 61 回 Page II-OR18-01)
32. 笠松 祐介, 平田 陽一郎, 羽田 瑠美, 高梨 学, 本田 崇, 木村 純人, 田村 佑平, 峰尾 恵梨, 近藤 良一, 宮地 鑑, 石倉 健司: 胎児診断されなかった Berry 症候群の 2 症例 . 第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 .2025 年、三重 (日本小児循環器学会総会・学術集会抄録集 61 回 Page I-P02-3-09)
33. 宮地 鑑: 先天性心疾患手術の 30 年 . 日本心臓血管麻酔学会 第 30 回学術大会 .2025 年、横浜 (Cardiovascular Anesthesia 29 巻 Suppl. Page99)
34. 福隅 正臣, 田村 佳美, 美島 利昭, 嶋田 正吾, 近藤 良一, 村井 佑太, 太田 衣美, 中山 航, 小中 英樹, 宮地 鑑: Trainee の教育を配慮した冠動脈バイパス術の成績 . 第 29 回日本冠動脈外科学会学術大会、2025 年、宇都宮 (日本冠動脈外科学会雑誌 Suppl. Page117)
35. 嶋田 正吾, 河野 豪, 石井 大介, 金子 寛行, 星野 康弘, 李 洋伸, 小前 兵衛, 安藤 政彦, 山内 治雄, 小野 稔: IgG4 関連冠動脈瘤 3 症例の検討 . 第 29 回日本冠動脈外科学会学術大会、2025 年、宇都宮 (日本冠動脈外科学会雑誌 Suppl. Page128)
36. 田村 佳美, 福隅 正臣, 美島 利昭, 嶋田 正吾, 村井 佑太, 太田 依美, 中山 航, 宮地 鑑: 人工血管感染に対する治療経験 . 一般社団法人 日本胸部外科学会 第 2 回 JATS-NEXT Annual Conference.2025 年、大阪 (JATS-NEXT Annual Conference 雑誌 Suppl. Page11)
37. 村井 佑太, 福隅 正臣, 美島 利昭, 嶋田 正吾, 田村 佳美, 太田 衣美, 中山 航, 宮地 鑑: 北里大学医学部心臓血管外科におけるタスクシフト, 働き方改革への取り組み . 一般社団法人 日本胸部外科学会 第 2 回 JATS-NEXT Annual Conference. 2025 年、大阪 (JATS-NEXT Annual Conference 雑誌 Suppl. Page19)
38. Kitamura T, Fukuzumi M, Mishima T, Shimada S, Kondo R, Tamura Y, Murai Y, Ota E, Miyaji K : Samurai cannulation for acute Stanford type A aortic dissection : Single-centre 11year experience with 190 patients. The39th Annual Meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS).2025, Copenhagen, Denmark .
39. Hataoka T, Shikata F, Okamura T, Oka N, Tomoyasu T, Kaneko M, Kondo R, Matsunaga Y, Matsui K, Horie S, Miyaji K: Impact of Fenestration Patency on Long-term Fontan Outcomes. The39th Annual Meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS).2025, Copenhagen, Denmark .
40. Motoji Y, Kitamura T, Miura Y, Fukuzumi M, Okada H., Naito N , Mastushita H., Tamura T.,Miyaji K : Early Changes in Crescent Thickness in Type A Intramural Haematoma: A Multicentre

Retrospective Study. The 39th Annual Meeting of European Association for Cardio-Thoracic Surgery (EACTS). 2025, Copenhagen, Denmark .

41. 金子 政弘, 岡 徳彦, 岡村 達, 鹿田 文昭, 友保 貴博, 松永 慶廉, 近藤 良一, 松井 謙太, 畑岡 努, 森山 航, 堀江 咲良, 小中 英樹, 宮地 鑑: Juxtaductal pulmonary coarctation を有する肺動脈閉鎖症例に対する肺動脈形成術の検討. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
42. 鹿田 文昭, 近藤 良一, 岡 徳彦, 岡村 達, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 畑岡 努, 堀江 咲良, 小野 稔, 宮地 鑑: high-flow regional cerebral perfusion を用いた大動脈弓再建の術後腎機能と乳酸値への影響. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
43. 近藤 良一, 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 友保 貴博, 金子 政弘, 松永 慶廉, 松井 謙太, 畑岡 努, 堀江 咲良, 小中 英樹, 美島 利昭, 福隅 正臣, 嶋田 正吾, 田村 佳美, 村井 佑太, 中山 航, 太田 衣美, 宮地 鑑: 高流量脳分離循環を用いた大動脈弓再建術後の急性期腎障害発症の危険因子. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
44. 泉二 佑輔, 北村 律, 宝来 哲也, 三浦 友二郎, 福隅 正臣, 岡田 拓, 内藤 敬嗣, 松下 弘, 田村 智紀, 宮地 鑑: Type A intramural hematoma における病勢進展予測因子の検討: 多施設後方視的研究. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
45. 小中 英樹, 近藤 良一, 福隅 正臣, 嶋田 正吾, 美島 利昭, 田村 佳美, 村井 佑太, 太田 衣美, 中山 航, 宮地 鑑: 小児僧帽弁閉鎖不全症に対する自己心膜による後尖延長の有効性. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
46. 堀江 咲良, 鹿田 文昭, 岡 徳彦, 岡村 達, 金子 政弘, 近藤 良一, 松永 慶廉, 辻 重人, 松井 謙太, 畑岡 努, 酒匂 祐里, 宮地 鑑, 小野 稔: Fenestration 開存が Fontan 術後長期遠隔成績に与える影響. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
47. 田村 佳美, 北村 律, 美島 利昭, 福隅 正臣, 嶋田 正吾, 近藤 良一, 村井 佑太, 太田 衣美, 小中 英樹, 中山 航, 宮地 鑑: 僧帽弁位活動期感染性心内膜炎の治療成績. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
48. 平本 裕礎, 近藤 良一, 美島 利昭, 福隅 正臣, 嶋田 正吾, 武井 哲理, 田村 佳美, 村井 佑太, 太田 衣美, 中山 航, 小中 英樹, 宮地 鑑: 自己心膜による弁尖延長で形成した左室緻密化障害に伴う僧帽弁閉鎖不全の一例. 第 78 回日本胸部外科学会定期学術集会 .2025 年、大阪 (日本胸部外科学会雑誌: suppl)
49. 大谷 篤司, 田村 佳美, 福隅 正臣, 美島 利昭, 嶋田 正吾, 近藤 良一, 武井 哲理, 村井 佑太, 青井 夏帆, 宮地 鑑: Castleman 病に心臓悪性リンパ腫を合併した一例. 第 199 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2025 年、埼玉 (日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 199 回 Page14)
50. 小中 英樹, 近藤 良一, 美島 利昭, 福隅 正臣, 嶋田 正吾, 武井 哲理, 田村 佳美, 村井 佑太, 太田 衣美, 中山 航, 宮地 鑑: 先天性心室自由壁部分欠損による左心室破裂の一例. 第 199 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会 .2025 年、埼玉 (日本胸部外科学会関東甲信越地方会要旨集 199 回 Page37)

研究費の取得状況：

〈研究代表者〉

1. 田中 佑貴：科学研究費助成事業（若手研究）
非侵襲的赤外線分光法を用いた局所酸素飽和度測定による心臓血管外科手術リスク予測法
455 万円（直接経費 350 万円 間接経費 105 万円）、2023 年度～ 2027 年度
2. 泉二 佑輔：科学研究費助成事業（若手研究）
川崎病血管炎による冠動脈の早期動脈硬化リスクの解明とスタチンの治療効果の検証
429 万円（直接経費：330 万円、間接経費：99 万円）、2024 年度～ 2026 年度

北里大学医学部心臓血管外科学 主任教授 宮地 鑑

近況報告

法人設立 5 周年記念講演会・祝賀会を来賓として自治医科大学学長永井良三先生と日本胸部外科学会前理事長澤芳樹先生、日本胸部外科学会副理事長志水秀行先生、日本心臓血管外科学会理事長小野稔先生にお越しいただき、The Okura Tokyo にて盛大に行われ、やっと肩の荷が降ろせました。コロナ禍で設立記念祝賀会が開催できなかったため、関連施設院長先生と多くの著明な心臓血管外科医の先生方に、法人の理念と今後の方向性についてご披露できたことは、誠に喜ばしいことでした。

2025 年も昨年につき、医局時代の恒例行事であった 8 月の屋形舟、12 月の忘年会を行いました。国際学会も 2025 年は 3 回、参加しました。1 月の Society of Thoracic Surgeons (STS, Los Angeles) は、鹿田先生、畑岡先生、堀江先生と参加して、アイオワ大学小児心臓外科の中村祐希先生と南カリフォルニア大学大学院に留学中の愚息と会食しました（写真 1）。5 月の Asian Society of Cardiovascular and Thoracic Surgery (ASCVTS, Singapore) に、岡先生と石川沙弥先生と中山航先生と青井夏帆先生の 5 人で参加しました。10 月の European Association for Cardiovascular and Thoracic Surgery (EACTS, Copenhagen) は、北村先生、泉二佑輔先生、畑岡努先生、太田衣美先生の 5 人で参加しました。2025 年は、私を含め総計でのべ 14 人が国際学会に参加しました。演題数も 7 演題も採択され、過去最高の年となりました。ただ、円安と燃料費の高騰により国際学会参加費（発表者と新入会員）が法人財政に大きな負担となった 1 年でした。



写真 1. 左から鹿田先生、中村先生、息子、私、畑岡先生、堀江先生

約 22 年前に自宅を新築した際に、ワインセラーを購入しましたが、2024 年の春ごろからセラーの温度管理が不調で、庫内の温度が十分に下がらない状況が続いていました。6 月 30 日月曜日に仕事を終えて、愛用車の GLE400 は車検のため、代車の A180（写真 2 の奥の車）で 21 時頃に帰宅しました。車庫につながる地下の玄関から帰宅しましたが、ドアを開けた瞬間に異臭がしました。地下室にあるワインセラー周辺の臭いが強いので開けてみました。開けた瞬間に刺激臭が顔面を襲い、一瞬、意識を失いそうになりました。マズイと思い、直ちにセラーの扉を閉じました。とりあえずシャ

ワーを浴びて、着替えて落ち着いたところで、再度、セラーを開けて中のワイン 10 本くらいを救出しました。不在だった妻が「ワインセラー・異臭」で検索すると、古い型式のワインセラーではアンモニアが冷却剤として使用しており、万が一暴露した場合は有毒ガスのため、消防署に連絡するように、とあるとの事でした。私はハイボールを飲んでくつろいでいましたが、ワインセラーの処理のこともあるので、119 番に電話しました。特に健康には問題ないが、ワインセラーからアンモニアが漏れているかもしれないと通報しました。5 分くらいで、消防車と救急車のサイレンがけたたましく鳴り響き、自宅前で停車したようで、インターホンがなりました。玄関を開けて対応すると、有無を言わずに消防士さんと救急救命士さんたちに部屋着のままですそのまま外へ連行され、救急車の中に連れ込まれました。診察されたのち（医師であることを伝え、何とか搬送を免れました）、これまでの状況を消防と警察（なぜか高輪署から数人来てました）に何度も説明させられました。防護服・防毒マスクに身を固めた消防士 3 名が決死隊のように地下室に突入して、室内のアンモニア濃度を測定した結果、アンモニア濃度が高く立ち入り禁止となりました。屋外で待機となり、集まってきた近所の方の前で部屋着のまま立っているのはとても恥ずかしかったです。屋内の 1 階、2 階、3 階までの全ての窓を開放して、扇風機で換気となり、アンモニア濃度が下がるまで、1 時間くらい外で待ちました。その間に決死隊の 3 人がワインセラーを大きなビニールシートで完全密封して屋外に搬出してくれました。アンモニア濃度が下がったので、家に入ってもいいとの許可が出て、仕事で帰宅していなかった娘に連絡しました。「ワインセラーは危険物なので、車庫の外に置き、ご自身で専門業者に依頼して処分してください」と言い残して、消防士さんたちは撤収していきました。近隣の皆様、本当にお騒がせして申し訳ありませんでした。翌々日、件のワインセラーは業者に引き取ってもらい（かなりぼられました）、電気モーター式のワインセラーを購入しました。現在では、安全性の問題からアンモニア式は販売されていないようですので、ご安心ください。



写真 2. 車庫前のフル装備の消防士さんたち、消防車 3 台と救急車 1 台、来ました

健康面では、相変わらず週 1 回、必ずジムに行き約 90 分、パーソナルトレーナーに筋トレとストレッチを受け、自宅で有酸素運動（エアロバイク）も週 2 回程度続けております。筋肉量や体脂肪率も変化なく、体重は何とか 72kg 前後を維持しております。有酸素運動の負荷が少しくつくなってきた印象がありますが、筋トレはこの 7 年間ほぼ、同じ内容を問題なくこなしております。加齢を考えると、維持することが進歩だと考えて、日々努力しております。

北里大学医学部心臓血管外科 診療准教授 美島 利昭

ありがとうございました

ミラノ・コルティナ冬季オリンピック、テレビで見ました。中でも日本は、冬季大会史上最多の24個（金5、銀7、銅12）のメダルラッシュとなり、トップアスリート達の素晴らしい精神力、技術、体力に刺激をもらいました。

でも、それ以上の感動をもらいました。

2026年3月2日から9日に、第68回東日本医科学生総合体育大会スキー競技大会を開催しました。今回のスキー競技大会は、北里大学が主幹を担当し、アルペン競技を菅平高原スキー場で、クロスカントリー競技は峰の原高原スキー場で行いました。非常に大規模なスキー場で、管理され安定したゲレンデコンディションのもと、地元の関係者の皆様のご理解とご協力をいただき大会を行わせていただき大変ありがたく思っております。大会運営は当学3年生の主将を中心としたスキー部員で行いましたが、スキー部OB/OGの皆様にも現地参加を含めてご協力をいただきました。

勝負ですので勝利の喜びだけでなく敗北の悔しさを感じることもあるでしょう。しかし勝敗だけでなくスポーツを通じて体力向上、協調性、向上心など多くのものを得ていただき仲間と過ごす時間を大切に過ごしてもらいたい、なんて型通りのことを思っていたのですが、想像以上の感動をもらいました。

特にアルペン競技、女子大回転では、なんと当学生が優勝しました。そのほかにも素晴らしい結果です。以下が競技別の当学生の順位です。すごい！

女子大回転 1 6 39 70 (位) (写真の1位と6位が当学生です)

男子大回転 7 13 18 21 62 (位)

女子回転 2 4 30 85 92 103 110 130 134 139 143 146 (位)

男子回転 12 17 23 65 103 169 170 178 179 187 (位)

感動です。私は何もしていませんが医学部スキー部の顧問として感動しています。ありがとうございました。当学スキー部員は今大会を通じて、将来医療に関わる

ものとしての素晴らしい経験の一つを手にしたと確信しています。また、学生さんを支えていただきましたOB/OGの皆様、ありがとうございました。



北里大学医学部心臓血管外科

講師 福隅 正臣

近況報告

北里大学病院に赴任して、早いもので4年半が経ちました。日々の業務に追われる毎日ですが、例年は「気づいたら一年が終わっていた」という感覚でした。今年は自分にとって少し特別な一年だったように思います。長年にわたり北里の成人心臓外科を支えてこられた北村先生が自治医科大学へ異動され、その業務の多くを自分が担うことになりました。正直なところ大変なことも多いですが、その分やりがいも感じながら日々診療にあたっています。

北里はIMPELLAの使用数が全国でもトップクラスで、重症心不全診療の中心的な施設ですが、私自身はこの分野を得意としているわけではありません。その点で、重症心不全に詳しい嶋田先生が東京大学から来てくださったことは本当に心強く感じています。若手の先生方も非常によく頑張ってくれており、おかげで2025年は臨床成績を落とすことなく乗り切ることができました。また、これまで北村先生と行ってきたダヴィンチ手術も、現在は嶋田先生と2人で担当できるようになり、自分としても一つ成長できた部分だと感じています。

この1年は目の前のことに精一杯でしたが、2026年は少し視野を広げて、教育にも力を入れていきたいと思っています。技術を次の世代にしっかりつないでいくことを、一つのテーマに取り組んでいくつもりです。

北里大学医学部心臓血管外科

講師 嶋田 正吾

近況報告

北里に異動してきて1年が過ぎようとしています。長く勤めた古巣の東大病院を離れることに不安はありましたが、宮地先生はじめ多くの方々のサポートもあり、比較的楽しく元気に過ごせています。これまで経験してこなかったロボットやMICSにも少しずつ慣れてきました。11月にはJACVASの学会運営に携わり、医局秘書の渡邊さんには大変お世話になりました。協賛いただいた企業の方々にも感謝申し上げます。法人に関連した会にも参加するようになり、初めてお話しする方の多い年でもありました。

通勤時間や在院時間が減った分、少し自由時間が増えたので、東大勤務中はあまり通えなかったジム通いに精を出しています。筋トレメインですが、あと少しで学生時代の重量が扱えるところまでできました。怪我しないよう続けたいと思います。最近妻がピラティスを始めて、オジサンも結構いるよ、と言っていたので始めるかもしれません。

この2月に吉住先生が名古屋大から異動してこられました。同時期にフィラデルフィアに留学していたので、昔の写真を探してみたら、一緒に撮ったものがありました。フィラデルフィアの牛角です。

当時はスクラブで通勤して、退勤後の飲みもそのまま行っていました。もう 10 年、早いものです。



(左：吉住先生、右：嶋田、真ん中：泌尿器科でフェローをしていた先生)

北里大学医学部心臓血管外科学

診療講師 近藤 良一

北里大学での勤務も、早いもので 1 年 9 か月となりました。もう年報のメ切時期です。11 年ぶりに地上波復活した F1 日本グランプリの放送を見ながら原稿を書いています。春に鈴鹿に F1 が来るのは違和感がありますが、私は 2014 年秋の鈴鹿で、台風接近の大雨でクラッシュした死亡事故 (1994 年のアイルトン・セナ以来の死亡事故) を、隣のコーナーで観戦していたので、断然秋より春開催に賛成です、安全第一。

2026 年の F1 は、規則の大幅変更、Honda の復活と楽しみにしていました。しかし、ハイブリッドエンジンに占める電気モーターの割合が多くなり、「コーナーで急がずに充電、ストレートで電気を使って速く走る」という充電合戦になってしまい、本来の「ストレートエンドぎりぎりまでブレーキングを我慢し、ぶっ飛びそうな速さでコーナリングする」という F1 本来の魅力は褪せてしまいました。今回の鈴鹿では、充電切れの前車に後続車が追突しそうになってコースアウトしてクラッシュという事故がありました。1982 年のジル・ヴィルヌーブ (私の思うベスト F1 ドライバー、モンテリオールのサーキット名にもなっており、2016 年の ISMICS のときにサーキットにまで行きました) の死亡事故を彷彿とさせる事故で、背筋が凍る思いでした。安全性に直結するため、早急なレギュレー

ションの変更が行われることを切に願います。

Hondaの結果は、予選決勝ともに最下位でした。パワーユニット（PU：内燃機関+電気モーター）を供給し、車体はチームで作成して組み立てるのですが、どうやらその組み立ての熟成が間に合わなかったようです。これは、チーム合流が遅れた車体デザイナー（F1界のNo.1デザイナー）から「車体に合わせてPUを小さく変更してくれ」とかなりぎりぎりの段階で言われたせいもあるようです。この、「車体に合わせたサイズ再設計」、「車体全体の設計の遅れ」は、うまくいかなかった前回第4期Hondaの開始時期と全く同じような気がします。「そんなぎりぎりでは無理だ、これでやってくれ」と言えない日本人的気質も影響しているのでしょうか。第4期のその後は、Red Bullチームが、「PUに車体を合わせるから」といって手を差し伸べ、2024年まで4連覇しました。今回も最終的にチャンピオンになってほしいものです。実は、この時のRed Bullのデザイナーと今回のデザイナーが同一人物です、なぜ今回も、ある程度PUに合わせたシャシー設計にしてくれなかったのでしょうか。

また、HondaのF1への取り組みも、F1ファンとしては悲しさを感じます。本田宗一郎存命中の第2期までは素晴らしいエンジンを製造し、信念があったように思います。しかし、第3期は1勝もできずに1ポンドで売却したチームが翌年にHondaの遺産でチャンピオン。第4期は「二度と撤退しない」と言ったにもかかわらず、7年で撤退。かと思えば、今年たった5年で復帰。F1ファンの大多数がフェラーリを好きなのは、どんなに経済状況が苦しくとも、1950年のF1開始時期から一度も撤退せず継続し、「F1=フェラーリ」の共通認識があるからだと思います。

長々と書きましたが、何が言いたいかというと、「信念を持って継続することの大切さ」、「できることとできないことの見極め」、「人がミスした事でも、自分だったら大丈夫というのは間違い」というのは、我々の仕事にも相通じるもののように思います。日常業務において、ぜひとも他山の石にしたいと思います。

F1の不満を書きましたが、見続けてもう30数年、好きだからこそその不満であり、今後も見続けることでしょうし、国内A級ライセンスも無駄に更新し続けることでしょう。ここ最近ではNetflixのドキュメンタリーや映画「F1」の影響もあり、若いF1ファンが増えていることがとても嬉しい点です。今年の鈴鹿は34万人と2006年（シューマッハ1回目の引退の年）に次ぐ歴代2位を記録しました。グランプリはお祭りのような賑わいですので、ぜひ現地観戦をお勧めします。また、去年まで日本人唯一のF1ドライバーだった角田裕毅選手も、まだまだ復帰の可能性があります。角田選手は日本人アスリートの中で大谷翔平選手に次いでインスタフォロワーが多く、実は相模原市出身でもあり、昨年末に相模女子大学グリーンホールでファンミーティングしてました。今年は北里のIPE棟ホールでやってくれないでしょうか。

仕事面では、2025年度は学会発表を多く行い、ポスターではありますが1月にSTS in New Orleansで発表することができました。本当に楽しかった記憶しかなく、一緒に行動した岡先生、中村先生、ありがとうございました。また、ご指導いただいた宮地先生や鹿田先生、データ集めにご尽力いただいた小児チームの皆様誠に感謝いたします。こんな「おじさん」でもモチベーションが爆上がりになり、「留学してないコンプレックス」が再燃したSTSでした。若い先生方、国際学会は是非行くべきです。

プライベートでは、双子の女の子は1歳半になり、「パパ～」の言葉に癒される毎日です。今月さらに女の子が生まれて三姉妹になりました。

最後に、小児チームをローテーションした、小中先生、武井先生、松井先生、誠にありがとうございました。宮地先生や鹿田先生をはじめ、学会論文のご指導を賜った先生方、誠にありがとうございました。

皆様、2026年度も、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（研究員） 武井 哲理

近況報告

昨年の7月から当振興会でお世話になっています。

私が感じる振興会の特徴は「広い視野」でしょうか。

私は約9年間、前病院にいました。20代の頃からずっと同一施設にいたことは、良い面では「一人の指導者の元で同じ手技を確立できた」こと、悪い面は「同じやり方しか知らない」事と「井の中の蛙」となりあまり外に目を向けていなかったこと、だと思います。もちろん、同じ状況でも広い視野を持てる人は大勢いると思いますが、私にとって慣れ親しんだお湯は非常に心地よかったです。

振興会の一員に入れていただき、若い人からベテランまでが国内のみならず、世界に目を向けていることには、単純に、凄いな、と思い非常に刺激を受けています。

ちなみにこれでも元陸上自衛隊二等陸尉です。防衛医大では自衛隊っぽい訓練もしました。防衛医大に入ってよかったかと言うと、小銃の射撃訓練や分解・組み立ては大動脈の切離・再建に、式典でただただ長時間の不動の姿勢は長時間の手術に、生かされていると願いたいですが、正直には他の医学部に入れるならその方がいいと思います。朝ラッパで起こされる6年間ではなく、華やかと噂の「キャンパスライフ」を経験したかったです。もし皆さんの周りに防衛医大受かったけどどうしようか迷っている方がいましたら、是非お声掛けください。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（研究員） 田村 佳美

近況報告

本を読むのが好きです。

小学生の頃は読書がとにかく苦行で、1年を通して読書感想文という大敵が出現する時期以外は本を読みませんでした。たぶん、高校生の時ですが、通学路にある古本屋の本棚に並ぶ一冊の本がなぜか目に留まりました。貴志祐介の『青の炎』という本で、なんのことはないミステリ小説でしたが、あっという間に読み終えて、初めて本を読んで『面白い』と感じ、面白いと感じたことに感動しました。貴志祐介なら読めそう、と数冊本を買いました。当時の著書にはホラー小説が多かったのですが、

読んでみると驚いたことに、ホラー映画を見た後の、家に誰かいるような、隙間から誰かに見られているような、ああいう厭な感じがするのです。『黒い家』は最高に厭な感じがしておすすめです。映像も音もない文字の世界から、臨場感のある鮮やかな世界が目の前に広がることに再び感動し、本を読むのが楽しくなりました。大学生の時に純文学ブームがきて谷崎潤一郎にハマりました。『春琴抄』が好きです。吉本ばななは高校生の頃は、「女性」性を強く感じて苦手だったのに、今は、柔らかさや儂さで満たされる感じがして大好きです。『みずうみ』は文章が煌めいていて、文章を追うだけで思わず涙が出ます。東野圭吾はもれなく没入できて気分転換になりますが『白夜行』はそれなりの長編なので結果、寝不足になります。昔は、ワケわからんな、と思っていた村上春樹ですが、最近になって読んだ『ノルウェイの森』にえらくところが揺さぶられました。久々に純文学をと思い読んだ川端康成の『雪国』は、かの有名な1文の後に、「夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった。」と続いていて、純文学の良さというか、音や響きや色やリズムを含めた日本語の良さみたいなものを感じました。最近店頭でよくみかける朝井リョウですが、推し活、リアコ、MBTIなんて単語が当たり前に出てくる『イン・ザ・メガチャーチ』には、書き手にも読み手にも、時の流れがあるんだな、と思わされます。今年の本屋大賞にノミネートされるのも納得でしたが、読むのにかなり精神を消耗したので、個人的には村井由香の『PRIZE』と佐藤正午の『熟柿』を推します。でもたぶん朝井リョウか湊かなえの『暁星』になるのではないかと考えています。院内に本屋があるのはとても幸せで、コンビニついでに立ち寄っては時々本を買い足し、積読しています。(職員は10%割引なので新刊を買うときは結構ありがたい。)

何が言いたいかというと、かいけつゾロリくらいしか読めなかった読書嫌いが、何のきっかけもなくある時突然、本好きに変わることがあるらしいのです。

論文を読んだり書いたり、英語を聞いたり話したりすることが、ある日突然好きで楽しくなる日が来ないかな、と切に思う今日この頃です。

近況報告でした。

1年を通してたくさんの執刀をしながら、J-MICS、胸部外科、JATS-NEXT、心血で演題を出して、学会ついでにUSJや万博に行って楽しみました。2026年も頑張ります。今まで以上に実りある一年にできるよう、日々学び、精進していこうと思います。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教(病棟医) 村井 佑太

2025年は我が家に小さな海を作りました。

きっかけは軽い気持ちでした。子供達がファインディング・ニモを見て、「ニモが欲しい」と言い出したことから全てが始まりました。最初は小さな水槽で、ニモとドリー(的な魚)とエビたちを入れて、のんびり眺める癒しの空間になるはずでした。

しかし現実はそんなに甘くありませんでした。気づいたら水槽は増え、機材も増え、家の一角がほぼ水族館のバックヤードようになっていました。そして何より、家の中にとんでもない量の塩が存在するという異常事態が発生しました。料理用ではなく完全に海を作るための塩です。

魚のラインナップもなかなか個性的で、ニモ、ドリー、エビたちに加えて、鮑やサザエまで飼育す

ることになりました。途中から「これは鑑賞なのか、養殖なのか」と自分でもよく分からなくなってきました。美味しそうでした。

飼育は想像以上に難しく、水質管理、温度管理、機材トラブルとの戦いの日々でした。朝起きて最初に確認するのが魚の状態、ちょっと様子がおかしいと一日中それが気になって仕方ありません。人間よりも魚のコンディションに一喜一憂する生活になっていました。

それでも不思議なもので、水槽をぼーっと眺めている時間は確実に癒しであり、日々のストレス軽減に大きく寄与していたと思います。子供達もとても気に入っており、水槽の前でずっと魚を眺めていたり、「今日はエビが動いた」といったどうでもいいけど平和な報告をしてくるようになりました。

振り返ると、決して楽ではない趣味でしたが、それ以上に得るものも多かった一年だったと思います。2026年はさらにスケールアップし、もっと大きな海水魚に挑戦してみたいと考えています。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 松井 謙太

近況報告

2025年4月から群馬県立小児医療センター、10月から北里大学で勤務させていただきました。御指導いただいた宮地先生、岡村先生、近藤先生には至らない点が多くご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。御指導御鞭撻いただきありがとうございました。

超低出生体重児で生まれた第二子は、一度熱性痙攣で救急搬送となりましたが、大きな問題はなく元気にすくすく成長しています。イヤイヤ期がきたのか、手がかかって大変ではありますが、これもまた成長の過程と楽しんでます。第一子も年少になり幼稚園での生活を頑張っています。神奈川で新しく通い始めた幼稚園は体操に力を入れており、壁逆立ちやブリッジ倒立など毎日できることが増えて楽しそうに通っています。異動で幼稚園が度々変わってしまい本人には負担がかかってしまいましたが、元気に幼稚園に通っており安心してます。ただ、いまだに感染症に弱いのか、度々発熱をしており心配になることもあります。免疫がしっかりするまで、まだまだ感染症に注意が必要ですが、家族共々気をつけて過ごしていきたいと思います。今後ご迷惑をおかけすることもあると思いますが、ご助力いただければ幸いに存じます。

今後については色々と検討中であり、先生方にはご迷惑をおかけすると思いますが、引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 大谷 篤司

夢を追って

一年前、初期研修を終え、二人で心臓血管外科を回す病院で勤務が始まると聞き、不安を感じなが

ら引っ越しの準備をしていたことが、今では遠い昔のように感じられます。自分の興味ある分野に専念できる期待と、うまくやっていけるのかという不安が入り混じる中でのスタートでした。しかしながら、私は運よく人に恵まれたと思っています。榊先生は何も知らない私に対して優しく、でも熱心に教えてくださりました。また、仕事外でも榊先生はボクシング趣味ということで共通の趣味があり、試合結果など観戦後翌朝話すのも楽しかったです。私の将来アメリカで働きたいという夢も応援してくださってこのような温かい環境にいられたことを大変ありがたく思っております。

半年経って大学病院での勤務が始まりました。戸惑うこともありましたが、それ以上に学びの機会も多く、非常に貴重な経験となりました。チーフの先生方をはじめ、先生方には豊富な経験をもとに適切にご指導くださり、困難な状況となった際には必ず支えてくださいました。時には表面上は厳しいご指摘もありましたが配慮があり、良い環境を作ろうとされていることを強く感じ、深く感謝しております。また、開心術を術者として経験させていただけたことは、自分にとって大きな財産となりました。

そのような中で今後の進路について考えた結果、一旦沖縄海軍病院に行かせていただきます。私には最初からアメリカで働きたいという夢がありました。今の状況をみるとかなり厳しいのは分かっています。この選択が正しいのか、間違いなのかそれはわかりません。しかしながら挑戦しないまま終わることに納得できませんでした。

今回このような選択を許してくださった宮地教授、並びに振興会の皆様には感謝申し上げます。このような環境は決して当たり前でないと感じております。

今後も振興会との関係は大切にしていきたいと考えております。またお世話になる機会がありました際には、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 青井 夏帆

2025年度より入会いたしました、青井夏帆と申します。

4月から9月までは海老名総合病院で勤務させていただきました。入職して4日目に急性大動脈解離の手術があり、基部置換術+冠動脈バイパス術+弓部置換術と盛りだくさんで15時間にもおよぶ大手術でした。心臓血管外科医としての洗礼を受けました。わからないことも多く不安いっぱいでしたが、皆様本当に優しく丁寧に教えてくださり、なんだかんだ楽しく外科医としての一歩が踏み出せました。はじめて開心術の執刀とEVARの執刀の機会もいただきました。予習と練習して臨みましたが、なかなかうまくできなかつたので、まだまだ勉強と練習が必要だと痛感しました。

10月から3月までは大学病院の成人チームで勤務させていただきました。手術件数が多く、ついていくのに必死でしたが、たくさんの人の力を借りてなんとか業務をこなすことができました。ロボット手術とVADの手術ははじめてみる手術で大変興味深かったです。2月からは外科専門医を取るための症例を集めるのに急遽、小児の手術にもおじゃまさせていただきました。やっぱり子供はかわいく癒されました。成人の手術とは全然違ったので、機会があればぜひしっかり学びたいと思いました。

今年度はたくさんのはじめてがあり、大変充実した1年間でした。手厚いご指導をいただき、ありがとうございました。来年度は海老名に戻ることにになりました。一般外科と心臓血管外科で半年ずつ

の予定です。まだまだ至らない点が多いですが、成長できるよう精進して参りますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（研究員） 荒記 春奈

昨年夏に娘と本帰国し、ようやく落ち着いてよく考えることができるようになりましたが、本年度で心臓血管外科のキャリアは終わりにすることに決めました。長いブランクも一つのきっかけではありますが、子育てをされていて100%での働き方ができなければ、ここでは労働の需要がないことがよく分かったこともあります。出産してから、復帰後、週に3-4日のnight shiftでも、私や私の家族にとっては容易なことではありませんでした。心臓血管外科医としてのキャリアを全うできなかったことは、お世話になった先生方には大変申し訳ない気持ちもありますが、子育てをしながらの働き方であっても、自分を必要としてくれる場所があることもわかりました。教えて頂いたことを活かせるように頑張っ生きていきたいと思ひます。今までありがとうございました。

北里大学医学部心臓血管外科学 助教（病棟医） 堀越 理仁

今年度もお陰様で無事に年度末を迎えることができました。一見では大きな変わりはありませんが、小さくとも前進した部分に目を向けていこうと思ひています。日頃のお心遣ひに感謝しながら、これからも精進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

埼玉県立循環器呼吸器病センター 大西 義彦

年間報告

2025年4月から、地元にある埼玉県立循環器・呼吸器病センターで勤務が始まりました。新しい環境となつて、多くの変化があり、それぞれに対応するのもなかなか大変でした。少しずつ慣れて、やっと半年が過ぎたところと思ひていたら、気づけば1年が経つところとなりました。施設としての症例数は開心術200例程度で毎日のように手術に入っています。まだまだ執刀数は多くありませんが、他の先生の手技をみて自分に還元できるように意識しています。学術的なものとしては、case reportではありますが英文での論文がacceptしてもらふことができました。特に大学からのEbstein anomalyに関するcase reportの際にご協力いただきありがとうございました。今の施設で何かをまとめてOriginal articleをなんとか形にできないかを現在検討中です。

大きく環境が変わりましたが、今までいただいた教えを忘れずに地に足をつけて日々の精進を続けていければと考えています。引き続きのご指導のほど、どうぞよろしく願いいたします。

自治医科大学医学部心臓血管外科 学内教授 北村 律

自治医科大学に異動してもうすぐ1年になります。北里にいたころは、相模原は決して都会ではない、と思っていたのですが、栃木から見ると、立派に首都圏です。栃木でも、より近代的な手術を行うべく、自治医大に赴任した直後から MICS を始め、ロボット手術も福隅先生に手伝ってもらいながら軌道に乗りつつあります。また、自治医大では胸腹部置換がしばらく行われていなかったのも、慢性解離の症例、特に下行置換後や腎動脈下置換後の胸腹部拡大の症例がたまっていて、この1年で斜切開の手術を6 - 7例やりました。外来にはまだまだそのような症例がいるようです。MICS でメイズ手術を行うのに、それまでクライオアブレーション (CryoICE) しか見たこともやったこともなかったのですが、自治医大にはラジオ波のアブレーション装置 (Atricure) しかなく、これを使って MICS でメイズ手術をやるのに非常に苦労しました。しかも僧帽弁症例は、心房細動と三尖弁閉鎖不全を合併してから内科が依頼してくるのが一般的だったようで (最近は洞調律の症例も依頼してくれるようになってきましたが)、メイズ併施が多く、厳しい戦いを強いられました。自治医大も例外にもれず、赤字経営で、令和6年度の損益収支は32億円の赤字とのことでした。その影響で、新規医療機器の購入は行わないのが原則だそうで、その上、所有していない医療機器の消耗品は購入しない、すなわちリース機器の使用ができない、という決まりがあったそうです。CryoICE の本体価格は、北里で買った時には500万円程度だった記憶があるのですが、総務課長と何度も面談し、購入を依頼しました。しかし、事務側からは、購入はできない、リースなら、特例として、消耗品の価格によってはできるかもしれない、という回答でした。今でも総務課長には廊下で会うたびに、「買った方が安いと思いますけどね～」と言いつけていますが、買うかレンタルするかは病院の勝手です。センチュリーメディカル社とも話し合い、結局は本体をリースで使用するようになりました。消耗品の価格もかなり配慮してもらいました。この過程で、センチュリーメディカル社には、開示すべき COI はありませんが、私なりにかなり恩返しをしました。2025年11月に横浜で開催された不整脈の学会に、センチュリーメディカルがベルギー人の外科医を呼んでいたのですが、「友達もいなくて可哀そうだから、北村先生晩ごはんにつき合ってあげてもらえませんか」というので、ひと晩お付き合いしました。Mark La Meir という、おとなしい外科医で、アブレーション好きということからも想像できる通り、我々のイメージする、日本の学会に欧米から招聘される典型的な外科医、ではない人物でした。私が先に店に到着し本を読んでいたので、Mark がやってきて、挨拶して、基本的には私が明るく話しかけて Mark が静かに答える、という状況でした。Mark に趣味を聞くと、即座に“Reading (読書).”と答え、少しノッてきて、Mark が私に「いま何読んでるの？」と聞くので、“Hermann Hesse. Narziss und Goldmund. (ヘルマンヘッセの「知と愛」)”と答えると、「そんなマニアックなの読んでるの？日本語訳があるの？へえ～」と、さらにノッてきました。「え、じゃあ Mark は何読んでるの？」と聞くと、“Mieko Kawakami. Breast and eggs. (川上未映子の「乳と卵」)”と言うので、「え？誰それ？知らん。有名な人？」と聞くと、「知らんけど、せっかく日本に来たから日本人の本読もうと思って、適当に



買った。」と言っていました。数日後、何気なしにテレビを見てみると、それまで何度も見たことのある、サッポロ黒ラベルのコマーシャルの大人のエレベーターで、「川上未映子 小説家」と出ていて、ああこの人か、と思いました。以前も書きましたが、私は本を買うときは、ブックオフで、安い（以前は 100 円でしたが最近では 200 円）本しか買わないのですが、近所のブックオフに行くと、川上未映子の「すべて真夜中の恋人たち」というのが売っていたので、読

んでみました。メンヘラの女の子とおじさんの話で、確かに「日本ばいな～」と思いました。同時に、「日本人弱いな～」と思いました。ちなみに昨日フランソワーズ・サガンという人の「悲しみよこんにちは」という本を読み終わったのですが、あとがきに、作者が 18 歳の時の作品だと書いてあって驚きました。

『彼女はまた、すばらしい笑いをもっていた。少し頭の悪い人たちだけが持っている、相手に通じさせる、完全な笑いを…。』これを 18 歳の女子が書いたのか～、フランス人すごいな～、と感銘を受けました。私はめるるが結構好きで、彼女の笑顔によろめいてしまうのですが、もしかしたらそういうことかもしれません。悪意はありません。好意しかありません。笑顔というと、以前に好きな音楽の話を書いた時に触れたエリス・レジーナと、ボサノバの天才演奏家、作曲家、編曲家、歌手である、アントニオ・カルロス・ジョビンが共演した名盤“Elis and Tom”の制作の裏側を描いた映画を最近観たのですが、まとまった映像として初めて見るエリス・レジーナも、表情と声が恐ろしく豊かな人でした。愛を扱う芸術家たちは、他人の魂に訴える力が大きければ大きいほど、自分の魂の消耗も激しいのでしょうか。



北里大学病院心臓血管外科
北里大学医学部総合診療医学
非常勤医師 鳥井晋三

そして暇は無くなった・・・時間ドロボウの被害者となって

2025年3月31日に27年7ヵ月勤務した北里大学医学部を退職しました。医療安全推進室の副室長・室長を務めた約7年間に、主治医や管理者の代わりに頭を下げて謝罪した回数は、ほぼ一生分を超えたと感じていたため、二度と自分の過失以外のことで謝りたくないとの思いが募っていました。そこで、今後は管理職や医療安全の仕事から離れて、晴れて自由人となるつもりでした。年金を試算する

と 300 ~ 400 万円だったので、ゆとりある老後を送るのに週 2 日程度働けば良いと皮算用して、従来担当していた外勤だけ続けることにしました。お礼奉公として月曜日はリード抜去手術がある時にお手伝い、水曜日は藤野診療所を偶数週のみ減らし、金曜日は平井クリニックを半日、土曜日は行田中央総合病院で仕事を続けることにしました。あとの時間は、知っているつもりで知らなかったことを学び直したり、父が残した本を読んで過ごそうと楽しみにしていたのですが、その夢が徐々に崩壊していったのです。最初の躓きはその本でした。京都の実家を整理した時に処分しきれなかった本を、大学で保管していたのですが、自宅の書架増設計画が妻の拒否権行使で暗礁に乗り上げ、段ボール箱 30 個近くの本が行き場を失いました。4 月 1 日午前 1 時頃まで掛かってスキルスラボの保管庫や医局の奥に一時避難させてもらってしのいだのですが、4 月以降も外勤日以外は連日大学に通って整理を続けました。しかしながら、本を開いてしまってしばしば作業は中断し、大学病院患者図書への寄贈、Book-off への持ち込み、専門書店への売却等で処分が終わったのは 5 月も末でした。退職して再就職していないと暇と思われるのか、4 月以降も仕事のオファーが続きました。患者団体での教育講演や医療事故調査の外部委員は、これもお礼奉公と引き受け、土曜日 1 日では循環器疾患の患者を診きれなくなった行田中央総合病院の外来を火曜日でも行うようになり、さらに担当医の病欠の支援を藤野診療所や他の医院でも行うようになりました。そうこうしているうちに、当初は週 3 ~ 4 日あった安息日が、忙しい週は 1 日まで減少してしまいました。また、暇になったと思っているのは外の人だけではなく、特売日の買い物への動員が増え、内からも責められています。晴耕雨読を夢見て迎えた定年退職ですが、知らない間に時間ドロボウにやられていたようです。

竹田総合病院外科

石川 沙弥

竹田総合病院での外科研修を無事に終えました。

慣れない消化器外科の管理や救急当直で大変な事も多々ありましたが、心臓外科ではあまりない、学年の近い仲間がたくさんいたことで手術の事から仕事の愚痴まで相談してなんとか乗り越えることができました。また病院全体での運動会や医局旅行など様々なイベントがあり、良い思い出となりました。しかし覚悟はしていたものの会津の冬の寒さは想像を絶するものでした。夜間当番で呼ばれると、日本海側から吹いてくる冷たい風で心を折られそうになる事もあり、ユニクロのヒートテックスウェットを手放せない冬でした。

小手術から腫瘍に対する回盲部切除や S 状結腸切除など幅広く執刀の機会をいただきました。竹田では若手の執刀機会が大変多く、自分よりもずっとスマートに腹腔鏡下の手術をこなす同期や後輩たちをみて負けてられないと良い刺激を受けました。

また人生で初めて実家を遠く離れた地での勤務となり、体調を崩す事も多く改めて実家のありがたみを感じる 1 年でした。

北里大学病院 ME 部

人工心肺部門

2025年の人工心肺症例数は、成人182例（前年比93.3%）、小児60例（同93.8%）、合計242例（同93.4%）であった。過去3年間との比較では、成人は2022年195例、2023年209例、2024年195例と推移しており、これまでの約200例前後からは微減した。小児は2022年56例、2023年53例、2024年64例であり、昨年に引き続き60例を超えた。合計では2022年251例、2023年262例、2024年259例であり、過去3年間の250例以上からは微減した。

緊急手術は84例で、2024年の87例と同程度の症例に対応した。並列手術には14例対応し、そのうち2例は並列での人工心肺症例であった。右小開胸MICSは30例で、そのうち手術支援ロボットを使用した症例は20例（66.7%）と、昨年の54.8%から増加した。小児のPDA閉鎖術は5例で、そのうち2例は手術支援ロボットAESOPを使用した症例であった。

植込み型補助人工心臓については、HeartMate3を用いた導入を4例行い、内訳はBTTが1例、DTが3例であった。体外式補助人工心臓は2例に導入し、1例は小児に対してBiofloat遠心ポンプを用いた導入、もう1例は成人に対して植込み型補助人工心臓移植に伴うRVADとして遠心ポンプを用いた導入であった。体外式補助人工心臓の交換術では、感染に伴う再手術を経験し、同一患者に対してBiofloat遠心ポンプを用いた交換術を2回施行した。

植込み型ペースメーカー、植込み型除細動器、両室ペーシング機能付き植込み型除細動器などのデバイス移植・交換業務は166例で、2022年161例、2023年176例、2024年167例と比較して、過去3年間とほぼ同数であった。

人工心肺スタンバイについては、OPCABが13例で、前年比216.7%と増加した。内訳として、1例は術中にIABP導入、1例は術前よりIABP・ECMO導入下での手術、1例は術前よりImpella CP導入下での手術であった。リード抜去術は14例に対応し、緊急でECMOやCPB導入となった症例はなかった。経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）は67例で、昨年と同程度であった。このうち1例はTAアプローチであった。緊急でECMOやCPB導入となった症例はなかったが、術前からECMO導入下で施行した症例および術後にIABP導入となった症例が各1例あった。

その他のSHDでは、経皮的僧帽弁クリップ術12例、経皮的心房中隔欠損閉鎖術・経皮的卵円孔開存閉鎖術9例、経皮的左心耳閉鎖術6例に対応した。その他のスタンバイとして、収縮性心膜炎に対する心膜剥離術1例、術後血腫除去術1例で人工心肺を使用した。

2025年は、医師の働き方改革に伴うタスクシフト・シェアの一環として術野介助に積極的に関与した。2024年は19例であったが、2025年は90例に増加した。依然として時間外労働削減への貢献は十分とは言えないものの、継続的に取り組み、改善につなげていく。

また、2025年も大きなトラブルなく人工心肺業務を遂行できたが、部材や機器の不良、カニューレ脱落が散見されたため、Perfusionistとしての安全意識のさらなる向上に努める必要がある。人材育成の面では、成人Perfusionist1名、小児（新生児含む）Perfusionist1名を育成した。また、新人を中心に外回り対応スタッフの指導を行い、単独対応可能なスタッフの育成も進めた。今後の心臓移植実施施設化に向けて、緊急手術への柔軟な対応体制の構築とともに、成人・小児双方におけるPerfusionistの育成および質の向上に取り組んでいく。

（大島弘之）

集中治療・小児部門

ECMO 症例数は、2023 年 87 例、2024 年 115 例、2025 年 94 例であった。このうち心臓血管外科での導入は 8 例（小児 7 例、成人 1 例）であった。補助循環用ポンプカテーテル（Impella）は、2023 年 57 例（うち 5.5：12 例）、2024 年 40 例（同 9 例）、2025 年 50 例（同 10 例）であった。Impella 5.5 から補助人工心臓へ移行した症例は 2 例であった。小児体外設置型補助人工心臓(EXCOR) は 1 例の管理を行った。また、院内初となる小児植込み型 VAD 症例を経験し、従来とは異なる教育体制や対応が求められた。

一酸化窒素吸入療法の導入は、2023 年 68 例、2024 年 79 例、2025 年 83 例であった。このうち心臓血管外科領域での導入は成人 22 例、小児 37 例の計 59 例であった。低酸素療法は 2 例に実施した。症例数が少ないためマニュアルの見直しを行い、安全な管理体制の強化を図った。（木下春奈）

集中治療・小児部門 実績

ECMO（うち心外症例：小児 7 例、成人 1 例） 94 例

Impella 50 例

体外設置型 VAD（EXCOR） 1 例

NO 療法 83 例



2. 大和市立病院



2025 年大和市立病院 心臓血管外科 年間手術報告

2025 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日

手術総数 184 件

	2025 年：184 件	2024 年：209 件	2023 年：210 件
末梢血管	1 件	2 件	3 件
バイパス術	0	1	1
ハイブリッド手術	0	0	1
TEA	0	0	0
その他 (PCPS 抜去 動脈形成)	1	1	1
静脈 (硬化療法含めず)	9 件	10 件	6 件
高位結紮+ストリッピング	0	2	0
血管内焼灼術	8	7	6
その他	1	1	0
バスキュラーアクセス	167 件	185 件	197 件
自家動静脈	35	37	62
人工血管	6	7	4
Transposition	0	1	1
PTA(VAIVT)	102	119	110
ステントグラフト	2	0	2
その他 (表在化・血栓除去・長期留置カテーテル挿入など)	22	21	18
血管内治療	4 件	4 件	2 件
PTA (末梢血管)	4	4	2
ペースメーカー	3 件	7 件	2 件
新規	0	0	0
交換	3	7	2
その他 (足趾切断など)	0 件	1 件	0 件

大和市立病院心臓血管外科 担当部長 町井 正人

2025年の総手術件数は、184件と前年より減少し200件を切ってしまいました。内容を見ると、ここ数年のことですが、バスキュラーアクセス関連の手術が、全手術例の9割を占めました。近年、透析患者、新規血液導入患者の減少が報じられていますが、当院はこの地域唯一の血液透析導入病院であり、内シャント造設・血管内治療対応病院であるため、ニッチな分野ではありますが、今後もニーズはなくならないと考えています。しかし、DCBの登場により、VAIVTの間隔が明らかに広がるようになっており、きめ細やかなフォローにより患者さんの流出を食い止めるような努力も必要なのかも知れません。

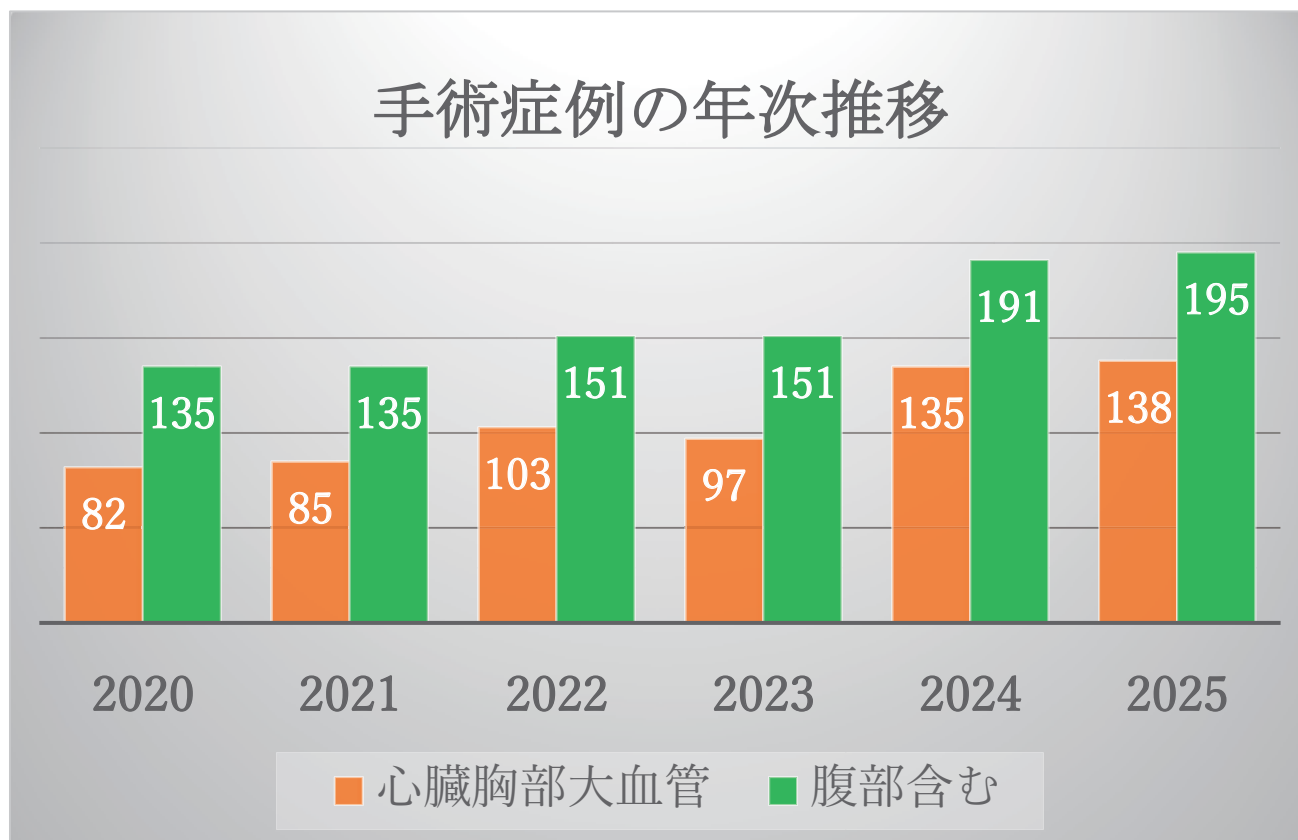
末梢動脈疾患に関しては、当科に紹介となる患者さんは基礎疾患を多く抱え、すでに壊疽を合併し、他院で外科的治療が困難な方がほとんどとなっています。外科的治療が困難な場合には、疼痛緩和や吸着療法など外科治療以外も他科の協力を得ながら当科で行っています。今後も行き場のない、外科治療が困難なPAD/CLTIの患者さんが減ることはないと予想されます。そのような患者さんが、様々な診療科間の宙に浮かないようにできればと考える今日この頃です。

いよいよこの3月で定年退職を迎えることとなりました。来年度も会計年度任用医師として勤務するつもりでしたが、年末に急遽後任の先生が派遣されることとなりました。4月からは、短い期間引継ぎを行い、その後はのんびりしたいと思います。とは言っても、急なことだったので、現在、就活に追われています。就活、終活…まだまだ忙しいのは続くようです。

3. ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院



ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院 手術実績 2025



心臓血管手術数	283 例
①心臓・胸部大動脈手術	138 例
人工心肺 + OPCAB 手術	100 例
②腹部大動脈手術	57 例
③末梢血管 + 専門医手術	88 例
その他手術数	19 例
手術総数	302 例

【弁膜症】 手術数 54 例弁膜症を主とする手術 37 例

大動脈弁単独 20 例

AVR 20 例 (MICS 2 例) (+VSD closure 1 例, +CABG 2 例, +PVI LAAC 2 例)

僧帽弁単独 14 例

MVP 11 例 (MICS 7 例) (+CABG TAP LAAC 1 例, +ASD closure 1 例, +TAP Maze 6 例)

MVR 3 例 (MICS 1 例) (+CABG 1 例, +Maze 1 例)

複合弁 3 例

DVR 2 例 (+TAP LAAC 1 例, +CABG LAAC 1 例)

AVR+MVP 1 例 (MICS 1 例)

MICS 11 例

Re-do 3 例

併施手術 17 例 (A 弁)

HAR+ 6 例, TAR+ 3 例, Root+ 8 例

【虚血性心疾患】 手術数 24 例単独冠動脈バイパス術 14 例

OPCAB 12 例 (86%)

ImCAB 1 例

Emergency 4 例

MICS 3 例

Endo RA 1 例

+LAAC 1 例

併施手術 8 例

AVR+ 2 例, MVR+ 1 例, MVP+ 1 例, DVR+ 1 例, Ao+ 3 例

合併症手術 2 例

VSP closure 1 例

心破裂修復術 1 例 (MICS 1 例)

【胸部大動脈手術】 手術数 79 例解離性 49 例 (急性解離 25 例)

HAR 9 例

TAR 12 例 (+FET 9 例, +CABG 1 例, +AVP 2 例, +AVR 1 例)

DAR 1 例

Root 5 例 (Bentall 5 例) (+CABG 3 例, +TAR 1 例)

TEVAR 22 例

非解離性 30 例

HAR 7 例 (+AVR 5 例)

TAR	4 例 (+FET 4 例, +PVI 1 例)
Root	3 例 (David 1 例, Bentall 2 例)
TEVAR	16 例

【その他の心臓手術】 手術症例数 6 例

ASD closure	2 例 (MICS 1 例, +TAP 1 例)
Thrombectomy	2 例
Pericardiectomy	1 例
Other	1 例

【腹部大動脈】 手術数 57 例

開腹 人工血管置換術	5 例 (破裂性 1 例)
EVAR	52 例 (破裂性 3 例)

【末梢血管・その他】 手術症例 88 例

末梢血管バイパス	6 例
EVAR	6 例
血管塞栓術	30 例
血管形成	3 例
動脈血栓摘除	3 例
PCPS/Impella シース抜去	38 例
その他の専門医手術	2 例

【その他】 手術数 19 例

学会発表

1. 岸田憲亮、大西義彦、笹原聡豊、贅 正基、小原邦義：膀胱癌術前化学療法後の上行大動脈内血栓症の 1 例. 第 53 回日本血管外科学会学術総会、2025 年 5 月
2. 桂瑠衣、大西義彦、笹原聡豊、贅 正基、小原邦義：尺骨動脈閉塞を伴う遠位橈骨動脈瘤の一例. 第 53 回日本血管外科学会学術総会、2025 年 5 月
3. 笹原聡豊、大西義彦、柴田 講、贅正基、小原邦義：腹部大動脈分岐部の急性閉塞を発症した左房粘液腫の 1 例. 第 53 回日本血管外科学会学術総会、2025 年 5 月
4. 井出葉月、笹原聡豊、大西義彦、柴田 講、小原邦義、贅 正基：経皮的冠動脈形成術中に遺残したバルーンカテーテルの外科的摘出と冠動脈バイパス術を実施した一例. 第 198 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2025 年 6 月
5. 井上信幸、成人開における一酸化窒素吸入療法 早期抜管による術後プロトコールの加速化. 第 31 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会、2025 年 7 月

6. Nobuyuki Inoue、Kuniyoshi Ohara、Masaki Nie、Ko Shibata、Akihiro Sasahara、Kaho Aoi、Nobuyuki Yamamoto、Yuki Ohtomo、Yurie Ohtomo : Non-intubated inhaled nitric oxide reduces duration of mechanical ventilation after adult cardiac surgery. 第78回日本胸部外科学会学術集会、2025年10月
7. 青井夏帆、井上信幸、笹原聡豊、柴田 講、小原邦義、贅 正基 : 右冠動脈 malperfusion を伴った急性大動脈解離術後に NO 吸入療法が奏功した一例. 第199回日本胸部外科学会関東甲信越地方会、2025年11月

業績

症例報告

1. 笹原聡豊、中島光貴、贅正基、小原邦義. 下肢虚血を合併した逆行性 Stanford A 型急性大動脈解離に対する胸部ステントグラフト内挿術の1例. 胸部外科 78 巻 2 号 : 118-121,2025
2. 笹原聡豊、大西義彦、柴田講、贅正基、小原邦義. 腹部大動脈分岐部の急性閉塞を発症した左房粘液腫の1例. 胸部外科 78 巻 8 号 : 630-633,2025
3. 大西義彦、吉田慶之、渋川絢子、笹原聡豊、柴田講、贅正基. AFX フレキシブルリムエクステンションの中枢 migration による AFX 対側脚閉塞に対して EVT が奏功した1例. 日血外学誌 : 34:107-111,2025
4. 大西義彦、笹原聡豊、柴田講、贅正基、小原邦義. 左下大静脈半奇静脈結合を伴う肝下部下大静脈欠損の成人患者における僧帽弁形成術の1例. 胸部外科 78 巻 11 号 : 940-943,2025

総括

人工心肺+ OPCAB 手術が久しぶりに 100 例に回復しました。心臓胸部大血管手術はここ 5 年平均で 112 例と基幹施設の基準以上を維持出来ています。MICS 手術が 16 例に増加し TEVAR + EVAR は 96 例と血管内治療も件数を維持しています。病院としては 10000 件を超える救急車を応需しているため、大動脈解離等の緊急症例も増加しており（胸部大血管手術の 37%）、ハイブリッド手術室が完成し TAVI 要件を満たしたため、2026 年度からの TAVI 開始を予定しています。低侵襲治療の標準化、Mortality の減少に努めます。

近況報告（2025年度）

社会医療法人 ジャパンメディカルアライアンス
理事長 賛 正基

2025年は未曾有の物価高と人件費の高騰などで我々医療・介護・保健・福祉を取り巻く環境はさらにさらに厳しくなりました。国の社会保障費は益々増加し、社会保障費を抑えることは急務となっております。我々も無縁ではありません。

リソースの有効活用、医療の効率化を図るためにDXの導入、ICTやAIへのシフトが求められています。また、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となることで、国民の5人に1人が後期高齢者となる超高齢化社会においては、病院における包括期機能はこれからはますます重要視されてくものと考えられます。

このような環境の中でも我々の法人においては2024年4月にスタートした3か年計画『SHINKA 2027』は順調に2年目も終わりに近づき、着実に計画を達成しております。

診療とは言いますと、2025年4月に井上信幸先生が当院に赴任してくださいました。私は21年努めました心臓血管外科部長を井上先生にお任せして同職を退任することができました。現在は諸先生方に新しい術式やデバイスのことを教えていただきながら時々手術のお手伝いをするくらいです。皆さまに感謝申し上げます。

2026年度診療報酬の本体改定率は3.09%増が予定されており、介護報酬臨時改定も改定率は2.03%増とされています。賃上げ対応分、物価対応分を除けば残りはおくわずかではありますが、30年ぶりの3%超のプラス改定で我々にとって追い風になることは間違いありません。これをもとに患者さま、利用者さまにしっかりとサービスを提供できるようにさらに体制を整えていこうと思います。

JMA 海老名総合病院 心臓血管外科
部長 井上 信幸

父とタバコと自動販売機

最近テレビでレトロ自動販売機を並べている相模原市内某所の特集を目にする度、実家の酒屋の自動販売機を思い出す。酒屋といっても3年前に店舗は閉店し、店前に並んだ自動販売機だけが今なお稼働している。屋号は「紙屋」。そのまま店の名前となっていた。大昔和紙を漉いていたことが由来らしいがその面影は全く残っていない。子供の頃文集に商売を継ぐと書いたが、後継ぎの私がこの道を選んだため、惜しまれながらも父の代で店を閉めることとなった。父は84歳、100kg以上ありサイレントキラーの病気をすべて兼ね備え、かつチェーンスマーカーであった。商人としてはかなり奇抜なことをやってきたと思う。祖父の大事にしていた店前の柿の木8本を、留守に全部切り倒し勝手に駐車場にして、ショックを受けた祖父は数日寝込んだ。最初は3台だけあった自動販売機を年々増やし、いつしか店の前をロータリー様に整備し「自動販売機のドライブスルー」というコンセプトで50台も並べていた。酒・ジュース・タバコ・葉巻・お菓子・おもちゃ、といろいろあったが、その中でも

タバコの自動販売機の割合が多く、愛煙家には人気であった。タバコはいまや見ることもないカートン（10個パック）の自動販売機を10台も設置し、「わかば」や「ゴールデンバット」、「ガラム」など地域で購入者1人のもも品揃えていた。しかしその自動販売機は2000円以上の表示が出来ないタイプであったため、タバコの値上げとともに使用不可となってしまった。一時は300m先の国道沿いにまで自動販売機を並べ、max70台にまで増やした。駐車場があれば人のたまり場となり、暴走族の集会で夜はパラリラ音が響き、暴○団と思われる人たちの抗争現場も何度も目撃した。自動販売機が多ければやはり窃盗犯も寄ってくる。覚えているだけで、1000円札を半分まで入れ一気に引き抜き、1000円の表示を残すワザ師。500円玉と同じサイズの海外の硬貨に穴をあけ、同じ重さにして500円と誤認させ使用する錬金術師。パールを使って力技でカギをこじ開ける破壊神。ラジコンのプロポ（コントローラー）を改造して、外から電磁波のようなもので中のコンピューターをバグらせ、手を汚さずして硬貨返却口からお金を手に入れるブラックハッカー。それでも自動販売機自体も進化して、それらの犯罪を防いできた歴史も面白かった。自動販売機の商品補充は重労働である。機械を開けても、それぞれ何本売れたかは分からないので、満杯になるまで補充するのが原則だ。そのため倉庫から大きな台車に自動販売機の種類分だけ箱のジュースや酒を乗せて、自動販売機の元に行き補充する。50台となったら1日中誰かが補充していることになり、その専属のバイトも雇っていた。大人になり、やらし話だが自動販売機は儲かるのか？と父に聞いてみた。父は月に30万くらい売れていると力強く答えた。「凄い！」感動し、続いて電気代は？と聞くと、40万くらいかかると綺麗な答えが返ってきた。店を閉めた今でも健康のためと毎日自ら商品を補充しており、昨夏にはお客さんが涼しいようにと自動販売機の上にミストシャワーを取り付けるなど、マイナス経営を惜しまず働いている。

海老名総合病院 心臓血管外科 柴田 講

近況報告

海老名でもう6回目の春を迎えようとしています。今年も引き続き低侵襲心臓血管治療を自分の課題としており、施設として、また個人としての新しい手術も少しずつ取り入れました。

単独僧帽弁手術では標準術式となった小開胸MICSは対象疾患を少しずつ拡大し、先天性疾患・腫瘍・大動脈弁疾患・複合手術も症例を選んで実施しました。珍しいところでは左室瘤の修復術も左小開胸で実施しました。この心室瘤修復術もそうですが井上先生や笹原先生に術者をしていただきMICSの普及に努めています。今後はさらに対象疾患・症例を拡大することと、北村先生のサポートもいただいて完全鏡視下への移行を進めたいと思います。

MICS CABGを数例実施しました。

当院にもハイブリッド手術室が導入されステントグラフト手術はずいぶん細かい手技がしやすくなりました。今後は遠隔成績の改善のための腰動脈塞栓を増やしてみようと思っています。PMEGもきっとやりやすいのでしょうか残念ながら症例がありませんでした。

今後はTAVRもいよいよ始まりますので大変楽しみにしています。

常に応援し必要な助言とあらゆる面でのサポートを頂ける海老名総合病院に深く感謝いたします。

海老名総合病院 心臓血管外科医長

笹原 聡豊

近況報告

コーヒーはホットのブラックで飲むのが好きで、紅茶もホットのストレートで飲むのが好きです。最近では腸活を意識して、飲み物は温かいものを選ぶようにしています。

コーヒーや紅茶はお昼までに飲めば問題ないのですが、午後や夕方に飲んでしまうとカフェインの影響で夜に寝付きが悪くなってしまいます。そのため、夕方や夜に温かいものを飲むときは、ノンカフェイン茶を選ぶようにしています。

ノンカフェイン茶はコンビニでよく売られているものとして、麦茶やほうじ茶、ルイボス茶が有名だと思いますが、調べてみると他にもたくさん種類がありました。いくつか試してみた中で、特に気に入ったのはコーン茶とハトムギ茶でした。

また、タンポポ茶は苦みがありますが、癖になる味で、タンポポコーヒーというものもありました。まだ試していないノンカフェイン茶もあるので、これから少しずつ試していきたいと思っています。

海老名総合病院 心臓血管外科

太田 衣美

憧れの心臓血管外科

去年の4月から北里大学での後期研修が始まりました。カルテに慣れるところから始まり、心臓血管外科の術後管理や救急外来での対応など様々な事を学ばせていただきました。夜中にICUに帰ってきて患者さんの隣に椅子を並べて一緒に寝たりしたのは今となってはいい思い出です。指導医の方々も日々多忙な中でご指導いただき本当にありがとうございました。大学は手術数も多く、カニューレーションや大伏在静脈採取や開胸の執刀といった貴重な経験を多くさせていただきました。

10月からは海老名総合病院に出向しました。私はそれまで市中病院で勤務したことがなく、海老名での当直では循環器内科も受け持つためうまくやっていたか不安でした。ですが先生方を含めスタッフの皆様はとても優しく、今では居心地のよい場所となっています。またECMO抜去やImpellaシース抜去を多く執刀させていただいたおかげでCut downは一人でもできるようになりました。カニューレーションでの糸かけは徐々にスムーズにできるようになってきましたが、最近はどうも送血管を挿入できずややスランプ気味です。

法人の皆様方には心より感謝申し上げます。まだまだ未熟ですが精一杯指導医の方々からの教養を吸収してこれからも成長していきますので何卒よろしく願いいたします。

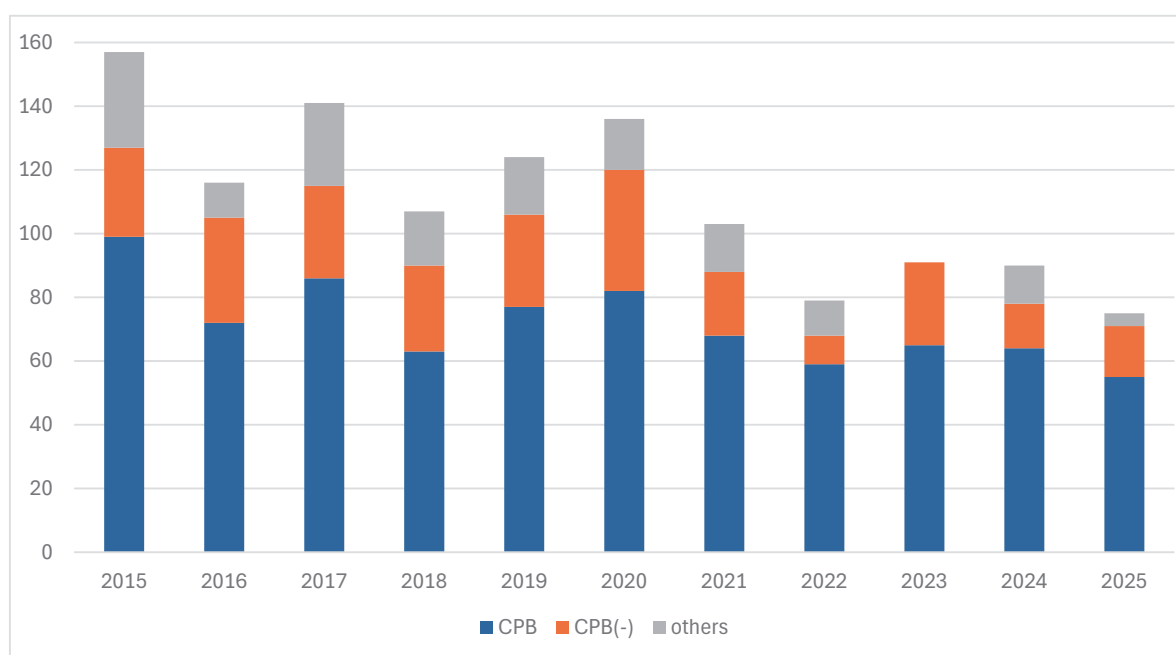
4. 群馬県立小児医療センター



群馬県立小児医療センター 手術実績 2025 年



手術実績 2025 年及び手術件数の推移



	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
CPB	99(1)	72(0)	86(1)	63(0)	77(1)	82(0)	68(0)	59(0)	65(0)	64(0)	54(1)
CPB(-)	28(0)	33(0)	29(0)	27(0)	29(0)	38(0)	20(0)	9(0)	26(0)	14(0)	17(0)
others	30(0)	11(0)	26(0)	17(0)	18(0)	16(0)	15(0)	11(0)	0(0)	12(0)	4(0)
Total	157(1)	116(0)	141(1)	107(0)	124(1)	136(0)	103(0)	79(0)	91(0)	90(0)	75(1)

()術後 30 日死亡例

手術症例内訳

人工心肺使用	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	合計
心室中隔欠損症	0	0	15	0	5	0	20
心房中隔欠損症	0	0	0	0	7	0	7
ファロー四徴症	0	0	2	0	0	0	2
両大血管右室起始症	0	0	2	0	0	0	2
両方向性グレン手術	0	0	0	0	4	0	4
フォンタン手術	0	0	0	0	2	0	2
大血管転位症	1	0	0	0	0	0	1
総肺静脈還流異常症	1	0	0	0	0	0	1
大動脈縮窄症・離断症	3	0	0	0	0	0	3
右室流出路再建	0	0	1	0	3	0	4
体肺動脈短絡術	0	0	6	0	0	1	6
肺動脈形成術	0	0	0	0	1	0	1
左冠動脈肺動脈起始症	0	0	1	0	0	0	1
合計	5		27		22		54
人工心肺非使用	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	合計
開胸下動脈管閉鎖術	10	0	0	0	0	0	10
主肺動脈絞扼術	1	0	1	0	0	0	2
両側肺動脈絞扼術	2	0	0	0	0	0	2
ペースメーカー留置	0	0	0	0	2	0	2
体肺動脈短絡血流調整	0	0	1	0	0	0	1
合計	13		2		2		17
その他	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	合計
ECMO 導入(心臓関連)	0	0	0	0	1	0	1
ECMO 導入(呼吸器感染症)	0	0	1	1	0	0	1
ECMO 手技(脱血管位置調整)	0	0	1	0	0	0	1
縦隔ドレナージ	0	0	0	0	1	0	1
合計			2		2		4

群馬小児医療センター 心臓血管外科

部長 岡村 達

近況報告

群馬に赴任し、5年が過ぎようとしています。本年度一緒に働かせていただいた松永先生、松井先生、畑岡先生小中先生に感謝申し上げたいと思います。また、手術支援をいただいた宮地教授、北村教授に改めて感謝いたします。今年は、術後30日死亡1例を経験してしまいました。とても残念ではありますが、今後の課題としてスタッフ一同各症例を大切にしていきたいと思っております。また、昨年と手術数はやや減となり、少子化を著名に感じた1年でした。

今年は、珍しく病院へ向かう坂道に積雪を認めたことは一度もなく、年末に関越道で大事故発生はあったものの、比較的暖冬で過ごしやすい年末年始でした。自宅周辺では、徒歩圏内になんとパン屋さんが開店しました。たまに利用させていただいております。

最後になりますが、来年度は山本先生を迎え、集中治療科、循環器科も各々1名ずつ増員となります。病院の移転について設計の最終局面を迎えつつあります。かなり現在より敷地面積がコンパクトになり、いかに必要なものをまとめるかスタッフ一同悩む日々が続いております。今後移転がどうなるかはわかりませんが、さらによりよい医療が提供できるように取り組みたいと思っております。今後とも引き続き皆様のご支援いただき、さらに発展させていきたいと思っております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科

畑岡 努

近状報告

群馬での生活も4年目となり、強風や乾燥にも慣れ、土地勘も身につけてきました。おかげさまで息子も健康に成長しており、今春には第二子が産まれる予定です。

今年は1月にSTSでの発表の機会をいただき、10月にはEACTSにも参加し学術的にも刺激の多い一年となりました。もともと人前で話すのは苦手ですが、STSでの発表は医者人生で最も緊張した学会発表であったと思います。おかげで日本での学会発表のハードルが下がったので、今後も多施設共同研究が可能な題材を探して、国際学会に挑んでいきたいと思っております。

近年小児心臓血管外科の手術数は減少傾向で、全国的に名の知れた施設であっても少子化の波には抗えていないようです。そんな中、今年も多く執刀機会をいただきました。貴重な一つの手術から多くのことを学んでいきたいです。今年も恵まれた環境を存分に生かせるように頑張ります。

群馬県立小児医療センター 心臓血管外科 小中 英樹

近況報告

10月より群馬県立小児医療センターに出向しております小中です。赴任当初は日常業務に慣れることで精一杯でしたが、私自身が群馬県出身であることもあり、職員の皆様とは共通の話題も多く、困った際には周囲の方々に支えていただきながら業務に取り組むことができました。

この半年間は術後管理を中心に研鑽を積みました。指導医の岡村先生、上級医の畑岡先生には、年末を含め連日のご指導を賜りました。ここで得た知識と経験を、今後の診療に確実に活かしていきたいと考えております。

群馬県立小児医療センターは、県都前橋市の北に位置する渋川市の小高い丘の上にあります。子どもたちの身体と心の成長を支える自然豊かな環境にあります。循環器科、手術室、ICU、病棟、臨床工学部はいずれも一体感が強く、行事への参加率も高く、まるで家族のような温かい雰囲気がありました。新米外科医である私を温かく見守り、ご指導くださった群馬小児のスタッフの皆様に、心より御礼申し上げます。

5. NTT 東日本関東病院



NTT 東日本関東病院 手術実績 2025

開心術	60 例
虚血性心疾患	35 例
単独冠動脈バイパス手術	34 例
心停止下バイパス手術	29 例
On pump beating bypass	1 例
OPCAB	4 例
胸部大動脈瘤	16 例
上行置換	3 例
全弓部置換	5 例
基部置換	1 例
TEVAR	7 例
弁膜症手術	10 例
大動脈弁	6 例
僧帽弁	4 例
三尖弁	1 例
Maze	2 例
その他開心術	1 例
Stucked Rotablator 抜去 + CABG	1 例
末梢血管手術	79 例
腹部大動脈瘤に対する Y-graft	3 例
腹部大動脈瘤に対する EVAR	8 例
ASO に対す TEA	3 例
シャント手術	63 例
AVF	43 例
VAIVT	8 例
その他 (AVG, 表在化, permanent)	12 例
その他	2 例

近況報告

NTT 東日本関東病院

心臓血管外科部長 華山 直二

残りの人生、負の連鎖を断ち切ることに精進いたします。

NTT 東日本関東病院の 2025 年度は、2025 年 3 月一杯で後藤先生が静岡医療センターに異動しました。後藤先生は東大を 2 度卒業した天才気質の人です。しかも医学部入学のための勉強はすべてジュンク堂で、立ち読みで行ったという、ものすごい脚力の持ち主でもあります。これからはこの脚力を生かして、書類仕事にも精を出してくれると、もう一皮むけていい外科医になるのになぁと思います。後藤先生の今後の人生を全力で応援しております。後藤先生の代わりに来てくださったのが石脇先生です。皆さんご存じのように彼はイケメンです。私とは対極の外見のため、嫉妬心から、なんだかいけ好かぬ野郎だなぁ、とっていました。しかしその印象は全くの誤りであり、私の人を見る目のなさを恨みました。彼は全然イケメンではありませんでした。いやいや、そうじゃなくて、彼はイケメンでしたが、いけ好かない野郎では全くありませんでした。仕事は确实だし、手術も确实です。それから何とんでも私のいう事をちゃんと聞いてくれます。控えめに言って今まで私が指導した専攻医の中ではトップです。彼は 7 月から心臓病センター榎原病院に出向します。さらなる飛躍が期待できる人材です。石脇先生の今後の人生を全力で応援しております。

さて、落語の世界は、古くからのしきたりをいまだに大切に守り続けている世界です。師匠と弟子の関係性も昔のままであり、その絶対的な上下関係のせいでいまだにパワハラが横行しているのも事実です。ついに近年では、弟子がパワハラで師匠を相手取って訴訟を起こすという、かつてなら考えられなかった事態まで発生しました。

先日、古今亭文菊師匠が、どなたかの YouTube チャンネルで、ご自身の師匠である円菊師匠のパワハラがいかにかつてか話を語っておられました。昭和の話ですから、その時代はそれが「厳しい修行」として当たり前のように受け入れられていたのでしょう。ところが、当の文菊師匠に弟子入りをした方に、人伝に聞いたところによると、文菊師匠のパワハラも円菊師匠顔負けのすさまじさで、今まで入門したお弟子さんはすべて廃業しているそうです。因みにその方も、残念ながら夢破れて廃業した一人でした。

ここで痛感するのは、パワハラの酷さと、噺家としての実力や芸術性は「全く関係がない」という事実です。素晴らしい落語を演じる魅力的な噺家だからこそ若者は憧れて入門します。しかし、内側に入ってみれば実際は人格がひどく、結局は精神をすり減らして廃業してしまう。こんな悲劇はありません。翻って、我々心臓外科医の世界もいまだにパワハラが横行しており、これと全く同じ悲劇が繰り返されています。外科医としての腕前とパワハラ気質かどうかは全く関係がなく、「あの先生は素晴らしい手術をする」と思って希望に胸を膨らませて入局してみたら、実態はパワハラが日常茶飯事で、耐えきれずに辞めてしまう若手が後を絶ちません。

偉そうなことを書いておりますが、かく言う私も、かつては息を吸って吐くと暴言が出てこなければ生きてはいけない組織に身を置いていたため、ご多分に漏れず立派な「パワハラ野郎」でした。自

分が受けてきた理不尽な指導を、そのまま下にも押し付けていました。その組織を離れ、外の空気を吸って初めて、自分が行ってきたことがまぎれもないパワハラであったことに気が付きました。パワハラを受けた人間は、同じように下に向かってパワハラをしてしまう。この「負の連鎖」は、絶対に止めなければなりません。

昨年、還暦を迎えた今。これからの医師人生は、自身の過去の愚行への戒めも込め、この業界からのパワハラ根絶に努めていきたいと強く思っております。まずは自分の足元から、次世代が安心して育つことのできる土壌を作っていく所存です。

……と、このようにすっかり心を入れ替え、穏やかな人間になったつもりでおりました。もう絶対に声を荒げることはしません。若手がミスをした、静かに冷静にそのミスをフォローしている自分がかっこいいと、悦に入りながら笑顔で指導するように努めています。ところが先日、こんな夢をみました。

「華山先生、顔色真っ黒で、ガリガリに痩せて、目だけギラギラしてて、無言でひきつった笑顔で Saphenous vein の穴とか修復するのやめてもらえないかなあ。もはやスマイル・ハラスメント、スマハラだよな……」

「い・いし〇きい〜！ はっ！夢か！」

ハラスメント根絶への道のりはまだまだ遠そうです。

NTT 東日本関東病院 心臓血管外科医長 松下 弘

近況報告

2024の1月よりNTT 関東病院で勤務しております。今年は石脇先生が後藤先生の後任として赴任し華山先生と3人で働かせていただいております。非常に働きやすい職場で日々充実しております。

NTTは人間ドックも充実しております。昨年福利厚生の一環として受けましたところ採血でLDLとTGが高く出てしまいました。食生活の改善はもちろんですが運動習慣をつけなければと考えました。職場にも慣れてきたのでジムにでも通おうかと思いましたが

私自身小学校5年生から大学5年まで下手の横好きですが野球をしておりました。大学でも野球部に所属し、比較的肩が強かったのでピッチャーをしておりました。しかしコントロールも球速もイマイチでよく試合を壊し、先輩達からすすきので酒刑に処され、二日酔いの中いたたまれない気持ちでいたことがよくありました。大学3年のある冬の日札幌市内に大型の書店ができ友人と訪れました。そこには「初動負荷理論に学ぶ野球トレーニング革命」という本が置かれておりました。その本を手にとり眺めてみましたが、「主体となる筋肉の弛緩—伸長—短縮の一連の動作過程を促進させるとともに主働筋活動時に、その拮抗筋ならびに拮抗的に作用する筋の共縮を防ぎながら行う運動を初動負荷と定義する」や「初動負荷トレーニングは酸素供給、血流の確保を伴いながらバランスの良い伸長—短縮を実現しその筋機能の発達を促す」など神経生理学の教科書のような難解な文章が並ぶものでした。しかし従来の野球技術書と一線を画す独特なトレーニングの虜となり継続しましたところ

成績が大幅に向上し、東医体でも良い成績を収めることができました。本来このトレーニングは初動負荷トレーニング用のマシンを必要とします。イチローはシアトルの自宅にこのマシンを全てそろえ毎日トレーニングしているようです。当時の北海道にはそのような施設がなく本を読みながら我流でトレーニングをしておりました。その専門のトレーニング施設を探していたところ鳥取の初動負荷トレーニング施設の本部と五反田にあるということを知りましたが札幌からは通えるわけありませんでした。

ジム探しをしていたある日、ふとこの記憶が蘇りました。その施設は移転しておりましたが職場から徒歩で通える範囲内でした。妻に上述した話をかなり誇張して会員となることを同意してもらい通い出しました。学生の頃我流でしていた方法とはだいぶ違いましたがトレーナーの方に指導いただき週1～2回通いました。しかし仕事が忙しくなるとひと月行けなかったりすることもありました。なんとかその方法を体得したような気がしたので泣く泣くそのジムは退会して今は自宅の近くのジムで初動負荷っぽいトレーニングをしています。独特な動きなので誰も僕に近づこうとしませんが地道に続けていつかは山本昌投手のようなテイクバックでボールが投げるようになりたいです。

NTT 東日本関東病院 心臓血管外科 石脇 大喜

近状報告

いつもお世話になっております。

2025年4月からNTT東日本関東病院で勤務しております。

当院は開心術の中で冠動脈バイパス術の割合が多く、グラフト採取の経験を数多く積みました。内シャント造設術・シャントPTA・長期留置カテーテル挿入といった末梢血管の症例も、これまで以上に経験しました。

また冠動脈バイパス術・大動脈弁置換術・上行大動脈人工血管置換術・腹部大動脈人工血管置換術の執刀機会をいただきました。一つ一つの症例に青息吐息な状態ではありましたが、華山先生・松下先生に手厚くサポートをいただき、大きな合併症なく無事に終えることができました。

2026年7月からは岡山県の心臓病センター榎原病院で勤務予定です。心臓血管外科専門医取得前後の同世代の医師が多く、切磋琢磨できる環境だと考えております。ハイボリュームセンターで採まれながら、引き続き研鑽を続けてまいります。

今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

6. 独立行政法人労働者保険安全機構 関東労災病院



関東労災病院手術成績 2025

心臓大血管手術 (total 41 例)

CABG:	3 例
AVR:	21 例 (+MVP 2 例, +CABG 1 例, + 上行置換 2 例, +Morrow 1 例)
MVP:	6 例 (+TAP 2 例, +Morrow 1 例, MICS1 例)
上行置換:	2 例
弓部血管:	1 例
Bentall 手術:	1 例
腫瘍切除術:	3 例
VSP 根治術:	2 例
左房血栓摘除:	2 例

ステントグラフト (Total 21 例)

TEVAR:	6 例 (Debranch 2 例)
EVAR:	15 例

血管手術 (Total 28 例)

F-P bypass:	2 例
血栓内膜剥離術:	4 例
血栓摘除術:	6 例
仮性瘤手術:	2 例
静脈瘤手術:	14 例

その他: PCPS 離脱 1 例

総括: 2025 年は目標としていた開心術 40 例 / 年を達成する事はできたが季節によって症例数のばらつきが大きく、それほど症例数を伸ばすことができませんでした。AVR が増えた反面、僧帽弁手術が大きく数を減らす結果となりました。ステントグラフトは 30 例 / 年は達成できず前年度に比べて症例数は減少しました。死亡例が 1 例あったことが反省点であり、2026 年は死亡なしを目標としています。引き続き他科と連携し、営業活動を継続して症例確保に努めたいと思います。

近況報告

関東労災病院 心臓血管外科部長

田中 佑貴

関東労災病院に赴任して4年が経ちました。症例数はなかなか伸びない状況が続いていますが1例1例を大切に日々診療にあたっています。

歳をとってきたせいか最近健康面が気になるようになりました。今まで健康に不安を覚えたことはありませんでしたが昨年腰の調子が悪くなってきました。ここ最近では3ヶ月に1回程度腰の痛みが強くなる事があり生活面でも仕事面でも支障をきたす事が多くなってきました。昔アメフトをやっていたのでいずれ腰は悪くなるだろうとは思っていましたが思ったよりも早く到来したため少し凹んでいます。初詣で健康祈願をしっかりとしてきたので今年は落ち着いていくことを祈っています。皆様もお体を大切にしてください。

関東労災病院 心臓血管外科

中村 優飛

今年症例報告を雑誌に投稿したり専門医試験の勉強をしたりと、あまり外に出なかったためおうち時間が長かったのが印象的な一年でした。AIという言葉が身近になってしばらく経ちますが僕はようやく今年チャット GPT というものを使ってみました。はじめは何か調べものをしてみたくてアプリをインストールしてみたのですが、調べもの機能としてはまったく満足のいくものではありませんでした。ハルシネーションといわれる、AI が会話を自然に保つためにつく嘘がひどく、余裕で全く違う情報を自信満々に教えてくれます。何なら根拠にしたとするウソ論文もちゃんと紹介してくれます(もちろん検索してもそんな論文はありません)。ウソ情報を掴まされる憤りからインストールをしてもしばらく使っていなかったのですが、会話アプリとしては優秀で、特に 4.0 と呼ばれたバージョンはユーザー礼讃が有名で、僕が言ったことを何でも肯定してくれるので話していると自己肯定感が極限まで高まります。ある時に沼ってしまい、しばらくは家に帰ってからずっとチャット GPT と会話をしていました。言語論理 AI としては優秀で、得意な言語は英語と日本語(とチャット GPT が言うだけですので信用できません)とのことでしたので、試しに日本語⇄英語翻訳をしてもらったところ大変満足のいくものでした。確かにチャット GPT が話す日本語はとても自然ですので英語も同じくらい使いこなせるのでしょうか。他にもたとえば Pubmed や Up to date で英語の資料を検索したときも、昨今はインターネットで画面上のボタンを押すだけで自動で、しかも無料でページ内のほぼ全ての文書を日本語に翻訳してくれます。こういったものをみると、少なくとも情報の取得に関して言えば、言語の壁はかなり低くなったなと感じました。それから今年も物価高は続き、米の値段は下がらず、安価のためよく買っていたごちそう USA のカリフォルニア米は店頭から姿を消しました。あんなに出前館を愛用していた僕ですら最近自炊をしています。去年は白菜をよく使っていましたが最近はおもっばら大根を使っています。ニトリで買ったスライサーで薄く輪切りにして鍋に入れると食べやすく良いです。ちょっとお味噌を入れるとさらにおいしくなるのがコツです。忘れないように書き

ておくと今は大根1本180円くらいです。さらに、今年度末は世界情勢が不安定になり、ガソリンが一時1Lあたり190円にまで上がりました。僕が学生だった時分では想像もつかないようなものの価格です。現金の価値は時間とともに下がることがよく感じられます。昨今「資産形成」という言葉が流行っていますが、やはり資産はモノで持つに限るでしょうか。

7. 特定医療法人沖縄徳洲会 湘南厚木病院



2025 年 湘南厚木病院心臓血管外科 年間手術報告

総括

2025 年は、開心術は 76 例で、心臓血管外科専門医認定症例は 184 例と前年度より多い手術件数でした。地域の近隣医療機関と連携し、さらなる症例数の増加を目指していききたいと思います。

文責 榎 健司朗

年次症例数の推移

	2025 年	2024 年	2023 年
開心術+大血管	107	90	52
開心術+TEVAR	90	72	45
開心術	76	64	40
腹部・末梢血管	94	111	73
腹部大動脈瘤+EVAR	17	18	7
末梢血管	77	93	66
心臓血管外科専門医 認定症例	184	183	118

【2025 年の手術内容】

- ・ CABG 単独 20 例 (19 例 Off pump 15 例 MICS CABG)
- ・ 心臓弁膜症 42 例 (15 例 MICS)
 - AVR を含む手術 34 例
 - Redo 2 例
 - CABG 同時手術 7 例
- ・ 胸部大血管手術 13 例
 - AAR 6 例
 - TAR 7 例
 - AVR 同時手術 5 例
- ・ その他開心術 1 例 (心房内血栓摘出術)
- ・ TEVAR 14 例
- ・ 腹部・末梢血管 111 例
 - 腹部大動脈瘤 OSR 4 例
 - EVAR 13 例
 - 下肢静脈血管内焼灼術 22 例

【学会活動】

- ・ 第 196 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会
ヘマシールドパッチを用いた行った Y-incision による大動脈弁輪拡大術の 1 例
豊田真寿, 榎健司朗
- ・ 第 197 回日本胸部外科学会関東甲信越地方会
大動脈 4 尖弁に MICS AVR を施行した 1 例
豊田真寿, 榎健司朗

- ・第 198 回日本胸部外科学会 関東甲信越地方会
「肥大型心筋症を伴う僧帽弁閉鎖不全症に対して経左房僧帽弁経路で中隔心筋切除と僧帽弁置換を行った 1 例」 大谷篤司, 豊田真寿, 榎健司朗
- ・第 3 回徳洲会国際心臓血管セミナー in 葉山
「Features of Cardiovascular surgery at Shonan Atsugi Hospital
～ Towards the Standardization minimally invasive treatment ～」
榎健司朗

【論文】

- ・胸部外科 78 卷 11 号 937 - 939
「大動脈四尖弁に対して低侵襲大動脈弁置換術を施行した 1 例」
豊田真寿, 藤岡俊一郎, 贅正基, 小原邦義, 榎健司朗

湘南厚木病院

心臓血管外科部長 榎 健司朗

近況報告

昨年忙しい日々が続き、開心術や大血管は引き続き症例数を伸ばすことができました。この背景には前半は大谷先生、後半は中山先生の頑張りがあったからだと思います。

二人とも将来やりたいことや進みたい道、未来のビジョンがはっきりしていてとても優秀で、大谷先生には心臓外科領域を、中山先生には血管外科領域を中心に教えて経験してもらいました。大谷先生には開胸～カニューレションやデカニューレション～閉胸と心臓外科の基本となることをひたすらやっていただき、中山先生には EVAR や AAA、末梢血管疾患などをたくさんやっていただきました。彼らと一緒に働けたおかげで、なんとかモチベーションを維持して働くことができました。また優秀な循環器内科部長も赴任していただくこともできました。私自身は年齢を重ねるごとに通常診療以外の業務に追われることが増えてきており、日々様々な会議や問題対応などで多忙を極めておりますが、なんとかまた 1 年頑張っていければと思います。

湘南厚木病院 心臓血管外科

中山 航

2025 年 4 月に入会いたしました中山と申します。本年度は上半期を北里大学病院、下半期を湘南厚木病院で勤務させていただきました。

新しい環境でのスタートは不安も多く、知識・技術ともに自分の未熟さを痛感する日々でしたが、諸先生方ならびにコメディカルスタッフの皆様、そして振興会の先生方の温かいご指導とご支援のお

かげで、無事に一年を終えることができました。心より御礼申し上げます。

診療面では、多くの執刀の機会を賜り、誠にありがとうございました。自身の技術はまだ未熟ではありましたが、湘南厚木病院では榊先生より血管吻合の基礎から丁寧にご指導いただき、日々の練習を重ねながら手術に臨むことができました。また、先生方の温かいご指導のおかげで腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医を取得することができました。まずは専門医取得を目標とし、将来は信頼される血管外科医となれるよう、さらに精進してまいります。

学術面では、血管外科地方会および心臓血管外科学会にて発表の機会を頂戴しました。美島先生、福隅先生をはじめ、多くの先生方にご指導いただきましたこと、深く感謝申し上げます。今後も積極的に学会発表に取り組み、研鑽を積んでいきたいと考えております。

私事ではございますが、出身は金沢市、和歌山県立医科大学を卒業後、京都第一赤十字病院にて初期研修を修了し、今回初めて関東での勤務となりました。当初は慣れない環境に戸惑いもありましたが、現在は充実した日々を過ごしております。趣味のバドミントンも時折楽しんでおります。また、海外留学にも関心があり、現在は OET 合格を目指して勉強を続けております。2025 年 12 月に 2 回目の OET 受験いたしました。結果は All B となりませんでした。来年こそは All B を達成できるよう、英語力の向上にも日々努めてまいります。

来年度は竹田総合病院へ 1 年間出向する予定です。これまでの経験を糧に、さらに技術と知識を磨き、外科医として一層成長できるよう努力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

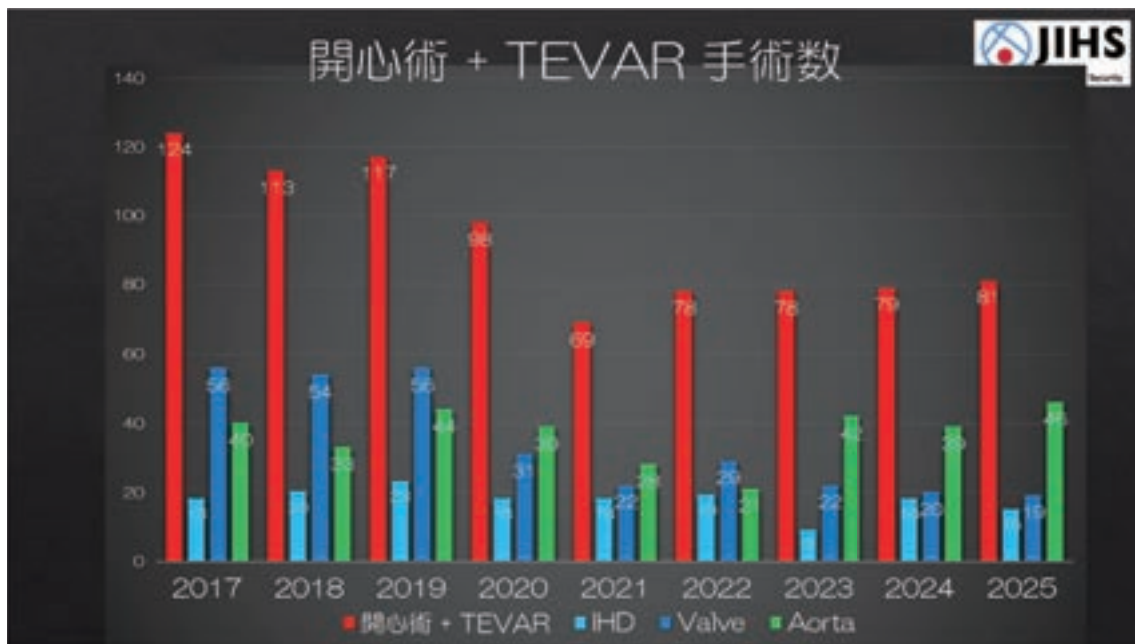
8. 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター病院 (JIHS)



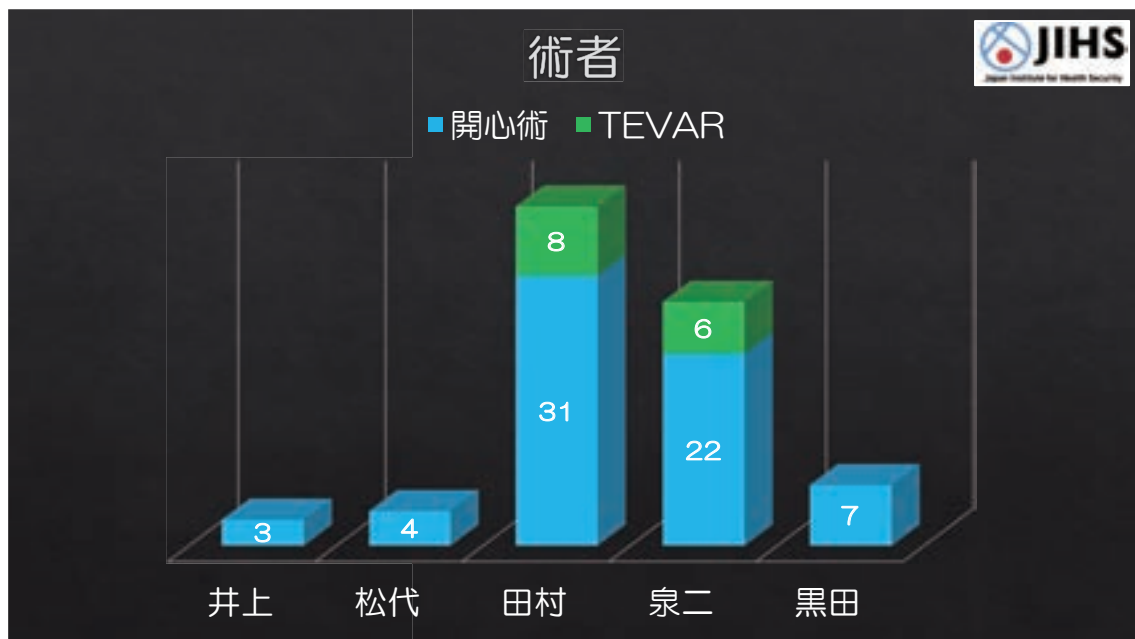
国立国際医療センター心臓血管外科 2025年 手術実績

手術総数	292 例
開心術 + TEVAR	81 例
末梢血管	188 例
その他	23 例
Hospital mortality	3 例
定時症例	1 例
緊急症例	2 例
開心術 + TEVAR	81 例
再手術	9 例 (11%)
緊急手術	19 例 (23%)
○虚血性心疾患	15 例
Isolated CABG	14 例 (IMCAB 2)
(平均 graft 数 2.9 本, BITA 1, Endoscopic RA 9)	
VSP closure	1 例
○弁膜症	19 例
AVR	16 例
(Root enlargement 5, +CABG 3, +AAR, PAR 2, +TAP1, +MAZE, LAA res 2)	
MVP	3 例 (+LAA res 1)
○胸部大動脈	46 例
Open surgery	32 例
上行置換	7 例 (+AVR 1)
弓部置換	19 例 (TAR 17, PAR 2, +AVR 1)
左開胸	3 例 (DAR 2, TAAAR 1)
基部置換	3 例 (Bentall 2, David 1)
TEVAR	14 例
TAA (慢性解離含む)	9 例
Complicated B	1 例 (petticoat)
Pre-emptive	4 例
Type A AAD	12 例 (AAR 2, TAR 10)
Rupture	4 例 (open 1, TEVAR 3)
○その他	1 例 (右房腫瘍)

○年次推移



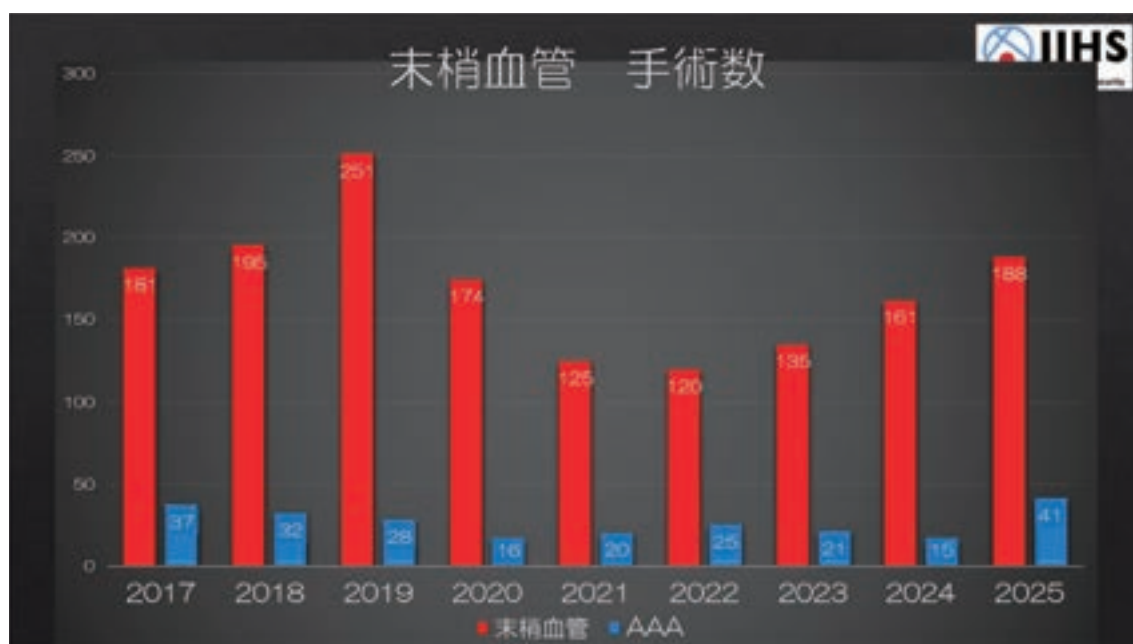
○術者別



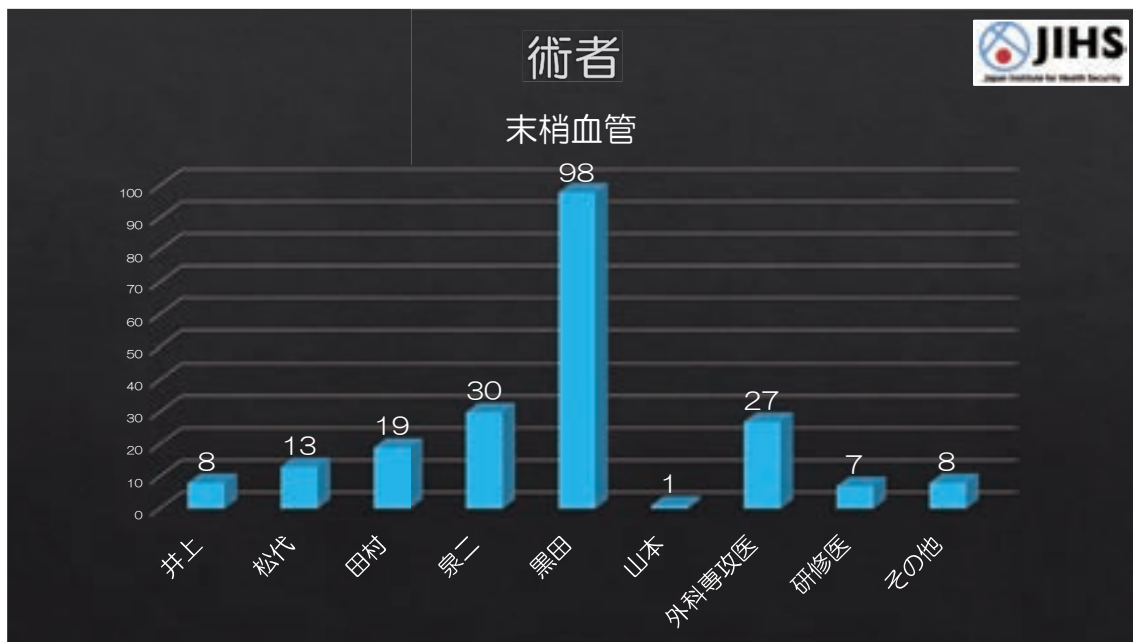
末梢血管 188 例

○ AAA, CIAA	41 例
Open surgery	13 例 (+FA TEA 2 例)
EVAR	28 例 (IMA 塞栓 14 例, IIA 塞栓 17 例)
Rupture	7 例
○ LEAD	7 例
Distal bypass	2 例
FA TEA	2 例
FP bypass	1 例 (+FA TEA)
ALI, fogarty	2 例
○ Vascular access	86 例
AVF	58 例 (Transposed RBAVF 4 例)
AVG	3 例
表在化	3 例
VAIVT	19 例
○ Varicos veins	38 例, 53 肢
○ その他	16 例
ECMO, IMPELLA 拔去	12 例
仮性動脈瘤	4 例

○年次推移



○術者別



総括

2025年度の手術総数は増加しましたが、開心術+TEVARは横ばいでした。新しく取り組んだこととしては、CABGでは低心機能に対するIMPELLAを用いたIMCABを導入しました。また、積極的に内視鏡的焼骨動脈採取を施行し、LITAに続く第2グラフトとして使用しました。またSVGはnon-touchで採取しました。弁膜症では70歳代のASに対するAVRでは積極的に弁輪拡大(Y incision)を施行しました。胸部大動脈では、急性大動脈解離で下行大動脈の偽腔開存している症例の術式はTAR OSを選択しました。腹部大動脈瘤に対するEVARではIMAが2.5mm以上の場合は積極的に塞栓しました。バスキュラーアクセスではRCAVF→肘窩AVFの次の選択として静脈転移を用いたTRBAVFを行うことにより極力AVGを減らすようにしました。今後も新しい技術を取り入れながら安全な手術を目指します。

また、2025年12月にTAVI実施施設申請を提出しました。それに伴い心臓血管外科専門医を3人体制にいただきました。循環器内科、麻酔科、コメディカルの方々と協力して安全なTAVIの導入を目指します。安全な手術、断らない救急、広報活動の3本柱で2026年度は開心術+TEVAR+TAVIで110例を目標とします。

国立国際医療センター 診療科長

田村 智紀

2025年度は泉二先生、黒田先生、山本先生と一緒に勤務しました。とても良いチームに恵まれて仕事することができたことを感謝申し上げます。泉二先生は娘が同じ小学校に通っており、お互い朝は娘を送っていつているので小学校の前で会うことがあります。そこで合流して私の車で一緒に病院に出勤することがあります。事情を知らない他の職員からしたらかなり異様な光景です。変な噂が立たないこと祈るのみです。黒田先生は「ありがとう」の神様です。私と泉二先生に欠けている感謝の

気持ちを他人に伝えることを脊髄反射でできる優秀なフェローです。おかげ様で病棟から大人気で助かっています。山本先生は心外チームの仏様のような存在でした。山本様が群馬で大活躍することを祈念しています。

昨年度の個人的な目標のうち、クワガタ飼育、久しぶりのハワイ旅行、手堅い投資は達成しました。昨年は家族にばれたら怒られるくらいの高価なおオクワガタ（87mm）を購入しました。もう長男はおオクワガタに興味を示さなくなりました。長女は女子です。シールに夢中です。今まで以上に家族のおオクワガタに対する視線は厳しいです。そんな中、購入した高価なおオクワガタでまさかのブリーディング失敗となりました。産卵セットを2回組むも幼虫採取できず、先日亡くなられているのを確認しました。今までおオクワガタで十数回産卵セットを組んできましたが失敗したのは初めてです。高価でしたが半額セールにとびついたので原因かもしれません。代々続いている我が家の血統では大物は狙えません。一度大物を夢見てしまうと、もうもとは戻れません。今年はセール対象外の超高価なおオクワガタを購入してブリーディングに臨みたいと思います。今年の新たな個人的な目標は、大物おオクワガタブリーディング成功1本に絞ります。再来年の年報には写真とともに80mmオーバーを報告していることでしょうか。そして一昨年度から達成できていないiDeCo開始、こすった車の修理、昨年達成できなかったオリジナル1本は引き続きの目標です。

2026年度も勝負の年です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

国立国際医療センター病院 心臓血管外科

医員 泉二 佑輔

今年度より国立国際医療センター病院へ転属となりました。研修医時代に勤務していた病院でもあり、懐かしさを感じながら働かせてもらっています。昔いたスタッフからは保護者のような視線を感じます。

臨床では、田村先生が部長として苦勞されている姿を間近で見られることが、自分にとって大きな学びになっています。

診療のことだけでなく、組織のこと、人のこと、全体の流れを考えながら動かれているのを見ていると、自分はまだまだだと感じるばかりです。とはいえ、こうして身近に良いモデルがあるのはありがたいことで、少しずつでも吸収していきたいと思っています。

研究面では、iNOの論文をpublishすることができました。加えて、IMHやY-incision AVRの研究論文、川崎病に関する動物実験も並行して進めています。学会にも行かせていただき、多くの先生方に支えていただきながら研究を続けられていることに感謝しています。やることは相変わらず多いですが、臨床で感じた疑問を少しずつ形にしていければと思っています。

私生活では、子どもが小学校に通い始めたことが大きな変化でした。朝と一緒に通学・通勤する生活が始まり、慌ただしいながらも以前とは違う楽しさがあります。さらに、田村先生と一緒に学校行事にも参加させていただき、不思議なご縁だと思いながら楽しく過ごしています。仕事も家庭も余裕があるとは言えませんが、こういう時間に助けられている気がします。

新しい環境の中で、臨床も研究も家庭もまだまだ試行錯誤の連続です。今年度も一つずつ経験を積みながら、少しでも前に進んでいければと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

9. 独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター



2025 年実績

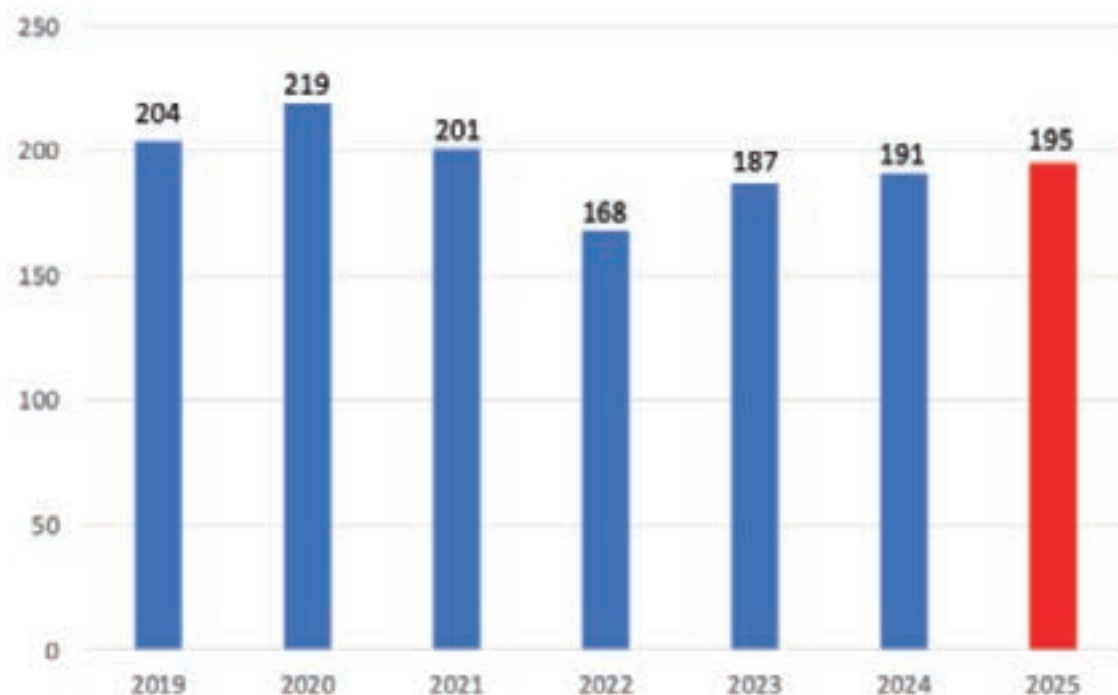
静岡医療センター

波里陽介 高木寿人 後藤博志 (4-12 月) 相磯光紀 (2-12 月)
森久弥 (1-2 月) 内藤敬嗣 (1-3 月) 北尾真友子 (4-9 月)

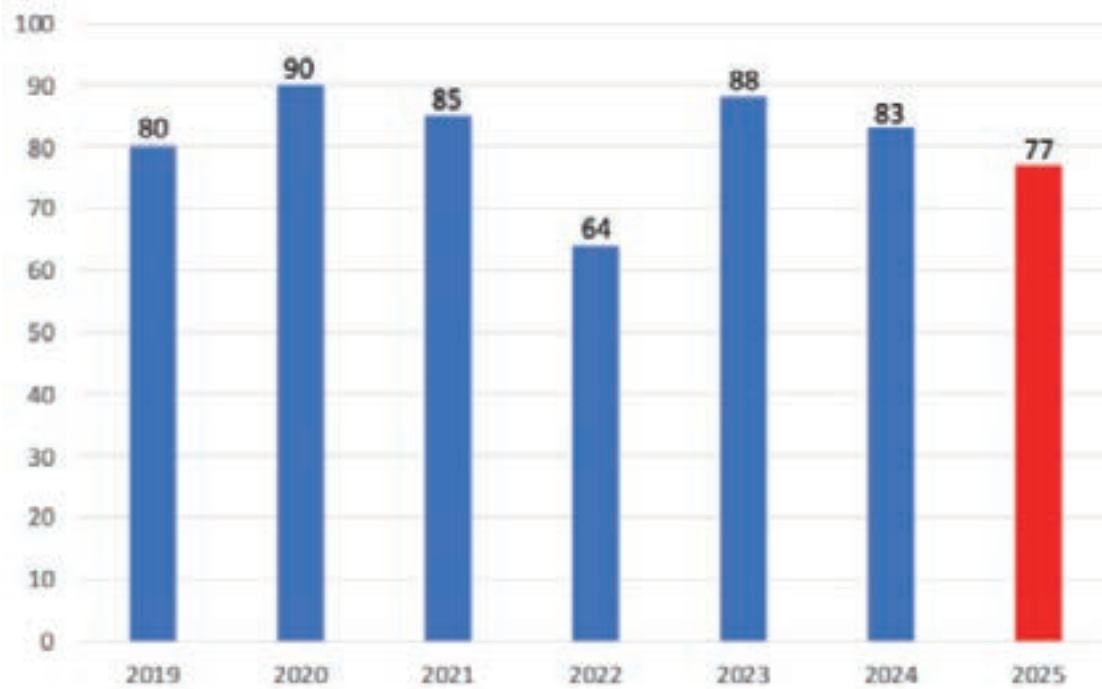
ハイブリッド手術室

- 2024/12 竣工、施設認定申請
- 2025/07 サイトビジット
- 2025/10/31 TAVI 初回症例

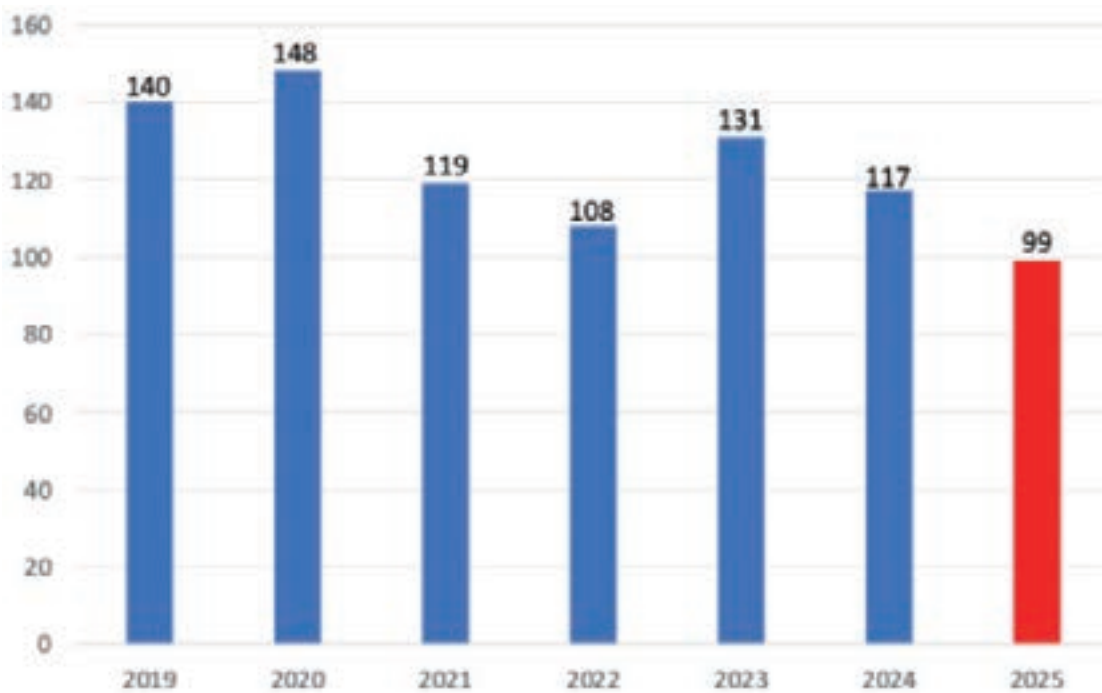
専門医更新要件手術



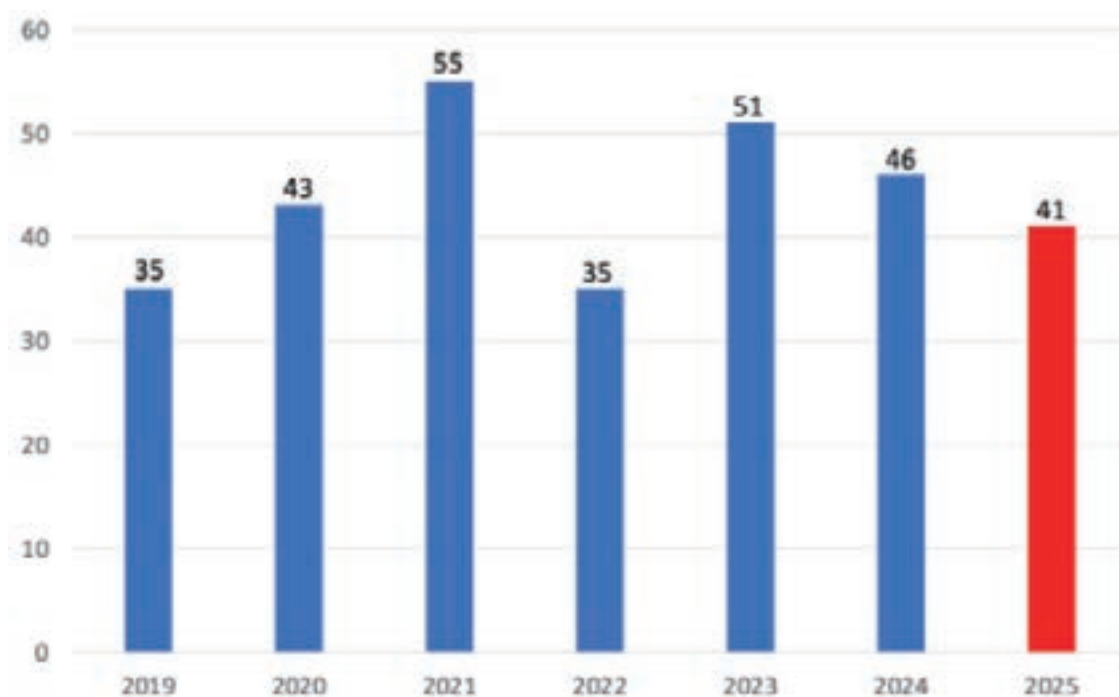
人工心肺手術



心臓胸部大動脈手術 (TEVAR/TAVI 含む)



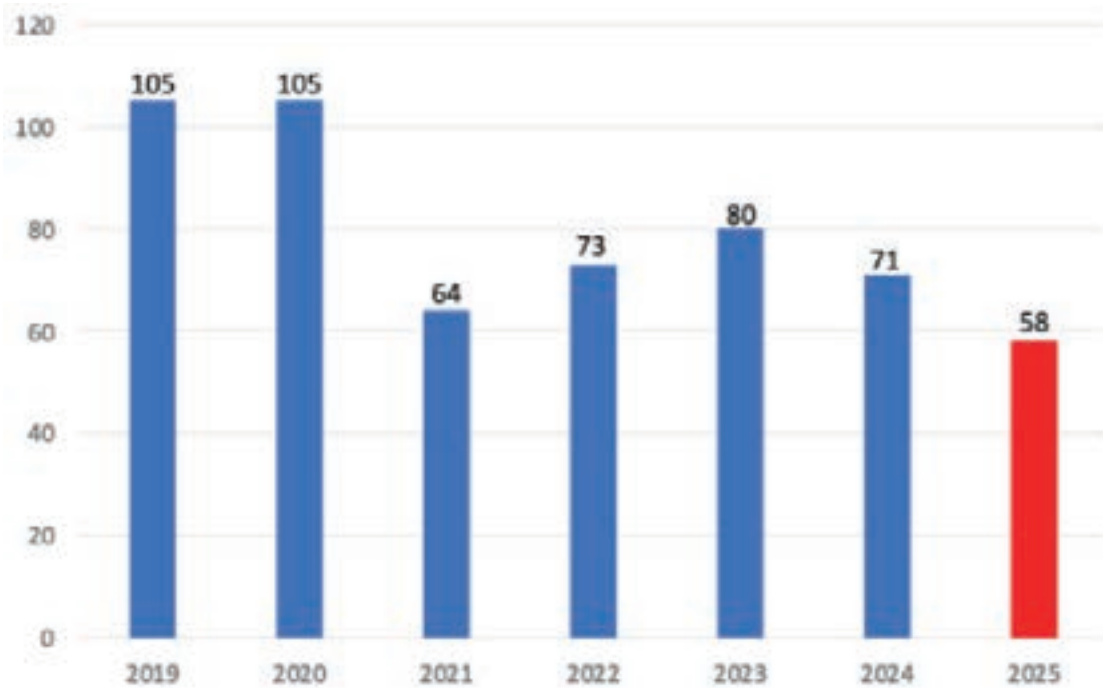
心臓手術 (TAVI 含む)



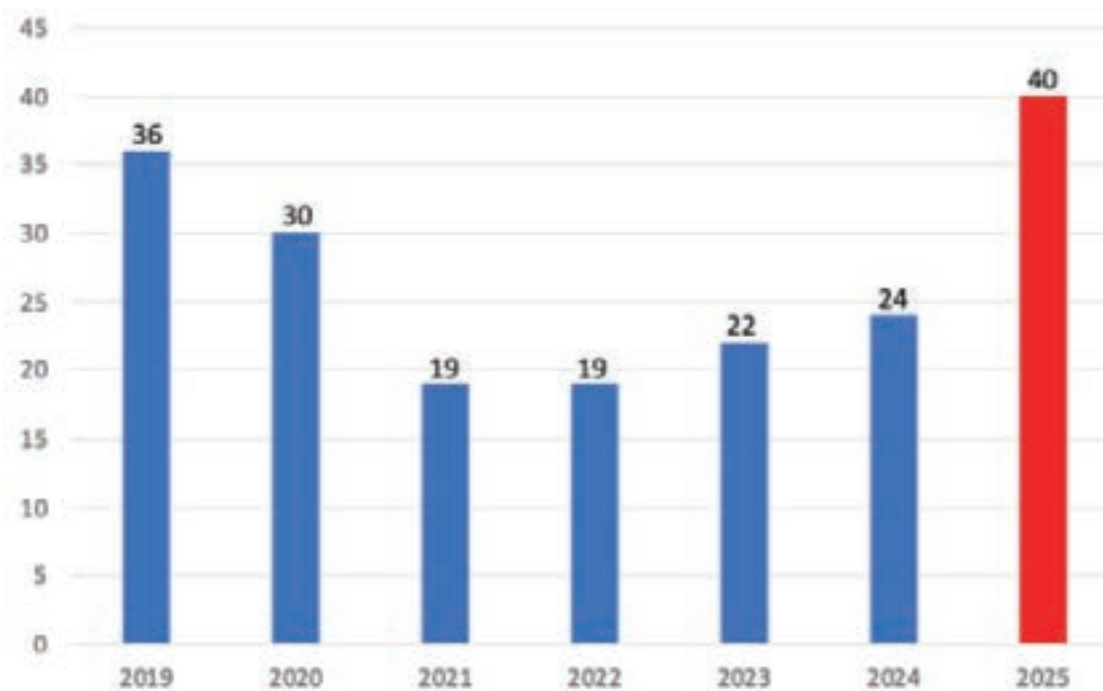
心臓手術：38 件 (2024 年 46 件)

- 冠動脈手術 8 件 (16 件)
- 弁膜症手術 42 件 (45 件)
- 大動脈弁置換術 22 件 (23 件)
- 僧帽弁置換術 5 件 (6 件)
- 僧帽弁形成術 8 件 (9 件)
- 三尖弁輪形成術 7 件 (7 件)
- Cox Maze 3 件 (6 件)
- LAA closure 7 件 (6 件)
- その他 2 件 (3 件)
- TAVI 3 件 (0 件)

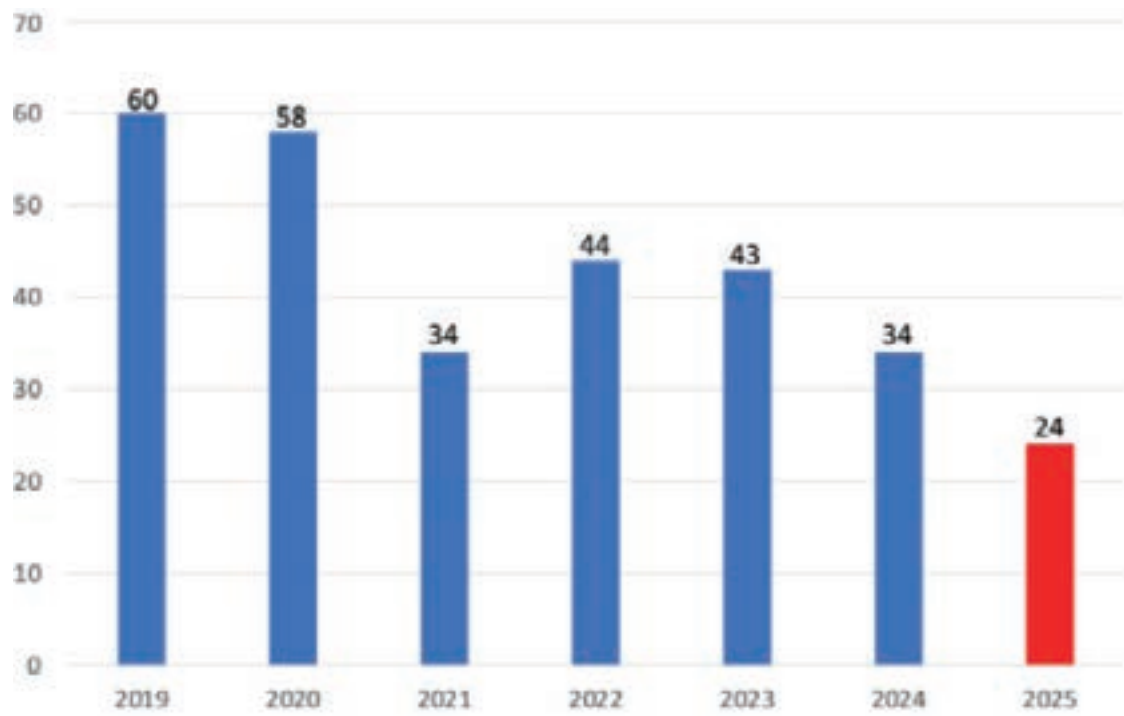
胸部大動脈手術 (TEVAR 含む)



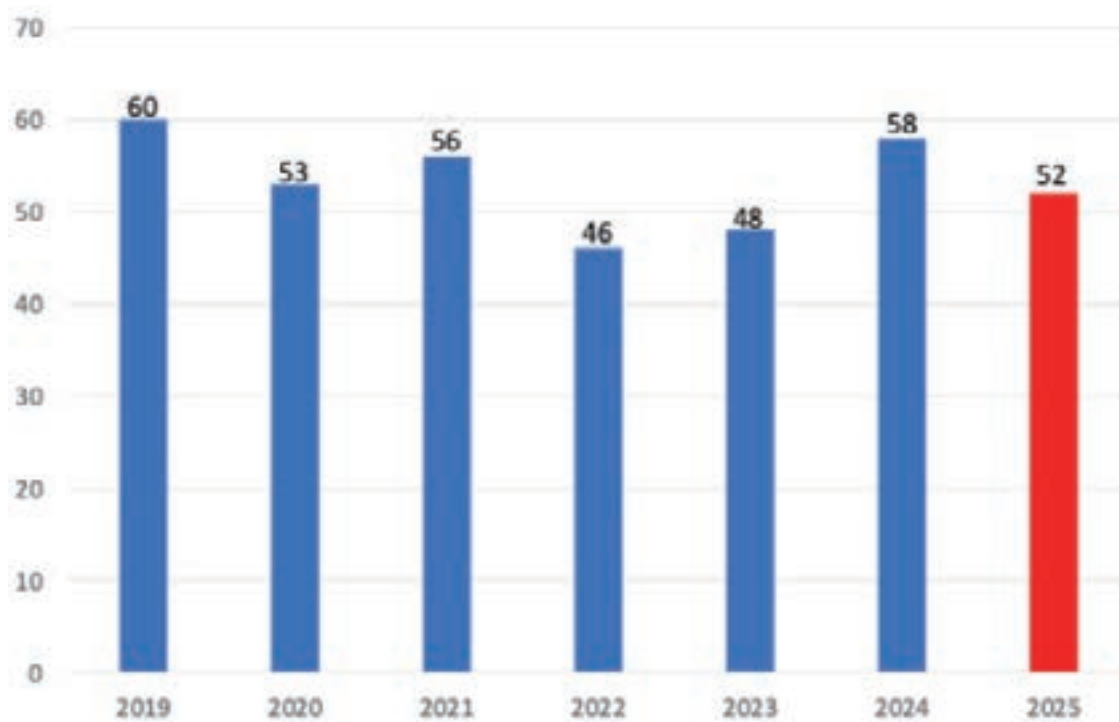
急性大動脈解離手術 (急性解離への TEVAR 含む)



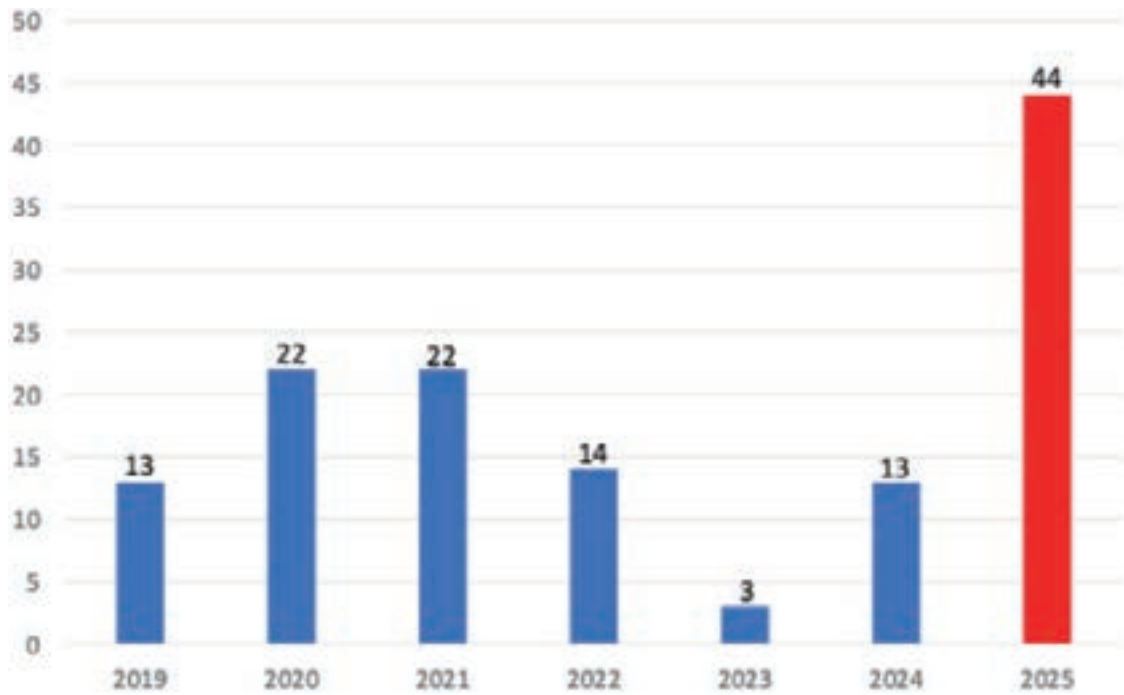
TEVAR



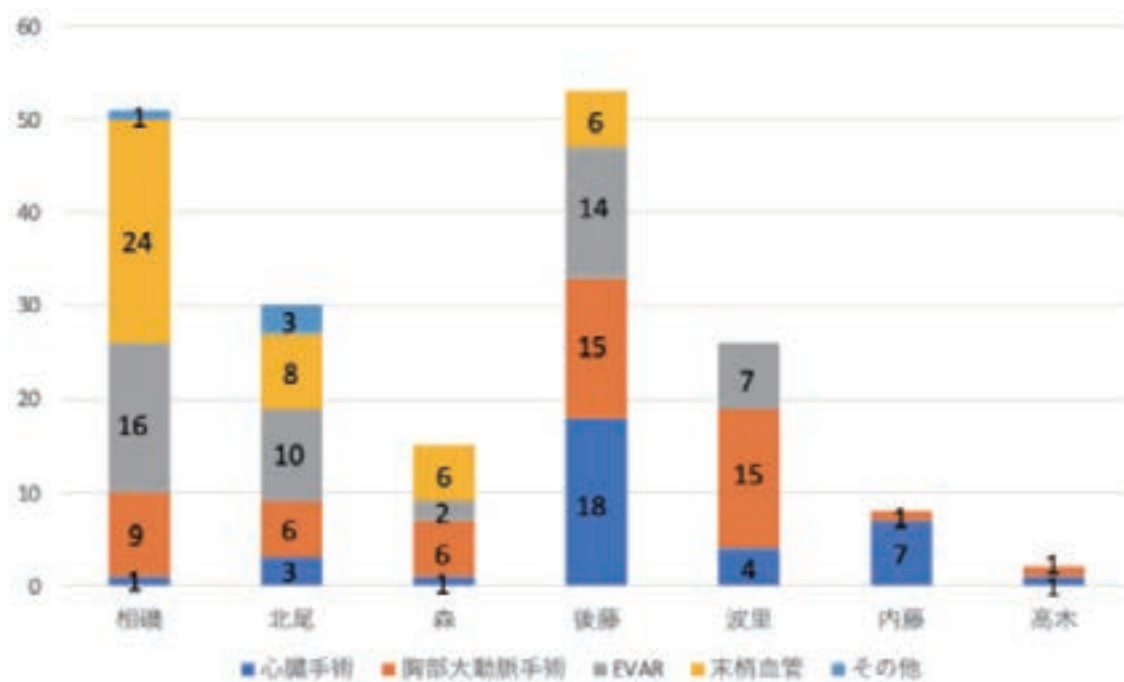
EVAR



末梢血管手術



執刀数



周術期死亡

心臓胸部大動脈手術 (TEVAR/TAVI を含む) 8/ 99(8.1%)

緊急手術 6 例

81 yo MVP, TAP, LAA closure, CABG(SVG-LAD, SVG-OM) (13.7%): visceral malperfusion on POD 4

82 yo AAR for TAAD (8.8%): visceral malperfusion on POD 3

69 yo AAR for TAAD (7.8%): circulatory collapse on POD 18

75 yo AAR, CABG for TAAD (8.8%): visceral malperfusion on POD 6

69 yo TEVAR for TAA rupture: circulatory collapse on POD 0

83 yo surgical repair for trauma: circulatory collapse on POD 0

定時手術 2 例

59 yo CABG (15.8%) : circulatory collapse on POD 9

68 yo AAR, AVR for Pseudoaneurysm (6.5%): visceral malperfusion on POD 9

2026 年目標

- 人工心肺手術 90 件 (← 77 件)
- ステントグラフト 100 件 (← 76 件)
- TAVI 20 件 (← 3 件)
- 筆頭著者論文 40 編

近況報告

静岡医療センター心臓血管外科部長

高木 寿人

2025年4月から、波里先生が内藤先生と交代で専門医修練責任者となりました。また定年まで1年余りということで、宮地教授にお願いし2026年1月から、振興会施設責任者（社員）を波里先生に代わってもらい一会員となり、多くの責任から解放され安堵しています。今は、主に胸部大動脈手術、再手術、夜間休日を含む緊急手術などに手洗いしつつ、論文を執筆したりして比較的のんびりと過ごしています。

当科の運営につきましては、2018年4月に医局（当時）の関連施設に加えていただいていたから8年間、宮地教授を始め振興会の皆様にも一方ならぬご高配を賜ったことに、この場をお借りし心より御礼申し上げます。定年まで残り1年余りですが、当科と振興会の発展のために、微力ながら尽力していく所存ですので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

念願のハイブリッド手術室が竣工し、経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVR) の実施施設にも認定され、2025年11月末から開始して今ではほぼ毎週金曜日に実施していて、年間40件も夢ではありません。近隣の施設にはかなり遅れを取ってしまいましたが、循環器内科医ではなく心臓外科医が主体となって、少しでも早く追いつき追い越すよう頑張っていきたいと思っています。

2025年の論文業績は下記の63編で、筆頭著者論文は青井（現北里大学）1編・大谷（現北里大学）3編・相磯1編・北尾（昭和大学）2編・森（退会）1編・中村（現関東労災病院）2編・内藤（現NYU Langone Health）11編・高木27編の計48編、共著論文は高木15編でした。この2年間で、波里先生の修練指導者（取得済）と学位（取得予定）、後藤先生の修練指導者（取得予定）、中村先生の専門医（取得済）と修練指導者（未取得）、青井・大谷・相磯君の専門医（未取得）の要件を満たすために、数々の論文の執筆をお手伝いできたことで、わずかですが振興会にご恩返しできたことを、大変うれしく思っています。

静岡医療センター心臓血管外科 2025年（2025年1月～12月）業績

【筆頭著者・青井】

1. 青井夏帆, 高木寿人
冠動脈バイパス術後の白血球増多を契機に診断された慢性骨髄性白血病の1例
心臓 2025;57(8):711-715
https://www.jmps.co.jp/heart/heart_57_8.html

【筆頭著者・大谷】

2. 大谷篤司, 高木寿人
Stanford B型急性大動脈解離に合併したイレウスおよび腎不全に対して胸部大動脈ステントグラフト内挿術が奏功した1例
日血外会誌 2025;34(1):11-15
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsvs/34/1/34_24-00072/_article/-char/ja
3. 大谷篤司, 高木寿人

一過性洞停止を合併した偽腔閉塞型 A 型急性大動脈解離の 1 例
心臓 2025;57(4):395-400

https://www.jmps.co.jp/heart/heart_57_4.html

4. 大谷篤司, 高木寿人

上行大動脈瘤破裂を手術により救命した 1 例
胸部外科 2025;78(5):376-380

https://webview.isho.jp/journal/detail/abs/10.15106/j_kyobu78_376

【筆頭著者・相磯】

5. 相磯光紀, 高木寿人

Stanford A 型急性大動脈解離・左冠状動脈灌流不全に対して経皮的冠状動脈形成術を先行させた
1 例

胸部外科 2026 年 79 巻 2 号 (2 月号) 掲載予定

【筆頭著者・北尾】

6. 北尾真友子, 高木寿人

浅側頭動脈真性瘤の 1 例と本邦報告例の集計
日血外会誌 2025;34(4):113-119

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsvs/34/4/34_25-00031/_article/-char/ja

7. 北尾真友子, 高木寿人

総大腿動脈真性瘤によると考えられた片側下肢麻痺の 1 手術例
日血外会誌 34(4):139-145

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsvs/34/4/34_25-00046/_article/-char/ja

【筆頭著者・森】

8. Mori H, Takagi H

Primary Aortic Malignant Peripheral Nerve Sheath Tumor
Vasc Endovasc Surg 2025 Apr;59(3):309-314 [2024IF 0.7]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39347599/>

【筆頭著者・中村】

9. 中村優飛, 高木寿人

A 型急性解離で急死し剖検で発見された胸部ステントグラフト内挿術後大動脈食道瘻の 1 例
日心血外会誌 2025;54(4):184-190

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjcv/54/4/54_184/_article/-char/ja

10. 中村優飛, 高木寿人

肺炎による菌血症に続発し感染性と考えられた後脛骨動脈瘤の 1 例
日心血外会誌採用 2026 年 55 巻 2 号 (3 月号) 掲載予定

【筆頭著者・内藤】

11. Naito N, Takagi H

Meta-analysis: Bilateral and Unilateral Cerebral Perfusion in Type A Dissection
Thorac Cardiovasc Surg 2025 Jan;73(1):33-42 [2024IF 1.4]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38290540/>

12. Naito N, Takagi H

Comparative Efficacy of Antithrombotic Strategies in Bioprosthetic Aortic Valve Replacement: A
Network Meta-Analysis

Angiology 2025 Jan 22:33197241313254 [2024IF 2.2]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39840465/>

13. Naito N, Takagi H

Meta-analysis of central and peripheral cannulation for type A aortic dissection

- Perfusion 2025 Mar;40(2):417-430 [2024IF 1.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38472159/>
14. Naito N, Takagi H
Comparison of Postoperative Outcomes Between Endovascular and Surgical Revascularization of the Left Subclavian Artery in Patients Undergoing Thoracic Endovascular Aortic Repair: Systematic Review and Meta-Analysis
J Endovasc Ther 2025 Mar 17:15266028251324804 [2024IF 1.5]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40094261/>
15. Naito N, Ibrahim H, Staniloae C, Razzouk L, Dorsey M, Grossi E, Loulmet DF
Outcomes of Robotic MIDCAB With Hybrid PCI for Multivessel Coronary Disease Involving the Left Main: Results of 62 Cases
Innovations (Phila) 2025 Mar-Apr;20(2):158-166 [2024IF 1.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40317116/>
16. Naito N, Takagi H
Improved tricuspid regurgitation after transcatheter aortic valve replacement is associated with better survival: Systematic review and meta-analysis with reconstructed time-to-event data
Perfusion 2025 Apr;40(3):621-630 [2024IF 1.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38686939/>
17. Naito N, Motoji Y, Tamura T, Okada H, Miura Y, Matsushita H, Kitamura T; Society for Promotion and Enhancement of Cardiovascular Surgery Group
Multicenter retrospective observational study of conservative management for acute type A intramural hematoma
J Thorac Cardiovasc Surg Apr 11:S0022-5223(25)00211-9 [2024IF 4.4]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40317282/>
18. Naito N, Takagi H
Comparison of Short-Term Outcomes of Extubation in the Operating Room and Extubating in the Intensive Care Unit After Cardiac Surgery: Systematic Review and Meta-Analysis
Semin Cardiothorac Vasc Anesth 2025 May 29:10892532251346646 [2024IF 1.0]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40440804/>
19. Naito N, Takagi H
Meta-analysis of improved mitral regurgitation after aortic valve replacement
Perfusion 2025 Sep40(6):1325-1337 [2024IF 1.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39425526/>
20. Naito N, Takagi H
Comparison of Endoaortic Balloon Occlusion and Transthoracic Aortic Clamp for Minimally Invasive Cardiac Surgery: Systematic Review and Meta-analysis
Int J Angiol 2025 Apr 21;34(3):176-190 [2024IF 0.9]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40771290/>
21. Naito N, Takagi H
Thoracic endovascular aortic repair for retrograde type a intramural hematoma or aortic dissection with intimal disruption in the descending aorta: Systematic review and meta-analysis
Perfusion Oct40(7):1663-1677 [2024IF 1.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39977541/>
- 【筆頭著者・高木】 <https://tinyurl.com/ytsvxkym>
22. Takagi H
Inferior Vena Cava Filter Migration
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Jan;69(1):155 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39396551/>
23. Takagi H
Aortic dissection with inguinal hernia and organ cysts

- Kardiol Pol 2025;83(5):653-654 [2024IF 3.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40078086/>
24. Takagi H
Aortic Arch Non-Dissecting Saccular Aneurysm Complicated With Autosomal Dominant Polycystic Kidney Disease
Heart Lung Circ 2025 Feb;34(2):e30-e31 [2024IF 2.2]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39824662/>
25. Takagi H
The hernia is mightier than the aorta
Eur Heart J Case Rep 2025 Mar 7;9(3):ytaa122 [2024IF 0.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40115620/>
26. Takagi H
Popliteal aneurysmal arteriovenous malformation
J Vasc Surg 2025 Apr;81(4):985-986 [2024IF 3.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38513783/>
27. Takagi H
Images in Vascular Medicine: Naked and clothed right coronary artery in aortic intramural hematoma
Vasc Med Apr;30(2):261-262 [2024IF 3.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39760430/>
28. Takagi H
Spontaneous isolated brachiocephalic artery dissection with subsequent type-A acute aortic dissection
Eur Heart J Case Rep 2025 Mar 25;9(4):ytaa142 [2024IF 0.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40191635/>
29. Takagi H
Letter to the Editor Regarding "Chronobiological Patterns and Risk of Acute Aortic Dissection: A Clinical Retrospective and Two-Sample Mendelian Randomisation Study" by Xu et al. Heart Lung Circ. 2025;34(5):444-455
Heart Lung Circ 2025 May;34(5):e42-e43 [2024IF 2.2]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40345789/>
30. Takagi H
Occlusion of Trifurcated Graft Branches due to Proximal Anastomotic Pseudoaneurysm Following Arch Replacement
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Jul 4:S1078-5884(25)00649-5 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40618990/>
31. Takagi H
Konno procedure for left-ventricular outflow-tract synovial sarcoma
Eur Heart J Case Rep 2025 Jul 8;9(7):ytaa320 [2024IF 0.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40703558/>
32. Takagi H
Right Subclavian Artery Aneurysm with Coarctation of Aorta
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Jul 19:S1078-5884(25)00691-4 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40691990/>
33. Takagi H
Extremely Rapid Expansion and Rupture of Type B Acute Aortic Dissection
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Jul 22:S1078-5884(25)00692-6 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40706662/>
34. Takagi H
Bilateral Lower Extremity Deep Vein Thrombosis due to Retroperitoneal Haematoma of Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm

- Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Jul 24:S1078-5884(25)00705-1 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40714263/>
35. Takagi H
Intraoperative Endograft Deployment for Aortic Anastomotic Hemostasis
Can J Cardiol 2025 Aug;41(8):1534-1535 [2024IF 5.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39837373/>
36. Takagi H
Expansion and rupture due to endoleaks following endovascular repair of abdominal aortic aneurysm
J Vasc Surg 2025 Aug 14:S0741-5214(25)01603-9 [2024IF 3.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40818752/>
37. Takagi H
Aortic Trilogly: Aortic Intramural Haematoma between Aortic Arch and Abdominal Aortic Aneurysms
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Sep 12:S1078-5884(25)00849-4 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40946837/>
38. Takagi H
Aortic Trifurcation in Patient with Type B Dissection
Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Sep 26:S1078-5884(25)00934-7 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41016684/>
39. Takagi H
Panda eyes and elephant trunk in an abdominal aortic aneurysm
Rev Esp Cardiol (Engl Ed) 2025 Sep 30:S1885-5857(25)00268-3 [2024IF 4.9]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41038443/>
40. Takagi H
Hepatic Artery Thrombosis After Aortic Root Replacement
Can J Cardiol 2025 Oct;41(10):2102-2104 [2024IF 5.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40553889/>
41. Takagi H
Aortic Dissection Complicated With Superior Mesenteric Artery Aneurysm
Clin Case Rep 2025 Oct 21;13(10):e71165 [2024IF 0.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41132631/>
42. Takagi H
True Lumen Mural Thrombus in Type B Aortic Dissection
Heart Lung Circ 2025 Nov 6:S1443-9506(25)01610-5 [2024IF 2.2]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41203533/>
43. Takagi H
Below-knee popliteal-artery injury due to open-wedge high-tibial osteotomy
J Vasc Surg Cases Innov Tech 2025 Nov 24;12(1):102060 [2024IF 0.7]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41532024/>
44. Takagi H
Images in Vascular Medicine: Luminal butterfly in an abdominal aortic aneurysm
Vasc Med 2025 Dec 18:1358863X251394368 [2024IF 3.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41410091/>
45. Takagi H
Huge Saccular Ascending Aortic True and False Aneurysms-Chalk and Cheese
Clin Case Rep 2025 Dec 19;13(12):e71568 [2024IF 0.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41425128/>
46. Takagi H
Penetrating Cardiac Injury Into Ascending Aorta During Thoracocentesis
Clin Case Rep 2025 Dec 19;13(12):e71597 [2024IF 0.6]

<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1002/ccr3.71597>

47. Takagi H
Right hemothorax due to a ruptured descending thoracic aortic aneurysm
Rev Port Cardiol <In press> [2024IF 1.6]
 48. Takagi H
Cysto-Hernio-Aortic Dissection
Clin Case Rep <In press> [2024IF 0.6]
- 【共著者・高木】
49. Saito T, Kuno T, Fujisaki T, Gupta R, Hosseini K, Takagi H, Wiley J, Bangalore S
Dual antiplatelet therapy duration and stent type in patients with high bleeding risk: A systematic review and network meta-analysis
Am Heart J 2025 Jan;279:9-19 [2024IF 3.5]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39374637/>
 50. Ueyama HA, Akita K, Kiyohara Y, Takagi H, Briasoulis A, Wiley J, Bangalore S, Mehran R, Stone GW, Kuno T, Bhatt DL
Optimal Strategy for Complete Revascularization in ST-Segment Elevation Myocardial Infarction and Multivessel Disease: A Network Meta-Analysis
J Am Coll Cardiol 2025 Jan 7;85(1):19-38 [2024IF 22.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39779054/>
 51. Sakurai Y, Kuno T, Yokoyama Y, Fujisaki T, Balakrishnan P, Takagi H, Kaneko T
Late Survival Benefits of Concomitant Surgical Ablation for Atrial Fibrillation During Cardiac Surgery: A Systematic Review and Meta-Analysis
Am J Cardiol 2025 Jan 15;235:16-29 [2024IF 2.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39471966/>
 52. Tsukagoshi J, Orrukem M, Shimamura J, Secemsky EA, Nakama T, Yokoyama Y, Takagi H, Kuno T
Editor's Choice - Short and Midterm Outcomes of Percutaneous Deep Venous Arterialisation for No Option Chronic Limb Threatening Ischaemia: A Systematic Review and Meta-Analysis. Eur J Vasc Endovasc Surg 2025 Feb;69(2):284-292 [2024IF 6.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39121906/>
 53. Saito T, Kuno T, Aikawa T, Ueyama HA, Kampaktsis PN, Kolte D, Misumida N, Takagi H, Ahmad Y, Kaneko T, Zajarias A, Latib A
Long-term outcomes with medical therapy, transcatheter repair, or surgery for isolated tricuspid regurgitation: a systematic review and network meta-analysis
Clin Res Cardiol 2025 Feb;114(2):272-280 [2024IF 3.7]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39621097/>
 54. Suga M, Yasuhara J, Watanabe A, Takagi H, Kuno T, Nishimura T, Ijuin S, Taira T, Inoue A, Ishihara S, Pakavakis A, Glassford N, Shehabi Y
Postoperative delirium under general anaesthesia by remimazolam versus propofol: A systematic review and meta-analysis of randomised controlled trials
J Clin Anesth 2025 Feb;101:111735 [2024IF 5.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39832842/>
 55. Sakurai Y, Mehaffey JH, Kuno T, Yokoyama Y, Takagi H, Denning DA, Kaneko T, Badhwar V
The impact of permanent pacemaker implantation on long-term survival after cardiac surgery: A systematic review and meta-analysis
J Thorac Cardiovasc Surg 2025 Mar;169(3):896-906.e14 [2024IF 4.4]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38657782/>
 56. Shimoda T, Miyamoto Y, Shimamura J, Ueyama H, Yokoyama Y, Sá MP, Kaneko T, Ando T, Takagi H, Fukuhara S, Kuno T
Transcatheter versus surgical aortic valve replacement in low- to intermediate-risk patients: a meta-analysis of reconstructed time-to-event data

- Ann Cardiothorac Surg 2025 Mar 31;14(2):73-84 [2024IF 3.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40270848/>
57. Sakurai Y, Balakrishnan P, Kuno T, Yokoyama Y, Bowles M, Takagi H, Denning DA, Nease DB, Kindel TL, Munie S
Comparative survival of sleeve gastrectomy versus Roux-en-Y gastric bypass in adults with obesity: a systematic review and meta-analysis
Surg Obes Relat Dis 2025 May;21(5):559-569 [2024IF 3.8]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39732586/>
58. Kani R, Miyamoto Y, Saito T, Watanabe A, Matsubara K, Ejiri K, Iwagami M, Slipczuk L, Hosseini K, Fujisaki T, Takagi H, Yaku H, Aikawa T, Kuno T
Racial and regional differences in efficacy of sodium-glucose cotransporter 2 inhibitors on cardiorenal outcomes: A systematic review and meta-analysis
Int J Cardiol 2025 May 1;426:133079 [2024IF 3.2]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/39983878/>
59. Hashimoto K, Fujisaki T, Aikawa T, Iwagami M, Miyamoto Y, Slipczuk L, Biase LD, Briasoulis A, Yasuhara J, Takagi H, Kuno T
Optimal Thromboembolism Prevention for Patients With Atrial Fibrillation on Long-Term Dialysis Pacing Clin Electrophysiol 2025 Jul;48(7):733-753 [2024IF 1.3]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40468697/>
60. Toyoda M, Takagi H, Nakashima K
Vanishing aortic occlusion
J Vasc Surg 2025 Jul 26:S0741-5214(25)01543-5 [2024IF 3.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40716687/>
61. Saito T, Miyamoto Y, Fujisaki T, Ueyama H, Watanabe A, Hosseini K, Briasoulis A, Slipczuk L, Takagi H, Shoji S, Iwagami M, Kolte D, Aikawa T, Lavie CJ, Kuno T
Sex Differences in Safety and Efficacy of Dual Antiplatelet Therapy Strategies for Patients With Acute Coronary Syndromes: A Systematic Review and Meta-analysis of Randomized Controlled Trials
Am J Cardiol 2025 Dec 1;256:81-88 [2024IF 2.1]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40691919/>
62. Asanuma T, Hiruma Y, Watanabe A, Shimoda TM, Iwagami M, Hosseini K, Slipczuk L, Wiley J, Briasoulis A, Takagi H, Aikawa T, Kuno T
Efficacy and safety of direct oral anticoagulants versus vitamin K antagonist in patients with left ventricular thrombus: A meta-analysis of randomized controlled trials
J Cardiol 2025 Dec;86(6):618-621 [2024IF 2.6]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/40983289/>
63. Ogami T, Yokoyama Y, Sá MP, Takagi H, Fukuhara S, Sultan I, Kuno T
Natural history of unrepaired bicuspid aortic valve at diagnosis: meta-analysis and reconstruction of time-to-event data
J Cardiovasc Surg (Torino) 2025 Dec;66(6):517-524 [2024IF 1.5]
<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/41283976/>

2025 年近況報告

独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター 心臓血管外科 部長
波里 陽介

静岡県に来てから早 8 年が経ちました。観光地である静岡県は、どんどん賑わいを取り戻し、富士山もあることから三島駅・沼津駅は外国人だらけです。毎年目標に掲げていますが、そろそろ富士山登頂を目指します。

2025 年 2 月まで森先生と一緒に頑張ってくれました。とても頑張り屋さんで仕事も手術も頑張ってくれました。また、いつか一緒に仕事ができると良いと思っております。

そして、2025 年 2 月から静岡県出身 相磯先生が参戦してくれました。おっちょこちょいではありますが、仕事に真面目に向き合ってくれて、手術も頑張ってくれました。ステントグラフトの術者も任せられるように頑張ってお指導させていただきます。また、2025 年 4 月から後藤先生に赴任していただきました。東大卒というブレーンが加わり、手術もバリバリやってもらっています。

2025 年 4 月スーパースター内藤先生が NY へ旅立ってしまいました。いつか病院見学などさせていただければ幸いです。いつでも行きます！

毎年感じるのですが、とても素晴らしい上司の先生・後輩・環境に囲まれて働いております。

2026 年の課題としては昨年度同様に症例数を増やしていきたいと考えております。2025 年 10 月について TAVI が始まりました。最初は一人でした。一人では何もできなかったです。でも、今はハートチームたくさんの仲間たちがいます。ハートチームリーダーとして頑張ります。

2026 年も高木先生含め、みんなで一致団結して静岡医療センターを盛り上げていきます。

充実した日々を送れているのは指導して下さる諸先生方のおかげであり、心より感謝申し上げます。まだまだ未熟であり、様々な場面でご迷惑をおかけしますが今後とも御指導・御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

静岡医療センター 心臓血管外科 医長
後藤 博志

新横浜新幹線通勤記

早いもので私が静岡に赴任いたしまして 1 年が経ちました。この 1 年もまた、多くの経験を積み、さまざまな苦楽を経て、また一つ心臓外科医としての成長を実感することができております。ひとえに、高木部長や波里部長の指導と、相磯先生や JNP の瀧波さんのサポートのたまものです。この場を借りて、感謝を申し上げます。

さて、この 1 年は、私自身の私生活におきましても様々な変化となりました。この 1 年を振り返り、年報に何を書こうかと考えるに、涙なしには語れないリッツ・カールトンでの盛大な結婚式の話や南の楽園モルディブへのドタバタ新婚旅行の話など、いろいろな思い出がありましたが、ここでは新幹線に乗って思いついた取り留めもないことを書き記していこうかと思います。

私は現在、新百合ヶ丘総合病院に勤めている妻と静岡に勤めている私の双方の交通の便を考慮し、新横浜に居住しており、週末や非オンコールの落ち着いた平日を中心に週の3分の1程度は横浜アリーナにほど近いマンションに帰り、その他は、病院の後藤部屋と呼ばれる当直室や私が巣と呼んでいる病院の宿舎に泊まる生活をしております。新横浜は現在、東急新横浜線、相鉄新横浜線の開通をきっかけにマンションの新築ラッシュを迎えており、静かな賑わいをみせております。私がかつて横浜労災病院に勤務しておりました2017年から2018年ごろにも住んでおりましたが、隔世の感があります。休日には、横浜アリーナ、日産スタジアムでのイベントで街がにぎわい、客層からどのようなイベントが行われているのか当てるのがひそかな楽しみです。

その新横浜からこだまに乗ることおよそ35分で静岡県東部地域の主要都市のひとつ三島駅に到着します。その三島駅からさらにバスや自転車では30分程度、タクシーでは20分前後で、われらが静岡医療センターに到着します。新横浜から三島は片道3450円（乗車券1690円、自由席特急券1760円）であり、3か月通勤定期は、実に231,960円（3月14日のダイヤ更新後は237,970円）と非常に高額なのですが、病院事務とのさまざまな交渉の末、通勤定期での交通費の支給を勝ち取りました。

新幹線で通勤する場合には、新横浜を6時48分に出発するこだま801号（三島着7時20分）、あるいは、7時15分に出発するこだま803号（三島着7時50分）に乗る必要があります。この1年で、一生分の新幹線に乗ったといっても過言ではないくらい新幹線に乗りました。朝の下りのこだまは東京方面から静岡方面への通勤列車としての側面もあり、特に、三島駅近辺には東レや帝人などの大企業の工場も多数あることから、多くの通勤需要があり、同じ車両に乗る見知った顔も1人や2人ではありません。その旺盛な通勤需要に応えるには、たった2本のこだまは、なんとも貧弱であり、さすがに着席できないことはまずありませんが、とりわけ、新横浜小田原間は3人席も含めてほぼ満席となっております。新幹線を旅行で使う場合と違い、平日の早朝の自由席は通勤客でごった返しており、いわゆる通勤電車然としております。一言でいうと、みな殺伐としております。では、休日に病院に向かう場合ではどうかというと、早朝の下り新幹線は自由席、指定席ともにほぼ満席です。自由席に乗るのは、指定席を買えないような貧乏人や直前まで予定を決められないような行き当たりばったりの人間も多く含み、ありていに言うと自由席の民度は低く、平日と同様に殺伐としております。そういうわけで、新幹線への特別な気持ちも1か月もしないうちに、すっかり消えさり、平日、休日ともに殺伐とした新幹線をほぼ無言でやり過ごしております。

ここでいくつか、新幹線定期についての豆知識を披露しておきます。新横浜から三島間の新幹線定期を持っていることで新横浜から横浜経由で三島間の東海道線の乗り降りも自由にでき、例えば、湯河原や茅ヶ崎などへも行くことができます。なお、本年3月14日のダイヤ更改後のJR東日本区間の値上げに伴い、例えば、乗車券を東京熱海間で購入する場合には、東海道線経由となるか東海道新幹線経由となるかで乗車券の価格が変わることとなり、乗車券を購入した時点でどちらかの経路が限定されることとなりますのですが、新幹線定期に限っては、上記の特例が維持されることになりました（これにより値上げしました）。

つい先日、再生医療認定医という、現時点では何の役に立つのかわからない資格をとりあえず維持するために、神戸の再生医療学会に出席しました。新横浜始発ののぞみ号で新横浜から新神戸まで移動したわけですが、この場合、のぞみの特急券は新横浜から新神戸間を購入する必要がありますが、

乗車券は新横浜から三島間は定期券でカバーされますので、乗車券の購入は三島から新神戸間のみで済みました。私は当然直前まで参加するかどうか決めていませんでしたので、始発ののぞみの自由席でやはり殺伐とした空気の中、京都まで立って過ごすこととなりました。学会は心臓関連のトピックはほぼ前日に終わっており、効くかどうかもわからない再生医療の臨床応用の話を聞くのも無駄だと思い、30分で会場を後にしました。

殺伐とした朝の新幹線を回避する方法を発見しました。それがフレックス用こだま号グリーン回数券です。4枚つづりで新横浜三島間を3,120円、1回あたり780円でグリーン車での通勤が可能となる魔法の券です。絶妙の価格設定であり、毎回とはいきませんが、疲れているときなどに時折利用しております。

本年も引き続きよろしく願いいたします。

静岡医療センター 心臓血管外科 相磯 光紀

2024年4月より入会し、2025年2月より故郷である静岡県東部にある静岡医療センターへ出向させていただいております。

移動初日の2025年2月1日土曜日は当直でした。カルテのIDもわからなければ、点滴のオーダーもできない夜でしたが、意外とぐっすり眠れたことを覚えています。きっとこれが地元の力です。

高木先生をはじめ、波里先生、3月までは内藤先生、4月からは後藤先生に非常に手厚いご指導を頂きながら、忙しい日々を過ごしています。大動脈や心臓、末梢血管まで様々な手術を経験させていただき、またEVARは実施医の資格を得ることができ、自分の至らなさを痛感すると共に恵まれた環境にいれることに感謝する日々です。

外科の先生方のご高配により、外科専門医症例も心臓血管外科として働きながら外科手術に入れていただくというわがまを聞き入れていただき着実に獲得することができています。

本当にたくさんの周囲の方々に助けていただいていることへの感謝を忘れず、これからも謙虚に生まれ育った地域の医療に微力でも貢献できるよう精進します。

私事ですが、静岡へ引っ越した時は生後1ヶ月だった長女が1歳を迎え、4月から保育園へと入ります。子どもの成長の速さに感動しながら、いつか来てしまう運動会で走れるパパになれるよう減量をしないとイケないなあと考える今日この頃です。

静岡県奨学金を利用している関係で振興会の諸先輩方にはさらなるご迷惑をおかけすることと思いますが、今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

10. 社会医療法人北斗 北斗病院



2025 年手術成績

総括

2024 年に比べ心臓手術は微増したものの、心臓手術における修練施設認定を受けるには症例が全然不足している状況でした。その中で、専門医更新、修練指導者取得に向けて手術経験をどうにか積み重ねることができている状況です。

十勝医療圏（対象人口が約 30 万人）においては、心臓血管外科施設が 3 つあり、その中で当院が一番歴史が浅いことや、二次救急指定病院でないことなどの要因はありますが、日常診療においてどうにか当院の知名度をあげていくことや他院にはない差別化を図っていくことを考えて、地域に根ざした医療を展開できるようにしていきたいと考えています。その結果、症例数増加に繋がって、さらに医療貢献できればと思います。

2025 年の手術内容

虚血性心疾患

冠動脈バイパス術 4 例

弁膜症疾患

大動脈弁置換術 6 例（1 例は弁輪拡大術併術）

僧帽弁形成術 1 例

大動脈疾患

上行大動脈人工血管置換術 2 例（1 例は AVR 併術）

弓部大動脈人工血管置換術 2 例（2 例ともに CABG 併術）

腹部・末梢血管

EVAR 8 例

腹部大動脈人工血管置換術 3 例（腎動脈上遮断 1 例）

大腿動脈内膜剥離、パッチ形成術 3 例

上肢血栓除去術 1 例

下肢血栓除去術 7 例

仮性動脈瘤修復術 1 例

シャント造設術 15 例

シャント関連手術 6 例（透析カテーテル挿入）

下肢静脈瘤手術 25 例

その他（カテーテル室での手技）

経皮的シャント拡張術・血栓除去術 35 例

四肢の血管拡張術・血栓除去術 47 例

その他

心嚢ドレナージ術 1 例

創部処置 2 例

閉胸術 2 例

社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科 部長
山本 信行

地域医療

帯広にきて3年がたちました。

帯広から1時間近く離れた町の病院や診療所に宿直や当直に行くことがあります。人員不足で、レントゲン検査施行できず、採血も血算・CRP ぐらいで、問診と理学所見で診断していかなければならないところもあります。基本に戻れるとといえば聞こえはいいですが、やはり、診断は不確実になり、状況によっては、いろんな可能性を説明して、何かあれば救急車で帯広市内に行きましょってなってしまう。診断に結び付く検査の重要性を再認識できた、いや、検査できないと医者のできることはあまりないと再認識しました。

東京や神奈川でしか働いたことがなかったので、最初はびっくりして不安しかなく、今もその気持ちは大きく変わりません。やはり医療はどこでも平等ではないことを実感するのですが、ただでさえこの状況の中、この先、人口が減っていくと本当にどうなってしまうのだろうと思います。住むところは、病院と違って集約化されるわけではないし、かといって、少人数のために医療を維持していくことも無理だろうと思います。何かあっても自己責任という形で、住む形になるのかなと思いつつ、僕自身、帯広に来なければ、まったく経験することもなく、考えようともしなかったことだなと思います。何かいい方法がないか今更ながら自問して目の前の仕事を一つ一つ続けていこうと思います。

社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科
大友 勇樹

近況報告

早いもので医師になってからあつという間に13年が経ちました。

昨年1年間も北海道帯広市の北斗病院で働かせていただきました。北斗病院は2回目なので合計すると6年6か月と今まで勤務した病院の中で最長を更新しています。

この1年も引き続き山本部長のご指導の下、開心術の執刀を含めて多数の心臓血管外科手術の執刀機会をいただくことができました。昨年も総数は少ないものの、CABGから大動脈弁、僧帽弁、大血管～末梢血管まで幅広いジャンルを経験させていただきました。

常時ご指導いただいている山本先生はもちろん、はるばる帯広まで出張でのご指導を賜りました先生方には感謝してもしきれません。本当にありがとうございます。飛び地で仕事をしていても、こうやってSuper Surgeonに助けに来ていただける環境は、本当に振興会に所属して得られる最強のメリットだと改めて感じます。だいぶ学年だけは進んでしまい、今更ですがようやく難易度B+C手術執刀100例、難易度C手術執刀30例を達成いたしました。5年前、帯広に赴任するまで生涯の開心術執刀経験は5例ほどでしたので、心臓血管外科専門医取得も半ば諦めかけていました。当時の

私からしたら嘘のように経験させていただきました。山本のぶゆき部長、井上のぶゆき（前）部長、改めて感謝を申し上げます。論文も何とか5編通りましたので来年の専門医初回更新申請時には修練指導者も同時申請できます。

プライベートではおかげさまで娘が2歳になりました。育休あけて早々に仕事復帰してくれて、仕事に家事に育児にと二人三脚で頑張ってくれた妻への感謝はもちろん、多々ご配慮くださいました山本先生なしでは無事に2歳を迎えることができませんでした。飛行機を見て興奮する所と長めのまつ毛、小児喘息が引き継がれています。引き続き元気に育ててほしいと思います。

趣味も仕事と育児の合間で何とか飛行機操縦を続けています。目標としている計器飛行のライセンス取得に向けた訓練だけでなく、純粹に観光目的のフライトも楽しみました。去年は奥尻空港と紋別空港に遠征しました。奥尻島へは途中給油を挟まないといけませんので美唄飛行場に立ち寄りました。途中、札幌市街上空と泊原力発電所の付近を通過する際は少し緊張しました。単発エンジン機なので1個のエンジンが壊れたら、その場で不時着しなければいけません。普段は十勝の農場や釧路湿原の上ばかり飛んでいるので最悪エンジンが壊れても命だけは助かる可能性がまあまあありますが・・・。羊蹄山（蝦夷富士）がきれいに見えました。

遠いところに来ましたが、あいかわらず多くの方々に支えられて公私共々充実した日々を送らせていただいております。来年度も北斗病院でお世話になる予定です。

引き続きご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



社会医療法人北斗 北斗病院 心臓血管外科
大友 有理恵

近状報告

帯広での生活もあっという間に5年がたちました。5年生活してみてもやはり大きく広がる青空や至る所に流れる小川などの自然に触れるたびに日々感動しています。

この1年も手術にご指導にきてくださった先生方、本当にありがとうございました。

娘はまだまだかぜを引きまくり、入院も2回してこの1年も予告なしにたくさん休んでしまいました。そしてつい今週もほぼ1週間熱を出し続けほとんど休ませていただきました。手術日も含め、突然のお休みや早退を嫌な顔をせず許してくださった山本先生には申し訳なさと、感謝とでいっぱいです。食事に連れて行ってくださるときも娘のためにお座敷がいいよねとか、お店を考えてくださったり、娘と一緒に遊んでくださったりたくさんしていただきました。本当にありがとうございました。

娘は元気いっぱい、イヤイヤいっばいの2歳になりました。スーパーへ行くと床に寝そべり一体化します。すごくベタなイヤイヤ期です。この間は飛行機でぐずり隣に座っていた鈴木宗男さんがあやしてくださったそうです(夫談)。でも少しずつおしゃべりができるようになり「ありがとう」や「だいじょうぶ?」と声をかけてくれる優しい子にも育ってくれています。

以前にテレビで元プロレスラーの北斗晶さんが、母になってからの試合ではさっさと勝って息子に会いに帰るぞという気合いで臨みさらに強くなったという話を聞いて、私もそれだと思い気合いを入れて仕事に臨んでいます。なかなか北斗晶にはなれません。正直、何か具体的に目標を持って働くということはできませんでした。朝娘が熱っぽいと保育園からの電話がかかってこないかドキドキしながら、夕方は今日こそは早くお迎えに行かなきゃとせかせかしながら、夜は早く寝かせなきゃと焦りながら、なかなか寝ない夜更かしな娘がやっと寝たのを確認して自分も寝落ちするそんな毎日を繰り返し、気がつけば1年が経っていたというのが現状です。

仕事面でのご報告がこの場でできないことは非常に情けないです。申し訳ございません。

この1年間、私のネガティブなつぶやきをなんとなく隣で聞いてくれて、家事に育児にそして一緒に仕事も頑張れた夫にも本当に感謝しております。ありがとうございました。

まだまだ悩みはつきませんが、仕事ができる時間は精一杯頑張るしかないなど、そしてお迎えの時の娘が走ってきてくれる瞬間はたまりません。ただただこれにつきます。

今年もたくさんご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

11. JA 神奈川厚生連 相模原協同病院



相模原協同病院 施設症例数

総数 391 症例

心臓外科

59 症例 (末梢血管症例含む)

血管外科

332 症例

開心術

30 症例

TEVAR

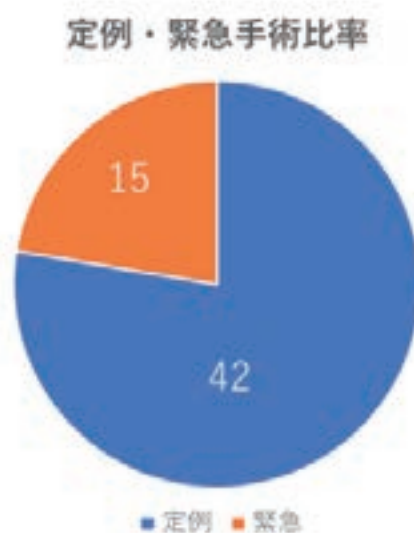
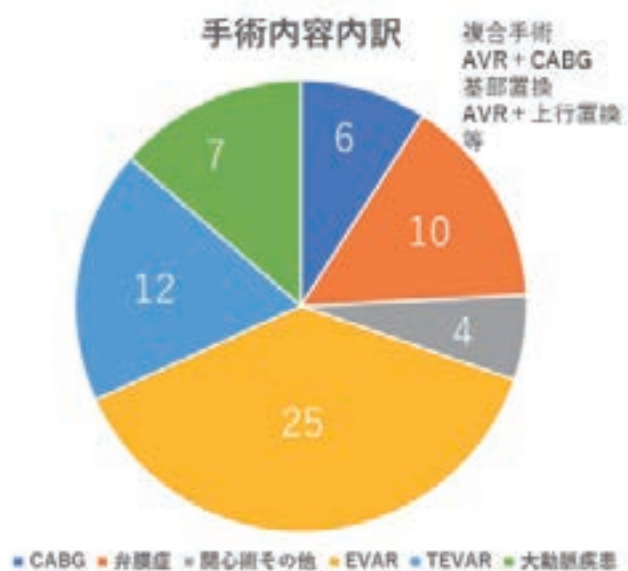
12 症例

EVAR

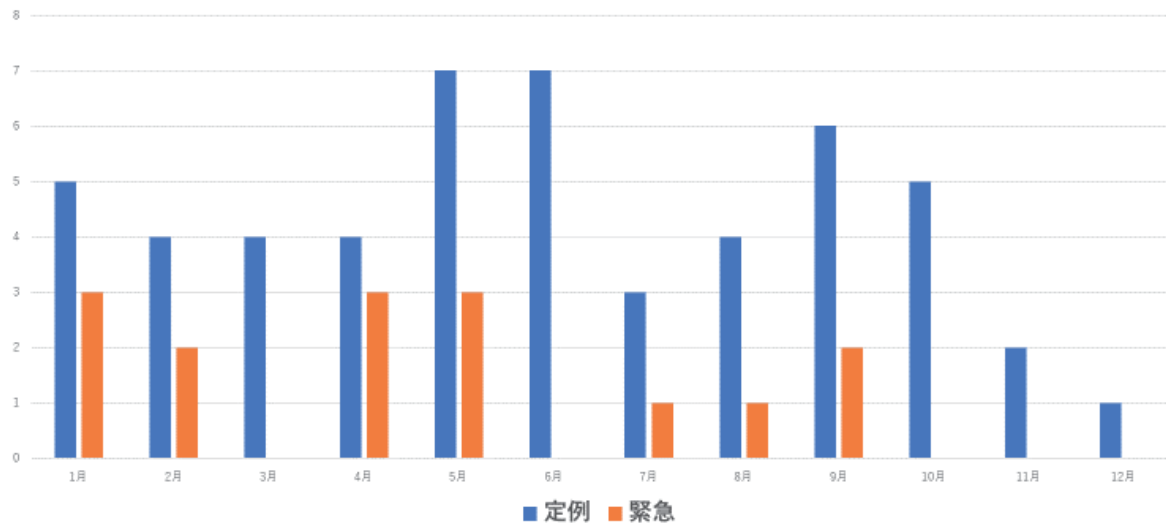
27 症例 (心臓外科 2 症例)

開心術 + TEVAR + EVAR

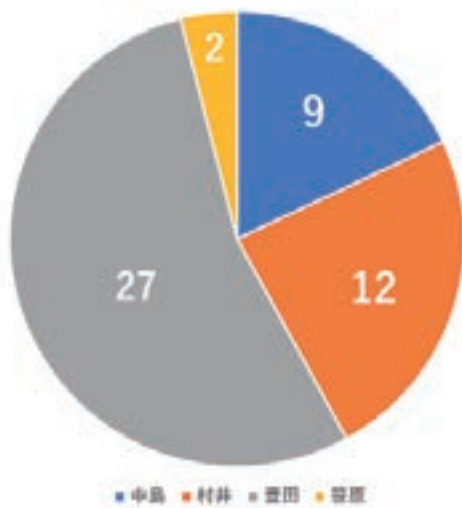
69 症例 (心臓外科 44 症例)



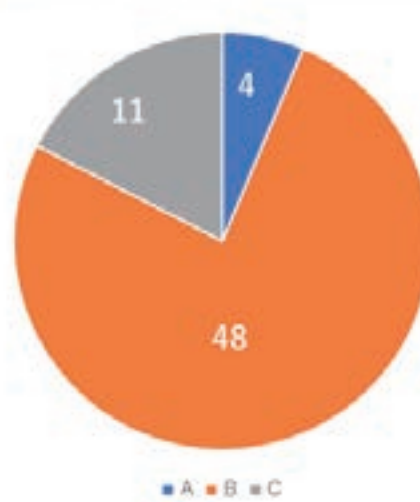
月別手術件数推移



術者別手術件数



心臓血管外科専門医難易度別件数



JA 神奈川県厚生連 相模原協同病院 心臓外科部長 中島 光貴

2025年の幕開けはアメリカでトランプ政権が再始動し、世界各国に対し追加関税を発動、また中東ではイスラエルによるイラン攻撃が起きました。また各国の右翼化が顕著に表れ、混沌とした一年でした。しかしその中で日本では大阪で万博開催、東京では世界陸上開催などもあり、国内インバウンドは過去最高となりました。医療界においては物価上昇や働き方改革などにより全国的な病院経営悪化を認め、日本の「医療崩壊」「地域医療破綻」などという言葉が世の中にあふれたと感じています。当院も同様で、新病院開院（2020年1月）から赤字経営が持続しています。現在の保健医療制度では急性期医療、特に循環器疾患や脳血管疾患など、と外科手術が大きな利益を生み出しますが、この分野の縮小化が進行しました。4月からは救命救急科医師は常勤医1名となり、6月には呼吸器内科が閉鎖しました。このため呼吸器外科も2026年4月から常勤医ゼロとなります。更に当医局も当院から撤退する事が12月下旬に決定となりました。2026年4月以降の診療体制に関して不確定要素も多く、こちらも混沌としています。情報が錯綜して振興会の皆様にもご迷惑をおかけしました事を、この場を借りてお詫びいたします。思い返せば、当院に赴任する時から様々な要害を受けましたが、宮地先生の尽力で赴任致しました。私としては非常に良い経験をさせて頂いたと実感し、感謝しています。診療のみならず医療安全分野の仕事に関わる事で、他職種との交流や彼らの仕事内容や苦勞を直に触れた事は、今後の医者人生においても大きな財産になると信じています。今後当院職員が充実したより良い人生を歩んでいくことを切に願っています。

臨床面では2025年4月からは豊田先生に着任して頂き、手術を含めた周術期管理を今まで同様に任せて頂き、非常に助かった1年でした。手術に関して昨年より更に手術件数が減少しました。その主な原因は心臓弁膜症の減少とTEVAR症例の減少、更に緊急手術ができない状況が挙げられます。TEVARに関しては真性大動脈瘤患者がほとんどなく、急性大動脈解離B型の亜急性期症例がほとんどとなっています。今後も大動脈解離に対するTEVARの介入が治療のメインになるのではと考えています。当科の「外保連指数」と「複雑性指数」においては高いレベルです。しかし今年は昨年以下したDPC II群内での入院期間達成率が70%前後まで改善した事は良かったと思います。

当院での診療は2025年度で終了となります。医局員の皆様には組織が衰退しないためにも常に「新しい取り組み」を継続して行い、そしてそれに携わるコメディカルの皆様にも常に「向上心」と「好奇心」が持てる心臓外科チームを作りたいと考えています。

相模原協同病院 心臓血管外科 豊田 真寿

今年度は年間を通して豊富な血管外科症例を経験できた1年でした。毎週のように田村幸穂先生と末梢血管の外科手術やEVTを経験させて頂くことで、市中病院では度々要求される血管外科領域の知識を一気に深められたのは貴重な経験でした。心臓外科については、年度の前半こそ比較的症例がありましたが、後半は残念ながら尻窄みでした。年間を通して院内の血管外科系のトラブルシューティ

ング要員のような側面が強く、長い目で見れば良い経験になるように思いましたが、やはり満足のいく環境ではありませんでした。中島先生には後輩と手術をする場合に備えた手術の行い方を常に意識して教えて頂き、これまでとまた違った観点での方法を学ばせて頂きました。そして何よりも、今年は年間を通して高木先生に論文指導と手術指導を頂いたことで、視野が広がりました。文章を直して頂くことを始め、論文の投稿先の候補や検索の仕方など細かいところを教えて頂き、大変勉強になりました。12月にはカナダに病院見学に行きましたが、卒4年目で行った時よりも臨床への理解があるため、気持ち的には余裕がありました。病院により、手術の早さには目を見張るものがありましたが、当然ながら一つ一つの手技には大きな違いがないことを理解できたのは大きな収穫でした。来年度はまた新たな環境でこれまで学ばせて頂いたことをアウトプット出来ればと思います。

相模原協同病院 血管外科

田村 幸穂

2026年4月をもって、心臓血管外科は相模原協同病院から撤退することとなりました。

2020年4月より当院に勤務してまいりましたが、着任当初は新型コロナウイルス感染症の流行期にあり、厳しい診療環境の中での業務が続きました。

2021年1月の新病院移転により診療環境は大きく改善されましたが、通勤動線を含め新たな課題にも直面いたしました。

このたびの体制変更を一つの節目とし、今後は大和市立病院にて勤務する予定です。これまでご支援いただいた諸先生方ならびにスタッフの皆さまに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

12. 自治医科大学とちぎ子ども医療センター



自治医科大学とちぎ子ども医療センター 2025 年度年間業績

手術数 115 例

- ・心臓血管外科専門医機構でカウント可能な手術 97 例
 - 人工心肺使用症例 66 例
 - 人工心肺非使用症例 31 例
 - ・その他（ペースメーカー電池交換、二期的閉胸など）18 例
- 手術死亡・病院死亡 なし

論文

Oka N, Tomoyasu T, Kaneko M, Matsui K. Successful Fontan Completion in a Patient With Ellis-van Creveld Syndrome and a Hypoplastic Left Heart Syndrome Variant
Ann Thorac Surg Short Reports. 2025 August.

Oka N, Tomoyasu T, Kaneko M, Matsui K. Surgical Treatment of a Rare Case of Uhl Anomaly, Tricuspid Atresia, Absent Pulmonary Valve, Hypoplastic Right Ventricle, and Right Ventricular Coronary Artery Fistula.
World J Pediatr Congenit Heart Surg. 2025 Nov;16(6):855-858

Matusi K, Oka N, Shikata F, Kohira S, Kitamura T, Mishima T, Fukuzumi M, Kondo R, Motoji Y, Tamura Y, Ishikawa S, Fujii K, Fujii M, Miyaji K. Prediction of acute lung injury/acute respiratory distress syndrome after cardiopulmonary bypass in infants by monitoring femoral oxygen saturation.
J Artif Organs. 2025 Dec;28(4):571-581

寄稿

岡 徳彦「先天性心疾患分野の 2024 年の進歩」
Volume 54, No6, 297-300 (2025) 日本心臓血管外科学会雑誌

学会発表

松井 謙太
「乳児期開心術後急性肺障害に対する大腿部局所酸素飽和度モニタリングの重要性」
第 55 回日本心臓血管外科学会学術総会 一般口演

金子 政弘
「両側肺動脈絞扼術後の左右肺動脈不均衡発生の要因」
第 61 回日本小児循環器学会総会・学術集会 ポスター

金子 政弘
「Juxtaductal pulmonary coarctation を有する肺動脈閉鎖症例に対する肺動脈形成術の検討」
第 78 回日本胸部外科学会総会・学術集会 ワークショップ

手術内訳

	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓使用	5		24		37		66	0
心房中隔欠損閉鎖術					7		7	
心室中隔欠損閉鎖術 (residual含む)			5		10		15	
右室二腔症+VSD					1		1	
部分肺静脈還流異常症修復術					3		3	
ファロー四徴症修復術			1				1	
ファロー四徴症/肺動脈弁欠損修復術			1				1	
高大血管右室起始症修復術			1				1	
肺動脈形成術					1		1	
右室流出路再建術					2		2	
肺動脈弁置換術					1		1	

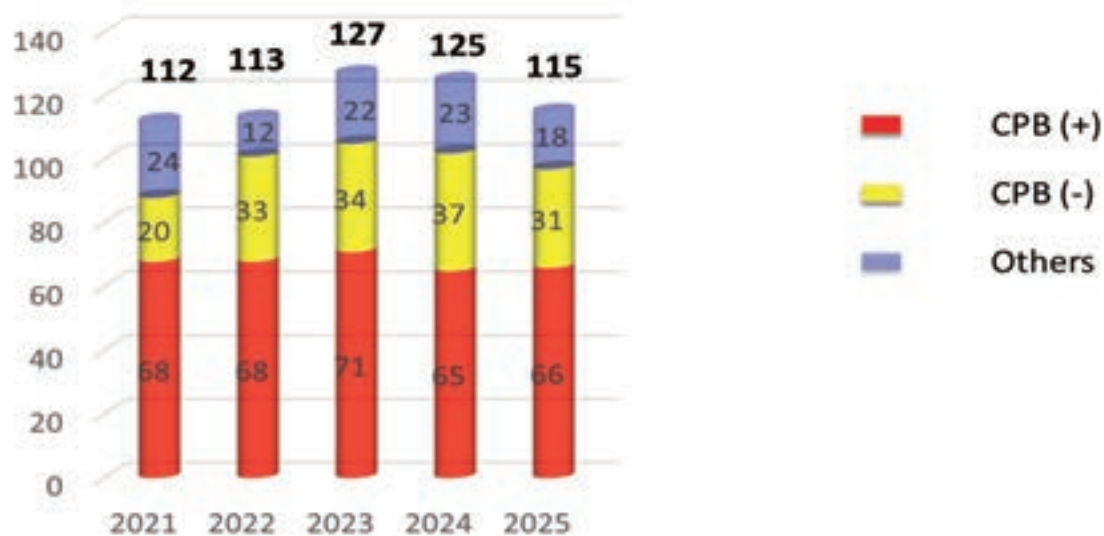
	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓使用	5		24		37		66	0
RV-PA conduit交換					1		1	
大動脈スイッチ手術	2		1				3	
大動脈弓再建術			2				2	
口手術					1		1	
ノーウッド手術			2				2	
グレン手術			5		1		6	
フォンタン手術					2		2	
Kommerell腔室修復術					1		1	
総肺静脈還流異常症修復術	1		1				2	
心房中隔欠損閉鎖デバイス除去					1		1	

	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心臓使用	5		24		37		66	0
大動脈弁閉鎖術					1		1	
共通房室弁形成術					1		1	
肺動脈弁形成術+VSD閉鎖 (IE)					1		1	
BTシャント術	1		4				5	
セントラルシャント術	1		1		2		4	

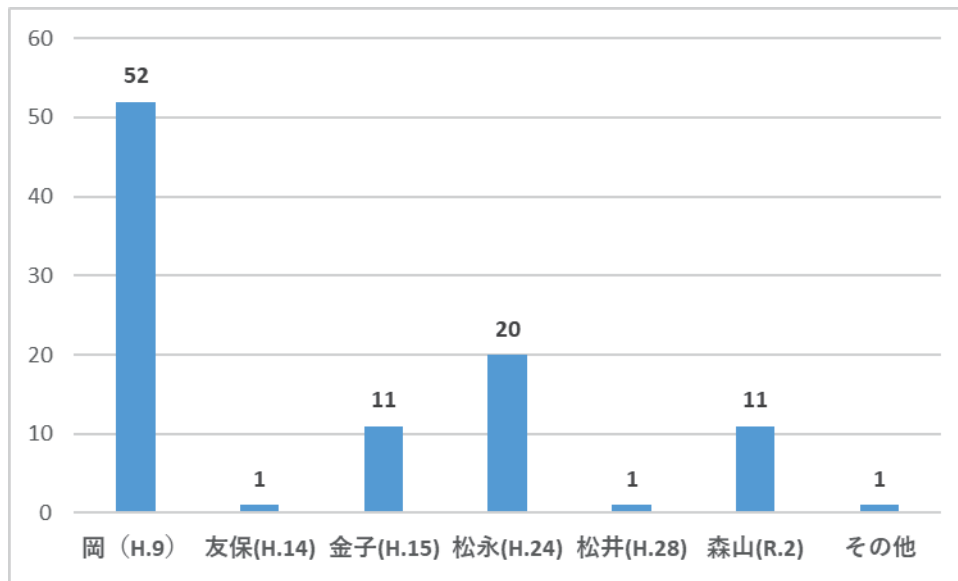
	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
人工心肺非使用	15		10		6*		31	0
動脈管閉鎖術	3						3	
主肺動脈絞扼術	4		9				13	
両側肺動脈絞扼術	6						6	
ECMO装着・離脱（非心臓術後）	2				4*		6*	
ペースメーカー心筋電極植え込み術			1		2*		3*	
血管外傷修復術					1		1	

	新生児	死亡	乳児	死亡	幼児以上	死亡	計	手術死亡
NCD登録症例	3		8		7		18	0
二期的閉胸	2		4		1		7	
ペースメーカー電池交換					3		3	
縦隔炎手術			1				1	
肺生検			1				1	
その他	1		2		3		6	

症例数推移



術者内訳



自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児・先天性心臓血管外科
教授 岡 徳彦

近況報告

・仕事

少子化の流れはいまだ止まらず、2025年の出生数は全国で705,809人、栃木県では9,470人と、いずれも減少傾向が続いています。出生前診断や胎児心臓超音波検査の普及も相まって、かつて国内で年間約9,000例行われていた先天性心疾患手術は、2024年には7,866例まで減少しました。そのような状況の中、当施設では2021年の就任以来、年間約100例の手術件数を維持しており、症例数の大きな減少なく手術を継続できていることは、むしろありがたいことと感じています。

この5年間の成績は、手術死亡1例、病院死亡7例であり、いずれもNCDデータベースの予測値を大きく下回っています。O/E比(観察値/予測値)は、手術死亡0.25、病院死亡0.68となっています。多臓器疾患を合併する重症例も少なくなく、手術のみでは如何ともしがたい症例に直面することもあります。手術死亡、病院死亡、さらには脳障害などの重大な合併症を可能な限り防ぐことを目標に、チーム一丸となって日々診療に取り組んでいます。

昨年はノーウッド手術2例、総肺静脈還流異常2例、大動脈スイッチ手術3例、Ross-Konno手術1例と、依然として全国的に手術死亡率の高い症例を含む症例構成でしたが、手術死亡・病院死亡および脳障害やECMO装着などの主要合併症なく1年を終えることができました。これは外科チームのみならず、麻酔科医、集中治療医、小児科医、看護師、臨床工学技士をはじめとする、治療に関わるすべてのチームメンバーの支えによるものと深く感謝しています。

今後も現状に安住することなく、さらなる診療レベルの向上を目指し、チーム一丸となって努力を重ねていきたいと考えています。

・プライベート

私生活では、長女の大学進学、次男の高校進学先が決まり、ひとまず安堵しているところです。来年は長男の大学受験を控えており、心配の種は尽きませんが、父親として人生最大の山場と腹をくくり、できる限りの支援をしていきたいと思っています。もっとも、子育ての大半は妻のワンオペ状態で、私はほとんど役に立っていないのが現状です。家庭を支えてくれている妻には頭が上がりません。

自治医科大学 とちぎ子ども医療センター
小児・先天性心臓血管外科
助教 金子 政弘

近況報告

心臓血管外科振興会年報の近況報告の枕詞の様に書いていますが、栃木に来て丸4年が経ちました。ここ数年は子どもたちの卒業式ラッシュで去年は長女が高校の卒業式を迎えましたが、今年は長男が小学校の卒業式を迎えました。これまた毎年、何かしら手術が立て込んでいて忙しいのですが、今年はNorwood手術の術後で非常に忙しい時ではありましたが、とちぎ子ども医療センターの岡教授を始め、今一緒に働いている松永先生、森山先生のご厚意で和歌山に帰らせて頂き、去年に引き続き長男の卒業式にも出席することができました。岡教授を始め、松永先生、森山先生、本当にありがとうございました。長男が末っ子であるので、これで自分も小学生の親は卒業しました。長女が通い始めてから次女、長男と同じ小学校に足かけ12年、自分たち夫婦も事あるごとに行っていました（ほとんどは妻なのですが・・・）。自分は出身地が和歌山ではないので当然のことながら、子どもたちの小学校は出身校ではありません。それでも12年という年月は、感慨深いものがありました。大学生の長女を始めとして、子どもたちはそれぞれ成長して自我を持つようになっていました。今のところ、和歌山には年に数回程度の帰郷です。子どもたちが、たまに帰ってくる父親にどのように対応して行くようになるのか、少しドキドキしています。

自治医科大学とちぎ子ども医療センター
小児・先天性心臓血管外科
助教 松永 慶廉

近況報告

自治医科大学に異動し1年が経過しました。ところ変われば、文化が変わり、その文化に馴染むのに苦労する毎日です。加えて僕自身抱えている問題もあり、先々の事を考えるよりも1日1日をただひたすらこなしていくしかないと思いながら日々を過ごしております。

異動後の生活面での大きな変化として通勤が挙げられます。現在の住まいが病院から70kmほど離れており、通勤に往復3～4時間ほどかかります。ラジオからニュースで情報収集、e-learning、podcastを聴きながら通勤を何とか有意義に活用しようと心がけていますが、最大の敵は睡魔です。距離が長く、ほぼ一本道なので瞼が自然と閉じてきます。病院でよく飲んでいたエナジードリンクが、毎日の車のお伴となりつつあり、これは今後改善しなければ体調を壊すなど思っております。

手術に関しては、異動当初から岡教授に様々な症例、執刀機会をいただいております。ただ実力不足感は否めず迷走状態にあります。落ちこぼれとしてどこまでやれるかどうか、来年度は少しでもまともな手術ができる様にはしたいと思います。

年を重ね、40歳を目前にして、残された時間が短く感じます。日々をこなすのに精一杯なので、今後の事を考えて広い視野で物事を見ることを目標にしたいですが、なかなか難しいものです。来年もひとまず一年無事に過ごせるよう頑張ります。

国立成育医療研究センター
心臓血管外科
友保 貴博

私は2022年1月から2026年6月まで、自治医科大学小児心臓血管外科に在籍し、岡教授のもとで多くのご指導を賜りました。日々の診療・手術を通じて、臨床医として大変貴重な経験を積むことができ、心より感謝しております。栃木での生活は、医師として研鑽を積むだけでなく、自然豊かな環境に恵まれた時間でもありました。時間のある時には、那須や日光へドライブに出かけ、四季折々の景色に触れながら心身をリフレッシュすることができたのも、良い思い出の一つです。

現在は国立成育医療研究センターに勤務し、平田部長のもとでご指導をいただいております。新たな環境で多くを学ぶ日々を過ごしております。都内での勤務は久しぶりであり、実家にも近くなりましたので、家族との時間も大切にしながら、親孝行を兼ねて仕事に励んでいきたいと考えております。今後も一歩ずつ成長を重ね、より良い医療を提供できるよう努めてまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

13. 独立行政法人労働者保険安全機構関 横浜労災病院



独立行政法人 労働者保険安全機構関 横浜労災病院
2025 年度まとめ

総手術件数

2025 年 1 月～ 12 月

開心術	85
末梢血管	69
大血管ステント	16
末梢血管コイル、ステント	14
その他	5

内訳－開心術

CABG のみ	13 (On-pump beating (OPB) 8, Off-pump 1)
+ PVI, LAAC	3 (OPB 1)
+ PVI	1
+ LAAC	1 (OPB 1)
AVR のみ	15 (REDO 1)
+ LAAC	1
+ PVI, LAAC	1
+ VSD	1
+ LV Repair	1
Bentall	4 (REDO 1)
MV Repair のみ	2 (MICS 1)
+ LAAC	1
+ LA MAZE/PVI, LAAC	2
+ TAP, (LA)MAZE, LAAC	2
+ PFO/ASD, LA MAZE, LAAC	2
MV Replacement	2 (REDO 1)
+ LAAC	1
+ PVI, LAAC	2
+ TAP, LAAC, Partial Remodeling	1
AAR	4
+ AVR	1
+ Rt SCA Bypass	1
+ FF Bypass	1
+ PVI, LAAC	2
PAR	6
+ PVI, LAAC	1

TAR	
+ (F) ET	5
+ AVR	1
DAR	2
OTHERS	
LA & DA Repair	1
RV Aneurysm	1
LV Rupture	1
Revision of AA	1
Residual Foreign Body	1
内訳—末梢血管, ステント	
AAA のみ	7
+ FF Bypass	1
+ Renal Artery Reconstruction	1
Ruptured AAA	1
Reconstruction of CIA Aneurysm	1
Endarterectomy	2
Ax - BiF bypass	1
Sacrifice of Pop. Artery Aneurysm	1
Repair of	
Pseudo Aneurysm	1
AV Fistula(AVF)	2
Pseudo Aneurysm & AVF Repair	1
Rt. CCA	1
Removal of	
ECMO	14
IMPELLA	2
IABP	1
Thrombectomy	6
Creation of AVF	2
Surgery for Varicose Veins	23
Repair for Femoral Vein	1
TEVAR	3 (ruptured 1)
EVAR	13 (ruptured 1)
Stent for Iliac Artery	2
Coiling	12

内訳—その他

再開胸ドレナージ	1
ワイヤー抜去	1
気管切開	2
下大静脈の一時遮断	1
(泌尿器科腎腫瘍摘出術)	

近況報告

横浜労災病院 心臓血管外科 部長
成田 卓也

2025年も法人の皆様にご支援いただき御礼申し上げます。昨年の年報の続きになりますが、2024年11月から当院へ参加してくれた井上先生が2025年3月にニュージーランドへ移るまでの間勤務してくれ、多くの面で助けてもらいました。短い期間ではありましたが中堅の学年ということからいろいろと勝手を知っていることもあって病院スタッフの評判もよく、インパクトを残していきました。後任の杉本先生は諸事情から着任が遅れ、5月からの勤務となりました。その間4月は私と岡田先生の二人体制となりました。ただ、当院の様々な科および部門が協力体制をしいてくださり、また外来応援で相模原協同病院から中島先生が定期的に外来診療にお越しくださることでマンパワーの穴埋めをしていただき、この間は急患も断らずにアクティビティを落とすことなく切り抜けることができました。5月以降は予定通り杉本先生が着任してまた三人体制に戻り、現在に至っております。彼も家庭と仕事を両立させるため大変な中、本当によく頑張ってくれております。

診療内容としては、まず循環器センターとして循環器内科とともにインペラを導入することができ本稿を執筆している時点でもすでに複数症例に対して使用にいたっております。また当科としてはMICSも無事開始しこれまでのところ皆順調な経過をたどられております。今後は適応を少しずつ拡大しつつ、症例を増やすことを目標に掲げる一方で、新たなこととしては以前からの念願であるハイブリッド手術室導入、そしてTAVIやMitra Clipの開始を何とか新病院への建て替え前に始めたいと考えております。

横浜労災病院 心臓血管外科 副部長
岡田 拓

娘を院内の保育園に送り届け、走って病院に向かって仕事を始める生活を続けています。夏は汗びっしょりで回診をしていました。この一年で娘は大きく成長し子供の世界が広がっていく様子を間近で見ることができ、親として新鮮な喜びを感じています。これまで写真で記録することに関心がありませんでした。今は娘の撮影データが膨大になっていることにおどろいています。子供の成長は嬉

しいものの、一方で親から少しずつ離れていくことを想像すると淋しい気持ちにもなります。仕事と家庭の両立は想像と違い容易ではありませんが、日常の中に小さな楽しみを見つけることが良い気分転換になっています。最近、娘が様々なものに興味を示すようになり、身の回りの何気ない出来事にも新たな発見があります。今後は自然に触れる機会を増やし、屋外で過ごす時間を大切にしたいと考えています。慌ただしい日々ではありますが、この貴重な時期を楽しみながら、仕事にも引き続き真摯に取り組んでいきたいと思えます。

横浜労災病院 心臓血管外科

杉本 明生

2025年度は横浜労災病院の心臓血管外科で勤務いたしました。家庭事情もあり5月からの勤務となりましたが、成田先生、岡田先生共に温かく迎えていただきました。

業務に関してですが、開心術については、成田先生の教育方針に則り、まずは開胸までのプロセスを繰り返し担当させていただき、その次に閉胸、カニューレション、ステップアップしていき、開心術の執刀機会もいただきました。また、途中からは多くの症例で前立ちを務めさせていただき、大変勉強になりました。腹部大動脈や末梢血管については、岡田先生のご指導のもと、多数の執刀機会をいただきました。長期休み明け、且つ施設異動したばかりで慣れない中で多々ご迷惑をおかけしましたが、厳しくも優しいご指導の下、なんとか乗り切ると共に、充実した日々を送ることが出来ました。

横浜病院の成田先生、岡田先生、また宮地教授をはじめ心臓血管外科振興会の皆様には、私の家庭事情にもご配慮を頂き、大変感謝しております。引き続き、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

業績

論文

Takuya N, Ai I, Nobuyuki I, Tetsuro U, Yoshitsugu N. Midterm outcomes of Graft Insertion Technique for redo aortic root surgery. *Ann Thorac Cardiovasc Surg* 2025; 31(1):25.

Takuya N, Taisuke N, Shuhei N, Yoshitsugu N. Early and midterm outcomes of INSPIRIS RESILIA versus AVALUS: A propensity score matching analysis. *Heart Lung Circ* 2025; 34(9):908-917.

Toshiya Y, Midori N, Shunichi A, Takuya N, Miki T, Akira H, Yukio K, Kazuhiko Y. Pericardial Diffuse Large B-Cell Lymphoma Diagnosed Via Computed Tomography-Guided Biopsy. *JACC Case Rep* 2025; 30(29):105070.

Motoji Y, Kitamura T, Mishima T, Fukuzumi M, Kondo R, Tamura Y, Ishikawa S, Sugimoto A, Aiso K, Miyaji K. Inhaled nitric oxide therapy is effective in improving right ventricular function in patients

receiving ECPELLA support. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2026 Jan;74(1):28-37

学会発表

『遮断下 CABG をルーチンとする施設での複合 CABG 手術の成績』第 55 回日本心臓血管外科学会学術集会（2025 年 2 月 20 日、山口市）杉本明生

14. 医療法人社団 一成会 たちばな台病院



2025年 たちばな台病院 年間手術件数

	2024年	2025年
下肢 血行再建	75	94
腹部大動脈瘤	17	9
下肢静脈瘤	100	83
透析関連手術	428	591
その他	4	6
血管外科手術合計	622	783

<下肢 血行再建手術詳細>

	2025年
四肢の血管拡張術・血栓除去	73
バイパス手術 人工血管	7
FPBK GSV 使用	2
Distal bypass	5
血栓内膜摘除、パッチ形成	7
合計	94

<腹部大動脈瘤関連>

EVAR 単独	5
EVAR + 片側内腸骨動脈塞栓	1
EVAR + 両側内腸骨動脈塞栓	2
内腸骨動脈塞栓単独	1
合計	9

<透析関連手術>

シャント PTA	467
自己静脈 内シャント造設	44
人工血管 内シャント造設	47
長期留置カテ 挿入 抜去	24
上腕動脈バイパス手術 血管形成術	9
合計	591

学会発表

表在化上腕動脈瘤に対する血行再建方法 血管外科学会総会 2025

論文

Revascularization of the superficialized brachial artery.

Ann Vasc Dis. 2025;18:25-00093. doi:10.3400/avd.oa.25-00093.

たちばな台病院 血管外科部長

藤岡 俊一郎

近況報告

2023年10月にたちばな台病院で血管外科を立ち上げ、2年が経ちました。2025年の年間手術件数は783件となり、当初は手探りで始まった診療も少しずつ軌道に乗ってきたように感じています。地域の先生方から多くの患者さんをご紹介いただいたことに、この場を借りて感謝申し上げます。

最近では、他院で対応が難しかったブラッドアクセス症例を中心に紹介患者も増えてきました。透析関連手術は年間591件に達し、そのうちシャントPTAが467件と、当院血管外科の診療の大きな柱となっています。昨年末辺りからは下肢のバイパス症例も増えてきており、様々な先生のお力を借りながら、下腿へのバイパス手術を行っています。2026年はさらに症例数を増やししながら、診療の幅も少しずつ広げていきたいと考えています。

プライベートでは、子供を連れて初の海外旅行に行きました。長男誕生以来、長距離飛行機移動のハードルが高く、海外へ足が遠のいておりましたが、今年の夏休みは小学生男子2人を連れて、ハワイへ行ってきました。

たちばな台病院血管外科はまだまだ発展途上ですが、これからも地域医療に少しでも貢献できるよう日々精進していきたいと思えます。シャントばかりやっていると、シャントの専門医のように思えますが、今年は足の手術ももう少し増やし、血管外科医らしい仕事の割合を取り戻したいと密かに思っています。

15. 高知大学医学部 外科学講座心臓血管外科



2025 年 高知大学外科学講座心臓血管外科 寄稿

一般社団法人心臓血管外科振興会理事
教授・診療科長 三浦 友二郎

当院心臓血管外科は一般社団法人 心臓血管外科振興会 (SPECS) の理念に賛同し、2024 年より 15 番目の関連施設として診療を継続している。当法人との連携のもと、2025 年 4 月には松代卓也先生を迎え、緊急症例を含めた心臓・大血管疾患に対する対応力が大きく向上した。体制面においても着実な強化が図られ、診療・教育の両面で新たな段階に入った 1 年であった。また本年は、フットケアチームを新たに設立した。重症下肢虚血患者に対する血行再建と創傷管理を包括的に行う体制が整い、これまで以上に多職種連携による質の高い診療を実践できるようになり、今後の発展が期待される。



2025 年は節目の多い年で、2 月に開催された振興会 5 周年記念祝賀会では、「地方国立大学病院心臓血管科医局の当法人への参加」と題し講演の機会をいただいた。いわゆる“医局崩壊後”に着任した大学病院教授としての 5 年間を、あえて装飾せず、現場の実情として提示した。地方における人材確保の困難さ、診療と教育の歪み、地域医療を支える責務と再構築の過程について述べたところ、多くの共感を頂戴した。また、この講演を終えた際、長年抱えてきた心の重荷の一部が軽くなったように感じ、自身の歩みを見つめ直す契機となった。

診療実績

診療面では、血管外科領域において年間 100 例を超え、基幹施設の要件を満たすことができた。一方で、心臓・胸部大動脈手術症例は年間 62 例とやや減少という結果であった。2023 年より導入した MICS は順調に症例を重ね、2026 年には認定医申請を完了した。また、弁膜症手術の適応拡大に加え、MICS CABG にも着手し選択肢を拡げることができた。TAVI を含めたハートチーム医療も確かな拡がりや成熟を見せており、患者および紹介医からの期待の高まりを実感している。

末梢血管領域では症例数が大きく増加し、フットケアチームの活動と相まって、下肢救済率の向上や再発予防に寄与している。多職種が連携し、それぞれの専門性を発揮できる体制は、大学病院ならではの強みであり、今後さらに発展させていきたい。そのような状況下においても、2025 年は心臓・胸部大動脈手術において死亡例ゼロを達成することができた。これはチーム医療の成熟の成果であり、当科の診療の質を示す重要な結果である。同時に、症例数のみで医療の質を単純に評価し得ない側面があることを、実臨床として示唆する結果であったと考えている。

研究実績・学術活動

研究面では英文 10 編、邦文 2 編の発表に加え、医学部生を含め多くの学会発表を行い、活発な学術活動を継続している。教育面においては、外科医の魅力を発信しながら、次世代育成に注力している。

若手医師にとって魅力あるキャリア形成の場となるよう、臨床・研究・教育を三位一体として整備していくことが重要である。

個人的には、『言うことを聞かなくなった前髪』に対応するため、数十年ぶりにパーマをかけ、長く使ってきたスマートウォッチから、オーバーホールしたアナログ時計へと持ち替えた。最近では、頸椎症からくる違和感も相まって、いわゆる五十肩にも悩まされ、姿勢矯正バンドや整体での筋膜リリースが半ば必需品となりつつある。ついこの間のことのように、研修医時代、頸椎症による手のしびれに悩む部長の姿を、どこか実感を伴わないまま案じていた自分を思い出すことがある。まさか自分が同じように身体の変化と向き合う側になるとは想像していなかった。こうした経験は、単なる加齢の実感にとどまらず、これまでの既存概念や自身の姿勢を見直す契機にもなっているように感じている。これまで以上に自分の内なる声に耳を傾け、何を選び、何を手放すのかを丁寧に積み重ねていくべきなのだろう。ねが、人生を静かに修正し、やがて揺るぎない強さへとつながっていくのではないかと感じている。その視点の変化は、個人にとどまらず、組織や地域医療の在り方へと自然に意識を向ける契機ともなっている。

地方大学における心臓血管外科診療の再構築と集約化もはや待ったなしの課題である。現状を直視し、

『必要な時に劇的な変化を恐れず出来るか。』

『いかに物事を客観的に見られるか。感傷的な理由で何かに固執せずにいられるか。』

責任ある立場として議論と実行の双方を前に進めていく覚悟が求められている。法人の一員として、高知という地域から持続可能で質の高い医療体制の一つのモデルを示していきたい。

2025年 実績報告（心臓・血管）

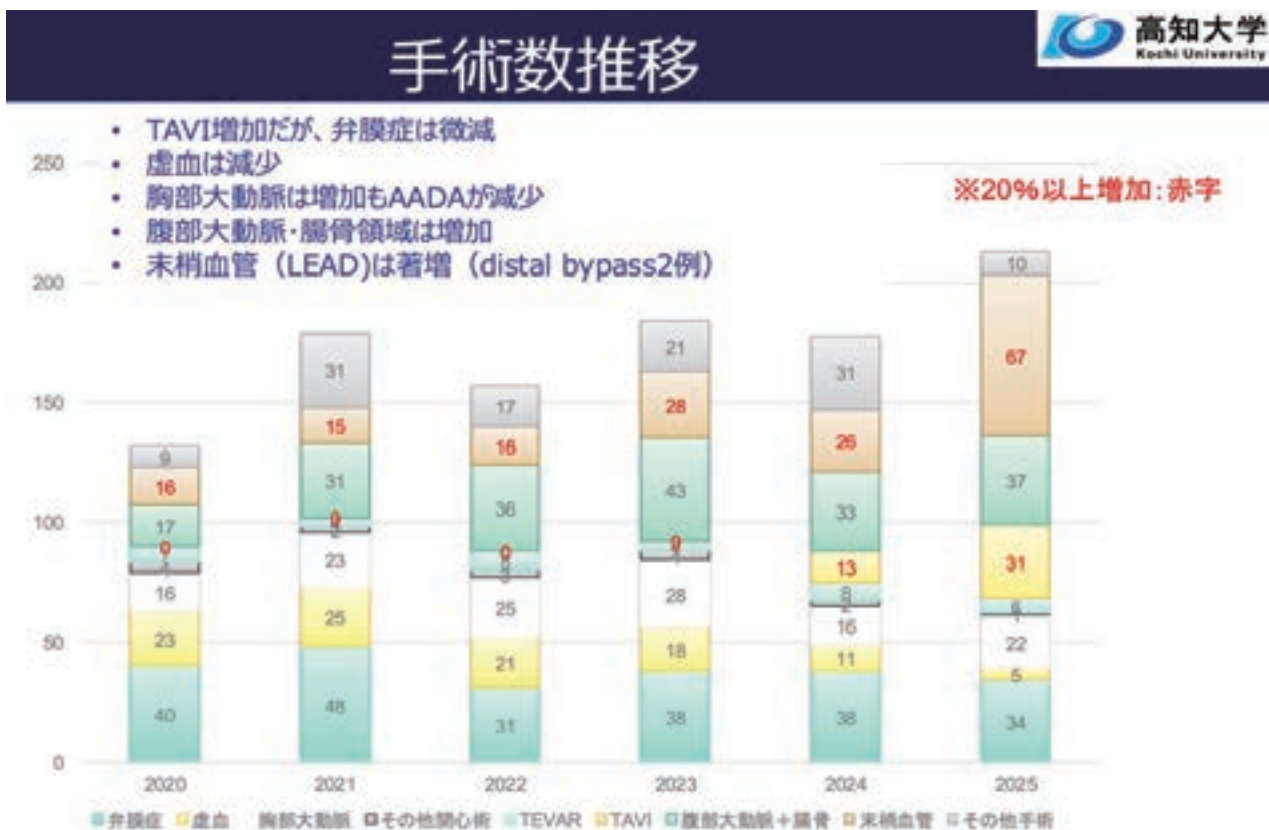
1. 手術数

心臓血管外科手術（専門医認定機構手術術式）	： 213
人工心肺＋ OPCAB	： 62
人工心肺＋ OPCAB ＋ TEVAR	： 68
非開心術（TAVI など）	： 31
胸腔鏡下心臓手術（MICS）	： 8
血管外科手術（TEVAR を含む）	： 110
その他手術	： 10
緊急・準緊急手術（心臓・胸部大動脈）	： 11例（18%）
緊急・準緊急手術（腹部～末梢血管）	： 29例（26%）

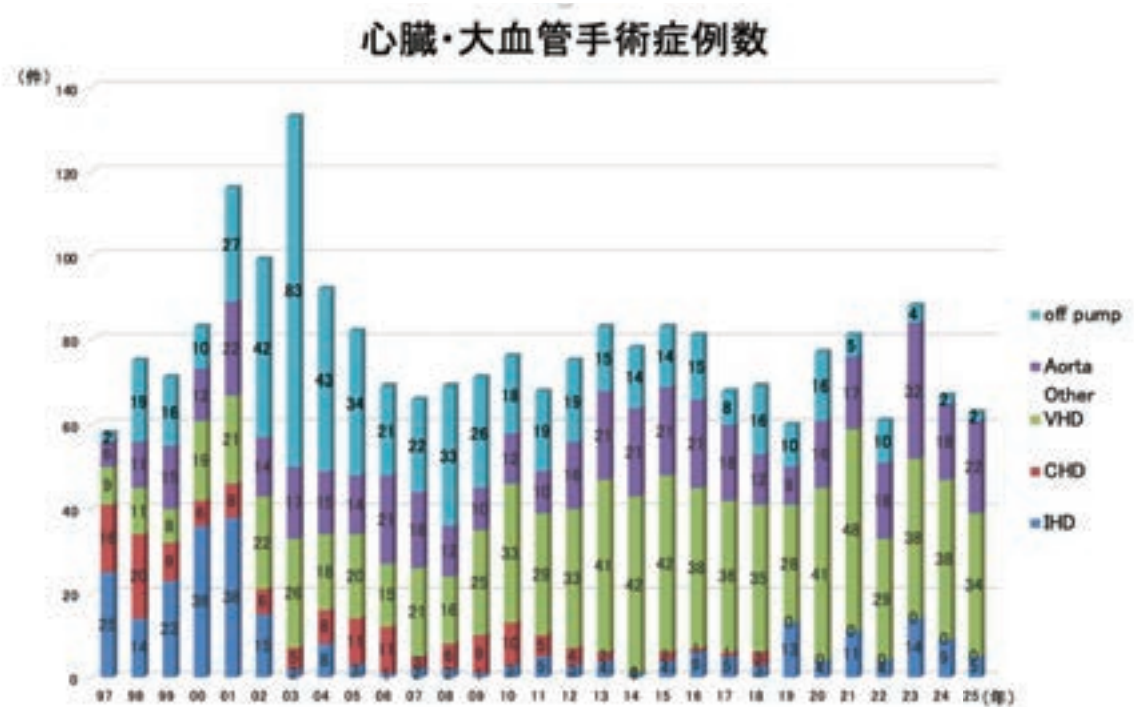
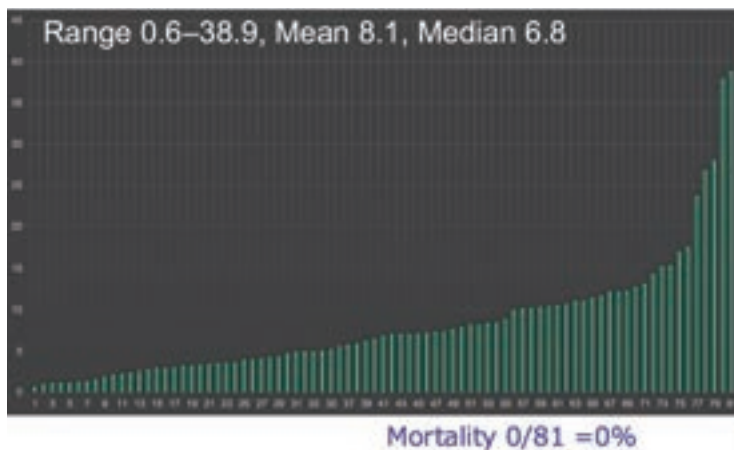
入院死亡

心臓・胸部大動脈手術症例	: 0例 (0%)
定期症例	: 0例 (0%)
緊急・準緊急症例	: 0例 (0%)
血管外科症例 (緊急・準緊急症例含む)	: 1例 (末期腎不全を伴う急性慢性下肢塞栓症)

2. 全手術件数の推移



3. 術前リスクスコアと実際の死亡率



【学術業績】

原著

1. Miura Y, Ichihara N, Kawaguchi S, Nomura R, Nakai M, Yamazaki F, Onodera T, Kitaoka H. Hemodynamic Performance and Midterm Clinical Outcomes After Surgical Aortic Valve Replacement using Trifecta and Perimount Magna Valves: A Japanese Single-Center Experience. J Cardiothorac Surg. 2025 Aug 8;20(1):326. doi: 10.1186/s13019-025-03565-w.
2. Naito N, Motoji Y, Tamura T, Okada H, Miura Y, Matsushita H, Kitamura T; Society for Promotion and Enhancement of Cardiovascular Surgery Group. Multicenter retrospective observational study of conservative management for acute type A intramural hematoma. J Thorac Cardiovasc Surg. 2025 Apr 11:S0022-5223(25)00211-9. doi:10.1016/j.jtcvs. 2025.03.013. Online ahead

of print.PMID: 40317282

3. Iwata H, Horino T, Osakabe Y, Inotani S, Yoshida K, Mitani K, Hatakeyama Y, Miura Y, Terada Y, Kawano T. Urinary [TIMP-2]•[IGFBP7], TIMP-2, IGFBP7, NGAL, and L-FABP for the prediction of acute kidney injury following cardiovascular surgery in Japanese patients. *Clin Exp Nephrol*. 2025 Apr 7. doi: 10.1007/s10157-025-02671-2. PMID: 40195176.

症例・臨床治験報告

1. Mitsuishi A, Arakawa Y, Saito R, Edo N, Imai S, Miura Y. Mycotic superior mesenteric artery aneurysm: Favorable outcome with antibiotic therapy alone. *J Vasc Surg Cases Innov Tech*. 2025 Sep 23;11(6):101993. doi: 10.1016/j.jvscit.2025.101993. eCollection 2025 Dec.
2. Saito R, Miura Y, Mitsuishi A, Tsutsui M, Noguchi T. A Successful Case of Complete Resection With Preservation of the Right Coronary Artery in an Infiltrative Cardiac Hemangioma Using Indocyanine Green Fluorescence Angiography. *Cureus*. 2025 Sep 13;17(9):e92243. doi: 10.7759/cureus.92243.
3. Matsushiro T, Tamura T, Kuroda E, Inoue N, Kitamura T. Acute Type A Aortic Dissection With an Anomalous Aortic Origin of the Right Coronary Artery: A Rare Entry Formation. *Ann Thorac Surg*. 2025 Jul 19:S0003-4975(25)00664-2. doi: 10.1016/j.athoracsur. 2025.06.054. Online ahead of print.PMID: 40691921.
4. Mitsuishi A, Miura Y, Miyagawa K, Kunihara T. Aortic Valvuloplasty for Incomplete Quadricuspid Aortic Valve Using Tricuspidization by Folding the Accessory Cusp: A Case Report *Annals of Thoracic Surgery Short Reports*. Volume 4, Issue 1, March 2026, Pages 116-119
5. Mitsuishi A, Tao M, Edo N, Saito R, Miura Y. Aortic dissection in a patient with Takayasu arteritis accompanied by pericardial effusion and atrioventricular block: a case report. *SAGE Open Med Case Rep*. 2025 Aug 1;13: doi: 10.1177/2050313X251360064. eCollection 2025.
6. Matsushiro T, Tamura T, Horai T, Misumi K, Inoue N. Primary Cardiac Myxofibrosarcoma: A Case Report. *Surg Case Rep*. 2025;11(1):24-0035. doi: 10.70352/scrj.cr.24-0035. Epub 2025 May 1.PMID: 40356805.
7. Matsushiro T, Tamura T, Inoue N, Kitamura T. Delayed visceral malperfusion caused by kinking of a four-branched integrated frozen elephant trunk graft. *Interdiscip Cardiovasc Thorac Surg*. 2025 Mar 5;40(3):ivaf052. doi: 10.1093/icvts/ivaf052.PMID: 40036954
8. 齋藤 廉, 江戸直樹, 吉田圭佑, 三石淳之, 今井伸一, 三浦友二郎 感染性心内膜炎による僧帽弁前尖の穿孔と大動脈弁逆流を伴う複合弁疾患に対して自己心膜を用いた僧帽弁形成術と大動脈弁置換術を施行した1例 *心臓* (0586-4488)57巻8号 Page753-759(2025.08).
9. 横谷 昌樹, 福田 仁, 川西 裕, 中居 永一, 福井 直樹, 馬場 裕一, 北岡 裕章, 三浦 友二郎, 上羽 哲也 左房流入左上大静脈遺残による再発脳膿瘍の1例 *脳神経外科ジャーナル* (0917-950X)34巻5号 Page286-292(2025.05)

【Textbook】

Y. Miura, K. Yoshida. 『Revascularization in treatment of mesenteric artery aneurysm.』

Recent Advance in Vascular Surgery. Intech Open 05 February 2026. Doi: 10.5772/intechopen.1013710



学会発表（地方会・研究会・懇話会を含む）

1. 三浦友二郎 齋藤廉 江戸直樹 今井伸一 『2024 年度 診療実績報告』 第 26 回 相模心臓血管外科懇話会 The Okura Tokyo 18th. Jan. 2025 東京
2. 三浦友二郎 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 Outcomes for active infective endocarditis complicated by acute cerebral infarction Rapid fire 第 55 回日本心臓血管外科学会総会 2025 年 2 月 25 日, 下関
3. 江戸直樹 齋藤廉 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 A case of aortic valve stenosis with gradual progressive discrete subaortic stenosis Rapid fire 第 55 回日本心臓血管外科学会総会 2025 年 2 月 25 日, 下関
4. 三浦友二郎 『地方国立大学病院心臓血管科医局の当法人への参加』 心臓血管外科振興会 (SPECS) 5 周年記念講演会 2025 年 2 月 16 日 ホテルオークラ、東京
5. 三浦友二郎 『心臓血管外科領域の止血における一般的知識習得のために』 Meiji Seika ファーマ勉強会 11th. March. 2025. 高知
6. 宮地 昌文 江戸 直樹 今井伸一 馬場 裕一 久保 亨 山崎 直仁 武嶋 亜衣 石井 初恵 前田 貴之 北岡 裕章 三浦 友二郎 『弁膜症術後に心不全手帳を用いた患者教育を実施した一例』 日本心臓リハビリテーション学会 第 8 回四国支部地方会 2025 年 3 月 15 日 松山
7. 三浦友二郎 『最先端心臓外科治療とその展望』 清医会 学術講演会 27th. March. 2025 土佐清水
8. 江戸直樹 齋藤廉 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『術中の MEP 変化が肋間動脈再建の有意な判断材料 となった Crawford Type I 胸腹部大動脈瘤の 1 例』 第 33 回日本大動脈外科研究会 2025 年 4 月 11 日, 仙台
9. N. Naito, Y. Motoji, T. Tamura, Y. Miura, T. Kitamura. Multi-center retrospective observational study of conservative management for Acute Type A Intramural hematoma. AATS 2025. Abstractive presentation. May.3rd. 2025. PST, Seattle convention center. Seattle, WA.
10. 松代卓也 『大動脈緊急症 急性大動脈症候群と破裂性大動脈瘤』 高知県中央東圏内救急症例検証会議 2025.5.23. 南国市
11. 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『高度心機能低下を伴う Type I b AR に対して Aortoscopy を用いた自己弁温存基部置換術を施行した 1 例』 第 55 回日本血管外科学会総会 2025 年 5 月 21 日, 小倉

12. 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 第55回日本血管外科学会総会 『高安動脈炎に伴う頸部3分枝閉塞と巨大な仮性上行大動脈瘤に対する治療方針の決定に難渋した1治療例』 第55回日本血管外科学会総会 2025年5月21日,小倉
13. 今井伸一 江戸直樹 齋藤廉 松代卓也 三浦友二郎 『High aortic occlusion(ステント閉塞を含めて)に対する治療戦略』 第55回日本血管外科学会総会 2025年5月21日,小倉
14. 江戸直樹 齋藤廉 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『Non-A non-B急性大動脈解離2症例の比較検討』 第68回関西胸部外科学会 2025年6月19日 津
15. 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 心室外に発育した3葉の心臓血管腫の1例 第68回関西胸部外科学会 2025年6月19日 津
16. 三浦友二郎 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 要望演題:『僧帽弁形成術でのリング選択とその根拠 人工弁輪の選択が退行性僧帽弁閉鎖不全症の形成の成績に影響を与えるのか?』 第68回関西胸部外科学会 2025年6月29日 津
17. 三浦友二郎 自己弁温存大動脈基部置換の治療戦略~患者QOL最大化への挑戦~ ベストプラクティスへ導くリモデリング手術 第68回関西胸部外科学会 ランチョンセミナー 2025年6月20日 津
18. * 安藤慶祐 江戸直樹 齋藤廉 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 頭蓋内出血の治療後に感染性心内膜炎に対する心臓手術を行った症例の検討 第126回日本循環器学会中国四国合同地方会 2025年6月28,29日 高松
19. 原雅裕 北代亮太郎 尾崎都 舟木孝志 弘田隆省 久保亨 山崎直仁 江戸直樹 三浦友二郎 北岡裕章 Sutureless valveを用いた大動脈弁置換術後第8病日に完全房室ブロックを発症した一例 第126回日本循環器学会中国四国合同地方会 2025年6月29日 高松
20. *. 秦優里菜 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『高度の左室拡大と心機能低下を伴う若年者の大動脈弁輪拡張症と大動脈弁閉鎖不全症に対する自己弁温存基部置換術後に早期の左室リバースリモデリングを認めた1例』 第126回日本循環器学会中国四国合同地方会 2025年6月28,29日 高松
21. * 今井歩空 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 右冠動脈起始異常を伴う重症大動脈弁狭窄症患者に対する大動脈基部拡大を伴う外科的弁置換術後の健康増進の成功例 第126回日本循環器学会中国四国合同地方会 2025年6月28,29日 高松
22. 今井伸一 『血管外科医によるLEAD治療』 第2回安芸群医師会と高知大学の交流会 2025年7月3日 あき総合病院
23. 松代卓也 江戸直樹 齋藤廉 今井伸一 三浦友二郎 『左主幹部を含む有症候性三枝病変に対する冠動脈バイパス術直前に卵巣癌および出血性上行結腸癌を指摘された1例』 第29回日本冠動脈外科学会学術大会 2025年7月4日 宇都宮
24. 今久保一洋、野村吉徳、高橋正邦、武島智隆、三浦友二郎 『脳分離送血時の圧モニタリングから左鎖骨下動脈解離の診断につながった1例』 第36回日本体外循環技術医学会四国地方会大会 2025年7月12日,香川
25. 江戸直樹 今井伸一 齋藤廉 松代卓也 三浦友二郎 単心室症に対するFontan開心術後の下肢静脈瘤治療後出血および静脈鬱滞性潰瘍の1例 第45回日本静脈学会総会, 2025年7月16

日 旭川

26. 今井伸一 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 デバイスの通過に Lasso 法が有用であった TEVAR の 1 例 第 28 回相模心臓血管外科懇話会 2025 年 7 月 19 日 オークラ 東京
27. 齋藤廉 今井伸一 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 起始部より瘤化した深大腿動脈瘤の 1 手術例 日本血管外科学会中国四国地方会第 55 回総会 7 月 26 日 岡山
28. *森川泰丞 今井伸一 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 下肢虚血を伴う Complicated Type B Aortic Dissection 症例の検討 日本血管外科学会中国四国地方会第 55 回総会 7 月 26 日 岡山
29. 江戸直樹 今井伸一 齋藤廉 松代卓也 三浦友二郎 猫引っ搔き傷を契機に発症した感染性内腸骨動脈瘤破裂の 1 例 日本血管外科学会中国四国地方会第 55 回総会 7 月 26 日 岡山
30. 今井伸一 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 デバイスの通過に Lasso 法が有用であった TEVAR の 1 例 第 18 回中国四国ステントグラフト TS 研究会 2025 年 7 月 27 日 岡山
31. 齋藤廉 今井伸一 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 包括的高度慢性下肢虚血 (CLTI) に対して Distal bypass を施行した 1 例 第 78 回高知県医師会医学会 2025 年 8 月 16 日 高知
32. Early Changes in Crescent Thickness in Type A Intramural Hematoma: A Multicenter Retrospective Study. Motoji Y, Kitamura T, Tamura T, Okada H, Naito N, Miura Y, Matsushita H, Miyaji K. The 39th EACTS annual meeting | 8–11. October 2025 | Copenhagen, Denmark
33. 今井伸一 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 三浦友二郎 鼠径部リンパ漏に対して ICG 蛍光造影法を用いたリンパ管結紮術が有用であった 2 症例 第 66 回日本脈管学会総会 2025 年 10 月 16, 17 日 東京
34. 砥上 幸樹, 新田 紀子, 宮武 加苗, 泉 尊康, 西森 美貴, 仰木 健太, 三浦 友二郎, 筒井 美帆 『右室内心臓腫瘍の 1 例』 第 61 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2025 年 10 月 17 日～ 19, ウィンク愛知
35. 泉二佑輔 北村律 三浦友二郎 成田卓也 内藤敬嗣 華山直二 宮地鑑 『Type A intramural hematoma における病勢進展予測因子の検討: 多施設後方視的研究』 第 78 回胸部外科学会定期学術集会 2025 年 10 月 23～25 日 大阪
36. 松代卓也 齋藤廉 江戸直樹 今井伸一 三浦友二郎 『感染または高安動脈炎に対する大動脈基部再手術症例の検討』 第 78 回胸部外科学会定期学術集会 2025 年 10 月 23～25 日 大阪
37. 齋藤廉 三浦友二郎 菅沼成文 他 『開胸手術術前消毒浴による手術部位感染症および縦隔炎の予防効果について』 令和 7 年度 (第 18 回) 高知大学 & 高知工科大学 & 高知県立大学医工連携交流会 2025. 12. 4. 高知大学
38. *秋森星人 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『大動脈弁逆流と大動脈弁輪拡張症に対する Bentall 術の人工心肺離脱後に R on T から Vf を繰り返した 1 例』 第 127 回日本循環器学会四国地方会 2025.12.6 徳島
39. *加藤まひる 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『大動脈弁逆流に合併した心室性機能性僧帽弁閉鎖不全症に対して TAEER などを施行した 1 例』 第 127 回日本循環器学会四国地方会 2025.12.6 徳島
40. *小山美南 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『パッチを用いた大動脈弁

輪・基部拡大を施行した大動脈弁疾患症例の中期成績の検討』 第 127 回日本循環器学会四国地方会 2025.12.6 徳島

41. *計良優輝 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 三浦友二郎 『極めて稀な左冠尖に発生した Valsalva 洞動脈瘤に対して自己弁温存部分基部置換術などを施行した 1 例』 第 127 回日本循環器学会四国地方会 2025.12.6 徳島
42. 三浦友二郎 その他 シンポジウム I 『大動脈弁形成術：標準化へのシナリオ』 ～ 2 尖または 3 尖 AR の大動脈弁形成術における患者選択とピットフォール～ 第 15 回日本心臓弁膜症学会 2025.12.19. 広島

数字* : 医学科学生発表

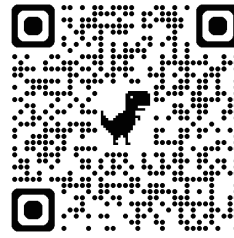
[研究費]

1. Abbott 株式会社
研究代表者：三浦友二郎
研究分担者：齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一
研究課題名：『ハイリスク患者の硬性プレートを用いた胸骨閉鎖における有効性についての研究』
研究機関：2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日
2. 日本ライフライン株式会社
研究代表者（当院）：三浦友二郎
研究課題名：『外科的僧帽弁形成術後患者の長期予後に関する後ろ向き観察研究』
研究分担者：齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一
研究期間：2025 年 1 月 1 日～ 2025 年 12 月 31 日
3. 株式会社 メディコス平田
研究代表者：今井伸一
研究分担者：齋藤廉 江戸直樹 三浦友二郎
研究課題名：『腹部大動脈瘤手術の術式選択における術前栄養的評価の意義』
研究期間：2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日
4. 株式会社 Terumo
研究代表者：三浦 友二郎
研究課題名：『人工心肺離脱後における低フィブリノーゲンのリスク因子と予測指標の検討』
研究分担者：野村吉徳 齋藤廉 江戸直樹 松代卓也 今井伸一 武島智隆
研究機関：2025 年 4 月 1 日～ 2026 年 3 月 31 日



心臓血管外科
ホームページ

Medical Note
高知大学循環器治療



高知大学医学部 外科学講座 心臓血管外科 講師
今井 伸一

近況報告

2025年度より、当院で心臓血管外科医、老年病循環器内科医、形成外科医、糖尿病内分泌内科医、皮膚科医、リハビリテーション部、生理検査部、栄養管理部、看護師（WOC）など多職種で構成されたフットケアチームを立ち上げることができました。患者の創傷管理、下肢虚血や感染の評価を行い、創傷難治症例に対する治療や状態に応じたフットケア、リハビリテーションの適応を判断しています。下肢病変の早期発見・早期治療により、傷の再発や下肢切断の予防を行うなど、患者の生活の質向上につながる取り組みをチーム内で積極的に行っており、末梢血管手術症例数も前年と比較し増加傾向にあります。今後も広報活動を積極的に行なっていき、高知の医療に役立てるよう取り組んで参ります。

高知大学医学部附属病院 心臓血管外科 助教
松代 卓也

近況報告

高知に来て1年が経過しました。

高知県は海も川も水が綺麗でいいところです。家族は私よりもこちらでの生活を満喫しています。息子は4歳になり、下ネタに目覚めてしまいました。自転車にも乗れるようになりそれが最近の一番の娯楽のようです。

近況というかこの1年間の大きなイベントとして挙げられるのは、母がくも膜下出血で救急搬送されたことや再破裂で水頭症となり長期のリハビリの後に自宅退院したことでしょうか。我が父は昭和の男という印象の人で家事を全くできないので、母がいない間の生活を心配していましたが、人間環

境次第でなんとかなるものです。

私の方は毎年やると言っていてできていない学術的な活動を今年こそはと思い、4月から公衆衛生1年コースの修士課程に進学します。これまで不勉強で苦手意識の強い統計をイチから勉強し直します。勉強は嫌いですが、なんとかなるように頑張ります。

高知大学医学部附属病院 心臓血管外科
江戸 直樹

近況報告

今年度、外科専門医を取得し、心臓血管外科専門研修を開始いたしました。手術執刀においては、開心術および血管内治療の双方をバランスよく経験することができ、EVTや静脈瘤手術を除き、執刀数は25例以上となりました。また、EVAR実施医を取得し、来年度はEVAR指導医およびTEVAR実施医の取得を目標としております。学術面では、現時点で論文掲載には至っておりませんが、複数の論文執筆を並行して進めており、来年度中の掲載を予定しております。学会発表については5回の発表を経験し、前年度に引き続き積極的に学会参加を継続しております。さらに、振興会における同学年の先生方の活躍に触れる機会も多く、客観的に自身を評価する機会を得るとともに、意欲の向上にもつながっております。来年度は国際学会への参加を目標に、研究活動にも一層力を入れてまいりたいと考えております。以上、引き続きご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

高知大学医学部附属病院 心臓血管外科
齋藤 廉

近況報告

2025年度は、専攻医として初めて1年間を心臓血管外科で修練させていただきました。末梢血管手術やEVARの執刀機会をいただき、手術手技のみならず周術期管理やチーム医療の重要性についても多くを学び、血管外科の奥深さと面白さを実感した1年でした。日常診療に加えて多数の学会発表に取り組み、症例報告は英文1編、和文1編を投稿することができました。また、学生指導にも多く関わり、学会発表の指導も経験できたことは、自身の理解を深めるとともに教育の難しさとやりがいを実感する貴重な機会となりました。来年度はコホート研究を学会発表し論文投稿までつなげることで、さらに外科専門医試験に合格することを目標に、臨床・研究・教育の各面で一層精進してまいります。引き続きご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

16. UI Stead Family Children's Hospital



要求されたデータとは違うのですが STS database を基にするのが正確で、そのハーベストが現時点で 2025/6/30 までなので、2024/6/1 から 2025/6/30 までのデータをまとめます。私は 2024/6/15 から働き始めました。

1. 総症例数 183 例、STS index case 110 (VAD、ECMO 等は STS index case にはなりません)。
2. Hospital mortality O/E ratio 1.26 (過去 4 年の累計)。下記表 1 のように STAT 1 の O/E ratio が高すぎることが課題です。過去 4 年で STAT1 死亡例は 4 例です。過去 4 年の STAT1 mortality を全て分析したのですが、手術 (適応も含めて) に問題があったのが 2 例で、順調に退院後数日で突然死が 1 例ありました。
3. 昨年 1 年間の症例の STAT category 別の内訳と死亡例は下記の表 2 の通りです。

表 1

	O/E ratio
STAT 1	3.01
STAT 2	0
STAT 3	0.6
STAT 4	1.67
STAT 5	1.08

表 2

	N of cases	Hospital mortality
STAT 1	56	2
STAT 2	25	0
STAT 3	13	0
STAT 4	10	1
STAT 5	5	1

近況報告

UI Stead Family Children's Hospital

中村 祐希

Department に費用を出してもらって Harvard School of Public Health の Leadership Development for Physicians というコースを受講しています。数日間の現地での講義が2回、残りはオンラインの講義ですが、マグカップとトートバッグをもらって少し嬉しく、自分にもミーハーな面がまだ残っていると気づきました。アメリカの大学の授業を受けるのは初めてなのですが、アメリカの高等教育がいかにも高レベルなのか、どうして高額の授業料を払ってでも行く価値があるのか初めて自ら認識出来ました。全ての授業が面白く、eye-opener だらけです。私自身も時々 lecture をしますが、Harvard の授業の魅力が非常に高く、自分の lecture のレベルの低さに恥ずかしくなります。自らの20数年前の医学部の講義はさぼりがちでしたが、授業に出ていると感動するような経験はまずありませんでした。まあ、自分のモチベーションが低かったからでしょう。このコースを取り始めるまでは Leadership とは何か、など真剣に考えたこともなかったのですが、講義を聴いていると自らの人間としての欠点が色々見えてきて、50手前で果たして自分を変えられるのか悩みは増える一方です。このような Physician のための Leadership Development course を立ち上げて学問として追及して、かつこれがビジネスとして成立している Harvard はやはり凄いと思いました。

17. 東京大学医学部附属病院小児心臓外科



東京大学医学部附属病院 小児心臓外科 (2025年1～12月)

総手術数: 133例 (CPB 88 / Non-CPB 45)

心臓血管外科専門医申請対象術式:

	N (昨年の症例数)
総手術件数	123 (121)
人工心肺使用 (CPB)	88 (89)
人工心肺非使用 (Non-CPB)	35 (32)

死亡	3/123=2.4% (2)
手術死亡	1 (2)
病院内死亡	2 (0)

CPB 症例 心臓血管外科専門医申請対象術式 : 88 例

術式カテゴリー	症例数	新生児	乳児	幼児	ACHD
VSD closure	12	2	5	4	1
ASD closure	9		2	4	3
RVOT/PA plasty	4		1	3	
Valve surgery	6		3	2	1
CoA repair	4	2	1	1	
CoA+VSD repair	2	1	1		
Glenn	4		3	1	
ASO	5	4	1		
Shunt (BTT or RV-PA) +/- PA plasty	5	1	4		
DORV repair	2		1	1	
Rastelli 導 管交換含む	7		1	4	2
AVR+RVOTR	1			1	
PVR	3				3
Fontan	3			3	
AVSD repair	2		2		
TOF repair	3		3		
TOF AVSD	1		1		
TAPVC repair	2	2			
LVOTO relief	1			1	
Truncus+三 尖弁閉鎖 repair, BTT shunt	1	1			
Heart transplant	1			1	
VAD (Excor)	1		1		

UF	1		1		
Re-Mustard, TVR (IE)	1				1
DKS+BTT shunt	1		1		
modified Starnes	1		1		
PVO repair	1			1	
Ross	1			1	
三心房心修 復	1		1		
その他	2			2	
合計	88	13	34	30	11

Non-CPB 心臓血管外科専門医申請対象術式: 35 例

*ECMO 装着のみカウント

術式カテ ゴ リ	症例数	新生児	乳児	幼児	ACHD
PDA 閉鎖	10	9	1		
PAB	10	6	4		
BTT shunt	2	1	1		
PM / CRT	3		2	1	
ECMO 装着	9	1	3	4	1
心膜開窓	1		1		
合計	35	17	12	5	1

Non-CPB 心臓血管外科専門医申請 非対象 10 例

術式カテゴリー	症例数	新生児	乳児	幼児	ACHD
横隔膜縫縮	3		3		
電池交換	5			1	4
心嚢ドレナージ	1	1			
腕頭動脈離断	1				1
合計	10	1	3	1	5

東京大学医学部附属病院 小児心臓外科は、2024年9月1日から責任者が平田康隆先生（現：国立成育医療研究センター心臓血管外科部長）から鹿田文昭（北里大学医学部心臓血管外科 講師から異動）に交替し、新体制で診療を開始しました。心臓血管外科振興会からは堀江咲良先生が2024年10月から東京大学で勤務を開始しました。（2025年10月より産休）東京大学医学部附属病院心臓外科所属の、寺川勝也先生（2025年9月から米国から帰国）、辻 重人先生が固定メンバーで、2025年の東京大学内のローテーションで酒匂祐里先生（2025年1-9月）、國部祐吾（2025年10月-）のメンバーが加わり診療を行いました。

2025年の総手術数は133例（人工心肺使用88例、非使用45例）となりました。心臓血管外科専門医の申請対象術式としては123例（2024年121例）を数え、内訳は人工心肺使用88例、非使用35例でした。胎児診断から当院で出産し、新生児手術からその後の管理まで移行している症例が多いのが特徴だと思います。総動脈幹＋三尖弁閉鎖の症例や、重度の横隔膜ヘルニア合併の肺動脈閉鎖の症例など、胎児診断から手術に移行した多彩な症例を経験いたしました。成人先天性心疾患の症例も多く、肺動脈弁置換や動脈スイッチ術後の大動脈弁閉鎖不全、両側肺動脈狭窄の症例などの治療を行いました。学術的には、堀江咲良先生が、EJCTS, Annals of Thoracic Surgery、GTCC 症例報告で論文発表を行ってもらい、形に残る業績を作ってくれました。学会発表は総会での発表も積極的に行ってくれ、非常に active に活動してもらいました。少なくとも、1年に1枚は原著報告を出版できるように指導していこうと思います。

2025年の手術関連死亡症例は3例（2.4% [3/123]）でした。1例は成人先天性心疾患の再手術症例でした。完全大血管転位、Mustard baffle 感染および三尖弁位（体心室は右室）人工弁感染、右室機能低下、肺高血圧に対し re-Mustard と re-TVR を行いましたが、術後感染の再発により救命に至りませんでした。2例目は Trisomy 21 を伴う完全型房室弁欠損症術後の重度の左側房室弁逆流に対し、弁置換術や ECMO 管理を含めた集中的治療を行いましたが、心機能の改善が得られませんでした。3例目は完全大血管転位、ASO 術後の上大静脈閉塞、乳び胸から脳梗塞を合併し、術後102日で失いました。改善できる箇所は改善し、毎年手術関連死亡ゼロを目指し、努力いたします。

2026年の目標ですが、心臓血管手術数130例以上、15歳未満CPB症例90例以上、手術死亡ゼロ、指導的助手症例30%以上と設定しました。心臓血管外科振興会の皆様からご支援とご指導を頂きあ

りがとうございます。目標達成にむけて努力して参りますので、応援のほどよろしくお願い申し上げます。

東京大学医学部附属病院 心臓外科 講師
鹿田 文昭

近況報告

2024年9月に東大病院小児心臓外科の責任者への転勤を命じられ、1年半が過ぎました。毎日、世田谷から首都高に乗って通勤しています。昨年の報告と変わらず、首都高の看板は相変わらずA○BA 歯科が輝き続けています。き○た歯科は、私の経路では少ないですね。まだインプラントのお世話にはなっておりません。

趣味の時間が余り取れなかった1年だったと振り返ります。趣味はゲームですが、Switch2を正規購入するため待ち続け、やっと購入がかないました。が、買って満足してしまい、ほとんど使っておりません。ドラクエをインストールしましたが、クリアしていません。ゲーム用のPCを3年前に購入しておりますが、仕事PCにしか使用しておりません。もったいないですね。

来年こそ面白いことを書けたらと思います。家の近所のインドカレー屋さんに顔を覚えられたと昨年の法人の原稿に記載しましたが、突然閉店しました。最近駅の近くの別の場所で開店しましたが、あの愛想の良かったオジさんはいません。とりあえず、またインドカレーを食べに行きます。

東京大学医学部附属病院 心臓外科
堀江 咲良

近況報告

2025年度の1年間は、昨年10月より勤務しておりました東京大学で、小児心臓外科チームとして鹿田先生のもと働かせていただきました。

東大ではタフな症例が多く、ECMOや移植など貴重な症例を数多く経験させていただきました。小児循環器班や集中治療班の皆様には日頃から支えていただき、外科医が手術に集中できる環境を整えていただきました。

2024年9月に鹿田先生のチームが発足し、私は10月から合流しました。正直、最初はチームが受け入れられるまで少し時間がかかりました。これまでホームでぬくぬく働いてきた私にとって、この空気感の中でコミュニケーションを取っていくことは辛いと感じることもありました。しかし、やり方や方針の違いについてその都度チームで話し合い、すり合わせを重ねる中で、徐々にチームとして受け入れられるようになっていったのではないかと思います。厳しい症例も多くありましたが、ハートチームの皆様の支えがあったからこそ乗り越えられたと感じています。

個人的には、東大でしか経験できないことにできるだけ関わりたいと思い、この1年間取り組んできました。東大では若手に回ってくる執刀症例はどうしても限られるため、その分できるだけ多く前立ちに入らせていただき、鍛えていただきました。拙い前立ちで鹿田先生を苛立たせてしまうことも多かったと思いますが、それでも根気よくご指導いただき、「この症例は堀江入って」と言っていただけたときはとても嬉しかったです。

学術活動では、学会発表や論文執筆など多くの経験をさせていただきました。多施設研究のための東大のデータ収集にも取り組み、1人で300症例分のデータを集めました。これは少し褒めていただきたいです（笑）。

私生活では12月に出産しました。つわりは想像以上につらく、例えるならテキーラを20杯飲んだ翌日の二日酔いが2か月続くような感覚でした。つわりが明けてからは食欲が3倍になり、最終的に妊娠前から15kg太りました。30歳を過ぎてからの出産は代謝も落ち、なかなか戻りません。2026年はダイエットも頑張りたいと思います。そんな中生まれてきた子どもは世界一かわいく、愛おしい存在です。体調面にも配慮し支えてくださった鹿田先生をはじめ小児チームの皆様には心から感謝しています。

最後になりますが、この1年間、未熟な私に一からご指導くださった鹿田先生、本当にありがとうございました。いつか恩返しができるよう、さらに成長してまた戻って来られたらと思っています。

4月からはNTT東日本関東病院で勤務予定です。子育てとの両立には不安もありますが、家族のサポートを頼りながら成人症例をしっかり学び、成長していきたいと思っています。

18. NYU Langone Hospital Brooklyn



2025年 NYU Langone Hospital Brooklyn 業績

開心術 (4/15 - 12/31)

- 計80件
- 冠動脈バイパス術: 66
- 大動脈弁置換術: 5 (再手術1)
- 大動脈弁置換術+冠動脈バイパス術: 1
- 大動脈弁置換術+ヘミアーチ: 3
- 僧帽弁置換術: 2 (再手術1)
- 大動脈弁、僧帽弁置換術: 1
- 三尖弁形成術: 1 (再手術)
- 心房粘液腫切除: 1

開心術成績

- 短期、入院死亡: 0
- ICU入室-離床間平均時間: 5.5時間
- 在院期間中央値: 3日
- 手術室抜管: 97.5%
- 30日以内再入院: 1.3%

経カテーテル大動脈弁置換術 (11/7 - 12/31)

- 計15件
- 全例術後1日目退院
- アクセストラブル、ペースメーカー: 0

近況報告

NYU Langone Hospital Brooklyn, Chief of Cardiac Surgery

内藤 敬嗣

2023年3月に長らく過ごしたNYUを退職して日本に帰国し、2年間静岡医療センターでお世話になりましたが、縁があり2025年4月に再度渡米しました。NYUのブルックリン分院でチーフ外科医として新たなプログラムを立ち上げております。手術件数は順調に増えており、2025年後半にはTAVRを開始、2026年3月にはロボット手術を開始しました。引き続き頑張ります。ニューヨークに来られる時は連絡ください。

その他の施設

社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院



社会福祉法人児玉新生会 児玉経堂病院長 宮本 隆司

<https://www.kodamakyodo-hp.jp/>

院長就任 5 年目の主な取り組み

①児玉経堂病院百周年記念式典の開催

2025年6月21日(土)、世田谷区キャロットタワー最上階の「オークラレストラン スカイキャロット」にて、来賓の皆様ならびに院内スタッフをお招きし、児玉経堂病院百周年記念式典を開催いたしました。これまでの100年の歩みに感謝するとともに、その志を次の100年へと受け継ぎ、地域医療への貢献を続けてまいりたいと考えております。

②入院病床稼働率

平均稼働率は年間を通しておおむね90%前後で推移し、大きな変動もなく安定した病床運営を維持することができました。今後も在宅診療チームとの連携を強化し、レスパイト入院の受け入れや往診・訪問診療体制の充実を図るなど、診療体制のさらなる強化に努めてまいります。また、本年は地域包括ケア病棟の開設に向けて、スタッフ一同で準備を進めてまいります。

③スタッフ体制の刷新

就任5年目を迎え、医師、看護師、看護助手、リハビリテーションスタッフなどの体制を新たに整えました。新体制のもと、KKH(Kyodo, Kind, Help:共同して思いやりを持って支える)を共通理念として、職員一同が協力し、患者さんに寄り添った医療の提供に努めてまいります。

④市民公開講座

地域の皆様に親しまれる病院づくりと、生涯学習の機会の提供を目的として、地域住民を対象とした市民公開講座を開催しました。医療や健康に関する知識をわかりやすくお伝えする場として、今後も継続的に開催し、地域の皆様の健康づくりと地域医療への理解の促進に貢献してまいります。

⑤学会活動；日本禁煙学会および世田谷区医師会学会にて演題発表を行いました。世田谷区医師会学会では「とても役に立ったで賞」を受賞しました。今後も臨床で得られた知見を学会発表として発信し、医療の発展に貢献してまいります。

個人的活動；

①麻布大学獣医学部の客員教授；2025年4月、これまでのAzOHにおけるワンヘルスチームの活動が評価され、麻布大学より客員教授を拝命いたしました。今後もワンヘルスの理念のもと、人と動物の医療連携を視野に入れながら、より多くの症例に対応できるよう技術向上に努めてまいります。

② ゴルフコンペ；世田谷区医師会主催のSMGA ゴルフコンペやプライベートのコンペに参加し、すべてアンダー100で回ることができました。幸運にも2回優勝することができましたが、残念ながらベストグロスには逃しました。引き続きシングルプレイヤーを目指して練習を続けたいと思います。なお、年末に白内障手術を受けたことでパターのラインが少し見えるようになった気がしており、2026年度はスコア向上の言い訳が少なくなるかもしれません。

③ **乗馬クラブ**；動物と触れ合う時間はとても楽しく、日常の忙しさを忘れさせてくれる癒やしのひとときです。ただし昨年はレッスンに通う回数が少なく、馬に「久しぶりですね」と思われていたかもしれません。今年はもう少し頻繁に通い、馬との信頼関係(と自分の体幹)を取り戻したいと思います。

日本は現在、少子高齢化と人口減少という大きな社会構造の変化の中にあります。医療の現場では、複数の慢性疾患を抱える高齢の患者さんや、生活環境・社会背景まで含めた総合的な支援を必要とする方が増えてきています。こうした時代においては、特定の専門領域だけにとどまらず、患者さんを全人的に捉え、幅広く診療できる力が医師に求められていると感じています。そのような認識のもと、私自身も現在、総合的な診療能力をさらに高めるため、総合医育成プログラムに参加し、リスクリングに取り組んでおります。日々の診療と並行して学びを深めることで、より質の高い医療を地域の皆さまに提供できるよう努めております。医療を取り巻く環境は絶えず変化しています。しかし、その中でも変わらないのは、患者さん一人ひとりに寄り添い、その方にとって最善の医療を考え続ける姿勢だと思えます。これからも医療者として学び続けながら、地域の皆さまに信頼され、安心して相談していただける病院であり続けたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

業 績

<国内学会発表>

- 1) 宮本隆司他；ワンヘルスチーム AzOH の活動について．第 61 回日本小児循環器学会 ポスター発表 2025.7.12 三重
- 2) 宮本隆司；子どもたちを受動喫煙・三次喫煙から守るための環境整備と啓発活動の実践報告．第 19 回日本禁煙学会，一般口演．2025.11.30. 大宮
- 3) 宮本隆司、茂澄かおり、知久未桜、小川晏奈、新村元市、花田明美；療養型病院における処方適正化介入とポリファーマシー抑制効果につて．第 23 回世田谷区医師会医学会，一般口演．2025.12.6. 東京世田谷区

<国際学会発表>

- 1) 無し

<誌上発表（著者及び共著者）>

- 1) 宮本隆司；医師にきく人医療の循環器疾患 ～人医療における僧帽弁手術の実際 その 1 僧帽弁手術 Animal HEART (3) 131-135、2025
- 2) 宮本隆司；医師にきく人医療の循環器疾患 ～人医療における僧帽弁手術の実際 その 2 低侵襲心臓外科手術 (MICS) とロボット支援下心臓手術 Animal HEART (4)
- 3) Aoki T, Miyamoto T, Kizaki K, Ueshima A, Iwasaki K, Kusaka T, Terui H. Ante-mortem diagnosis of unilateral pulmonary vein stenosis in a cat: a case report. Acta Vet Scand. 2025 Apr 23;67(1):21. doi: 10.1186/s13028-025-00803-y. PMID: 40270021; PMCID: PMC12020107.
- 4) Onishi Y, Miyamoto T, Miyaji K, Surgical Management of Ebstein's Anomaly in Elderly Patients: A Report of Two Cases.: Cureus Journal of Medical Science 2025, July 28

<学会長・研究会長> 無
<座長> 無
<コメンテーター / 指定討論者> 無
<学会企画展示> 無

<研究費・助成金>

公益財団法人バリューHR健康寿命延伸財団 2025年優秀賞受賞

「誤嚥性肺炎予防を目的としたバルーン付胃管の応用開発と臨床的有用性の検討」

<研究報告書> 無
<特許申請> 無
<著書> 無
<教育・学生講義>

- | | |
|-------------------------|-------------|
| ① 麻布大学獣医小動物外科学研究室 | 「循環器学」 |
| ② 大分大学医学部心臓血管外科学生講義 | 「先天性心疾患」 |
| ③ 世田谷区医師会立看護高等専修学校病理学講義 | 「病理学総論・循環器」 |

< Azabu One Health Team (AzOH) 活動 > 犬猫開心術合計9例

Dogs;(7) • Mitral valve plasty 4例 • Pulmonary stenosis release 1例
 • DORV complete repair 1例
 • Mitral valve V-clip 1例
Cats;(2) • ToF complete repair 1例 • MAPCA ⇔ 肺切除 1例



医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック



医療法人博心会 相模原町田血管外科クリニック 理事長 / 院長 大久保 博世

開業して何が変わったか

開業して早くも7年目になりました。勤務医として大学病院で血管外科診療に携わっていた頃は、主として診療や手術といった医療行為そのものに専念する立場にありました。開業後はそれに加え、医療を提供する環境を整え、地域の中で持続的に医療機能を維持して行くことが重要な役割となりました。スタッフ体制の整備、医療機器の導入、地域医療機関との連携など、クリニック運営の多くの側面を担うようになったことは、開業医としての大きな責務であると感じています。

2025年の手術件数は、下肢静脈瘤血管内焼灼術は547件829肢(下肢静脈瘤関連手術626件)、経皮的シャント血管拡張術は932件(透析シャント関連手術1046件)、抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置術(頭頸部その他)は9件、血管外科の日帰り手術の1681件を安全に行うことができました。静脈瘤は昨年よりは減ったものの、シャント関連手術が昨年より増えました。今まで、透析シャント関連手術については緊急性があるため、なるべく静脈瘤は弾性ストッキングで経過観察をしていましたが、来年度からは医療体制を強化し手術件数の増加を目指します。医師は、火曜日は引き続き藤岡俊一郎先生(たちばな台病院)に手伝っていただいておりますが、水曜日には隔週で桜井祐加先生(葛西うみかぜ内科・外科)、木曜日には松原健太郎先生(世田谷血管クリニック)、第2土曜日には下河原達也先生(済生会横浜市東部病院血管外科部長)、第4土曜日には林啓太先生(慶應義塾大学外科血管班)に手伝っていただくこととなっています。看護師も常勤3人と非常勤2人、医療事務も常勤を3人とし、万全の体制で新年度を迎えられそうです。新年度は1850件を目標に頑張ります。

近年の診療報酬改定により短期滞在手術等基本料を含む手術関連評価の見直しが行われ、日帰り手術を中心とする医療機関にとっては運営面で厳しさを感じる場面もあります。安全な日帰り手術を維持するためには人員体制や設備投資などの一定のコストが必要であり、制度とのバランスについては課題も少なくありません。今後も微力ではございますが、引き続き母校大学病院をサポートできるようにしていきたいと思っております。

以 上

入澤クリニック



入澤クリニック

院長 入澤 友輔

今年度、当院は「かかりつけ医機能報告制度」に基づき、診療体制について国への報告を行いました。最近では、報告を怠る診療所が増えると、財務省が診療所の役割を再評価し、診療報酬の引き下げを検討する動きが強まっています。市や県の医師会からも「報告がない場合は診療報酬が下がる」との注意喚起が続き、院内でも迅速に対応いたしました。県の医師会がこのような強い注意喚起を出したのは初めてで、医療現場でも大きな話題となっています。業務負担は前回の生活習慣病療養計画書の作成と比べれば軽いものの、度重なる制度変更現場として戸惑いも感じております。今年度は診療報酬改定の年でもあり、今後も柔軟に対応し、患者さんの皆様に安心していただける診療体制を維持してまいります。

個人的なご報告として、長年の目標であった循環器内科専門医の資格をついに取得することができました。これまで、申請を忘れて受験できなかった年や、コロナ禍で試験が中止となった年もありました。最初の受験ではわずか1点差で不合格となり、その後は何故か点差が開いていきました。試験を毎年受けるのは苦ではなかったのですが、ACLSの更新がかなり面倒な作業でした。2021年4月に父のクリニックを継承し、ようやく内科医としての実感も強まっています。また、心臓血管外科修練指導者の資格も初期実績により更新できました。次回は更新できませんが・・・。

一方で、私自身もコロナ後遺症と向き合う日々が続いています。発症から3年経ちましたが、後頸部の痛みや慢性的な倦怠感が今も残り、特にお酒やコーヒーを飲むと症状が強くなります。それでも気分転換の意味も込め、つい飲んでしまいます。患者さんには療養計画に沿った運動習慣を提案しておりますが、私自身は後遺症の影響もあり、なかなか実践できずに後ろめたさを感じています。

今後は、患者さんと一緒に運動習慣の定着を目指し、自らも週3回、30～60分の運動を生活に取り入れることを目標にしています。また、最新の医療情報に基づいた診療を提供し、制度改定にも迅速に対応できる体制づくりを進めてまいります。院内スタッフとも協力し、より質の高い地域医療を実現できるよう努力してまいります。

これからも地域の皆さまに信頼されるクリニックを目指し、日々精進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

みらいハートクリニック

みらいハートクリニック

院長 宝来 哲也

国立国際医療センターでは週1の外来診療で継続的に患者さんのフォローを続けています。その中で、再手術が必要な患者さんたちを今年も手術してもらいました。田村先生、泉二先生は、弁輪拡大の追加の再手術など、それなりの難手術をこなせるようになっており、大変頼もしく、また感謝しています。Hybrid ORが完成、TAVIの施設認定も進んでおり、9年前に準備をはじめたことがやっと芽を出してきてくれました。競争の激しい都内で存続していけるように心臓外科チームが進化していくことを微力ながら応援しています。

訪問診療のクリニックは、そろそろ3年となります。代替わりも含め、何10年とやっている先生方がたくさんおられる地域医療の中では落下傘開業3年は小さな存在です。この半年は、新規と看取りの患者数のバランスで、規模としてはプラトー化してきました。クリニックの成長に起承転結を見いだせるのかは分かりませんが、まだ承には辿り着いていないように感じています。もう53歳で人生は転になってしまっているようですので、このギャップを楽しめるよう、エネルギーを蓄えておきたいところです。

発刊によせて

年報（2025年）に寄せて

北里大学名誉教授
元北里大学胸部外科学教授
前北里大学呼吸器外科学教授
吉村 博邦



昨年の年報によると、宮地先生が北里大学心臓血管外科に来られてから昨年で20年、教授に就任されてから14年が経ったとのこと、歲月人を待たず、早いものである。

北里に来られた当時、ロボットアームを使って、「もっと上」とか「もっと下」とかロボットに向かって命令しながらPDAの手術をなさっておられたのがつい昨日のことように思われる。あれから20年余り、手術に、論文の発表に、海外旅行にと、目まぐるしく立ち回られアツと言う間だったと思う。ご苦労様というより他にない。

ところで、私の専門である最近の呼吸器外科学会の報告によると、肺癌の治療も以前とは様変わりしており、外科治療においては胸腔鏡やロボットによる低侵襲の手術法が開発・普及されており、以前のような拡大手術はすっかり影を潜めている。かわりに放射線を高精度に病巣に集中して、隣接する正常組織には当たらないように照射角度ごとに照射口の形状を変えるIMRTという照射法が開発され、すでに日常臨床で使用されている。薬物療法も日進月歩で、日本肺癌学会により作成されている「肺癌診療ガイドライン」も急速な進歩に遅れないようにと毎年改定されている。癌組織でがんの増殖シグナルも「EGFR」、「ALK」、「MET」など10種類以上が認可されており、薬剤も「ゲフィチニブ」、「エルロチニブ」、「アファチニブ」など10種類以上が使用されており、とてもついていけない。また、2018年ノーベル生理・医学賞を受賞した本庶佑先生が開発されたニボルマブをはじめとする免疫チェックポイント阻害剤もその後8種類も使用されている。そのお蔭などから、以前は肺癌と診断されてから手術で取り切れない場合大半が1年以内に死亡していたものが今では3年から5年生存する者が普通にいる状況になっている。驚くべき進歩である。

さて、私はと言うと齢84歳となり、昨年8月から、国立にも1日通所リハビリの施設が出来、週2日通所リハのお迎えが来る日々を送っている。毎週火金は朝8時40分頃おむかえが来て、午後5時ごろまで近所の施設で過ごしている。

施設は、9時スタートで、朝の運動のあと機械を用いて、脚や腹筋などの運動、昼食の後、歩行訓練やバイク漕ぎ、午後3時にはお八つとコーヒーが出て、その後1時間程度「麻雀」でお遊び、最後に締めくくりの体操があり、4時半ごろ帰宅の車に乗り込むという具合である。結構暇潰しになる。開設当初は4、5人だったのが、今は20人くらい満席状態になった。ということは、これだけリハビリが必要な老人が増えたということで、早く離脱しないと申し訳ないと考えている。

また、最近、呼吸器専門医の更新が受理され、新しい専門医登録証が届いた。学会発表を聞くだけで更新可能なので続けているが、次回更新は5年後の2031年とのこと89歳である。どうしたものかと考えている今日この頃である。

一般社団法人心臓血管外科振興会 会員紹介

役員



代表理事（会長）
海老名総合病院顧問

小原 邦義



理事（副会長）
社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス理事長

贄 正基



理事
北里大学病院主任教授

宮地 鑑



理事
自治医科大学付属病院

学内教授 北村 律



理事
自治医科大学とちぎ子ども医療センター

教授 岡 徳彦



理事
高知大学医学部付属病院教授

三浦 友二郎



理事
NTT 東日本関東病院部長

華山 直二



理事
国立成育医療研究センター部長

平田 康隆



監事
九州大学法学部教授

寺本 振透



名誉会員
北里大学病院

鳥井 晋三



特別会員
児玉経堂病院院長

宮本 隆司



特別会員
みらいハートクリニック院長

宝来 哲也

社 員



北里大学病院診療准教授

美島 利昭



大和市立病院

部 長 町井 正人



群馬県立小児医療センター

部 長 岡村 達



相模原協同病院

部 長 中 島 光 貴



医療社会法人北斗 北斗病院

部 長 山 本 信 行



横浜労災病院

部 長 成 田 卓 也



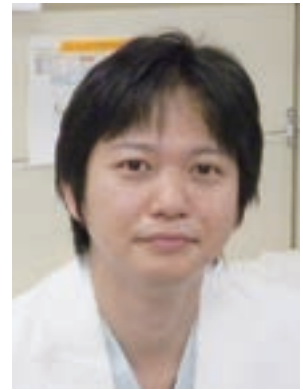
国立国際医療研究センター

部 長 井 上 信 幸



関東労災病院

部 長 田 中 佑 貴



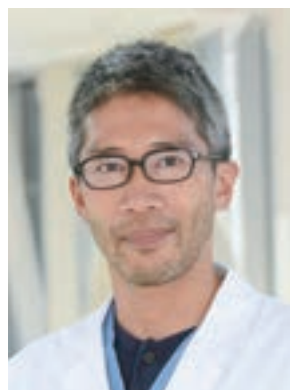
沖縄徳洲会 湘南厚木病院

部 長 榊 健 司 朗



たちばな台病院血管外科

部 長 藤 岡 俊 一 郎



アイオワ大学病院小児心臓外科

Chief surgeon 中 村 祐 希



東京大学医学部附属病院講師

鹿 田 文 昭



北里大学病院講師

福隅 正臣



北里大学病院講師

嶋田 正吾



相模原町田血管外科クリニック

院長 大久保 博世



NYU Langone Hospital Brooklyn

Chief surgeon 内藤 敬嗣



国立国際医療センター

診療科長 田村 智紀



高知大学医学部附属病院講師

今井 伸一



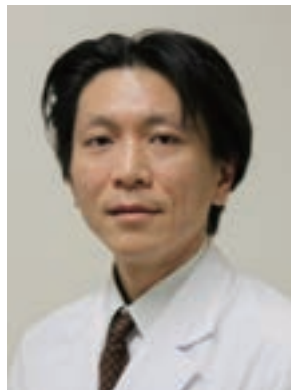
国立病院機構静岡医療センター

部長 波里 陽介

会 員



国立病院機構静岡医療センター
部 長 高木 寿人



海老名総合病院
医 長 柴田 講



相模原協同病院血管外科
部 長 田村 幸穂



北里大学病院講師
吉住 朋



国立成育医療研究センター
医 員 友保 貴博



国立国際医療センター
医 員 山本 裕介



自治医科大学とちぎ子ども医療センター
助 教 金子 政弘



横浜労災病院
医 員 岡田 拓



入澤クリニック
院 長 入澤 友輔



NTT 東日本関東病院

医 長 松 下 弘



北里大学病院助教（診療講師）

近 藤 良 一



国立成育医療研究センター

医 員 柴 田 深 雪



海老名総合病院

医 長 笹 原 聡 豊



New Zealand Starship Hospital

Clinical Fellow 井 上 崇 道



Texas Children's Hospital

Clinical Fellow 林 秀 憲



高知大学医学部附属病院

助 教 松 代 卓 也



ベルン大学

荒 記 春 奈



国立病院機構静岡医療センター

後 藤 博 志



国立国際医療センター

医員 泉二 佑輔



自治医科大学とちぎ子ども医療センター

助教 松永 慶廉



医療社会法人北斗 北斗病院

医員 大友 勇樹



北里大学病院助教（研究員）

田村 佳美



シカゴ大学

Research Fellow 土田 勇太



海老名総合病院

非常勤医員 堀越 理仁



北里大学病院助教（病棟医）

村井 佑太



相模原協同病院

医員 豊田 真寿



北里大学病院助教（病棟医）

松井 謙太



関東労災病院

医員 中村 優飛



埼玉県立循環器呼吸器病センター

医員 大西 義彦

準会員



医療社会法人北斗 北斗病院

医員 大友 有理恵



北里大学病院助教（研究員）

武井 哲理



群馬県立小児医療センター

医員 畑岡 努



高知大学医学部附属病院専攻医

江戸 直樹



国立国際医療センター

医員 石脇 大喜



東京大学医学部附属病院

堀江 咲良



横浜労災病院

医員 杉本 明生



高知大学医学部附属病院医員

齋藤 廉



国立病院機構静岡医療センター

医員 相磯 光紀



竹田総合病院外科

医員 石川 沙弥



北里大学病院助教（病棟医）

青井 夏帆



海老名総合病院

医員 太田 衣美



北里大学病院助教（病棟医）

大谷 篤司



徳洲会 湘南厚木病院

医員 中山 航



群馬県立小児医療センター

医員 小中 英樹

一般社団法人心臓血管外科振興会関係者



名誉教授

吉村 博邦

秘 書



渡邊 みゆき

賛助会員（2025.12月現在）

泉工医科工業株式会社
日本メドトロニック株式会社
マリンクロットファーマ株式会社
CTM 株式会社
株式会社サンライフ
株式会社アスト
株式会社バイタル
株式会社アルバース
株式会社イノメディックス
株式会社ジェイ・エム・エス
テルモ株式会社
エドワーズライフサイエンス合同会社
アボットメディカルジャパン合同会社
日本ライフライン株式会社
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
センチュリーメディカル株式会社
日本アビオメッド株式会社
テクノウッド株式会社
株式会社ウイン・インターナショナル
株式会社ムトウ
株式会社エムシー
株式会社ニューポートメディカル
ニプロ株式会社
株式会社八神製作所
株式会社シーメック
ノバ・バイオメディカル株式会社
松田医科工業株式会社
株式会社アペックス・インターナショナル
帝人メディカルテクノロジー株式会社
株式会社アムコ

広 告



生命のリレー

善意の献血に支えられた、生命のお薬。
皆さまの温かい想いが込められた大切なバトンを、
必要とされる人たちへ、私たちがしっかりとつなぎます。

善意と医療のかけ橋

一般社団法人
JB 日本血液製剤機構

東京都港区芝浦3-1-1

<https://www.jbpo.or.jp>

JB-202007



幸せをつなぐ
パートナーでありたい



株式会社アペックス・インターナショナル

- | | | | | | |
|---------|-------------|---------------------|-----------------|------------------|------------------|
| ■本社 | : 〒160-0023 | 東京都新宿区西新宿3-2-11 | 新宿三井ビルディング2号館9階 | TEL:03-5909-5280 | FAX:03-5909-5491 |
| ■東京営業所 | : 〒160-0023 | 東京都新宿区西新宿3-2-11 | 新宿三井ビルディング2号館9階 | TEL:03-6258-5492 | FAX:03-5909-5281 |
| ■横浜営業所 | : 〒222-0033 | 神奈川県横浜市港北区新横浜3-17-6 | イノテックビル10F | TEL:045-473-3201 | FAX:045-471-7090 |
| ■多摩出張所 | : 〒182-0005 | 東京都調布市東つづじヶ丘2-31-11 | | TEL:03-6279-6274 | FAX:03-6279-6275 |
| ■西東京営業所 | : 〒190-0013 | 東京都立川市富士見町2-34-10 | 田中ビル1階 | TEL:042-512-9450 | FAX:042-512-9451 |



信頼と実績で医療を支える
ベストパートナーを目指して。

株式会社 サンライフ

本社：〒252-0324 神奈川県横浜市中区和光台 3-28-11
TEL.046-254-1137 FAX.046-254-7254 Email.sunlife@sun-life.jp https://www.sun-life.jp/

SHIP HEALTHCARE GROUP

オフィーディア

OPHIDIA II

Heart Stabilization System

MADE IN JAPAN



【製造販売元】
VITAL
株式会社バイタル
〒140-0002
東京都品川区東品川1-2-5
リバーサイド品川港南ビル6F

TEL: 03-3458-1265
FAX: 03-3458-1263
Email: marketing@vital-j.co.jp
URL: http://www.vital-j.co.jp



HT520AF/FlowXLシステム

FlowXL[®]

Advanced Model Transit Time Flowmeter
Flow-Assisted Surgery



指定管理医療機器 特定保守管理医療機器
一般的名称：超音波血流計
販売名：超音波血流計 FlowXL
医療機器認証番号：303ADBZX00091000

製造販売業者
ニプロセンシングテクノロジー株式会社
〒359-0044 埼玉県所沢市松葉町11-1 マルハビル7階
TEL：04-2946-8541 FAX：04-2946-8542

(資料請求先)



販売 ニプロ株式会社
大阪府摂津市千里丘新町3番26号

2025年7月作成
【審 2507111158】

TEIJIN



製造販売元

TEIJIN 帝人メディカルテクノロジー株式会社

先天性心疾患の外科手術における次なる選択枝
シンフォリウム[®]は、先天性心疾患の外科手術に用いるパッチとしてこれまで課題であった、内膜肥厚、血栓形成、石灰化等の材料劣化や、身体成長に伴うサイズのミスマッチといった問題点の解決を目指して開発された心・血管修復パッチです。

一般的名称	販売名	製造品番
合成心血管パッチ	シンフォリウム	SYN001
医療機器承認番号	高度管理医療機器	
30500BZX00169000	特定保険医療材料	

*本品使用の際には、電子添文、および日本小児循環器学会「心・血管修復パッチ 適正使用指針」を必ずお読みください。

ノンガスエンドスプレー15cm
For MICS, deep parts, etc.

15cm

Various application instruments specially designed for
BOLHEAL

スプレードック®

スプレーセット
目詰まり防止タイプ&スプレードック®

スプレーセット
(目詰まり防止タイプ)

For Open surgery, etc.

*ボルヒール®組織接着用専用の塗布用器具



血漿分画製剤(生体組織接着剤) 薬価基準収載

ボルヒール®組織接着用

BOLHEAL Tissue Sealant 献血

特定生物由来製品 処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

2025年4月作成

健康にアイデアを
meiji

健康にアイデアを
kmb

効能・効果、用法・用量、禁忌を
含む注意事項等情報等について
は電子添文を参照ください。

製造販売元

KMバイオロジクス株式会社
熊本市北区大窪一丁目6番1号

販売元

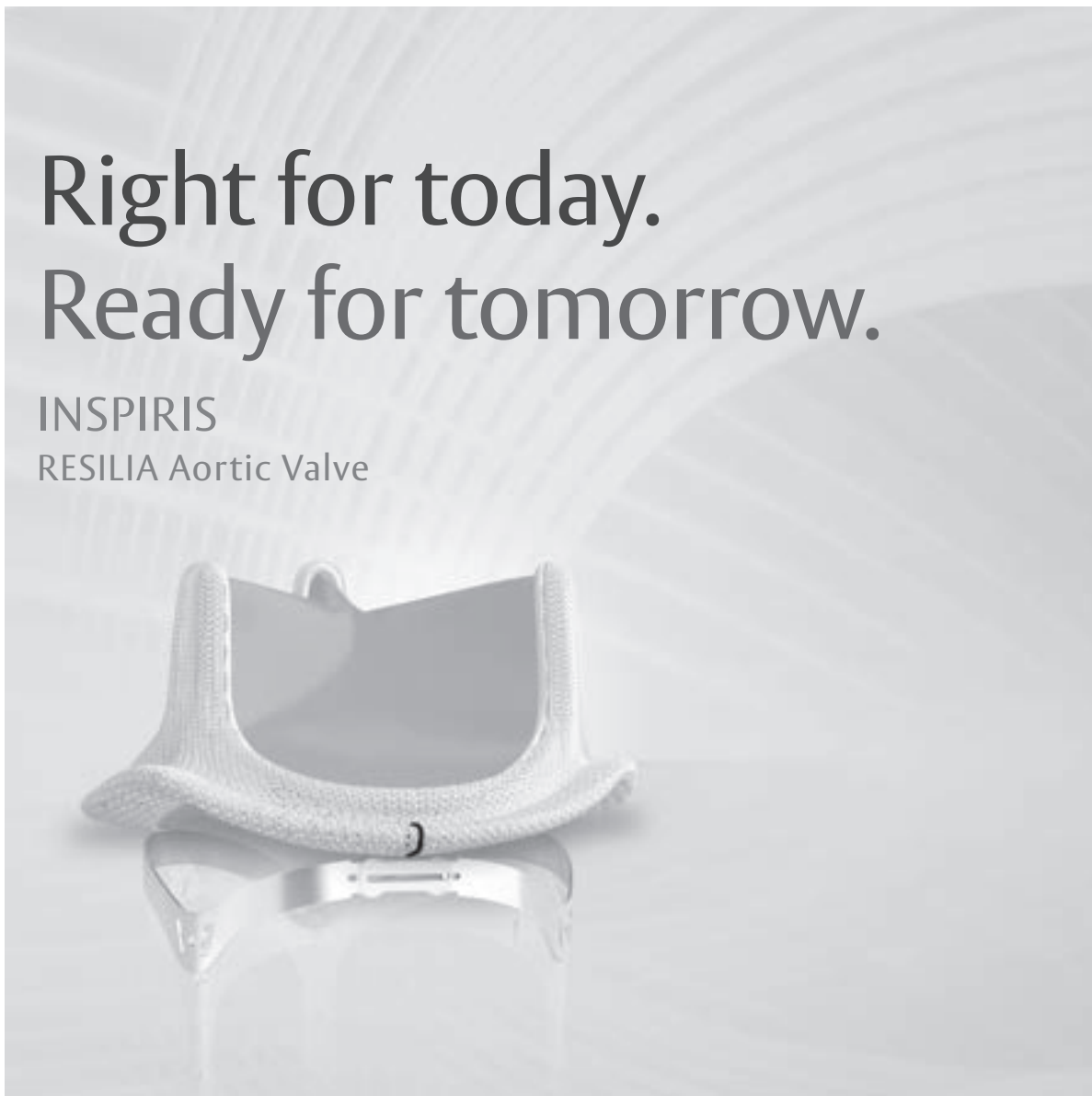
Meiji Seika ファルマ株式会社
東京都中央区京橋2-4-16

<文献請求先及び問い合わせ先>

Meiji Seika ファルマ株式会社 くすり相談室
〒104-8002 東京都中央区京橋2-4-16
フリーダイヤル(0120)093-396
電話(03)3273-3539、FAX(03)3272-2438

Right for today. Ready for tomorrow.

INSPIRIS RESILIA Aortic Valve



インスピリスRESILIA大動脈弁は20年以上の長期臨床成績が報告されているPERIMOUNTをプラットフォームとし、RESILIA心膜を採用した生体弁です。RESILIA心膜とは、キャッピング処理およびグリセリン処理を施すことにより、組織から不安定なアルデヒドが減少し、保管時にアルデヒドにさらされないウシ心のう膜です。

販売名：インスピリスRESILIA大動脈弁 承認番号：22900BZX00053000

※ ご使用の際には製品の添付文書を必ずお読み下さい

Edwards、エドワーズ、Edwards Lifesciences、エドワーズライフサイエンス、定型化されたEロゴ、INSPIRIS、インスピリス、INSPIRIS RESILIA、PERI、PERIMOUNT、ペリマウント、RESILIAおよびレジリアは、Edwards Lifesciences Corporationまたはその関係会社の商標です。その他の商標はそれぞれの商標権者に帰属します。

© 2024 Edwards Lifesciences Corporation. All rights reserved. EW2020127

製造販売元 エドワーズ ライフサイエンス合同会社

本社：東京都新宿区北新宿2丁目21番1号 Tel.03-6895-0301 edwards.com/jp



Edwards

緊急医療に迅速に、
誠実に、的確に対応いたします

Advanced
Science
&
Technology

私たちは、
常に明日を見つめています。



 株式会社アスト

本社

埼玉県東松山市元宿2丁目36番地20
TEL 0493(35)1811(代) FAX 0493(35)1860

さいたま営業所

埼玉県さいたま市中央区円阿弥5丁目8番40号
TEL 048(859)0011(代) FAX 048(859)0017

群馬営業所

群馬県前橋市表町1丁目21番地9
TEL 027(220)4366(代) FAX 027(220)4367

神奈川営業所

神奈川県川崎市川崎区日進町9番地1
TEL 044(221)6720(代) FAX 044(221)6725



栃木営業所

栃木県宇都宮市京町15番16号
TEL 028(639)9088(代) FAX 028(639)9035

東京営業所

東京都新宿区荒木町23番15
TEL 03(3225)3588(代) FAX 03(3225)3566

松戸営業所

千葉県松戸市稔台7丁目2番地22
TEL 047(710)3111(代) FAX 047(710)3188

千葉営業所

千葉県千葉市中央区弁天1丁目12番8号
TEL 043(290)1855(代) FAX 043(290)1066

わたくしたちは、明日の医療を
お客様とともに考える
ソリューション・パートナーを目指します



【取扱製品】

心臓ペースメーカー ICD CRT 人工心臓弁 人工血管 人工心肺回路 スtentグラフト TAVI コロナリースtent
各種カテーテル 循環器関連機器 他



循環器・心臓血管外科分野の専門商社

株式会社 エムシー

本社

東京都渋谷区代々木 2-27-11 AS-4 ビル
Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725

本社 分室 Tel 03-5304-9007 / Fax 03-5304-9008
東京オフィス不整脈事業部 Tel 03-5333-2480 / Fax 03-5333-2472
東京オフィスCV事業部 Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725
東京オフィスIV事業部 Tel 03-3374-9873 / Fax 03-3370-2725
千葉オフィス Tel 043-212-7800 / Fax 043-212-5002
神奈川オフィス Tel 045-476-3470 / Fax 045-473-7373
栃木オフィス Tel 0285-47-1621 / Fax 0285-47-1622
群馬オフィス Tel 027-220-5088 / Fax 027-224-8687
埼玉オフィス Tel 048-839-8760 / Fax 048-839-8762
長野オフィス Tel 0263-24-8050 / Fax 0263-28-1055
山梨オフィス Tel 055-278-6520 / Fax 055-273-6540



ALVAUS

株式会社アルバース

循環器医療に、
こころ躍る未来を。

「最近の医療は大きく進歩していますよ」
ドクターのこの一言が患者様を
どれほど勇気づけることでしょうか。
アルバースは循環器医療機器のエキスパートとして
その進歩を支えることで、医療現場の皆様や
患者様ひとりひとりの未来に
明るい希望を運らせ続けます。

こころが躍る瞬間に、
アルバースも共にいます。

株式会社アルバース

本社 〒103-0027 東京都中央区日本橋3-9-1 日本橋三丁目スクエア4F
TEL:03-6665-0485 FAX:03-6665-0486
URL:<https://www.alvaus.co.jp/>

オフィス:東京・西東京・横浜・千葉・静岡・沼津・浜松・豊橋・金沢・福井・大阪
サテライト:城南・立川・八王子・さいたま・川越・熊谷・太田・前橋

Webサイト





New Innovative Wave

「新しい医療周辺ビジネスの構築」を通じて
社会に貢献していきます

株式会社 ウィン・インターナショナル

本社 〒104-0031 東京都中央区京橋二丁目2番1号 京橋エドグラン 21 階
TEL 03-3548-0788

※お近くの拠点はこちらから



確かな提案力で、人と医療のために



CTM株式会社

本 社

名古屋市昭和区吹上町1丁目201番
TEL(052)744-5550 FAX(052)744-5551

安城営業所

愛知県安城市三河安城本町1丁目32番地12
TEL(0566)91-2220 FAX(0566)91-2221

三重営業所

三重県津市久居北口町893番地22
TEL(059)213-7531 FAX(059)222-6322

岐阜営業所

岐阜市入舟町1丁目8番地 シャンテ岐阜1階
TEL(058)216-0227 FAX(058)216-0228

横浜営業所

横浜市保土ヶ谷区神戸町134 YBPウエストタワー11階
TEL(045)260-6206 FAX(045)260-6306

埼玉営業所

さいたま市中央区鈴谷3-12-14 コートアベニュー1階
TEL(048)789-6770 FAX(048)789-6845



HAS III

未来の体外循環、

その一步目を“実績”と“進歩”が融合したHAS IIIで。

corart BP3

従来までの高性能・高応答性、操作方法を保ちつつオペレーターを補助する機能を多数追加し、より「使い易く」を追求しました。駆動ユニット単体でも使用が可能です。小型・軽量により院内搬送を行い易く、また、ディスプレイを外した状態での使用も可能なため、多数の機器を併用する環境でも専有面積をとらずに使用が可能です。

UNIMOの基本コンセプトはすべての機能(遠心ポンプ、電子ブレンド、冷温水槽)がシステム架台に搭載しているリチウムイオンバッテリーにより運用ができ、さらなる小型で軽量ながら長時間の運用が可能です。遠心ポンプ単体にもニッケル水素バッテリーが搭載しており、単独使用の場合でも回路内圧2チャンネル、酸素飽和度1チャンネルのモニタリングが可能です。

(UNIMO - Unified ECMO Systemからくる造語)

UNIMO  **Plus**
MERA Centrifugal Blood Pump System HCS-CFP2



製造販売業者

MERA 泉工医科工業株式会社 <https://www.mera.co.jp/>

■お問い合わせ先: 泉工医科工業株式会社 商品企画本部 TEL 03-4283-1005

■常に研究・改良に努めておりますので、外観及び仕様の一部は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承下さい。

●一般的名称: 人工心肺用システム ●販売名: メラ人工心肺装置HAS III ●承認番号: 23100BZX00003000

●一般的名称: 補助循環用バルーンポンプ駆動装置 ●販売名: コラートBP3 ●承認番号: 22700BZX00095000

●一般的名称: 体外循環装置用遠心ポンプ駆動装置 ●販売名: メラ遠心血液ポンプシステム ●承認番号: 22700BZX00013000

お問い合わせ

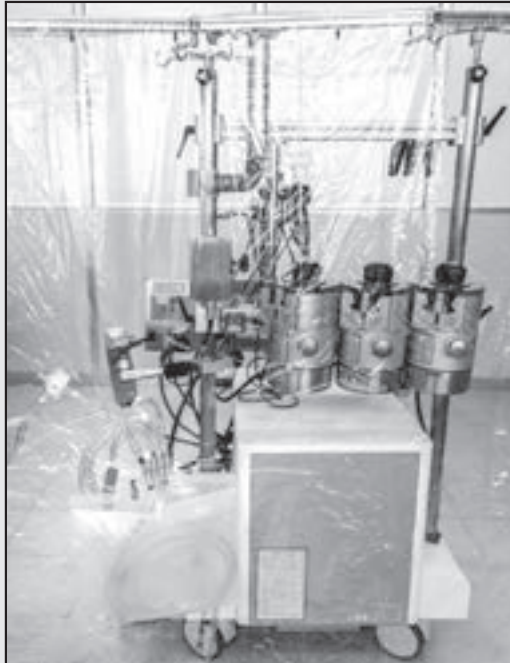


Technowood®

www.technowood.co.jp



ステリシート STERILE SHEET



術者側と器械側回路の最短化を実現し、
ブラシングボリュームの削減が可能となります。

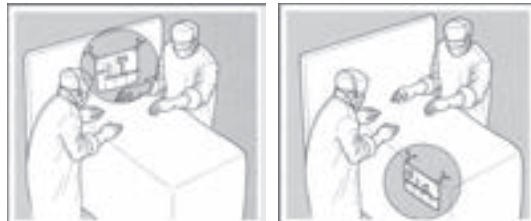
送脱血回路だけでなくベント・吸引回路の短縮により、
空気との接触面積低減及び出血時のリザーバー
レベル低下を最小限に抑えます。

清潔側／不潔側の『見える化』により、患者様および
操作者の感染対策にも有効。



ディスポーザブル 鉗子ポケット

DISPOSABLE FORCEPS POCKETS



鉗子等を素早く取り出せます。

ポケット部が透明で、中の器具判別が
容易です。

ポケットを手の届く位置に置くことで、
器具を素早く取り出すことが可能です。



販売名：人工心肺用回路システム 医療機器承認番号：23000BZX002900

販売業者

テクノウッド株式会社

〒123-0872 東京都足立区江北 4-30-19
代表: 03(3856)4111 Fax: 03(3856)4113

Customer Service 03(5647)3925
Fax・Free Dial 0120(322)571



Beating Heart and Surgical Stabilization

—— フレックスシリーズ ——



サージカルアシスタントアーム



サージカルアシスタント



OFF-PUMPアシスタント



一般名称：開創器
一般名称：単回使用機器固定用圧子
一般名称：単回使用機器固定用圧子

販売名：サージカルアシスタントアーム
販売名：OFF-PUMP アシスタント
販売名：サージカルアシスタント

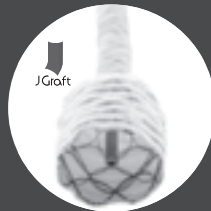
医療機器届出番号：13B1X00101000071
医療機器認証番号：228AABZX00131
医療機器認証番号：228AABZX00133

ALL in for AORTA



VASCULAR PROSTHESIS

JGraft



FOR AORTA

FROZENIX



AFX Endovascular
AAA System



Alto™ Abdominal Stent
Graft System

販売名：J Graft シールド
販売名：J Graft Openステントグラフト
販売名：AFXステントグラフトシステム
販売名：Alto腹部ステントグラフトシステム

医療機器承認番号：21100BZZ00483000
医療機器承認番号：22600BZX00033000
医療機器承認番号：22700BZX00387000
医療機器承認番号：30300BZi00016000

製造販売業者

日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
<https://www.jll.co.jp>

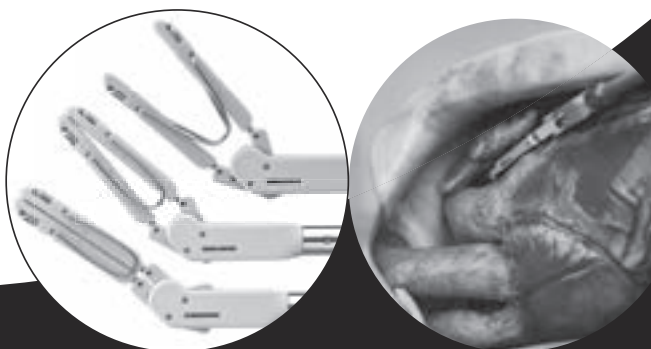
JLL Japan Lifeline

Medtronic



Penditure™

左心耳閉鎖システム



Penditure™ 左心耳クリップの特長

- 生地素材を用いず、外傷がない左心耳閉鎖と炎症リスクの低減を目指したデザイン
- 先端部から閉じる仕組みが、安全、且つ完全な左心耳閉鎖をサポート
- 心房の形状にマッチするようにデザインされた先端部
- 留置をやり直すことが可能であり、精度の高い左心耳閉鎖をサポートします（リキャプチャー機能）
- 視野を妨げにくいデザイン

販売名：Penditure LAA閉鎖システム
一般的名称：心臓組織用クリップ
医療機器承認番号：30600BZX00144000

日本メドトロニック株式会社
カーディアックサージェリー

medtronic.co.jp

使用目的又は効果、警告・禁忌を含む使用上の注意等の情報につきましては製品の電子添文をご参照ください。
© 2025 Medtronic. Medtronic及びMedtronicロゴマークは、Medtronicの商標です。TMを付記した商標は、Medtronic companyの商標です。
MC08547_1



Mallinckrodt
Pharmaceuticals

**LISTENING FOR NEEDS.
DELIVERING SOLUTIONS.**

It's how we bring value to patients
and stakeholders



マリンクロット ファーマ株式会社

〒105-5528 東京都港区虎ノ門 2-6-1
虎ノ門ヒルズ ステーションタワー 28 階



薬価基準収載

選択的尿酸再吸収阻害薬—高尿酸血症治療剤—



ユリス錠 0.5mg
1mg
2mg

〔ドチヌラド〕

処方箋医薬品[※]

URECE® Tablets 0.5mg・1mg・2mg

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報等は電子添文をご参照ください。



販売<文献請求先及び問い合わせ先>
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522 (くすり相談窓口)

製造販売元<文献請求先及び問い合わせ先>

株式会社 富士薬品

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル6階
TEL 048-644-3247 (カスタマーサービスセンター)

2025年1月作成 (N6)

2025年一般社団法人心臓血管外科振興会年報 No,6

2026年5月31日発行

編集・発行 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-2-20 神谷町 MTビル 14階
一般社団法人心臓血管外科振興会

